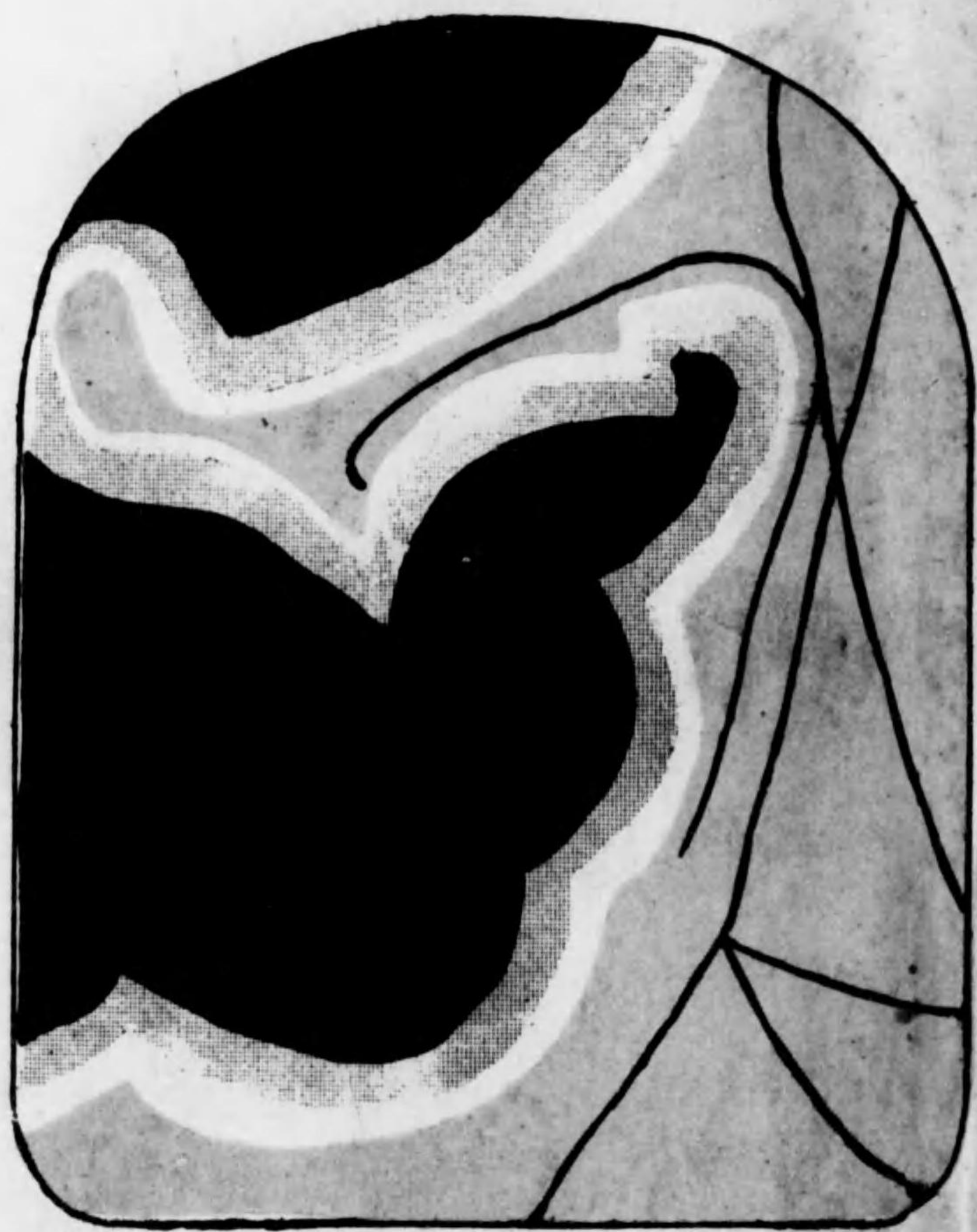


特274

# 才屋郡地誌

746

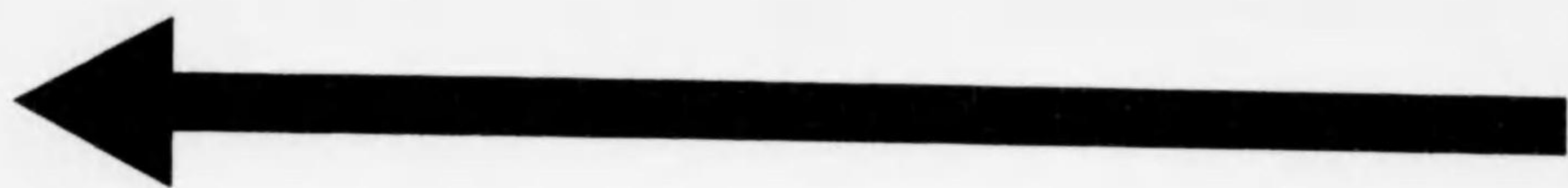
昭和二十一年十一月



香椎高等女學校地理教室



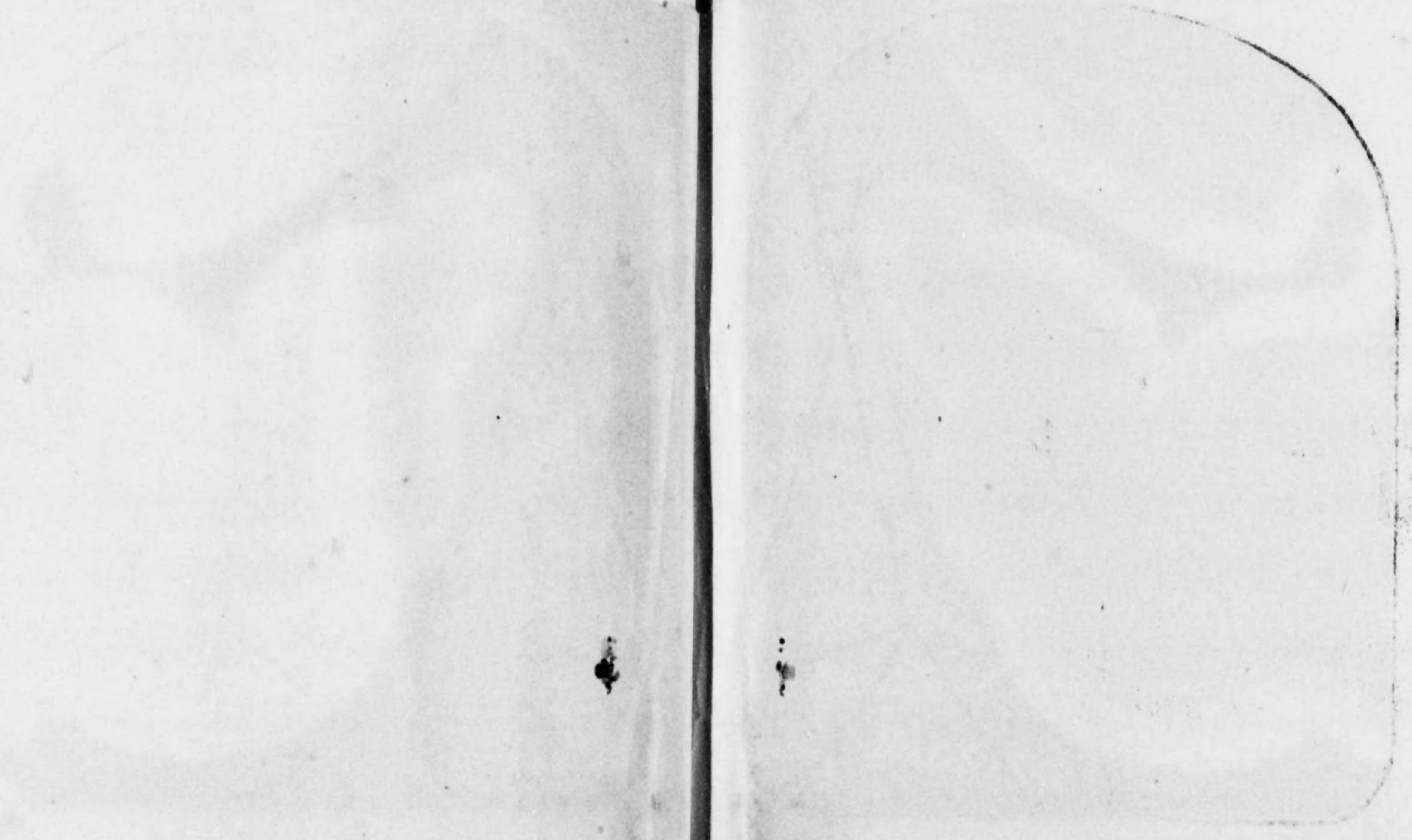
# 始





特274  
746

嘉





糟屋郡地誌目次

前編 概観

一、位置と境域

惠まられたる地理的位置

行政区分

自然的区分

水域と行政区分

面積人口

区分

今日の行政区分 善港時代の区分 明治十年頃の町村

表糟屋と哀栢屋、東部高地、西部低地、北西海岸地方



四、人口分析

現住戸数と人口

人口密度

人口移動

三〇

二六



五. 産 業

概 説 ..... 三三

農 業 ..... 三五

畜 産 ..... 四五

林 業 ..... 四八

鑛 業 ..... 五〇

水産業 ..... 五一

工 業 ..... 五二

六. 交 通

概 観 ..... 五二

道 路 ..... 五三

鉄 道 ..... 五五

後 編 地 方 誌

香 椎 地 方

官幣大社香椎宮

恵まられた香椎高女

糟屋郡の會合地香椎(廣野)

香椎名物

和 白 地 方

昔は燈今は蔬菜で名高い和白

航空路の中心雁業

半農半漁の奈多

和白ところどころ

新 宮 地 方

新宮地方の地形

新宮寺

水産中心の相島

席 内 地 方

砂丘上の工業町古賀

青 柳 地 方

宿場町として昔栄へた青柳町

北は農業南は園藝の青柳村



青標金柑の由来 ..... 103

立花地方 ..... 104

畑の多い立花村 ..... 105

蜜柑の本場立花 ..... 106

立花蜜柑の沿革 ..... 107

小野村地方 ..... 108

純農村小野村 ..... 109

鹿王のラジウム温泉 ..... 110

志賀島地方 ..... 111

石炭の積出と石油の集散地で築えた西戸崎 ..... 112

寄合世帯の西戸崎 ..... 113

西戸崎ライジングサン石油々橋所 ..... 114

志賀島枇杷 ..... 115

海中海火浴場 ..... 116

藤栗町地方 ..... 117

藤栗町 ..... 118

巡拜者に依つて繁昌する藤栗取附近 ..... 119

藤栗新田園 ..... 120

荒田・藤栗栗園の高原避暑地 ..... 121

山田村久原村地方 ..... 122

概観 ..... 123

縣社伊野大神宮 ..... 124

勢門村地方 ..... 125

概観 ..... 126

勢門盆地の聚落 ..... 127

勢門村の工業 ..... 128

仲原村地方 ..... 129

仲原台地 ..... 130

仲原村九大農場 ..... 131

又川村地方 ..... 132

概観 ..... 133

珍らしき砂利採集場 ..... 134

聚落の形態と職業別に特色ある江辻 ..... 135

多々良村地方 ..... 136

名島の風物（帆柱石、名島城址、更生した名島、妙見島、東邦名島發電所） ..... 137

水郷多々良 ..... 138

宇美町地方 ..... 139



# 一、位置と境域



## 概観

四王寺山古趾

一四六 宇美八幡宮

三郎山麓の高地聚落

一四六 炭坑町宇美

須恵村地方

一五一 宇美の萬代日本の萬代

## 概観

石炭の寶庫新原台地

一五四 海軍炭坑で知りたは須恵村

志免村地方

一五五 佐谷觀音、須恵燒、白灰、以科正院

## 概観

炭坑聚落

一六〇 炭坑村志免

木夕山と沼汲地

一六一 海軍炭坑(海軍燃料廠採炭部)

箱崎町地方

一六五

## 概観

官幣大社菅崎八幡宮

一六六 箱崎町の沿革

箱崎蔬菜

一六八 箱崎の地域性

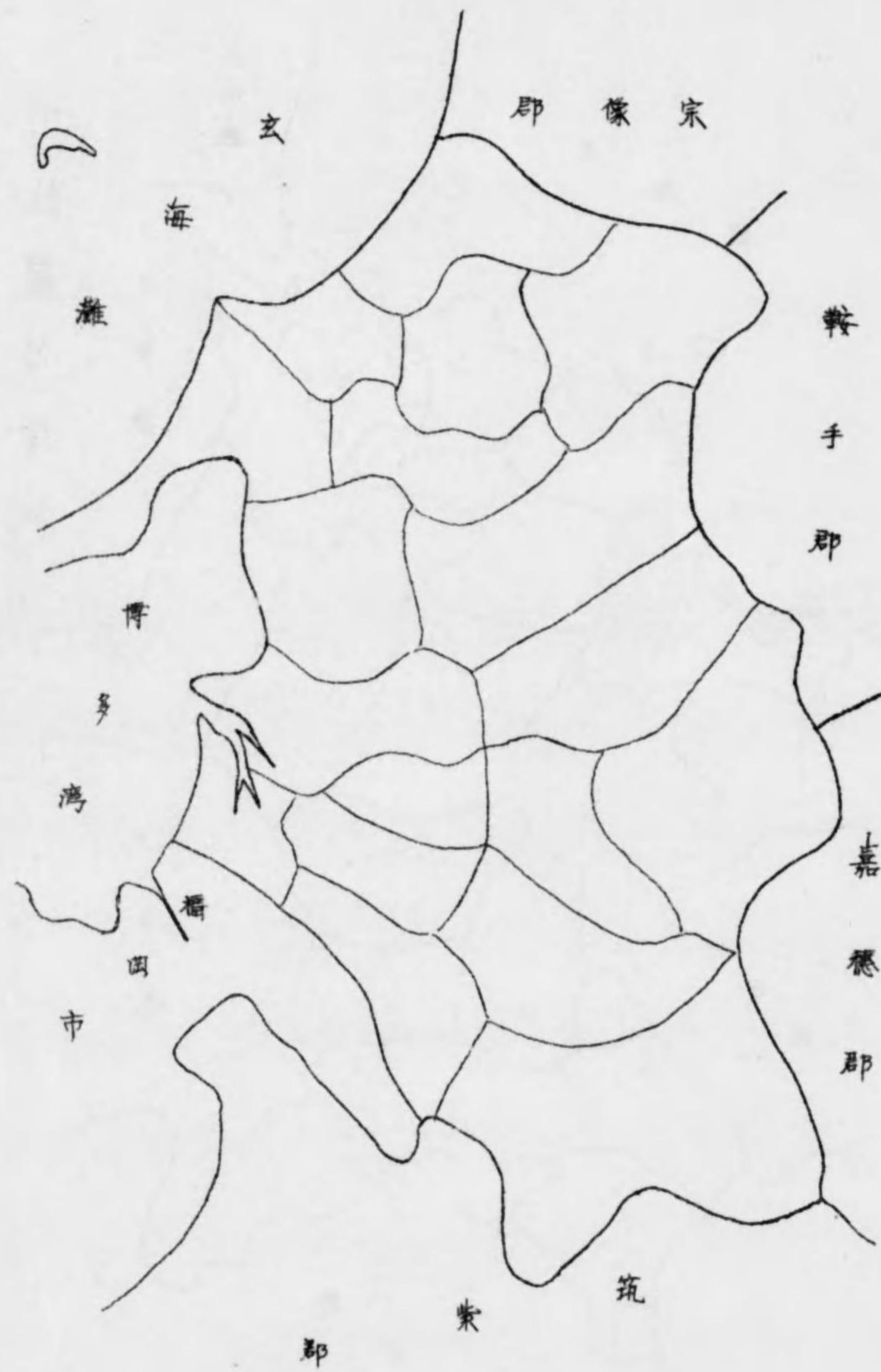
箱崎浦の渡業

一七〇 箱崎編

一七一

一七二









郷土糟屋郡は我が福岡縣の北西部に位し、東は三郡山脈の分水嶺を以て遠賀河流域の嘉穂鞍手兩郡と境し、南部には三郡空濠四王寺の連峰相峙ちて流紫郡との境をなす。北は花見松原附近の丘陵にて宗像郡に續き、西は和自の一角より海の中道突出して志賀島に至り、外は玄海灘内は博多灣に臨む。又南西部は大福岡市に接續せり。

恵まられた地理的位置

- (1) 香椎宮、笠崎宮、志賀島神社の三宮幣社  
博多灣沿岸一帯は古來大陸に興した幾多の國々と、關係深かりし地域にして、史蹟名跡極て多し。中にも三宮幣社は由緒最も深き神社にして其の名全國に響き郷土の大きな誇である。
- (2) 拓け行く航空路の要  
大陸に對する優秀な位置は昔も今も変わりなく我が國に於ける航空事業の發達により、雁巢に福岡第一飛行場（第一飛行場名島）設けられ、躍進日本の空港として大陸に南洋に我が航空路の中心となつてゐる。
- (3) 大福岡市の近郊  
人口三十万を擁する大福岡市は、九州に於ては勿論西日本に於ける文化の一大中心である。我等が郷土糟屋郡が、この福岡市と繁榮を共にすることは明らかな事である。こゝにも亦郷土の誇りがある。

面積 大 □

糟屋郡は地域東西に狭くて約十三軒、南地に長く約二十一軒にして東部の山岳地より西方に緩斜して海



岸低地に横る地或は面積二百六十平方軒縣下各郡中中位に位し福岡縣の約十九分の一に當る。  
 人口は十一万八千余、南部の各町村に密度殊に大なり。

(イ) 行政區分



今日の行政區分



舊藩中は兩糟屋宗像三郡を以て、一行政區となし、藩士の中より一名の郡奉行を置き、其の下に大庄

屋(表糟屋二人、裏糟屋一人)庄屋ありて、政治をなしたり。然るに明治元年四月壬政復古と共に福岡藩の一部となつた。兩糟屋の別も明治六年以後廢止され今日の糟屋郡となり、明治十三年一月那珂郡に屬せし志賀村勝馬村を編入せし後は、便宜上郡を北部南部西部に分つ。當時は全郡通じて八十四ヶ村なりしが、其の後数度の政令併合あり、明治二十二年町村制実施により更に關係深き町村を併合し、今日の十九ヶ町村となれり。

「福岡藩は次で福岡縣(筑前部のみ)となり三瀬縣(筑後)小倉縣(豊前)を併合し明治九年に至つて今日の區域となつた。」

明治十一年頃の町村區分は次の様である。

箱崎村	一ヶ村	大隈、江辻	二ヶ村
御手洗、別府南里	三ヶ村	和田、津波黒、田中、高田	四ヶ村
志免、吉原	二ヶ村	乙犬、尾仲、若杉	三ヶ村
田富、井野、炭焼、四王寺	四ヶ村	藤栗、金出、萩尾	三ヶ村
宇美、障子荘	二ヶ村	久原	一ヶ村
佐谷、新原、上須恵、須恵	四ヶ村	山田、猪野	二ヶ村
植木、旅石、酒殿	三ヶ村	蒲田、土井、名子、八田	四ヶ村
戸原、長者原、阿恩、柏須、内橋	六ヶ村	津屋、多々羅、松崎、名島	四ヶ村



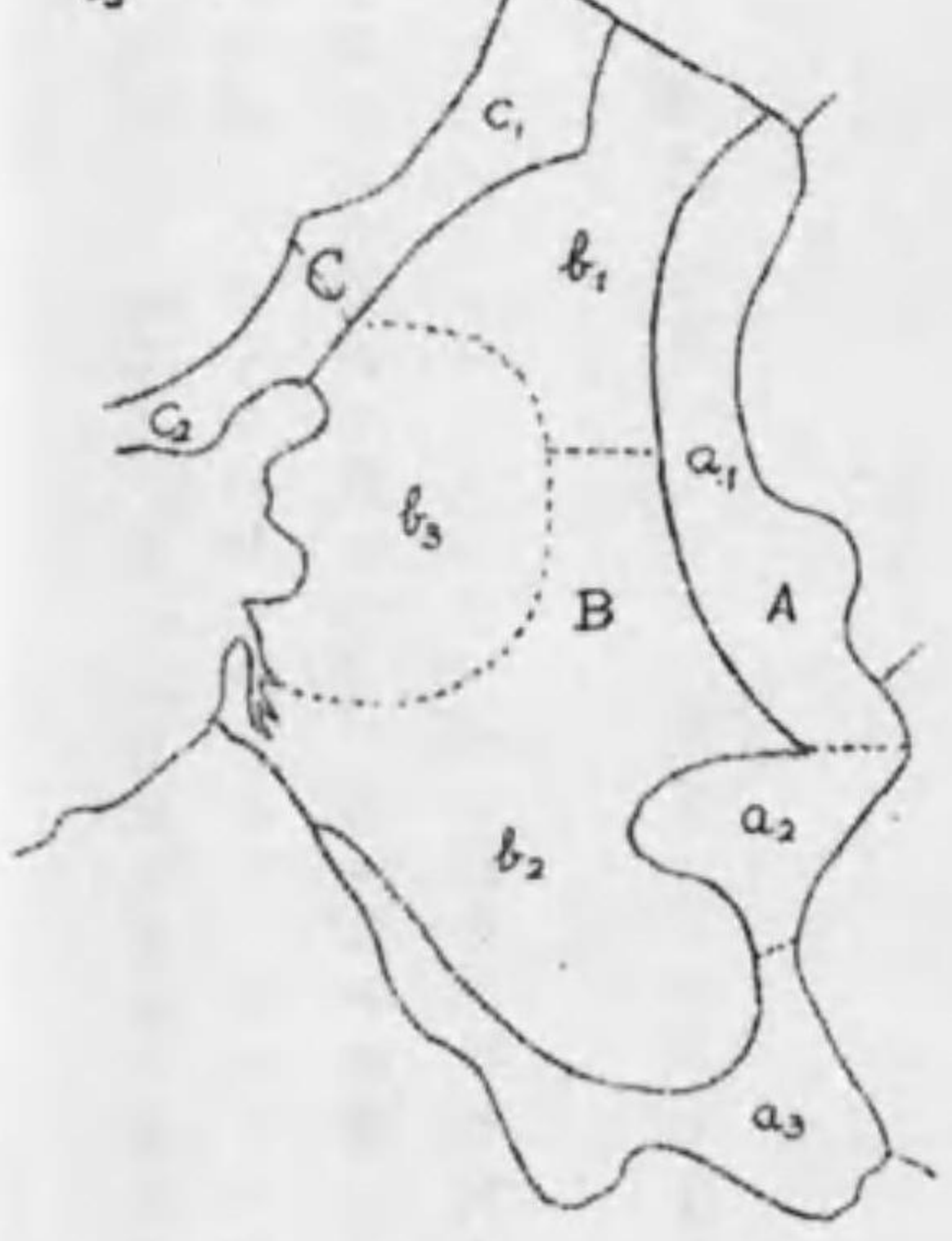
谷椎、渡男、唐原  
 下原、原上、三代  
 立花口、的野、青標、小竹  
 青柳町今在家、新原、川原  
 谷山、小山田、藥王寺  
 薦野、米多比

自然的地區分

表精屋と裏精屋 犬鳴山塊中に聳ゆる西山より、山田村猪野の遠見岳其の西方三本松山をへて立花山に至り、春椎丘陵の三日月山城越塩坂八田より横宮鼻に至る線以南、即ち多々良川流域を表精屋、以上を裏精屋と區分するこゝが出来た。この區分は前記の舊藩時代行政區分と同一である。地勢による

以上八十四ヶ村に分割し、便宜上之を二十九の戸長役場に於て政治をなしたり。

自然的地區分



A 東部高地  
 B 西部低地  
 C 北西海岸地方

- |     |               |     |
|-----|---------------|-----|
| 三ヶ村 | 席内、久保         | 二ヶ村 |
| 三ヶ村 | 庄、古賀、鹿部       | 三ヶ村 |
| 四ヶ村 | 上府、下府         | 二ヶ村 |
| 四ヶ村 | 奏、新宮、相島       | 三ヶ村 |
| 三ヶ村 | 奈多            | 一ヶ村 |
| 二ヶ村 | 上和白、下和白、塩濱、三若 | 四ヶ村 |

今一つの區分は

- 東部高地、西部低地、北西海岸地方  
 東部高地 (犬鳴山塊、若杉山塊、三脚山塊)  
 西部低地 (北部平野、南部平野、立花丘陵地)  
 北西海岸地方 (砂丘地、半島部、島嶼部)

水域と行政區分

一河川の水域を以て、行政上の單位となすは最も自然の行き方である。精屋即ち於ても、昔時多々良川流域を表精屋と称し、又本支流河谷を柳、庄、河内の名を以て行政上の一區劃となしたり。宇美河内、復恩河内、迫(魯)門河内、山田河内等之にして今日の町村區分の基礎をなせり。

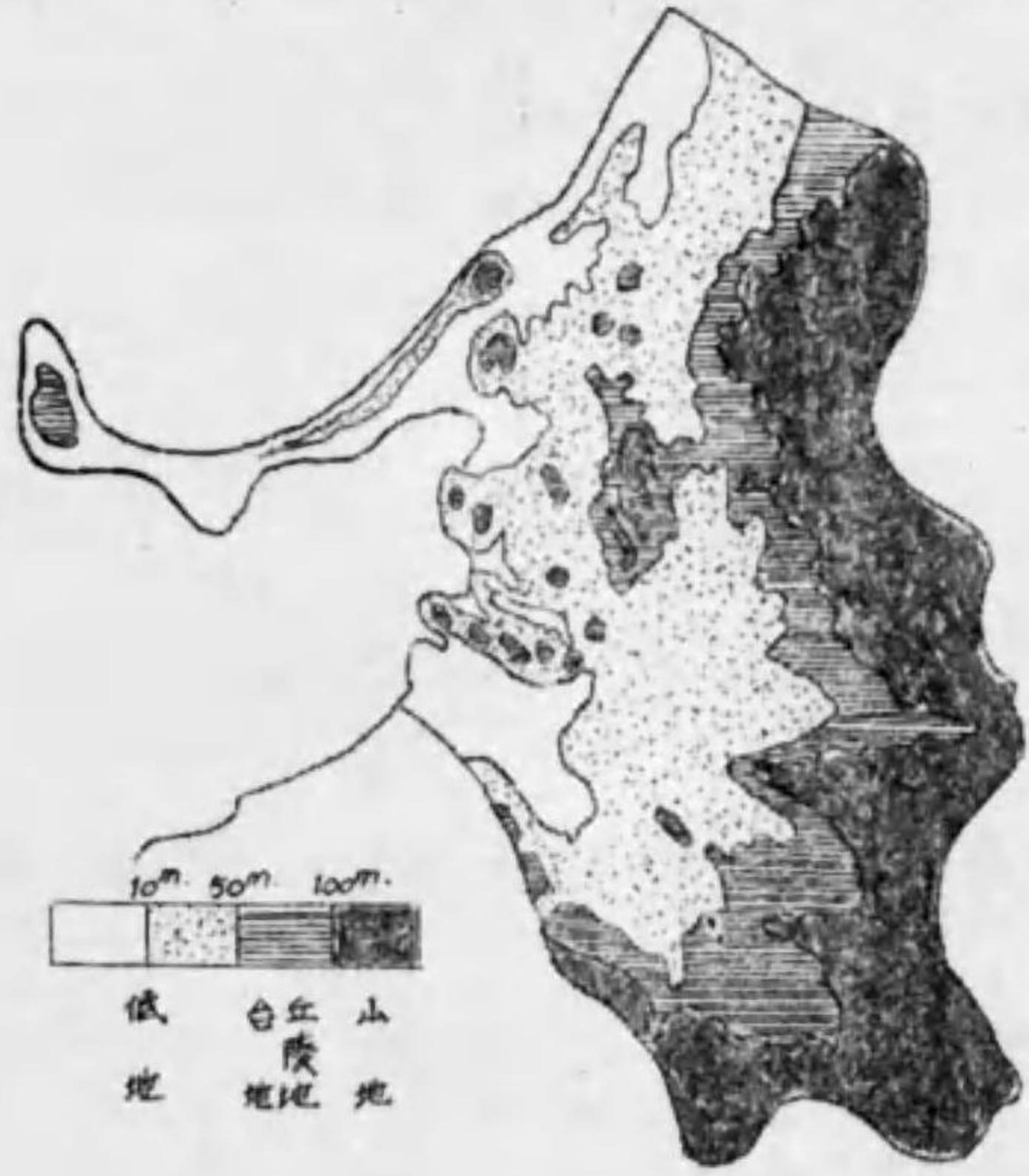
宇美河内……障子岳、宇美、炭焼、井野、田宮  
 吉原、志免南里、別府までの九邑



1 宇美河内  
 2 復恩河内  
 3 迫門河内  
 4 山田河内



別の地低地陵丘地山るよに度高



峰及嶺山の地高部東

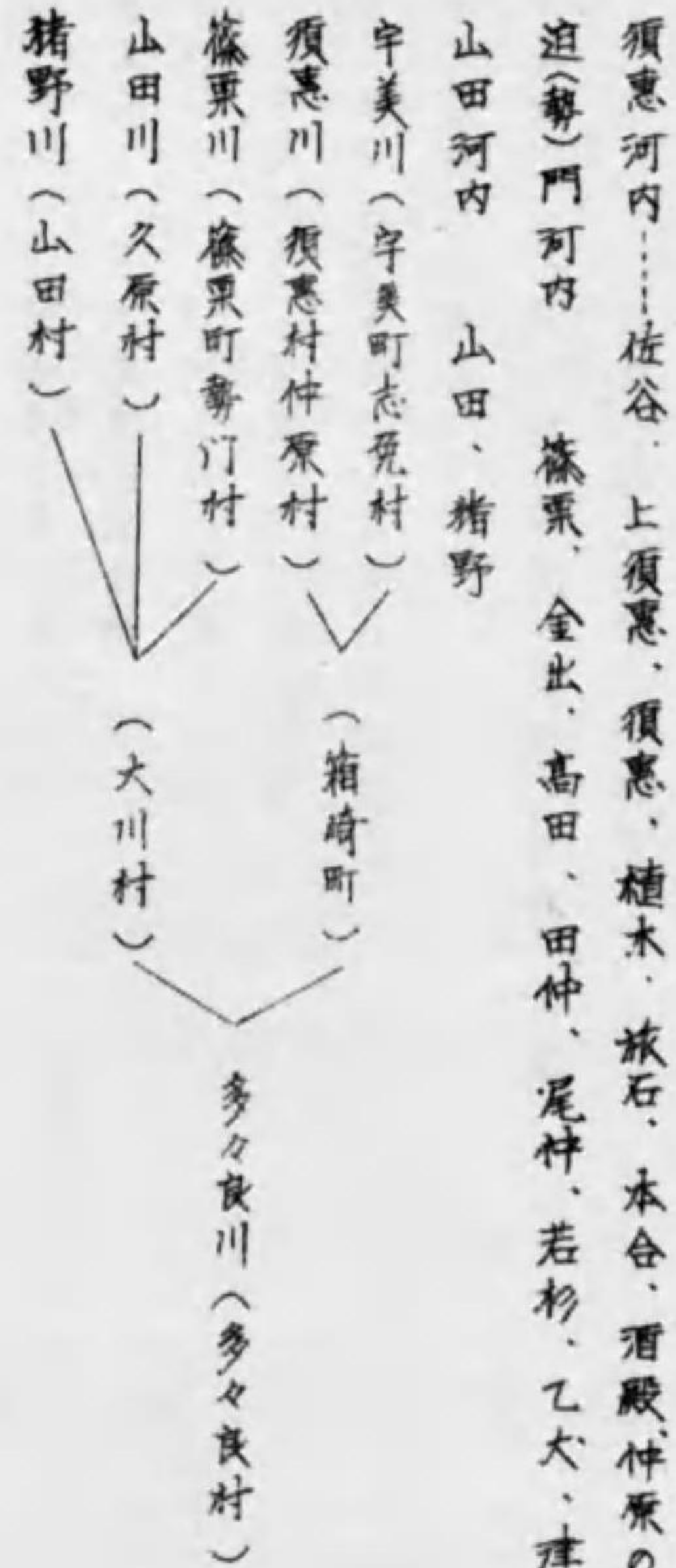


東部高地の主体をなす三郎山脈は、遠賀川御笠川兩河谷の間を南北に縦走し北九州の軸をなす。筑紫山脈の一部である。略中央の篠栗川以南は尖峰相連り、高度一般に大なるも、北半は高原性の山地にして標高南部に比し稍小なり。西部低地とは急峻な侵蝕崖、断層崖を以て境となせる所多し。立花、四王寺の山塊は東部高地の次地塊である。

概観 青柳宇美の構造線は糟屋郡土地起伏の著しき境界線をなす。この線以東は土地一般に高く、即ち三郎山脈屏風の如く南北に連り、地形極めて峻峻にして、僅か二三の峠による外、遠賀川流域に越える途なし。然るに西半は、立花山附近の丘陵を除けば土地低平にして、本郡の主要部をなしている。海岸は比較的單調な弓状嶺の連続にして、沿岸には砂立がよく発達してゐる。北西の海岸より海の中道の半島突出し志賀島を繋ぐ。

東部高地

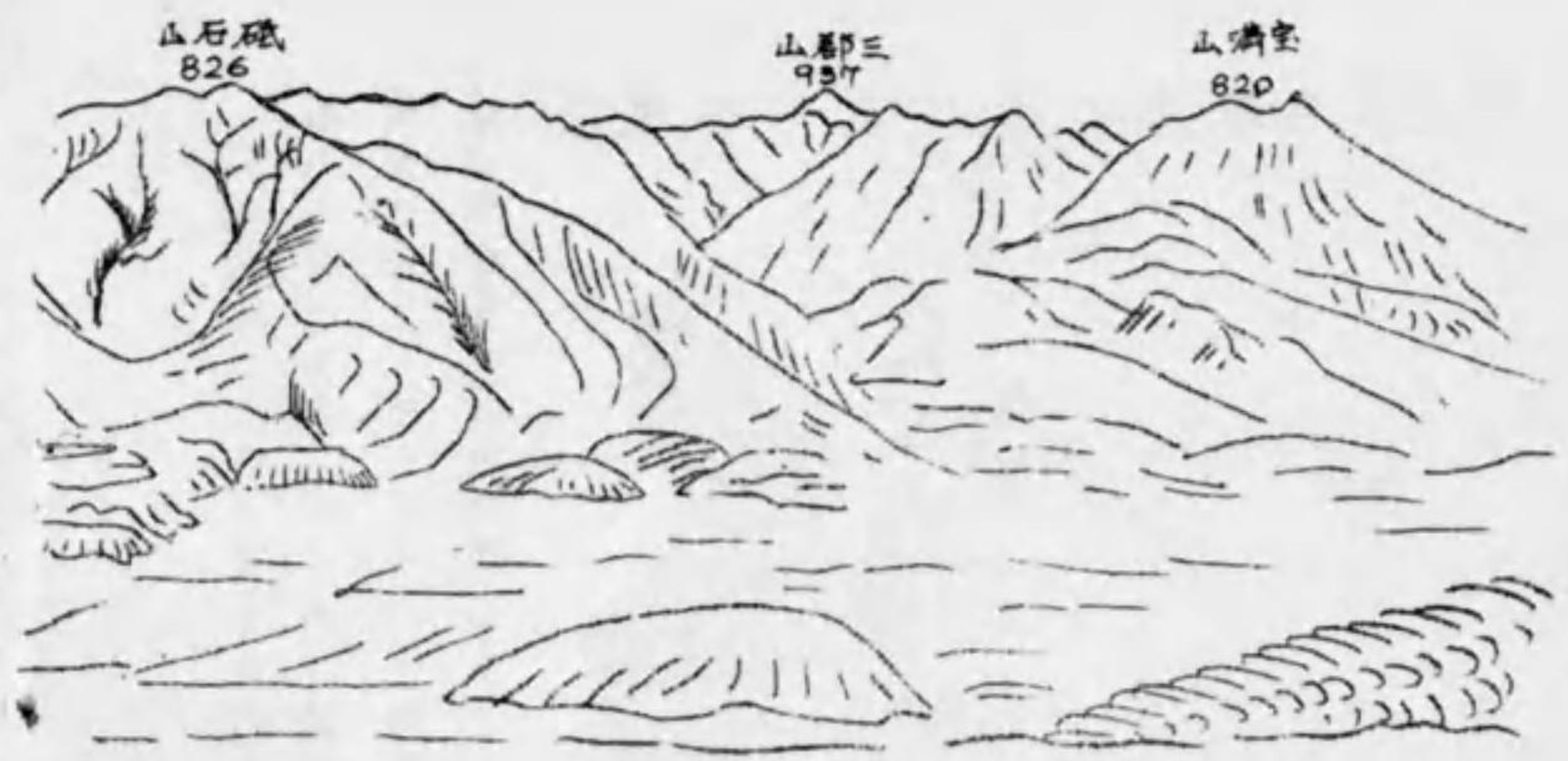
二. 地勢



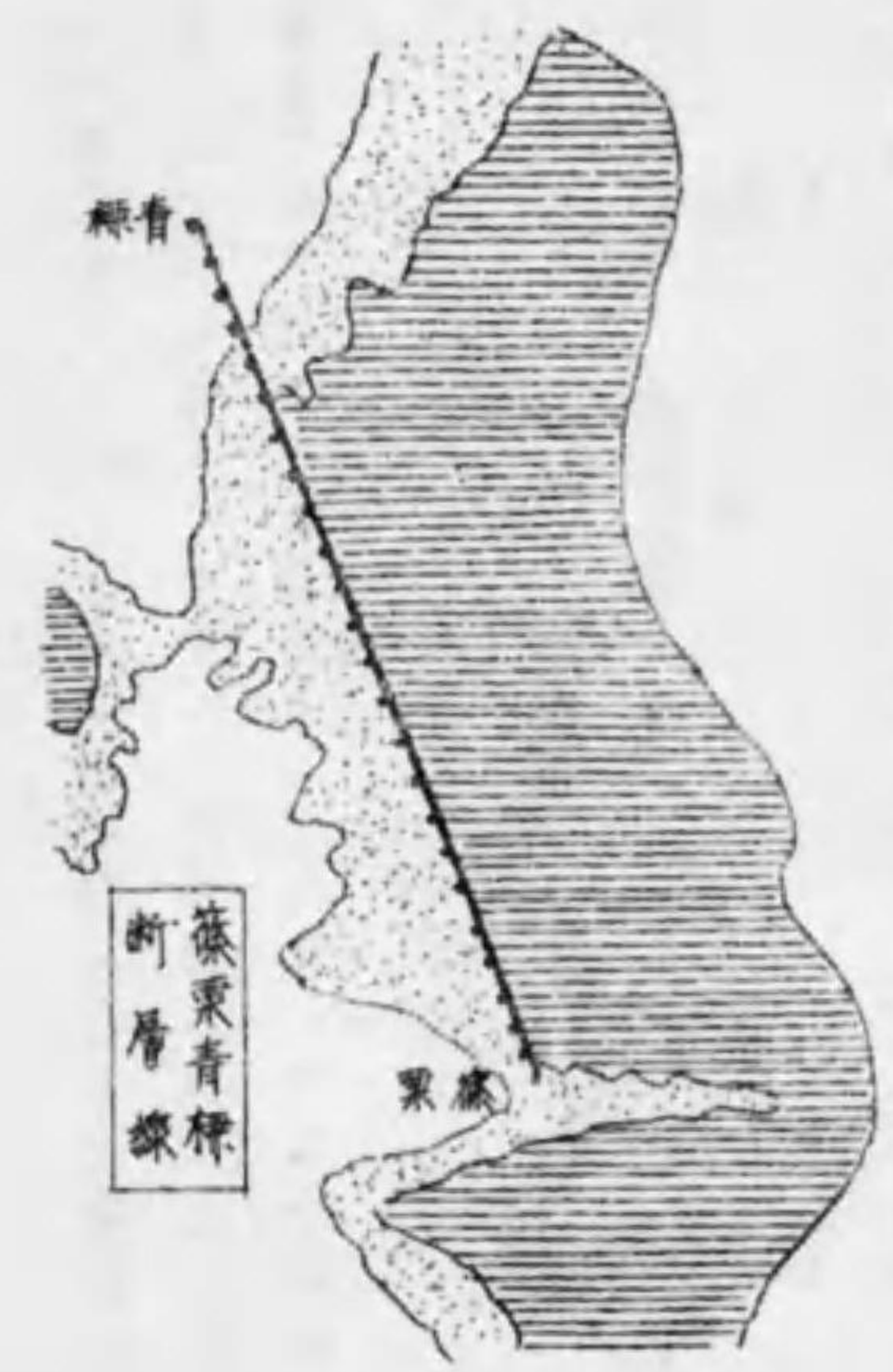




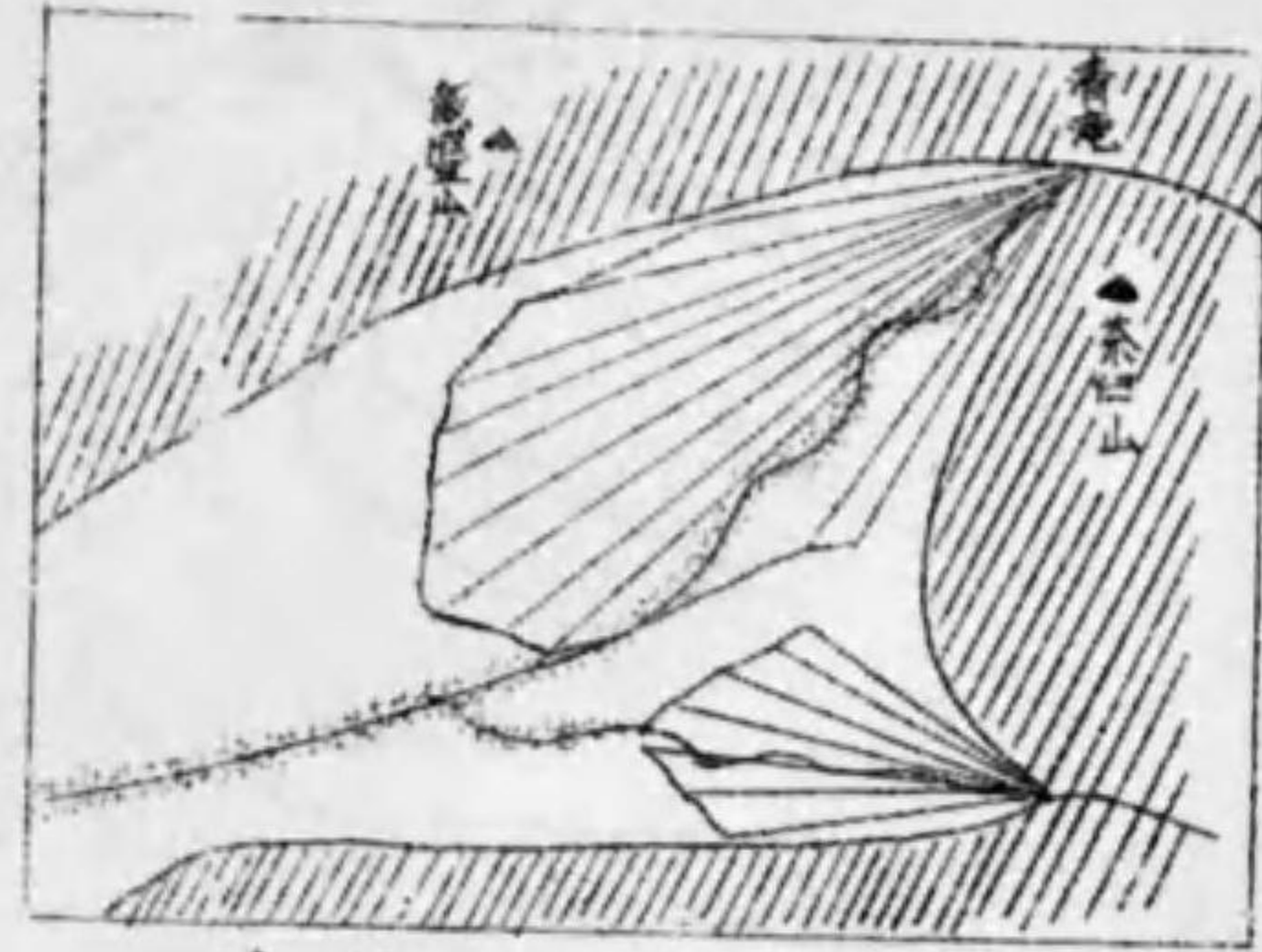
たかなり。  
 山塊の西端は篠栗、青柳断層線によつて切断され、急に高度二百米を減じ、山麓の台地に臨む。この断層崖より山地の奥深く喰ひ入つた狭谷は盛に山を削り谷を穿ちて土砂を搬出し山麓に猪野、久原の扇状地を造つてゐる。  
 山塊の北西斜面は花鶴川本支流の爲侵蝕一段と進み、狭谷は山地を穿ちて後退し、猪野川流域に迫つてゐる。山麓に猪野、上米多比、薬王寺谷山の崩壊地を造り、猪野川はこの上を流氷積をなせり。  
 若杉山塊  
 表層早野に突兀として聳へ、主峰若杉山は標高六七七米、第一の名山である。山は篠栗町の南に近く屹立し、老杉鬱蒼と



大鳴山塊  
 篠栗川以北の山塊は主として古生層より成る。山地の東境には飯原山、鉾立山、大鳴山、西山等聳へ何れも六百米内外の標高を有す。山麓の鞍部には八木山（七曲）猪、大鳴、猪野の峠ありて東西の交通路になつてゐる。  
 飯原山附近は高原状地貌をなし、萩尾吞山柳原の如き高原状盆地横る。然るに久原川猪野川流域の如きは侵蝕大いに復活し、全く壮年的に削折され、地形甚だ峻険にして、山高く谷深き深山幽谷の趣をなせり。  
 篠栗川斜面も侵蝕大いに進み峡谷深布は盛に峰を削り高原を刻みながら後退してゐる。篠栗新四國の置場は其の若い地形の間に点在し、置場あら







川根大と地状扇野麓

茂り山名甚だ森嚴なり。

山名は神功皇后の御征韓に由来し、山頂には伊弉諾尊を祀る太祖神社が鎮座します。又弘法大師鑿鉦水の遺跡と傳ふる奥之院が危岩の陰にあるなどで、山麓橋梁を中心とする、新四國の巡禮者は必ずこの山に登ることになつてゐる。其の爲に西側山腹の若杉樂園、北側に荒田に、それ／＼旅館があつて、巡禮者の履を計つてゐる。又兩地は共に約四百米の高所に位するので近年避暑地として認められ、或は林間學校等の催しがある為、旅館の設備も次第に改善され、自動車も兩地迄登る様になつた。橋梁駅より徒歩にすれば奥圓を経て二時間荒田よりすれば二時間半にて頂上に達す。

に成つてゐる。然るに須恵村方面の山腹は山帯域々として甚だ峻峻を極む。山腹は西に延びて次第に低下し、竹城山(城山)乙火山となり大間池附近の丘陵に達す。

三郡山塊

宇美、須恵の平野より屏風の如く聳え立つた其の山容は表層層の一帯観である。山腹は全く壯年の存地に



觀を呈し、其の鋭い尖峰と山腹に花崗岩質の明るい山肌は眺める者をして爽快な感を抱かしむ。

寶滿山は標高八百米、寶門山とも称せられ、古來の名山である。山頂は花崗岩の巨岩より成り、神武天皇の御生母に亘らせられる玉依姫を祀る寶門神社上宮鎮座します。

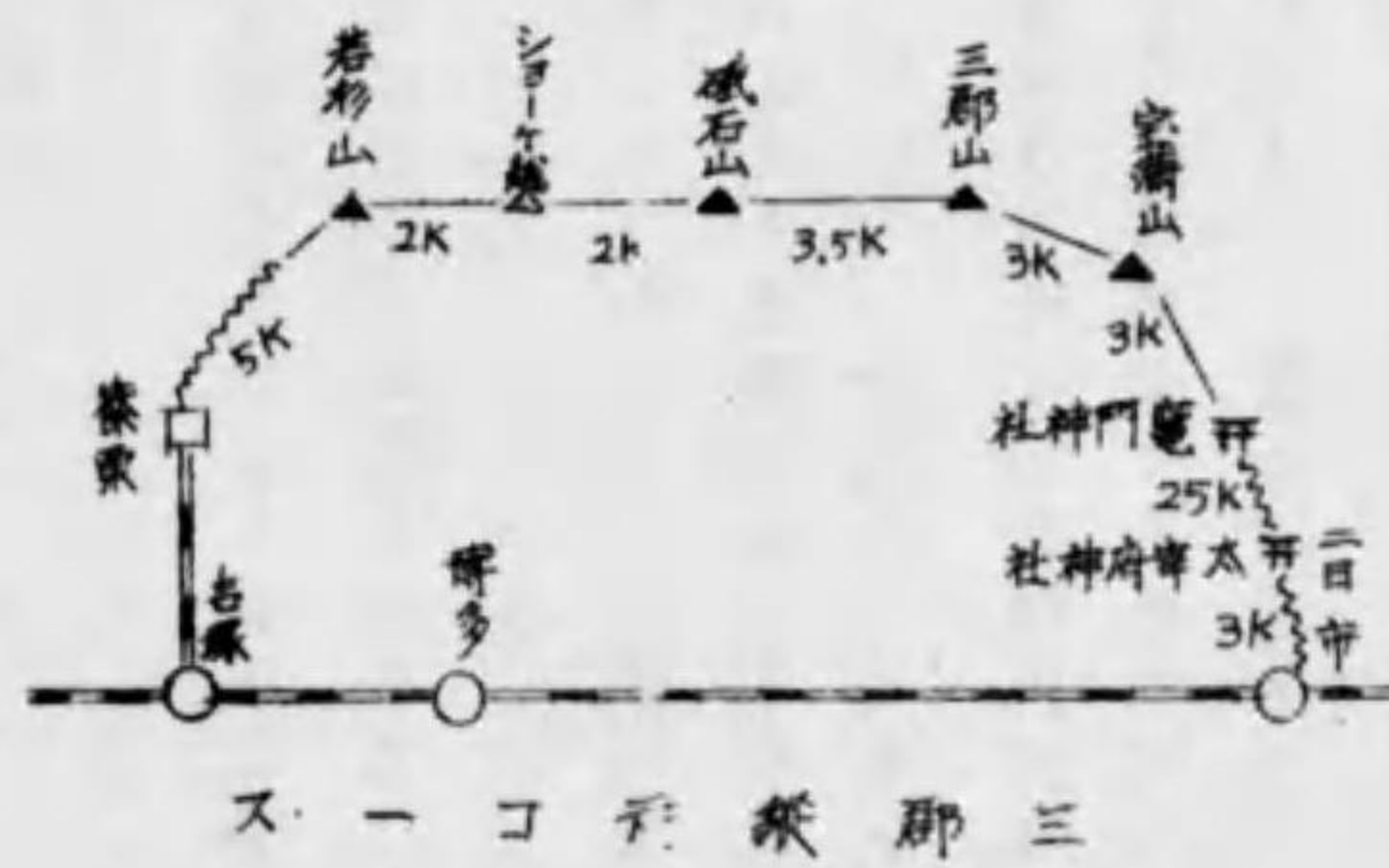
三郡山は高さ九百三十七米にして、三郡山塊の主峰である。山頂は樽屋筑紫嘉穂三郡の交界に位し山名もそれに由来す。頂上は草原で眺望廣く、山は九合目迄樹林にして「コアナ」が多く温帯林の特征を示してゐる。又樹叢へは石南花多し。山頂より防火線を辿り北すれば一高一低砥石山等を登りシヨウケ越に至る。

寶滿より三郡山、砥石山を経て若杉山に至る尾根傳ひのコースは福岡市より日歸りの登山路として最も手頃なもので、近時登山者が多くなつて来た。

四三郡山塊は三郡本地塊より分離し半円状に連る山塊である。頗る史実史蹟に富んだ山で、昔大軍府防備上の要地であつた。

山腹は樽屋筑紫西郡界を略北西に延長し月隈丘陵となる。乙金、井野兩山間に宇美雜餉限を繋ぐ日守峠あり。

三郡山塊の急崖より散落し、或は放出された岩石、土砂は、山





麓一帯に押し出された崖線式の扇状地を造る。上原、神武原、新原等の高原又は台地之なり。

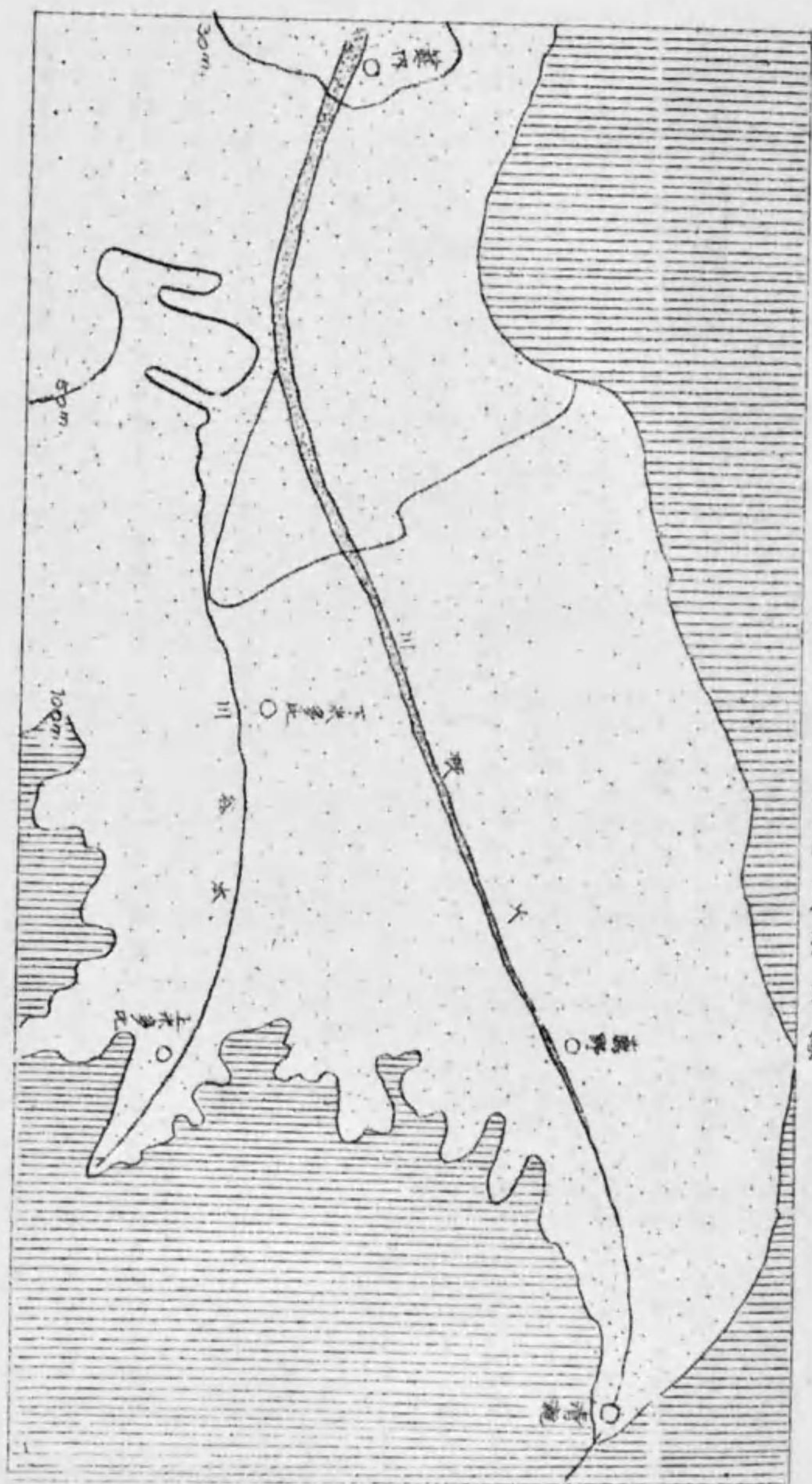
### 西部低地

東部高地との境は略、青柳半美濃道線になつてゐる。立花丘陵地帯を除けば大体五十米以下の低平な平野である。この平野は南北に分れ兩者は佐屋、下原の通谷及和自附近の海岸平野によつて相通じてゐる。

### 北部平野

市内、小野、青柳の各村に跨る平野は周囲に山地丘陵を繞らし盆地状の地形をなす。主として花鶴川本支流の堆積による沖積平野で、北部糟屋の中心をなせり。東部山麓には大崎山塊より運搬された土砂堆積し、蕨野土多比、薬王寺、谷山等の扇状地を造つてゐる。蕨野扇状地の水無川を一名大板川と云ふ。

蕨野扇状地と大板川、南、薬王寺丘陵より北宗像郡界の丘陵西麓内に至る巨城の平野は、蕨野扇状地と本合川によつて造られた土多比扇状地の複合によつて生じたものである。扇頭清瀬より平地に出た大板川は、蕨野部巻までは水車小屋を作つてゐる程に相替の水量を持つてゐるが、以下麓内迄は全くの礫をなし、礫に堰の下或は特に洗濯の為掘り下げられた處に伏流の湧出を見るのみ。礫の砂利は道落舗装用として盛に採取されてゐる。此の川は又河床高き天井川で雨季の氾濫を防ぐ為堤防修築の必要がある。平野の北宗像郡境の高原を且元原と云ふ。高原の北斜面は西郷川上流の頭部侵蝕によつて著しき侵蝕崖を造り次第に崩れてゐる。南方蕨野扇状地に向つては緩傾斜をなし田畑としてよく利用されてゐる。且元原高原より福岡古賀に向つて立夜連り、其の三角地域内に中川、刈目川に沿つた小低湿地、原、

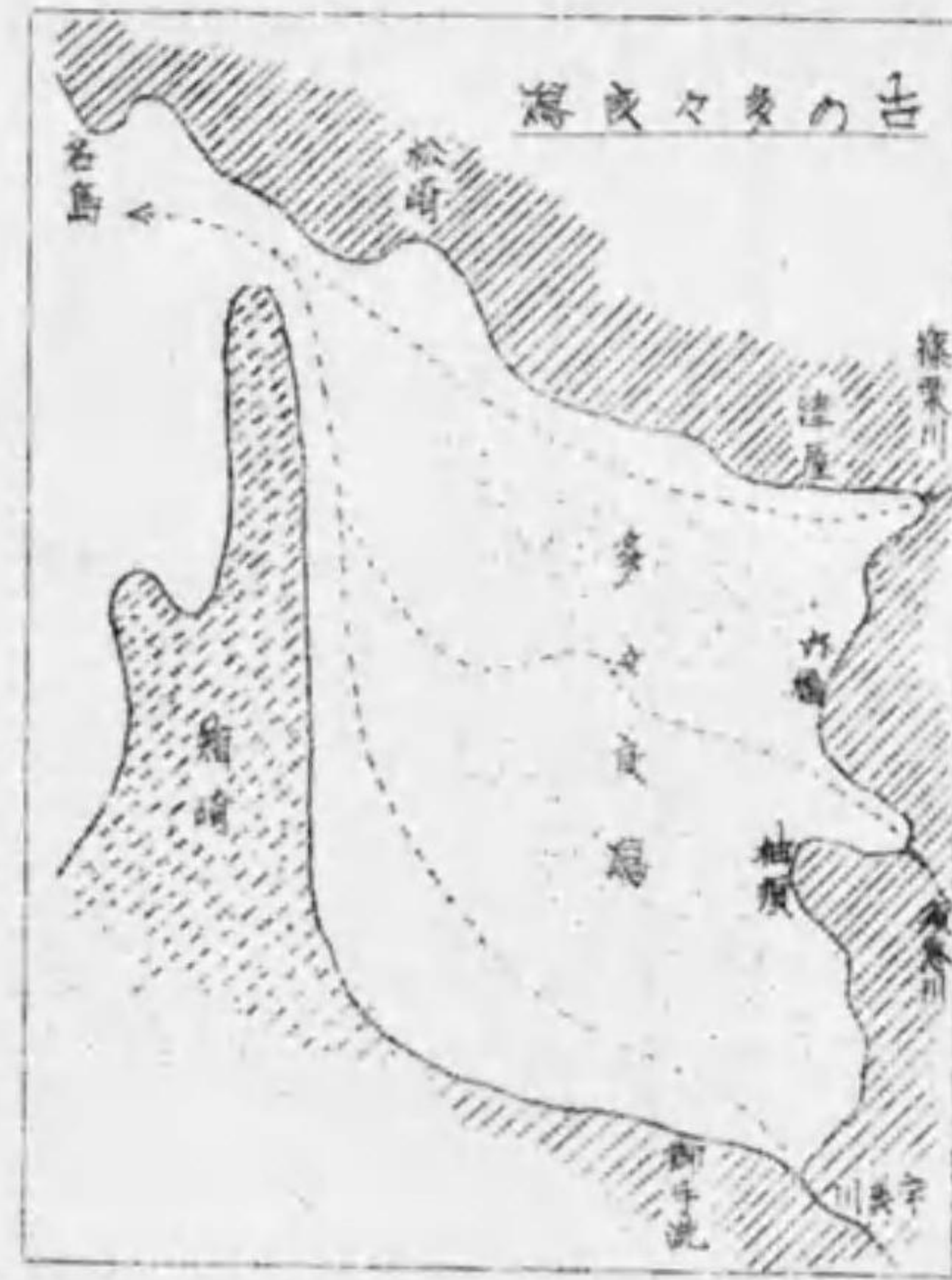


西部低地 北部平野



裏田の台地花見松原の砂丘群を抱く。  
 新宮地方には砂丘の内側に侵蝕と堆積の作用によつて、フォーク型の小平野が出来てゐる。砂丘と平野との境界附近には湿地多し、千疊牟田の如き之にして潟湖の一つである。潮入川は砂丘に妨げられ迂回して海に注ぐ。

立花山より北に續く丘陵地は花崗岩の礫層地帯にして、三條岳、前岳、尾東岳、巖越山、鹿部山等の孤立丘陵点在し、特種の地形をなす。



南記 平野

古の多々良潟に在いた宇美川、須惠川、藤原川等が土砂を堆積して造つた沖積平野と其の川に沿つた平地とより成る。多々良河口附近を軸として掌狀に擴り本郡の主要部をなせり。

若杉山塊以北に勢門、久原、山田の三盆地がある。勢門盆地は、所謂迫門河内の地域にして南は若杉山塊北は高田丘陵に限られ西方は大塚附近の丸山塊地の尾門が咽喉をなしてゐる。

高田、久原兩丘陵に挟まれた平野が久原盆地である。山田盆地は山地丘陵によつて殆んど完全に包圍され

僅に西南端桑江山附近の狹隘によつて名子の平野に通じてゐる。下山田より北方に延びた構造谷は佐屋の通谷にて青研川上流の低地に連る。

宇美盆地 若杉、三郡、四王寺の各山塊は半凹狀に連り、宇美盆地を抱く。盆地の略々中央宇美、須惠兩河川に並行して北西に延長した新原台地は、盆地を更に宇美、須惠の兩平野に分つ。何れも花崗岩の堆積による。台地の處々に見るピラミット型のボク山や陥没による低地地帯は、共に炭田地域に於ける地形上の一特色である。東南部山麓一帯には崖線崩落狀地の高原台地よく発達せり。

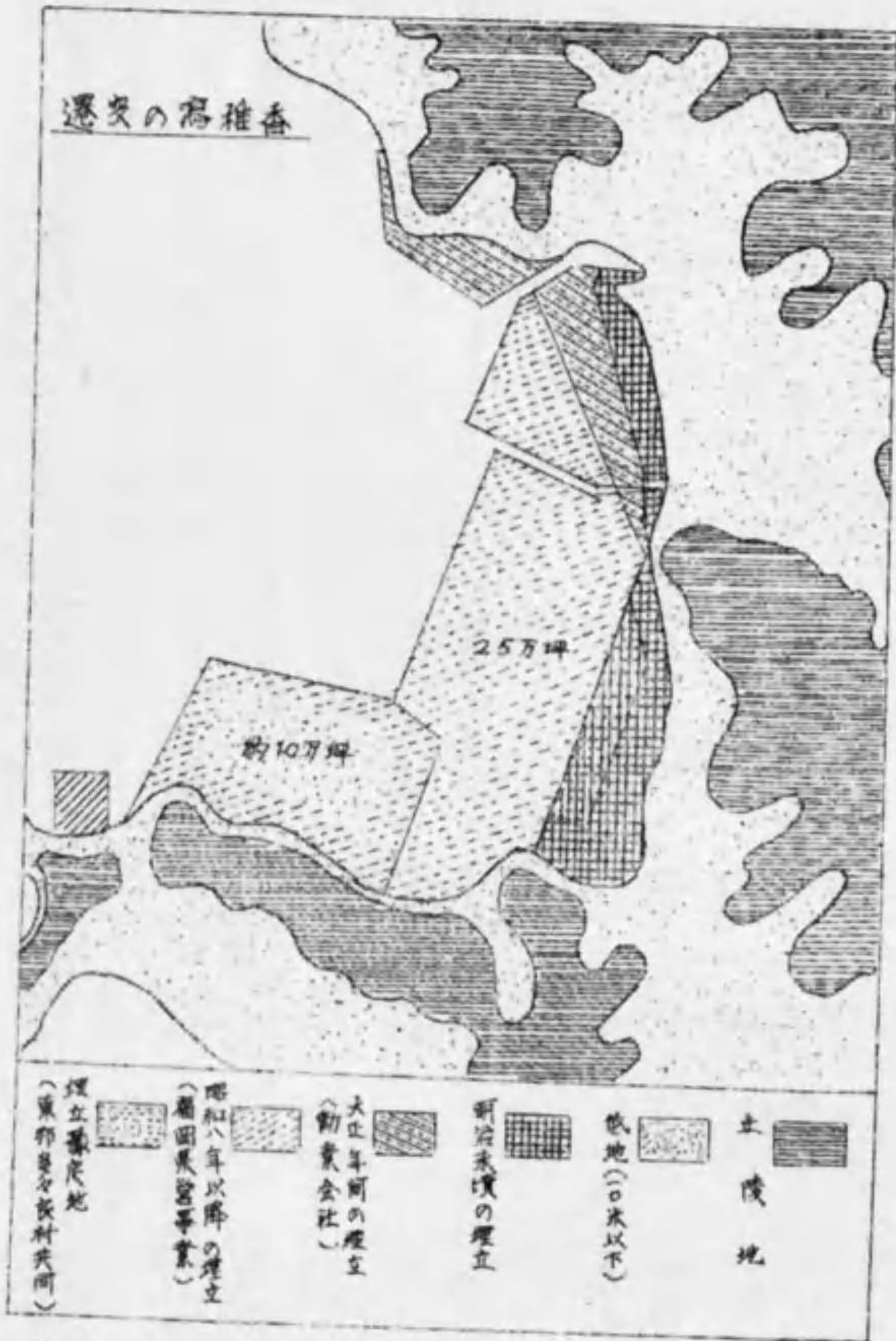


宇美盆地 須惠丁池、大開池附近は概ね五十米内外の台地をなす。台地の侵蝕谷は巧に用水池に利用されてゐる。東部は第三紀層より成るも西するに炭ひ奇麗な洪積台地となり、大川村内橋に至り沖積平野と明かに境す。

多々良平野 多々良川水支流の合流地域は土木以下の低平な平野をなす。古の多々良潟は大規模現在の標高立木線以下の低地であつたと思はれる。即ち當時海水は松崎多々良附近の山脚を洗ひ、東は大川村の廣田内橋より、仲原村の榎原、志免村の柳手先を繋ぐ線を通し、西南は箱崎の砂洲によつ



て限られた遠千島であった。然るに多々良川によつて運搬された土砂は之を次第に埋築し、又一方人工的な堤防の修理増築が行はれて新用地を増し、遂に今日見られる如く良田は名島の河口附近まで達すに至り、箱崎砂洲は沿岸流の爲次第に北方に延びて名島に達し、多々良島の自然の堤防をなしたのである。



多々良川は源を嘉穂郡大分村に発し幾多の支流を集めて西流し、大川村、江辻山の鼻にマ久原川、猪野川を流れ、多々良村を貫流し河口附近にて須恵、宇美河川と合流し、名島にて博多湾に注ぐ、全長十八軒各支流の延長を合すれば凡そ八十軒郷土第一の河川なり。

### 立花丘陵

立花山附近一帯の丘陵は、青柳宇美断層線により三脚木地

帯より切り離されたものである。立花山は郡の中央より稍北方へ聳へ、若杉山と共に郷土の二名山である。山は三峰に分れ立花山三百六十七米頂上の平地は天利時代の末期立花宗茂の據城の跡なり。其の西に松尾山白岳が聳へてゐる。金山鬱蒼たる樹木と秀麗な山容とは我等に對し限りなき愛着の念を起さしむ。山の北斜面にある樟の自然林は天然記念物に指定されてゐる。

立花山の南方尾根傳ひ約三千分にして古成層から成る三日月山(陣山)に達す。眺望頗るよく朝鮮式古城の跡なりと云ふ。

立花山附近一帯の丘陵は、第三紀層より成る。小丘陵列る處に起伏し唐原、香椎、松崎附近に僅に小低地あるのみ。香椎郷は理立進歩して海岸線は著しく前進し、古歌にある香椎郷の詩情時代の波に消去りつゝあり。長崎縣名島半島の前方に横たはる柳島、妙見島は何れも離れ小島である。神功皇后御征韓の砌りの史蹟地である。

### 北西海岸地方

白砂青松の弓状濱と砂丘によつて知られた北部禮屋の海岸地方である。この海岸は福岡縣北西海岸の特色を多く現はしてゐる。即ち岬角と弓状濱との連続である又岬角の前方には離島が点在し、弓状濱の奥には水と併行に、森重にも砂丘が帯達してゐる。

新宮、古賀、福岡の濱、津屋崎町東郷公園(表島)の岬角より新宮磯崎の岩礁にいたる約十軒に達する弓状濱である。濱頭一帯は北西季節風の爲、砂丘よく帯達し海岸より一軒奥まで全くの



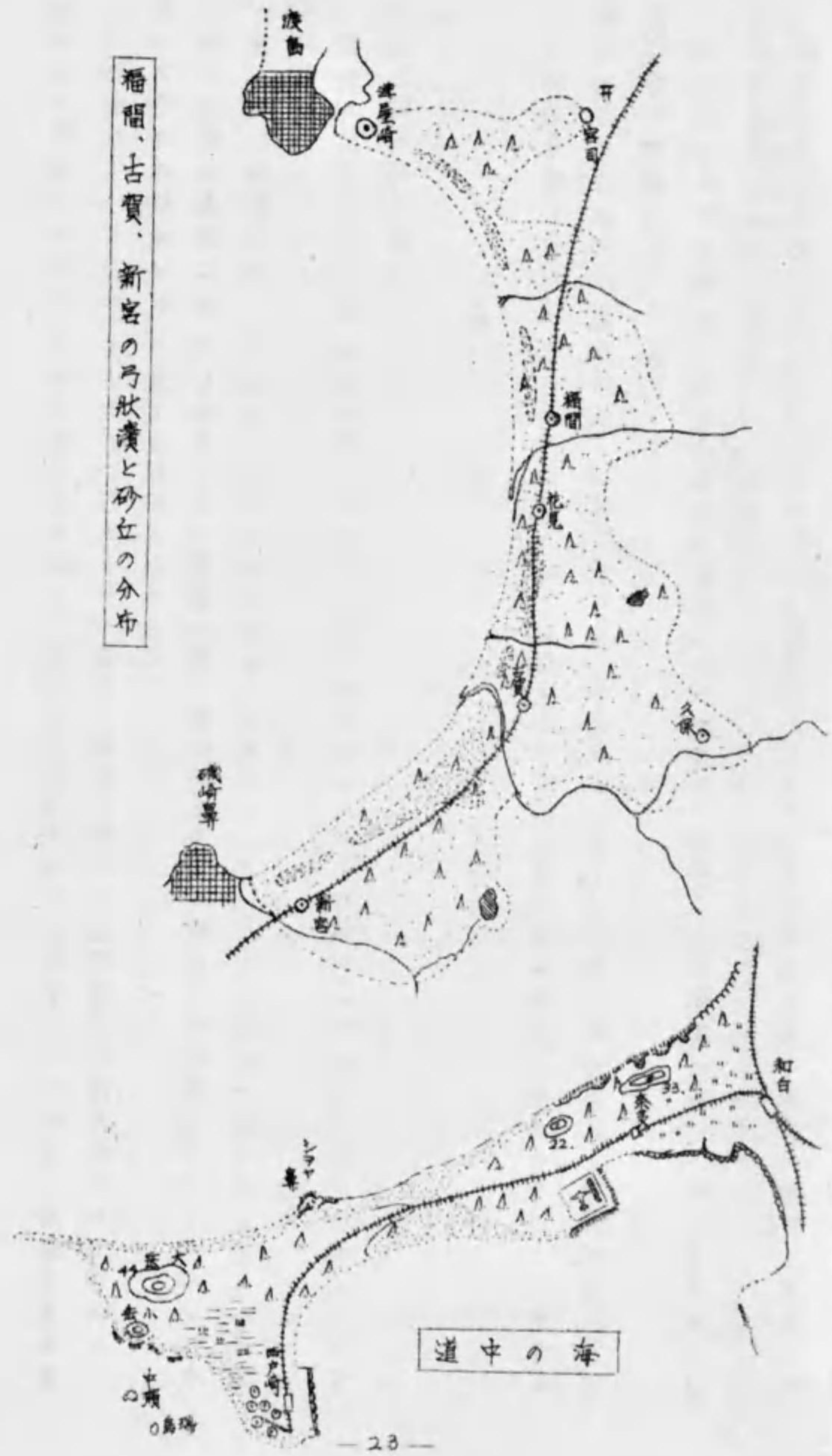
砂地にして中には席内村の久保・千島池附近の如く二料の奥まで、丘陵を覆ふて勢よく発達してある處もある。

新宮の砂立は最近まで移動した若砂立と見てよいが、他の砂立は全く固化した松林地帯と化してある。北より福間・花見・古賀・新宮等の松原にして防風林、風致林として保存されてある。

砂立の内側には概ね平野開け、これ等の平野は丘陵地の奥深くまで掌状に延び、古の海岸地形を思はしめるものがある。砂立と平野の境附近には千疊草田千島池等の如き低湿地及沼あり。之等は砂立の鳥低地、小浸谷が閉塞されて生じた潟湖である。

西郷川、花鶴川の河口は著しく南西に曲折し、阜越風、沿岸流の方向を示してある。又千疊草田に穿した類入川の如きは砂立の急流路南西に大迂回し海に注ぐ。

**海の中道** 北西の海岸より西南に突出し、玄海灘より多岐湾を限る。延長約千二料幅半料乃至四料に及ぶ一大砂洲である。半島中大岳小岳及び余多附近の丘陵は砂洲の発達により次第に陸繋されたものである。砂洲の先端に横たはる志賀島は道切の部分で繋がつたり切りたたりしてある。海岸は南北兩側即ち外浜と内浜によつて海岸地形に非常な相違がある。外浜は海波の侵蝕頗る盛にして丘陵及び砂立は次第に削り取られ絶壁の海岸をなし新鮮な海産は絶へず後退してある。然るに南岸は海波襲撃多岐に臨み遠度の海波をなしてある。西戸崎附近は半島中最も幅廣き地域をなしてある。こゝに久保藤瀬の低湿地がある。志賀島は西戸崎より四料の處に横たはる周囲十一料余の島



福間、古賀、新宮の弓状濱と砂立の分布



である。島は一七六米の弥五郎山を中心として波状に開析された山地をなしてゐる。周縁には海崖よく発達して、その崖より地形が若返りつゝあり、低地は僅かに志賀島、弘勝島附近に見るのみ、狭く山腹の傾斜地は到る處よく利用しなげればならない。

海の中道の基部にあたる塩浜より、新宮の表に通ずる低平な平野は古の桂漕にして、一つの海峡であったと古書に見へてゐる。現在の入江がもつと奥深く入り、そこに塩田が開けられたことは事實である。

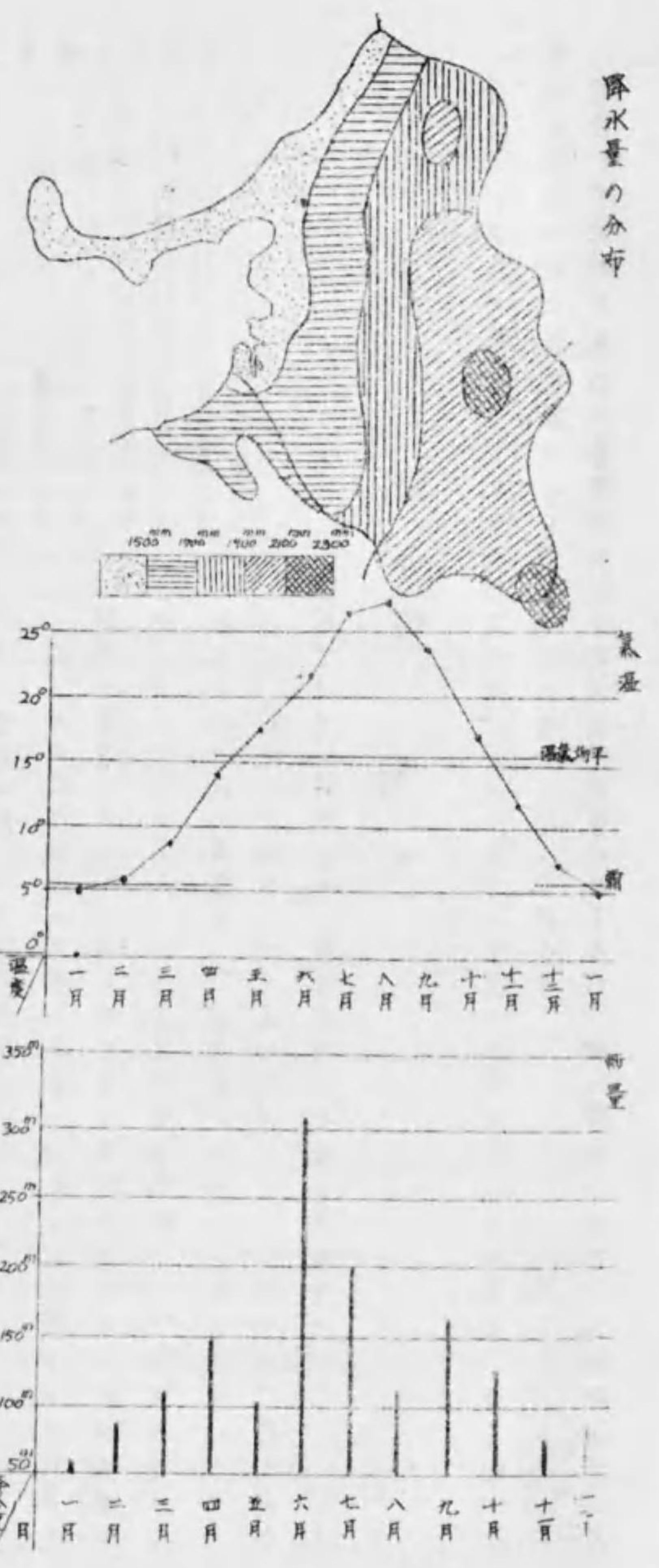
相島は新宮浦から北西海上約八村の所に在る周囲僅か七村、面積六四方村人口約千四百人を有す。行政上新宮村に属す。

### 三、 氣 候

本郡の氣候は各地甚だしき大差なきも、地勢東南に高山を覆ひ西は海洋に臨めるを以て、東南部高山に沿へる地方は氣温稍低く、麓中障子岳、菘尾地方に著し。然るに西部海岸一帯は氣温の變化霜雪等内陸部に比して寡し。

大川村に於ける観測によれば年平均氣温は十五度五で、福岡よりは感度四高い。縣下では糸島郡に次ぎ高温な地方である。

最高温度の月は八月で平均二十七度四、最低月は二月にして平均五度五、夏季に於ける温度の較

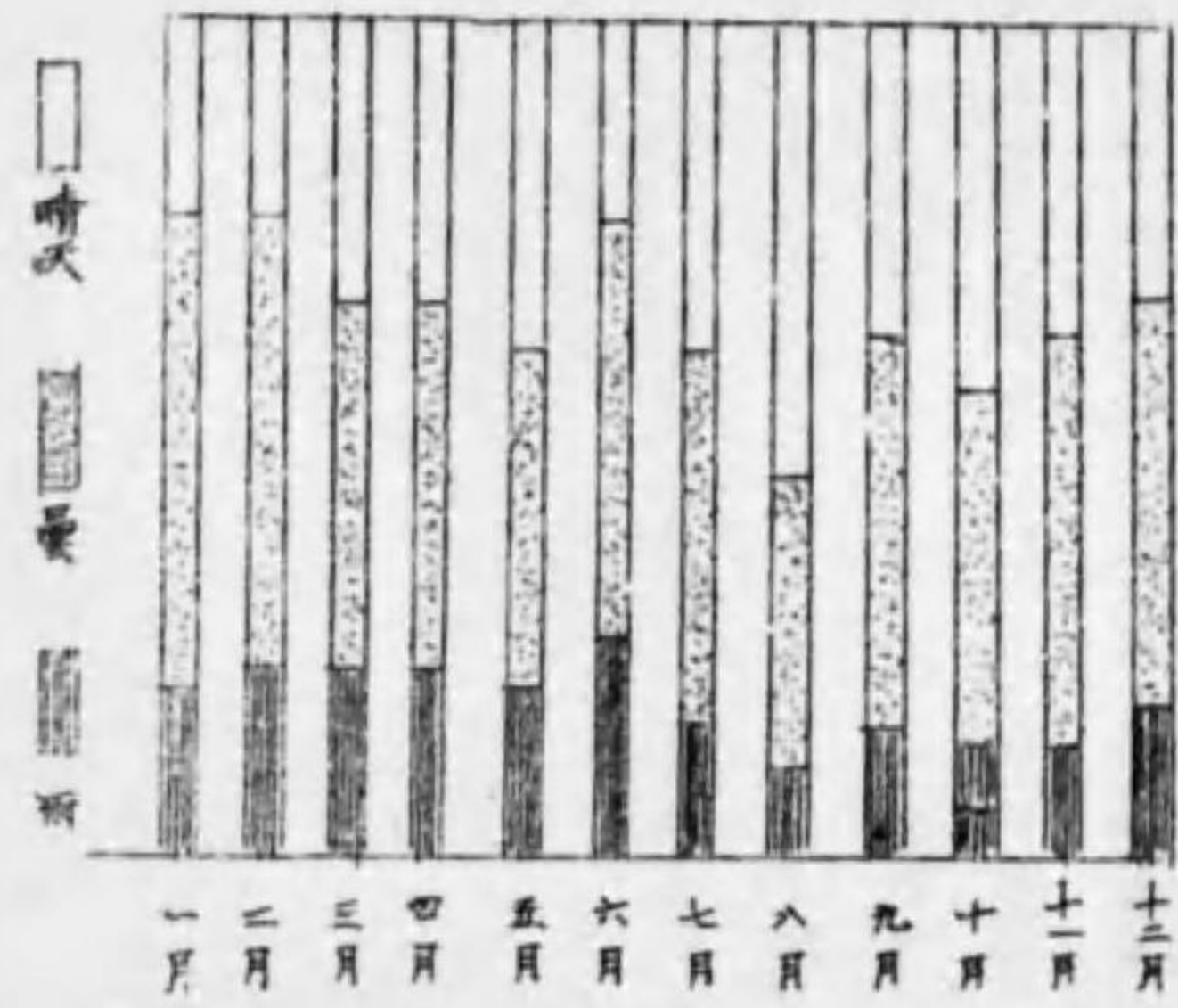


差は二十二度になつてゐる。而して志賀島、西戸崎、奈多の得多湾斜面の如きは冬季も頗る温暖にして、霜雪が殆んど無く、隆冬に療養に來往する者が多くなつて來た。

降水量は東部山地一帯に多く、海岸島嶼に寡し。大川村では年、千五百八十八兆、月別に於て六月の三百十二兆、七月の二百三兆が多く、一月の五十八兆、十一月の七十一兆が寡い月である。



(村川大) 年分百の蒸天

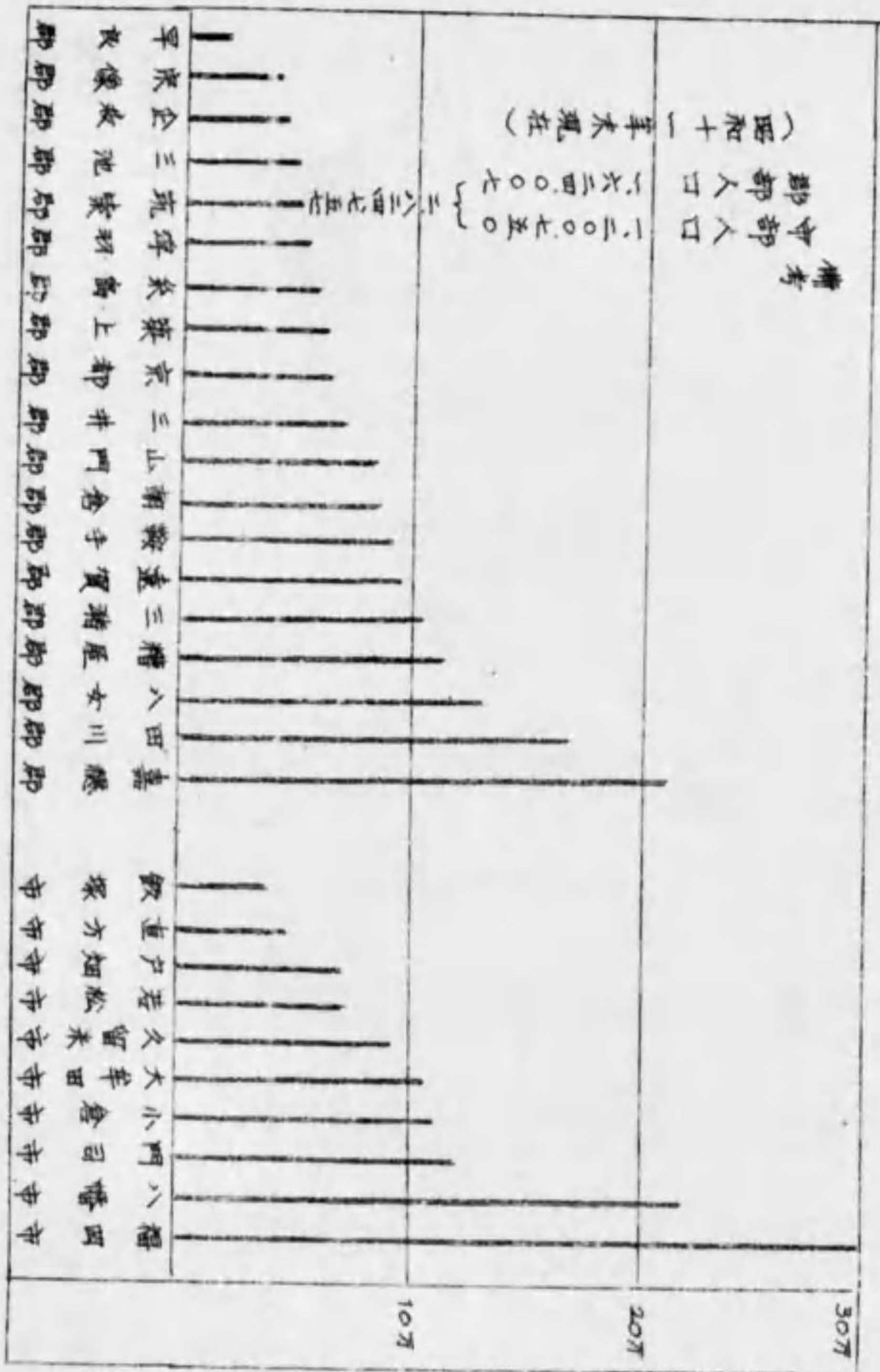


一年間の降水日数は百四十六日にして十二月一月二月に降水日多く、五月八月十月十一月が晴天が多い。  
 初霜は十一月中旬、終霜は翌年四月中旬頃になつてゐる。初雪は十二月下旬より初氷も其の頃になつてゐる。本郡で海岸島嶼部に霜雪の多いのは海の影響である。  
 風・大川村は地形の関係上冬季でも割合に北寄りの風は強く、西風が優勢である。三月以降は東が流行するも五月には西風が稍多し。又六七八の三ヶ月は南風が卓越して、西風は衰へるが九月十月は北風着しい。要するに一尖の空風と林すべきものなく、前記の方向より吹く風が多いと言ふに過ぎぬ。然し海岸地方は冬は北西の風、夏は南寄りの風が卓越する。

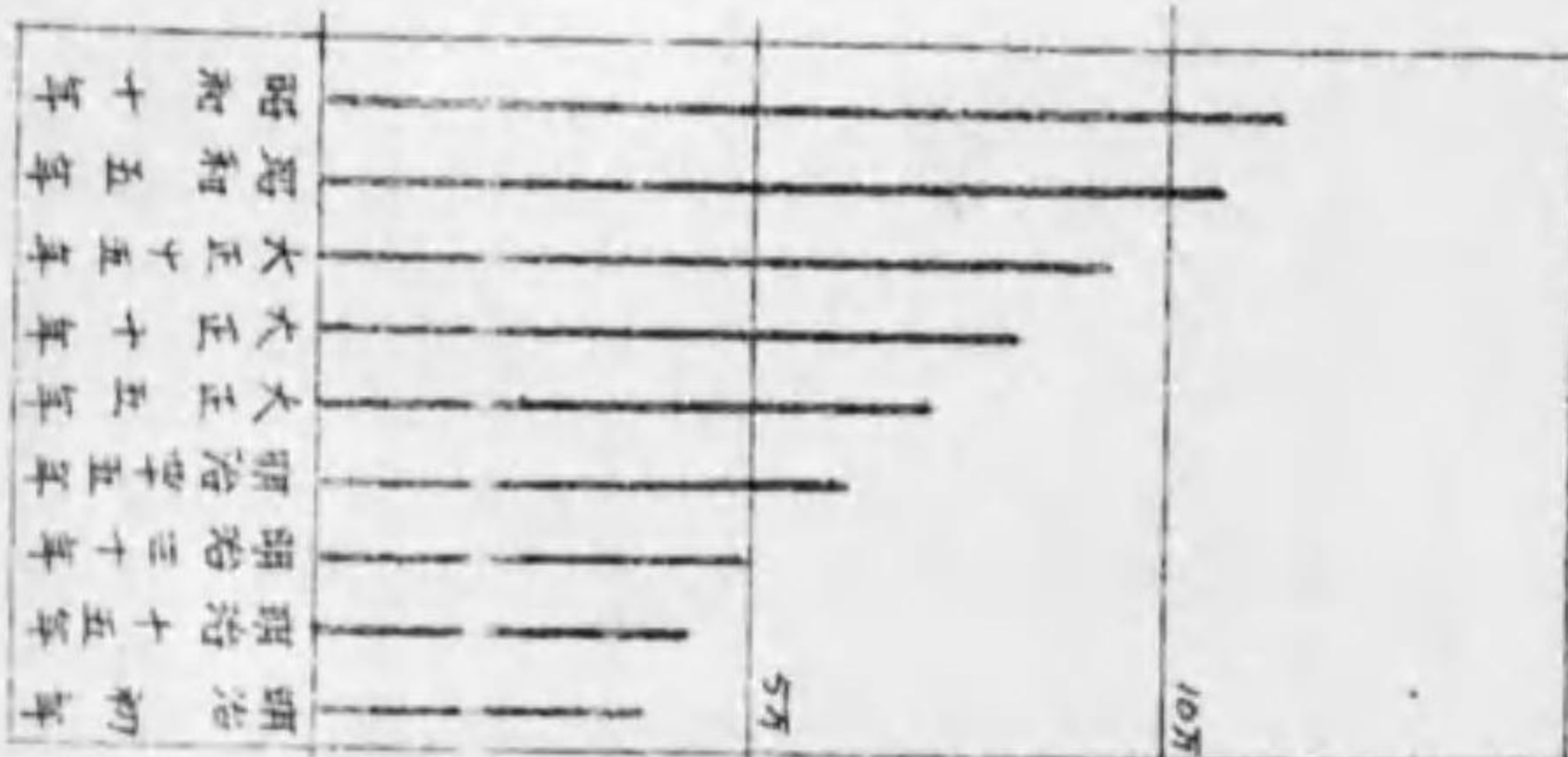
#### 四、人口分布

糟屋郡の現住戸数は二万二千四百五十四戸、人口は十一万七千九百八十二人である。之を明治初年の三万八千余人に比較すると、約三倍の増加になつてゐる。  
 各郡との比較を見るに嘉穂郡の二十万人が断然第一位を占め、田川郡の十六万、八女郡の十三万

統計人口別市郡

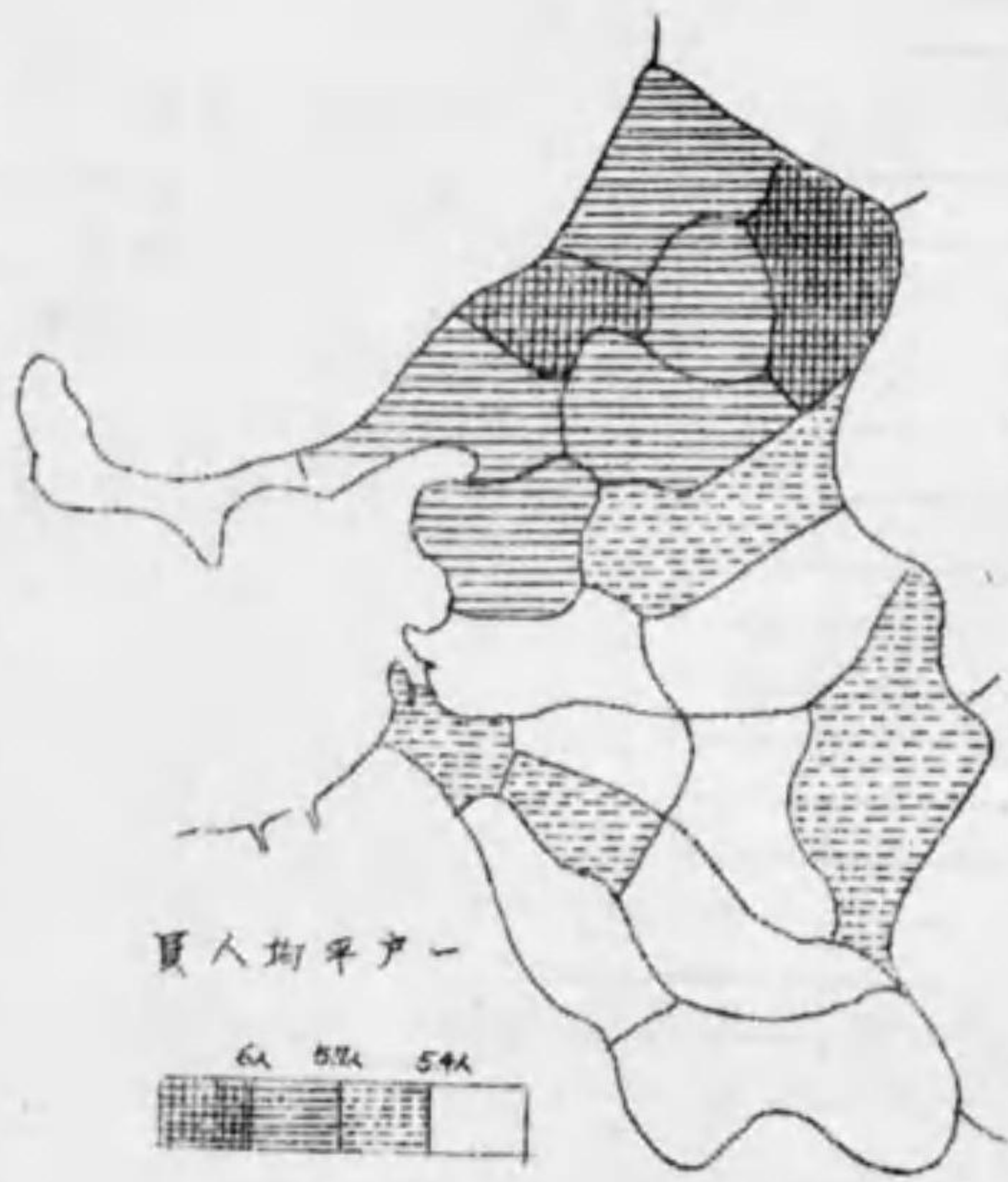


統計人口別市郡 (昭和十五年)





に次ぎ、本郡が第四位郡となり、縣下では人口の頗る多い地域になつてゐる。これは遠賀川流域の諸郡と同じく、炭田地域にあつて他地方から勞力の移入が多いからである。一戸當りの人員は概して農村に多く炭坑地方に少い。



平均人口

62 522 542



人口

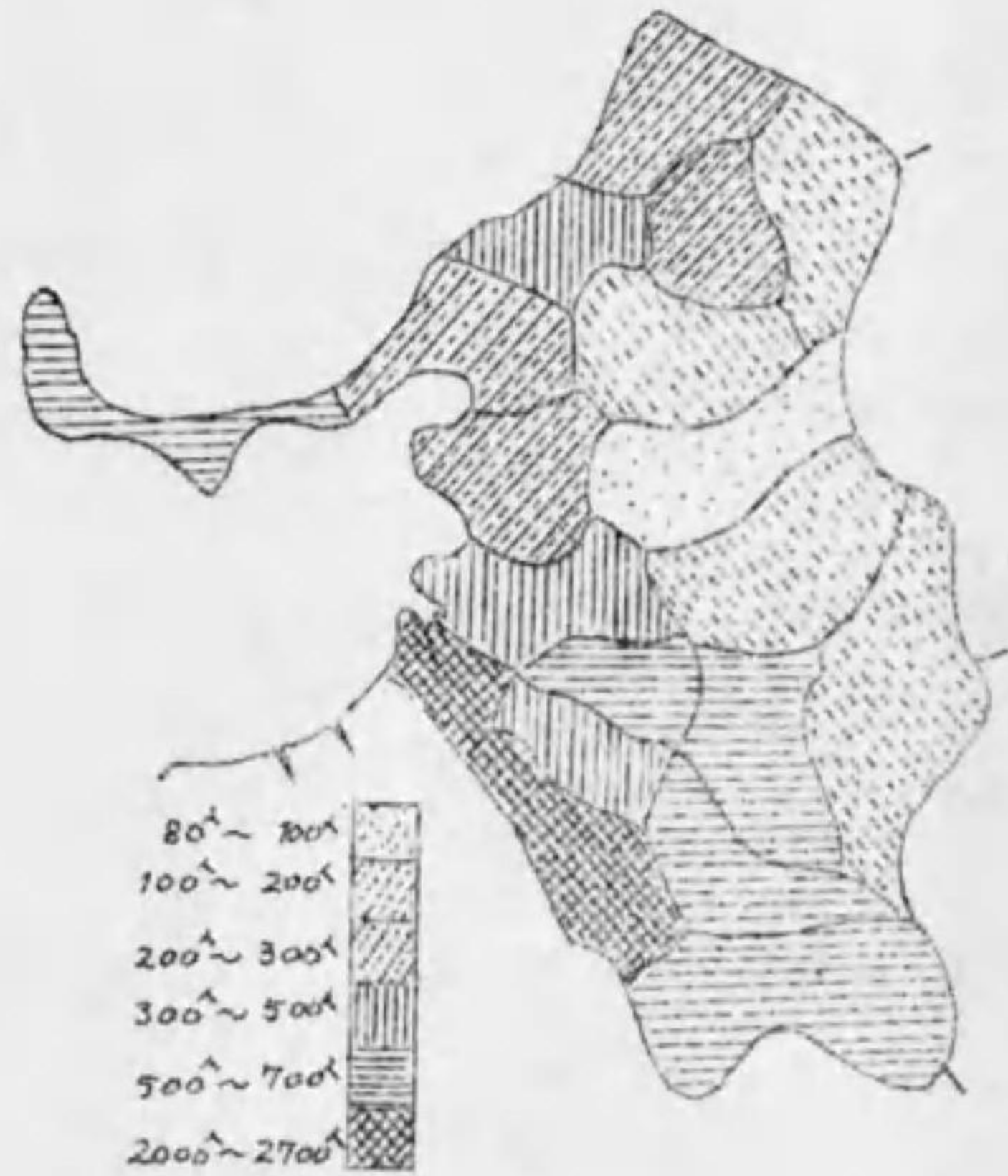
(人口)

人口密度は一方料に付き四百五十一人、縣下の平均密度五百七十人には及ばぬが、郡部だけの平均密度三百五十七人に比すれば、炭坑地を控へてゐるだけに余程大になつてゐる。

郡内各町村別の密度を見るに位置、地形、産業、交通等の如何により、人口の密度に著しき相異を來してゐる。

須崎町は福岡市の接續都市として人口密集し、一方料二千七百人に達してゐる。次に南部糟屋の炭坑地帯は人口密集地帯として、本郡で最も特色ある地域を形成してゐる。炭坑地の代表地域である志見村の如きは、密度二千二百余人にして、殆んど市部と同一の密度を有してゐる。

志賀島村は、近時西戸崎の急激な膨張により可成りの密度を示して來た。之に反して全く農業に依存した北部粕屋及び南部粕屋の一部の町村の如きは密度割合に少である。殊に篠栗久原、山田、立花小野の如き、山勝ちで耕地に乏しき町村に於ては特に密度が小になつてゐる。農村必ずしも人口密度小なりとは言ひ得ないが、本郡の様には、大都市炭坑地の如く勞力の需要多き地を近くに控へた農村では、其の方面に人口容易に移動して、本籍人口より現住人口が少なくなり勝ちである。



80~200  
100~200  
200~300  
300~500  
500~700  
2000~2700



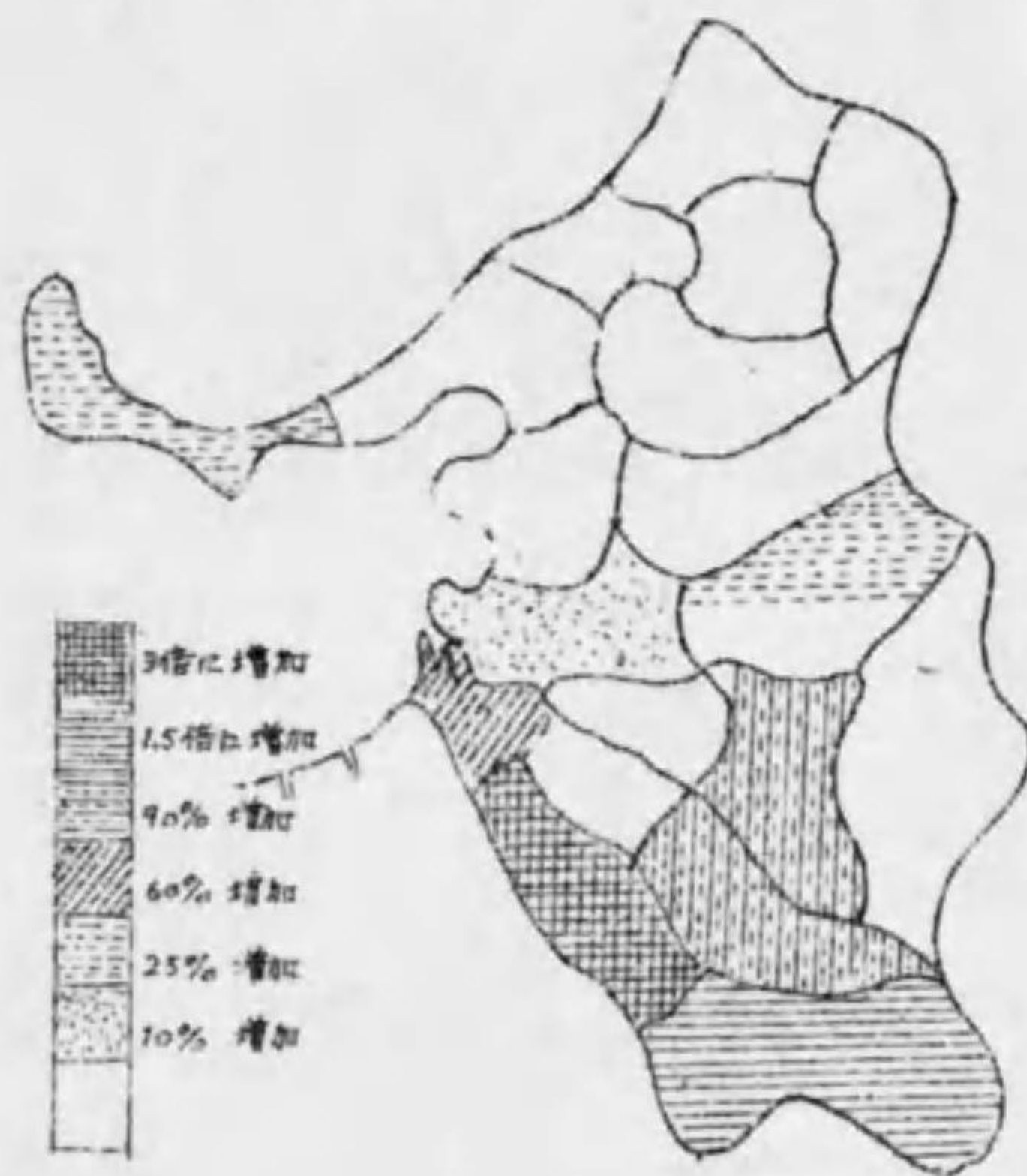
町	村	面積	昭和十一年末			昭和九年末		
			戸数	人口	密度	本籍人口	寄留人口	現住人口
新	志	五五	二七五〇	一五、〇一五	二七〇八	八、六二八	五、六五一	一四、二七九
大	美	八九三	四、〇一七	一九、八三三	二、二五一	四、五五三	一三、二七〇	一七、八二三
大	美	三〇、〇〇	三、二四三	一六、一八二	五、三三九	五、六三七	八、八六五	一四、五〇二
大	美	一六、三二	二、一三五	一〇、八三九	六、七二	五、四九六	四、五〇七	一〇、〇〇三
大	美	六七七	六四三	二、二五八	三、三三	四、〇四四	五、七七五	三、二六九
大	美	七、三九	七七〇	四、二九一	五、八一	四、三四三	五、六三〇	三、七一一
大	美	一〇、六二	一、三五三	六、七二八	六、三三	三、八三四	二、八〇四	六、六三八

之に反して炭坑地以外の町村は、何れも他への移住者多く、現住人口は本籍人口より少なく、山田村の如きは本籍人口の約四割が外に移住してゐる。北部柏屋の小野、青柳、文花の各村も三割が移住出稼によつて減少してゐる。

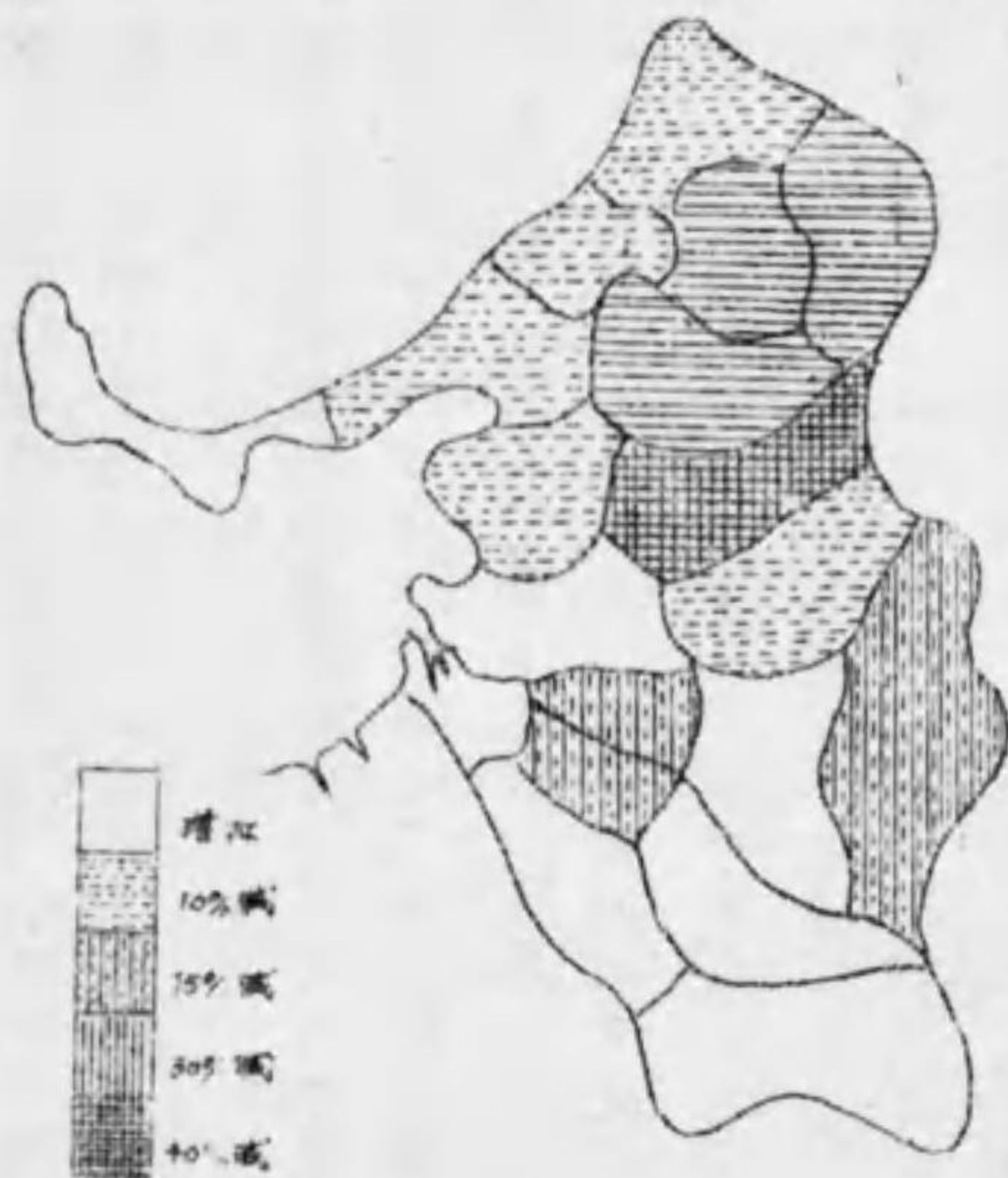
人口の都市集中の傾向は、産業革命後に於ける社会一般の状態で商工業発達に伴ふ必然の結果である。さりとて其のまゝに放任せんか農村は増々疲弊し社会、国家の健全な発達を望むことは期し難い。有為な農村子弟を如何にして生業に励ましめるか、之れが目下の大きな問題である。

各町村別人口に関する統計次の如し。

本籍人口より現住人口の増加の地方



本籍人口より現住人口の少ない地方



昭和九年末人口統計表に依り本籍人口現住人口の比較によつて本郡内の人口移動を見るに、炭坑地方は一般に他地方からの移住者多く、志免村の如きは他地方からの移住者即ち入寄留者は本籍人口の三倍に上つてゐる。同じく宇美、須恵、勢門村の如き移住者が頗る多い。かくの如く炭坑地は労力の不足を補ふ爲、人口の社会的増加が特に目立つてゐる。



篠栗	久原	山田	多々良	香椎	文花	青柳	小野	席内	和名	新名	志賀島
二五、七一	一五、二四	二二、〇二	一四、四七	一二、四七	一〇、一六	九、八五	一七、八六	一四、一六	一三、〇九	八、七七	一、二一六
七九六	四八〇	三〇九	九七八	五八五	二八三	四〇三	三五五	七三五	六三七	七二〇	一、二六二
四、一八三	二、四五〇	一、七四三	五、二二九	三、四七六	一、六四八	二、二五八	二、一七	四、一六	三、七六九	四、二三七	六、四三九
一六二	一六一	七九	三六一	二七八	一六一	二二九	一一八	二九一	二八八	四八三	五二九
四、八一	二、七六九	二、七二〇	四、四〇九	三、四四〇	三、四〇二	三、四八三	三、二一八	四、四〇〇	三、九四六	五、〇九八	四、八八六
出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出
八七八	二九六	一〇、四二	四八六	六四	七六九	一一三	〇一	二一七	三六五	六一二	一一八六
三、九三三	二、四七三	一、六七八	四、八九五	三、三七六	一、六三三	二、三六〇	二、二〇七	四、一八三	三、五八一	四、四八六	六、一七二

概説 柏屋郡の生産物総價額は約二千万円にして福岡縣各郡市中略、中位に在す。市部の生産

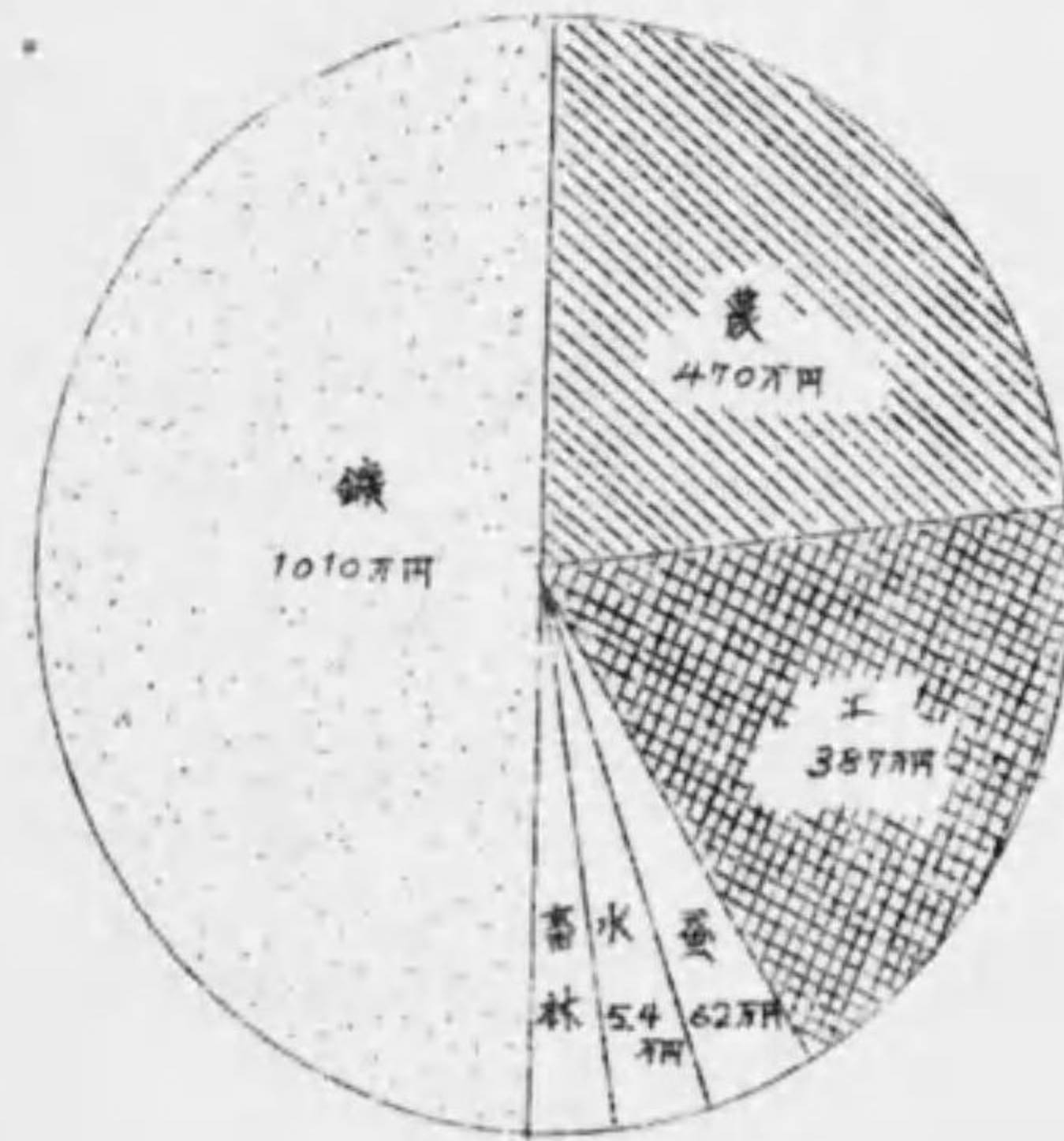
五、産業

早良郡	三池郡	全武郡	宗像郡	糸島郡	浮瑠郡	三井郡	期島郡	京都郡	山門郡	藤上郡	八女郡	美賀郡	筑紫郡	糟屋郡	新井郡	三橋郡	田川郡	尾徳郡	直方市	筑前市	久留米市	若松市	糟田市	小倉市	戸畑市	大牟田市	門司市	八幡市	
94万	84万	74万	64万	54万	44万	34万	24万	14万	5万																				

郡市別生産物総價格表



較比類價物産生要主即屋粘  
(円百一十三千二類價総産生)



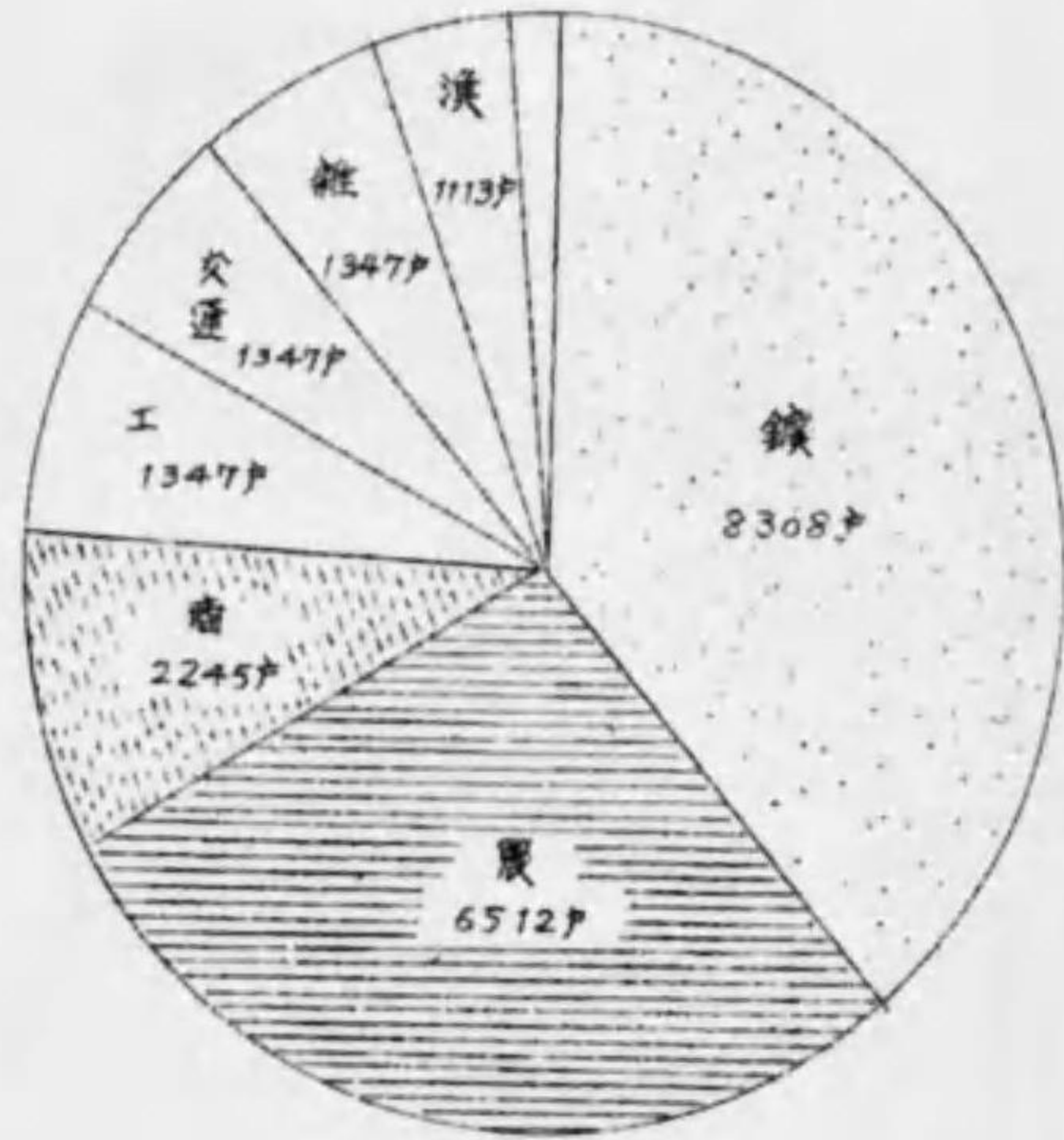
産都市は八幡製鉄所の所在地八幡市で、工業類のみで二億三千万円、工業総額の三割を一市で生産してゐる。次に門司、大牟田、戸畑の如く大工場を有する都市が多い。福岡市の如きは人口の割合に生産額少なく、即ち消費都市と見てよい。郡部で生産総額多いのは石炭の産多き、遠賀川流域の郡や嘉穂郡が其の筆頭である。

粘屋郡の生産総額を見るに石炭が其の五割を占め、前記遠賀川流域諸郡と同一型である。次は農産になつてゐるが、農産中、蔬菜、柑橘類、枇杷等園藝物産多きは地の利を占めた本郡の大きな特色で、将来この方面に向つて一段の努力が望ましい。

職業別戸数の百分比

農業	二九%
工業	一〇%
礦業	五%
其他	三七%

較比数戸別業職即屋粘  
(四五四、二二数戸總)



職業別戸数

農	六%
工業	六%
其他	一%

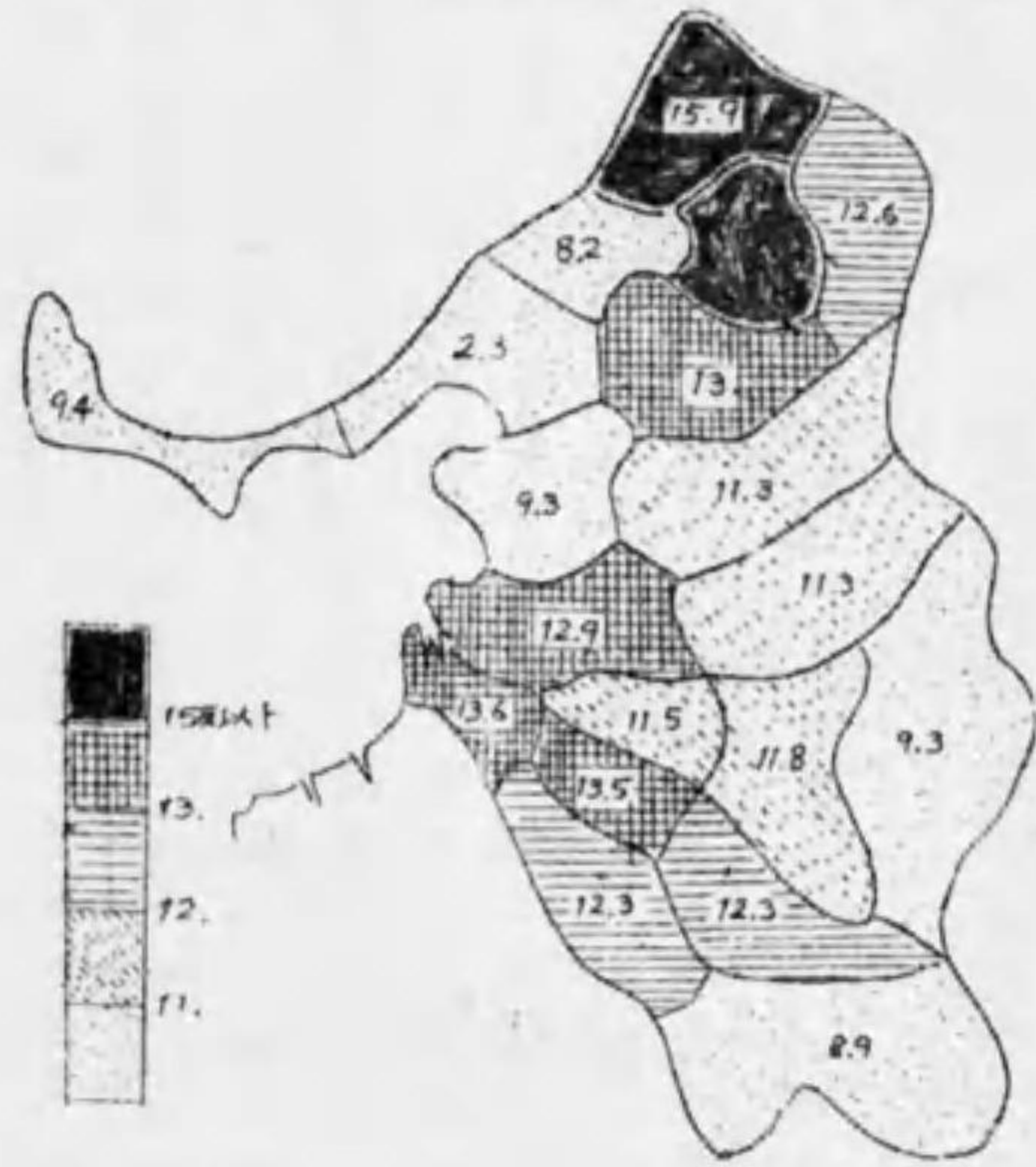
職業の種別は勿論農を以て本體とし、商、工業漸次に次げり、然るに近時鑛業隆盛の爲他より移住し來る戸数劇増し、遂に鑛業戸数は全戸数の三割七分に達するに至れり。

たり、其後大した変化は無きも、農業戸数漸次減少し、あり、これらも近時人口の都市集中が盛になつて來た其の一つの現れである。

農業戸数は全戸数の約三割に當り、縣下の二割三分に比し稍、大である、之を町村別に見ると



農家一戸當り耕地面積(畑・田)

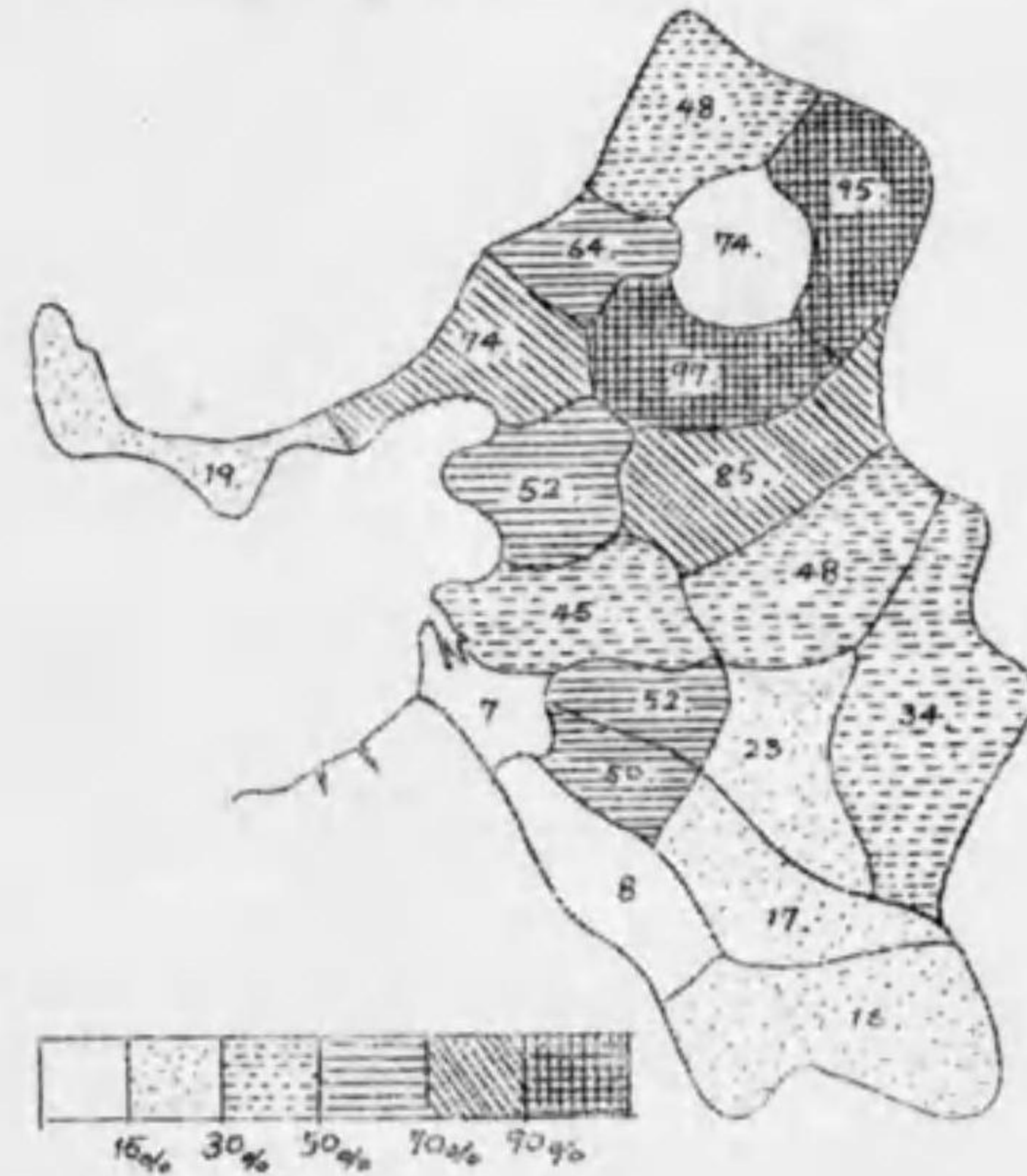


大川原が六割以上の耕地を有し又青柳村が五割になつてゐる。之に次ぎ箱崎・志免・席内・新宮・各町村が多い。その外は全く地勢平坦な結果である。耕地の狭い町村は宇美・篠栗・久原・山田の如き山勝な町村か、志賀島村の如き海浜砂地島嶼等よりなる村である。中には篠栗町は僅此一割の耕地を占む。割が山地と云ふ珍らし、程耕地狭く、又山田村・宇美町も殆んど同じ割合で耕地が少なく、農家一戸當り耕地面積 柏屋郡の全耕地は約七千五百町歩、内七割二分が田で残り二割八分が畑になつてゐる。農家一戸平均耕地は田八反四畝、

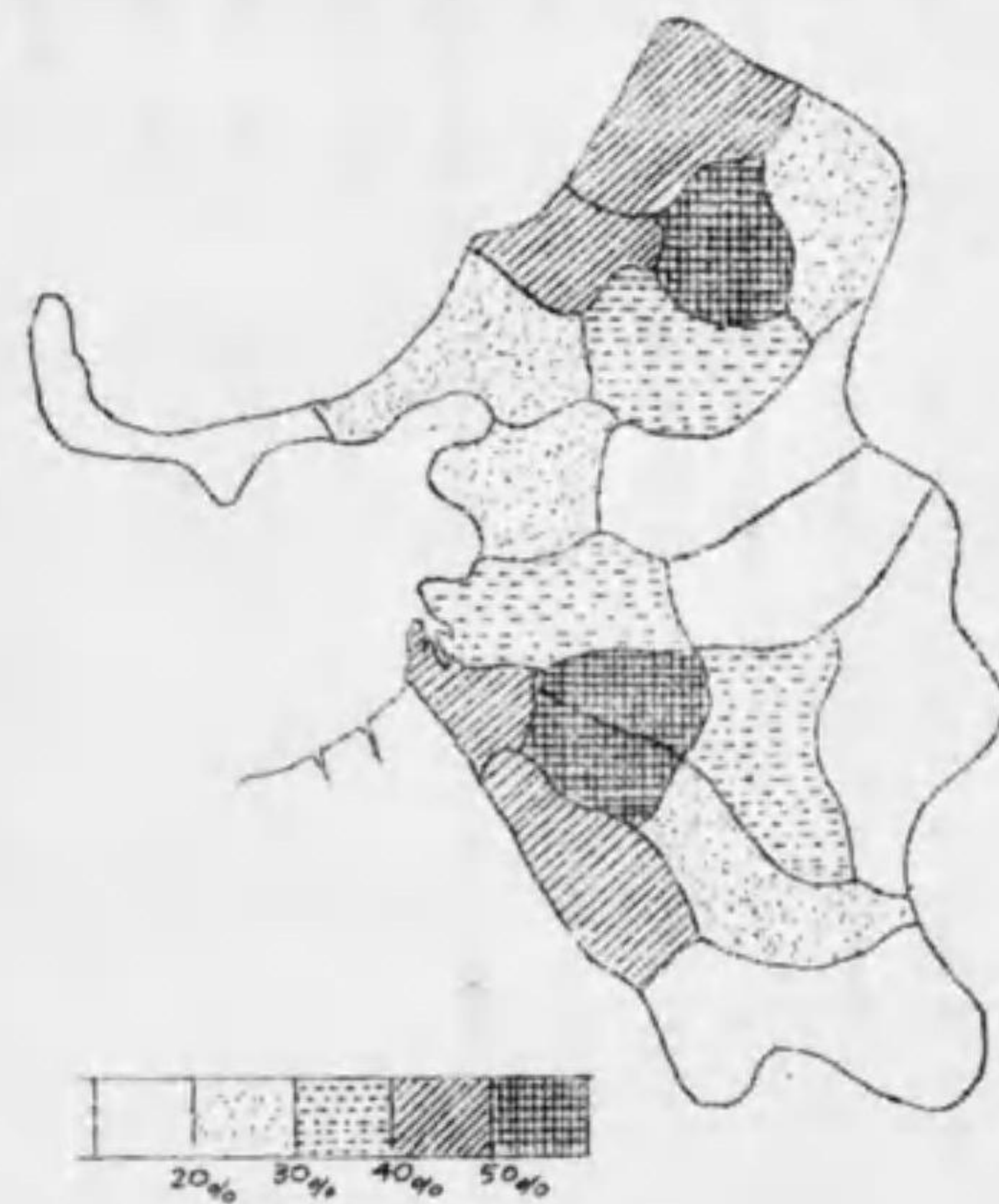
も達しない有様である。即ちこの地方は移住により人口劇増し其等移住者の多くが礦業並に其故に關係ある仕事に従事する為か、る結果になつたのである。

**耕地面積** 全面積に對する耕地面積の割合は二割八分余りになつてゐる。之を縣下の二割九分は比すれば柏屋郡は全縣下平均に等しい。縣下で耕地の良く開けてゐる地方は、筑紫平野に位置する三井、三井、山門の三郡で何れも全面積に對し五割以上の耕地を有す。柏屋郡で多々夜川筋の

農家一戸當り全戸數に對する割合



耕地面積に對する割合



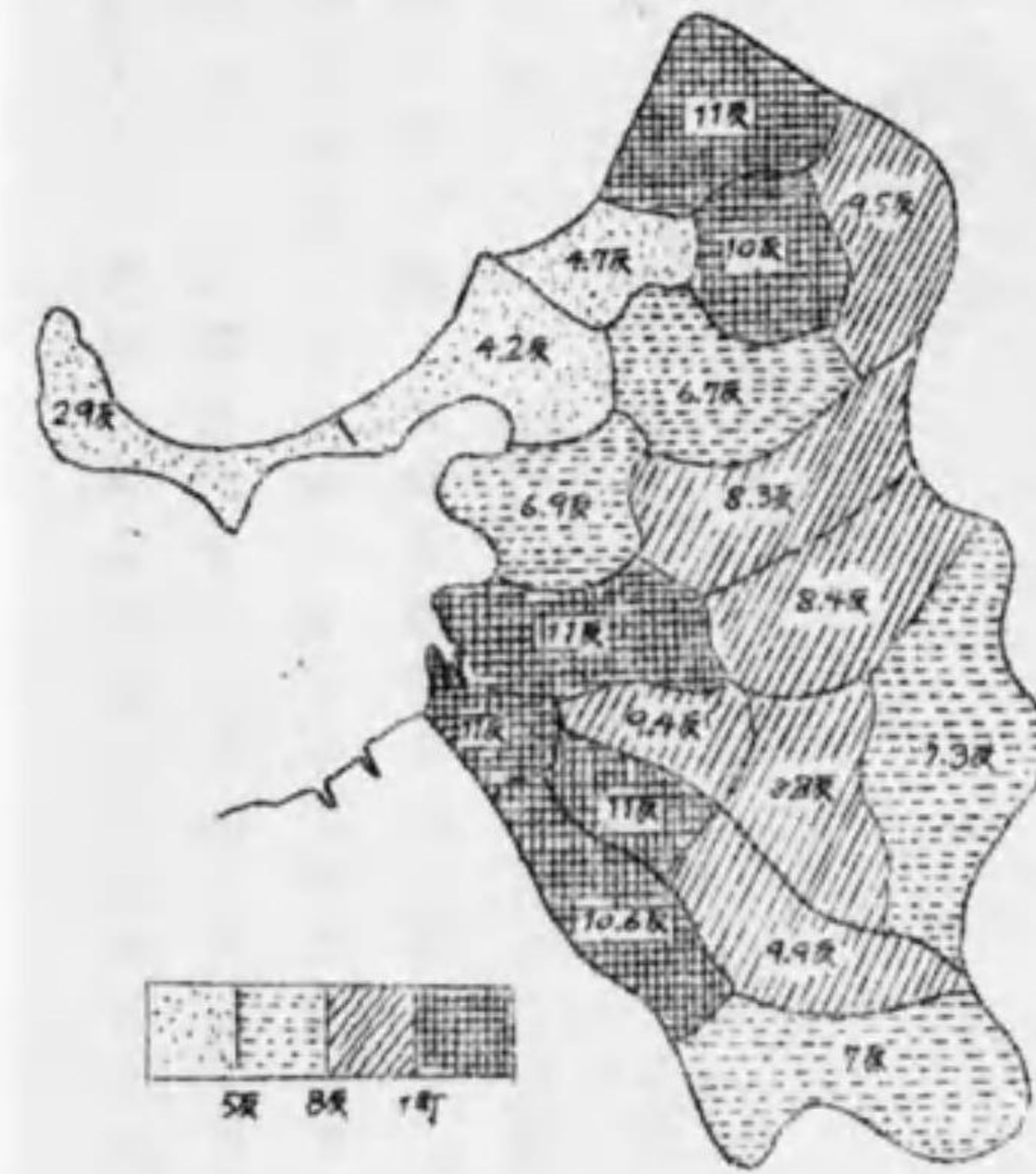
表層層に割合に農家少なく、裏柏屋に多い。即ち小野立花兩村に於ては全戸口の九割五分以上農家で所謂純農村である。席内村の如きは純農村が工業聚落古賀の膨張により其の割合が四割八分に低下した。

表層層の炭坑地方志免・宇美・須惠及藝門村の各村は、農家著しく少なく志免村の如きは一割に



畑三反一畝、計一町一反余にして、粟下の平均九反六畝に比して、耕火である。町村別の耕地を見るに、麻内、青柳、藤村が一町五反以上で、最高文花、多々良、仲原等次に次ぐ。以上町の町村は多々良、花鶴、両川の中下流の平野に位し、他の町村に比し山地丘陵地が少いからである。然し麻内、青柳、文花村の如きは、砂立地、丘陵地が可成り多いが、土地利用が行届いてゐる。耕地が地勢の割に廣くなつてゐる。耕地の狭い地域は山岳地帯の藤原町、宇美町、砂立地帯の新宮、和自、志賀島の二つの型になつてゐる。

町村別農家一戸平均水田面積



農家一戸平均耕地



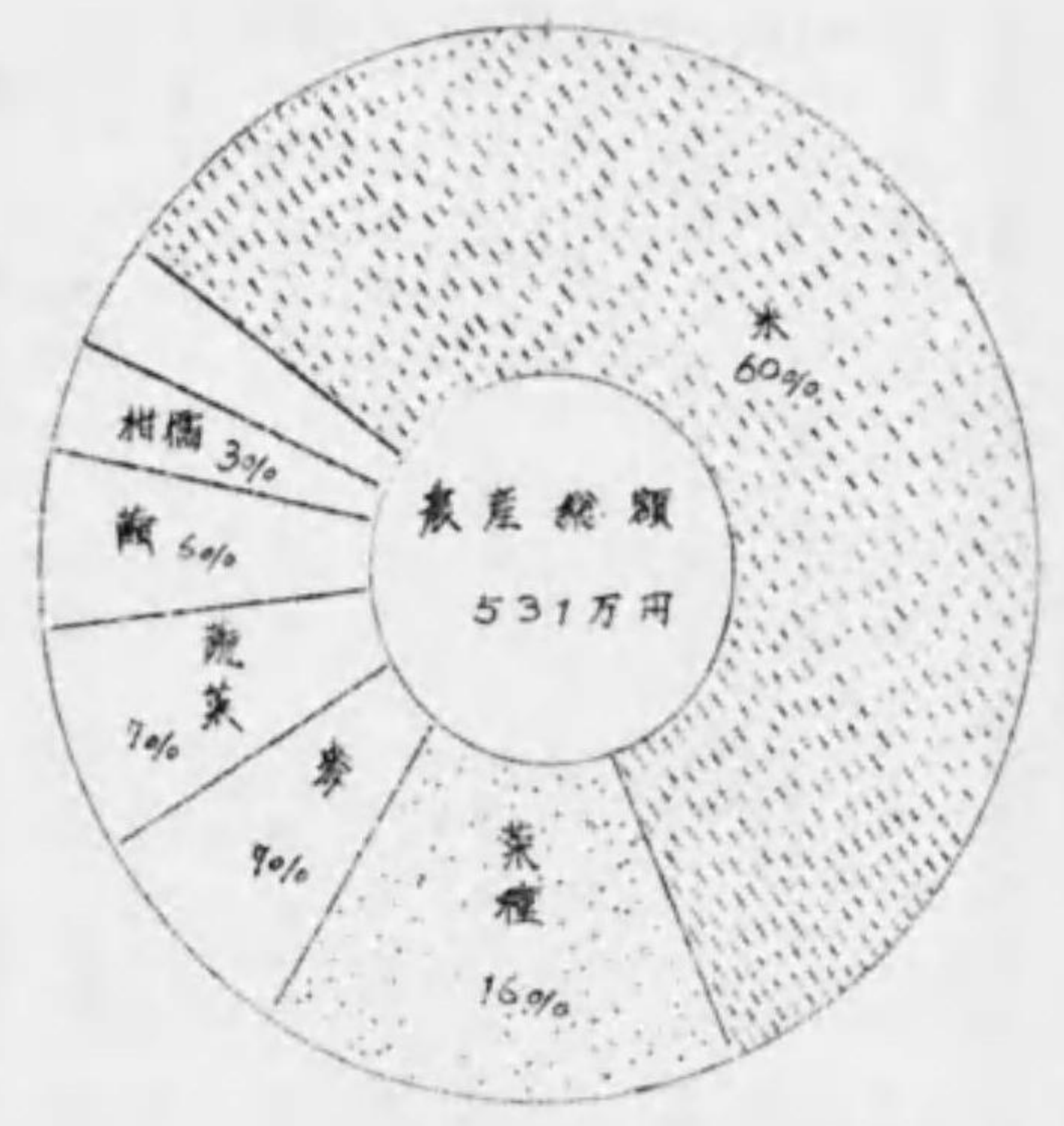
農家一戸平均水田面積は、灌漑の利に富んだ低平な平野に位する町村に多い。箱崎町、志賀村の如きは戸口頗る密なるも、大部分は商業に傾業に兼事し、農家が割合に少い為一戸當りの耕地は當然廣くなる。新宮、和自、志賀島に水田少なきは地形上明かな事実である。畑の多い青柳、文花、志賀島は、河川も果樹園藝の盛な町村で、山の傾斜地が緩峻の如く奇麗に開墾さる。水持種を景観を呈してゐる。砂立地は近時蔬菜園藝地として、良く利用され、来た。新宮の海産物の多、和自の蔬菜、河川も砂立地の代表的なものである。多々良、川流域は畑が少ない。生として地形水利の関係である。

町村	戸数	農家戸数	全戸口に對する割合	耕地	畑地	農家一戸當り耕地	耕地全面積に對する割合
箱崎	二七五〇	二一〇	七七%	二四二五三	四八二七	一一四	四一%
志免	四〇一七	三五五	八六%	三七七二二	六一七七	一〇六	四八%
宇美	三、二四三	五三七	一六五%	三七四六七	一〇四二〇	七〇	一五%
須恵	二、一三五	三八一	一七八%	三七九三三	九二五四	九七	二八%
仲原	六四三	三一八	四九五%	三五〇九九	八〇八八	一一〇	二五%
大川	七七〇	四〇三	五二・三%	三九〇四五	八七三一	九四	二一%
勢門	一、三五三	三一九	二三・六%	二八二二七	九五七四	八八	三五%



	志賀島	新宮	和自	小野	青柳	立花	香椎	多々良	山田	久原	藤栗	
二二・四五四	一二・二六二	七二・〇	六三・七	七三・五	三五・五	四〇・三	二八・三	五八・五	九七・八	三〇・九	四八・〇	七九・六
六五・〇六	二五・〇	四六・六	四七・三	三五・八	三三・九	三〇・一	二七・五	三〇・八	四四・〇	二六・三	二二・三	二七・六
二八・九%	一九・七%	六四・七%	七四・二%	四八・七%	九五・五%	七四・六%	九七・一%	五二・六%	四五・〇%	八五・一%	四八・六%	三四・六%
五・四七四六〇	七三・〇五	二一・八五三	二〇・二二四	四〇・三三一	三二・二八四	三五一・四一	一七八・四〇	二一四・〇四	四九三・五九	二二〇・〇九	一九七・六一	二〇一九・五
二〇・二六一〇	一六・三一七	一六・三八〇	一四・六四六	一七・〇一一	一〇・六二〇	一七〇・四〇	一八三・六八	七四・六七	七四・二七	八一・〇八	六七・八六	五四・二二
八四	二九	四七	四二	一一	九五	一〇	六六	六六	一一	八三	八四	七三
三一	六五	三五	三一	四一	三一	五六	六六	二四	一七	三〇	二九	二〇
二八・四三%	一・九%	四三%	二六%	四〇%	二四%	五二%	三五%	二二%	三八%	一三%	一七%	一〇%

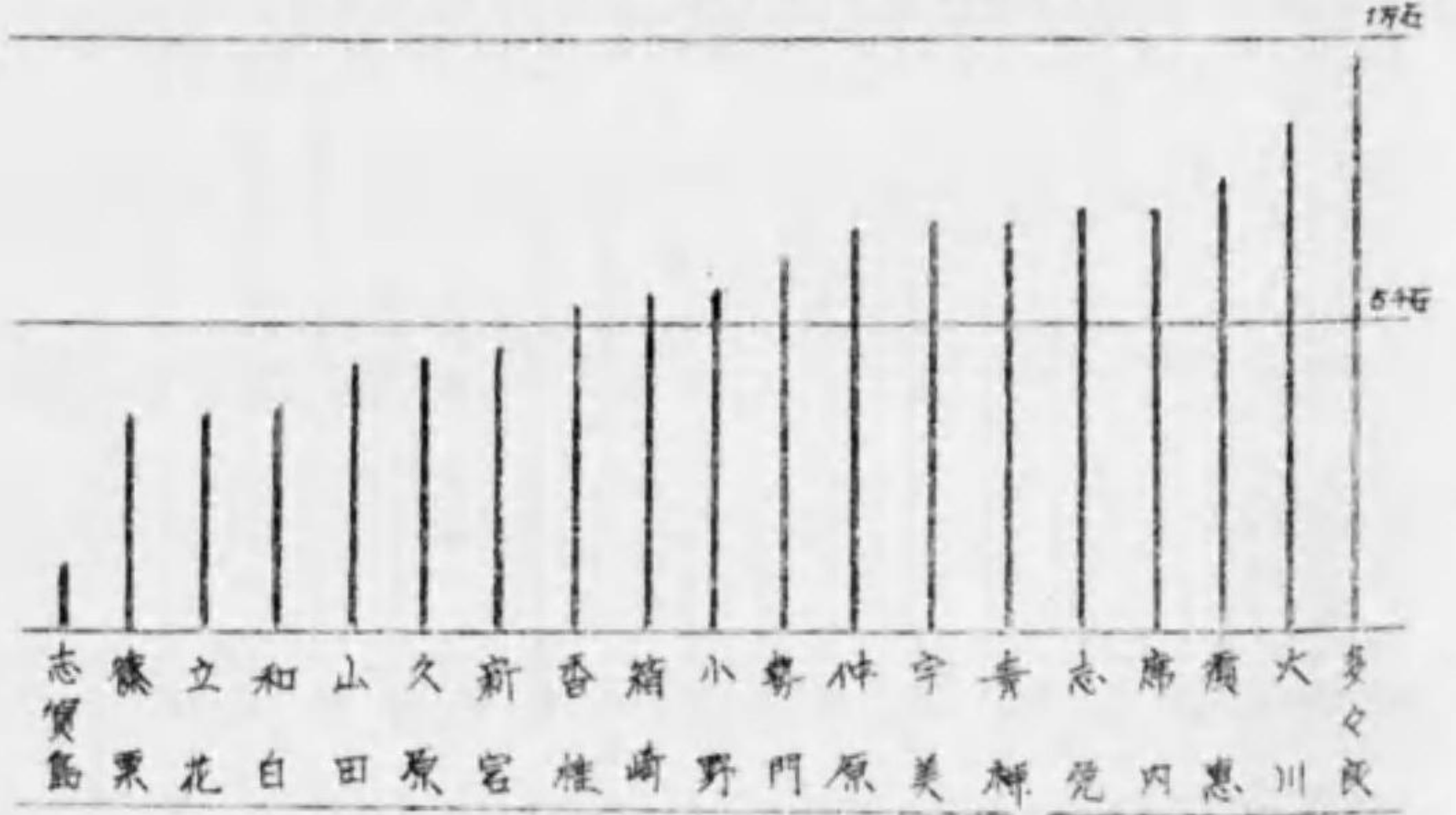
主要農産比較  
 農産物 農産物總價額約五百三十万円で米が全額の六〇%を占め、菜種の十六%、麥蔬菜等



川、志免、須惠の各村、北部では席内青柳が多い、流中多々良村は五百町歩の良田を有し米麥共に聊内第一である、志賀島、藤栗、立花、和自の各村は地形地質の關係上水田狭く、米産が少ない、志賀島の如きは米は僅かに十

之に次ぐ、蔬菜、柑橘の産額比較的多きは、大都會近郊の特色として、農事經營の方法が多角的になつてゐるからである、米麥共に産額多きは、多々良川筋の沃野に位置した多々良、大

(石万十産總) 較比産米



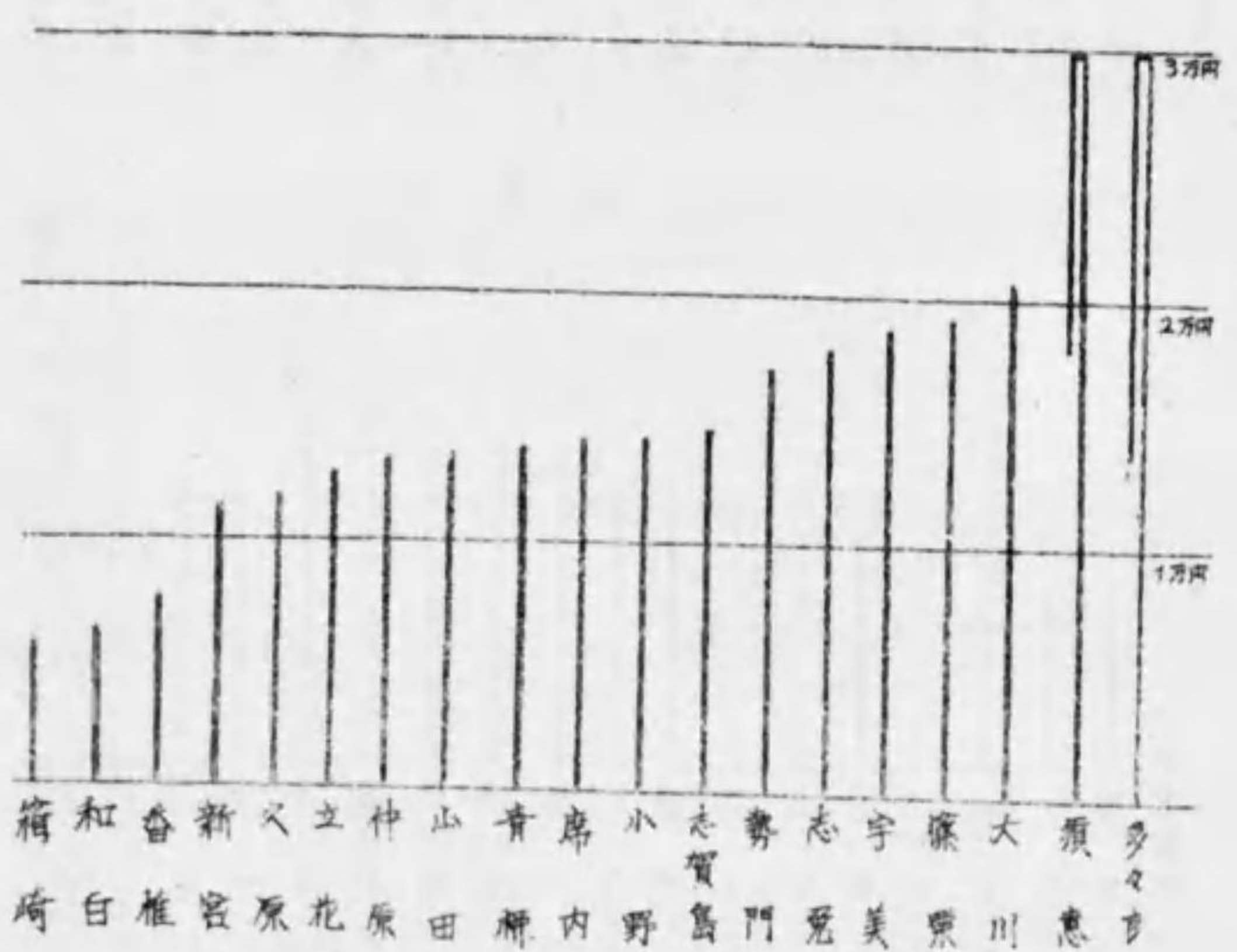


正を出すに過ぎない。然るに畑が多く麥の産出は郡内で相當な地位にある。  
工業農産物兼種は福岡縣下で糸島郡と共に多産地域になつてゐる。各町村の産額を見るに北部では席や青柳、小野の各村、南部では大川多々良須恵の各町村が多い。

(石百点一) 高獲收の種菜



(田万三十三畝總) 較比額産麥

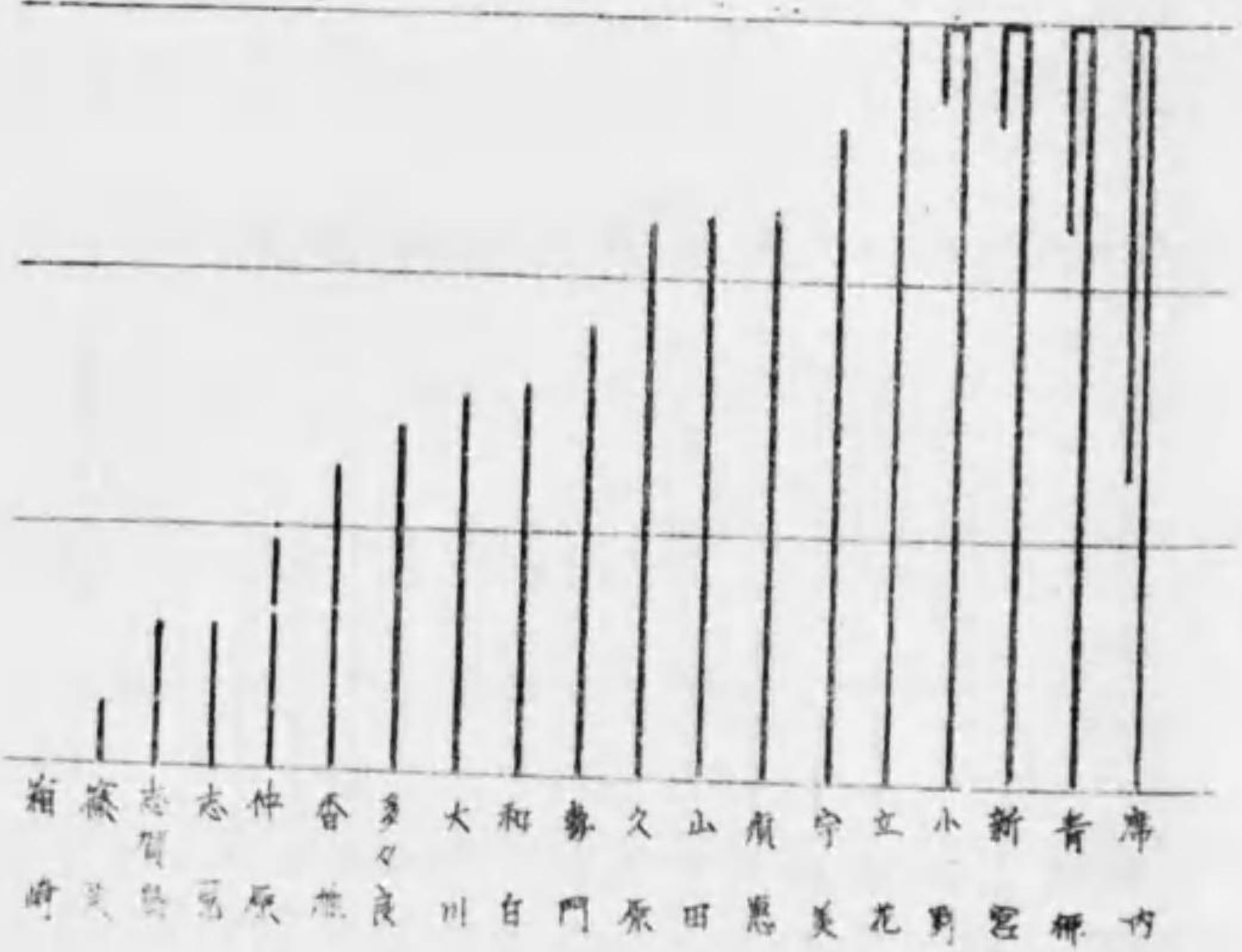


以上米、麥、兼種の産出多きは本郡の氣候風土が最も農業に適し、且又海浜に位する関係上冬の気温一般に高く、ニ毛作に頗る好適な地域であるからである。

**養蚕** 養蚕戸数(春蚕)一十九百七十一戸、産額千八万九千円に達してゐる。之を町村別に見ると北部の各村に盛である。ことに席内、新宮に於ては砂立地を桑畑に利用せしところ多く、青柳、文花方面に於ては丘陵地及山腹を巧に利用して桑を植ゑてゐる。

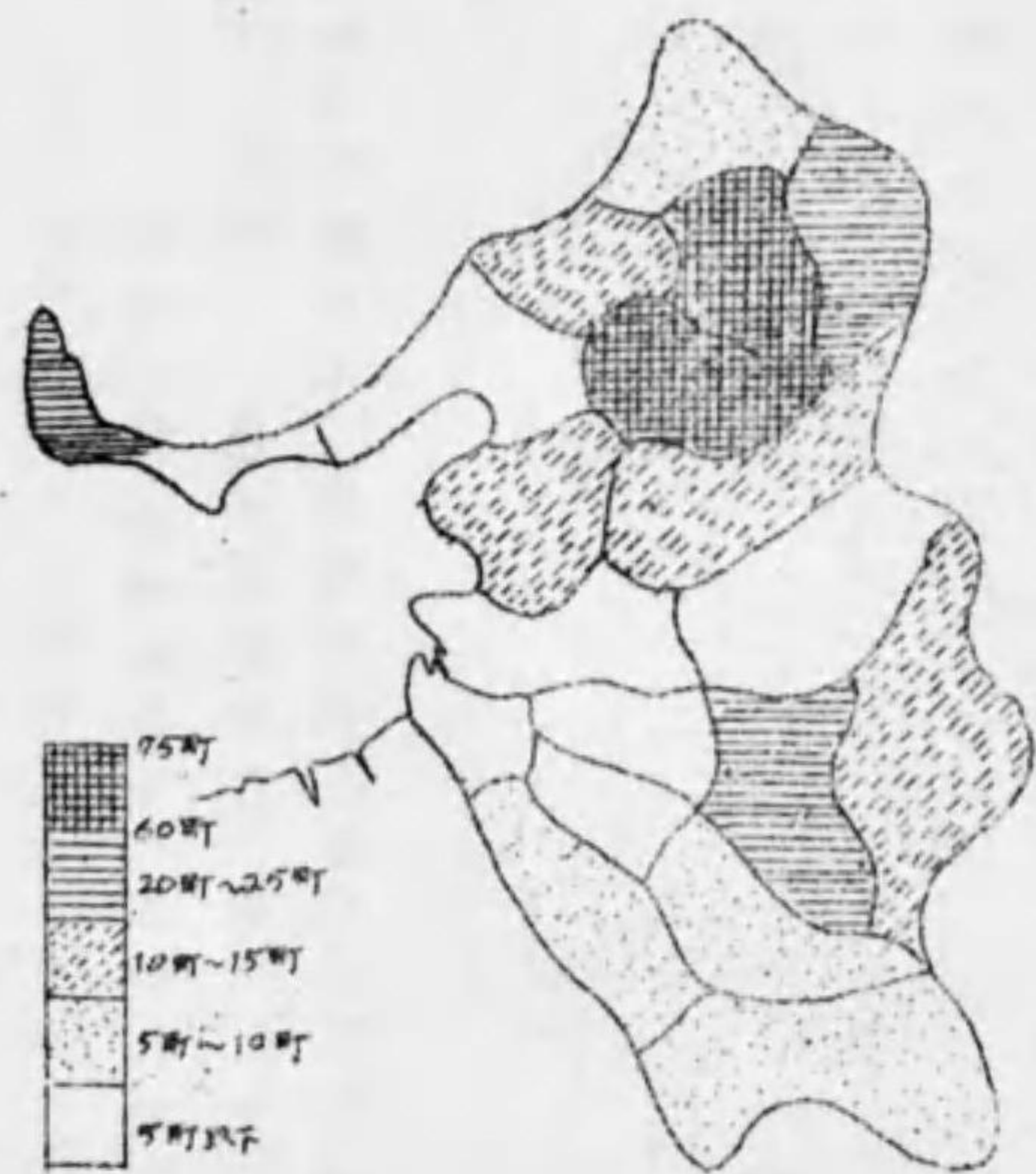
**糟屋郡の園藝** 本郡は地形、海洋に面し四時の気温比較的温和にして、冬季霜雪の被害も少なく、且近く大福岡市を控へ、北九州、筑豊炭田地方との連絡も頗る容易なことから園藝上頗る有利の地位を占めてゐる。故に農業は次第に副業に力を注ぎ従来の單一的な農業経営より新

(田千九万八千畝總) 較比額産蕎





(歩町百三原面鹿) 積面割樹果

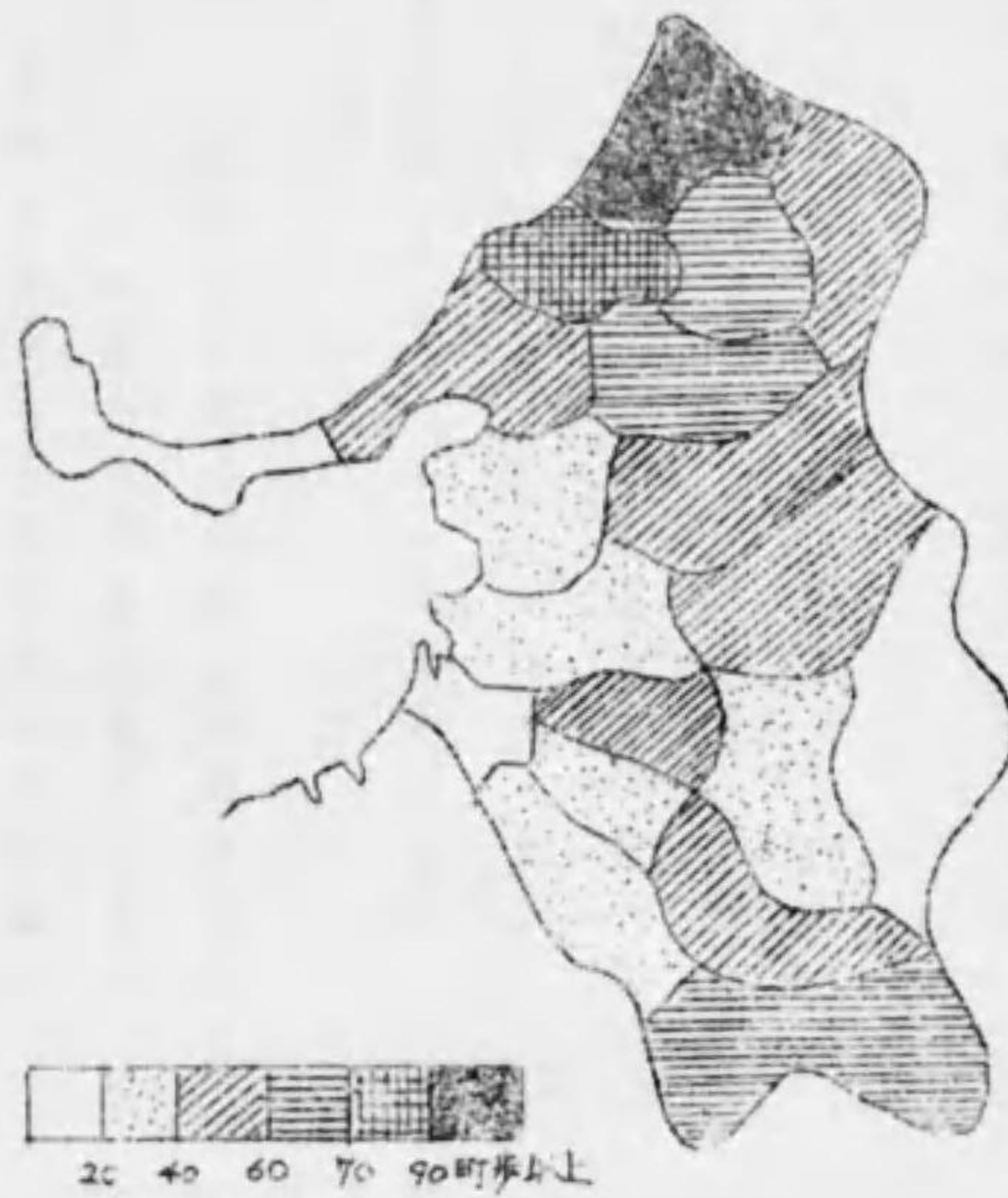


(圖一九一) 布分の馬

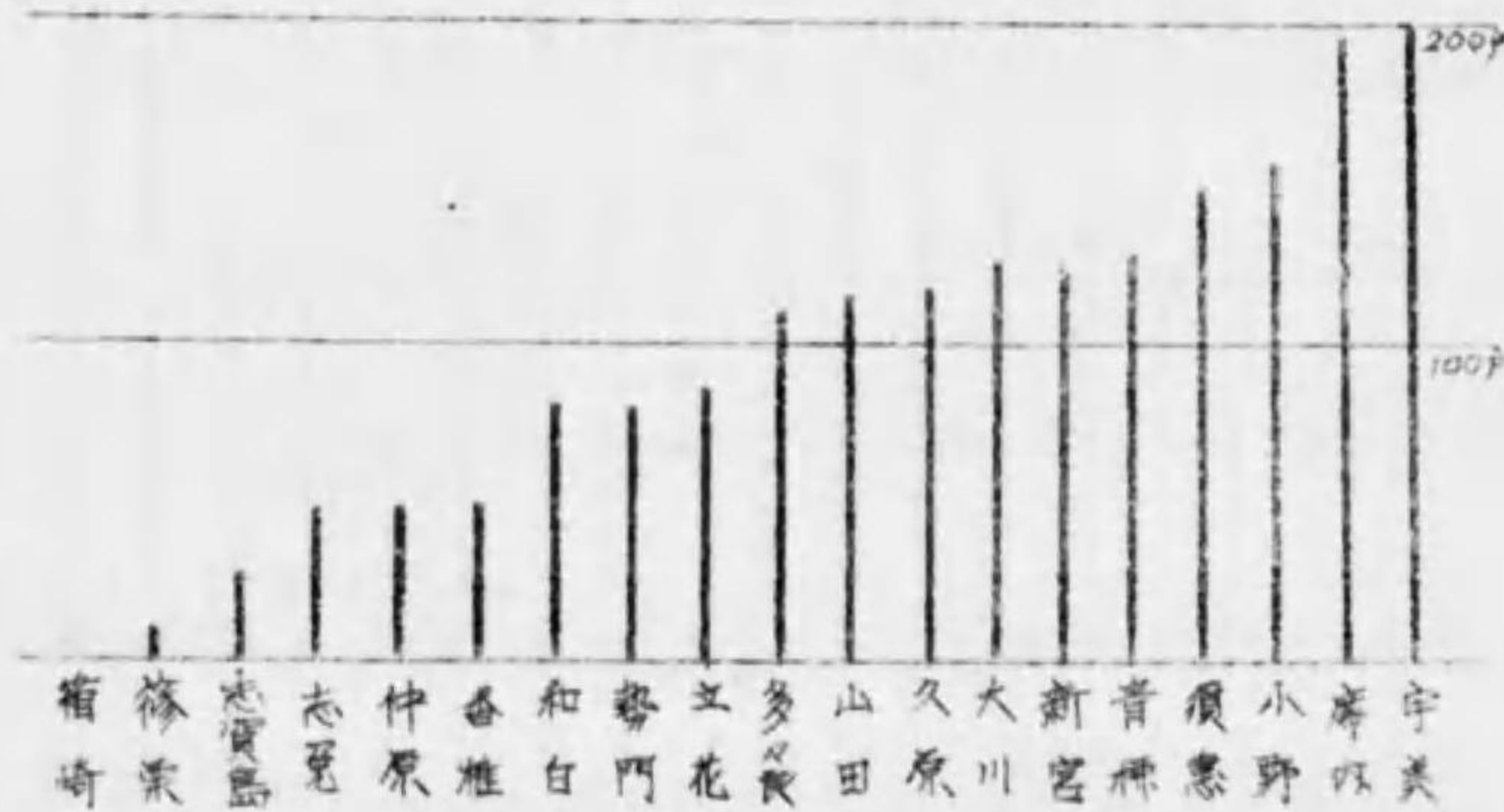


済上主要な地位を占めんとしつゝあり。  
箱崎の蕪菜、立花、青柳兩村の柑橘類は反に知られ、和百の蔬菜、志賀島の枇杷、砂丘地の苺、  
取町地方の大根、篠栗の菊次第に産額を増加して来た。  
畜産 本郡の家畜頭数は、馬千百九十一頭、牛三千三百七十頭、豚一千九百九十一頭、合計

布分の畑桑



(一十三百九千一取十全) 數比數十登養登登



次第的なる農業経営法に依り多くの利益を上げる様になつて  
来た。これ大都市近郊の農村として何れの地方にも見られる  
ことである。  
本郡の園藝は今も先覚者、農会等の指導奨励の感を感じ、  
頗る健全な発達を遂げて生産價格六十万円に近く、農村盛



六千五百五十二頭の家畜が飼育されてゐる。馬は南部柏屋に多く志原村、大川村、仲原村、宇美町が多い。北部柏屋は少なく青柳、和百は僅かに三頭、志賀島の如き皆無である。牛は北部が南部より稍多く、席内、小野、青柳、新名等の各村は南部の何れの町村よりも多い。

**産牛の奨励** 優良な朝鮮牛を移入して、之を町村に配置し其の増殖を図つてゐる。昭和九年度本郡畜産組合は、藤原町、城戸、勢門村、若杉、須恵村、佐谷、小野村、蕨野、藤原町、萩、尾、志賀島村、勝馬に、

(十七百三千三数総) 申分の牛



(数頭は字数) 申分の豚



種牡牛を各、一頭づつ、配置し二百九十七頭に種付けをなしたり。尚、前年種付けは林生生産積数は二百六十三頭なり。

養豚は近時奨励の結果増、盛んになり、飼養頭数二千頭を越へ、肉豚並に仔豚の共同販賣高三万一千二百余円に達してゐる。現在飼育の町村は北部を主とした十二ヶ村で、組合数十二、組合員八百五十余名に達す。其の中最も成績をあげてゐるのは青柳、席内、小野等の養豚組合である。

養豚組合及び組合員数左の如し。(昭和九)

大川村養豚組合	一五〇	多々良村養豚組合	五七	小野村養豚組合	二九
勢門村養豚組合	九三	香椎村養豚組合	六二	席内村養豚組合	四九
久原村養豚組合	五〇	立花村養豚組合	五七	新宮村養豚組合	五三
山田村養豚組合	五六	青柳村養豚組合	一七〇	和百村養豚組合	二六

飼養戸数 十羽未満 二、七四〇戸  
五十羽以上 二、五三戸  
計 五、八三五戸

十羽以上五十羽未満 二、八四二戸



飼養羽数 一、一、二、二〇〇羽 (内六〇、〇〇〇羽は雛)

産卵数 五、三、三、四〇〇個

價 額 一、一、四、〇〇〇円余

養鶏組合及其の成鶏飼養羽数の如し。

鷺門村若杉養鶏組合	三、八〇〇羽
志免村別府養鶏組合	三、五〇〇羽
山田村養鶏組合	一、五五〇羽
青柳村養鶏組合	九、八九七羽

小野村養鶏組合	一、六〇〇羽
香椎村養鶏組合	六〇〇羽
多々良津屋養鶏組合	一、三〇〇羽

林業

本郡内の林野面積は一万三千一百町歩余、全面積の約六割に達す。林相は地質地形により特色あり。若杉山塊以北の山地は杉松の造林に適し、海岸砂丘地第三紀層の丘陵地帯は松と杉に限られてゐる。

林野面積の三七％は私有林、国有林之に次ぎ、二十七％、町村有林約二十％にたつてゐる。国有林は、熊本大林區福岡小林區の管轄に属せり。若杉山、立花山は郡内国有林



中代表的なもので前者は老杉鬱蒼と茂り、後者は樟の大樹林で名高い。序内新宮和百の海岸一帯に於ける松林は、防風防砂林として玄海の潮風を防ぎ、砂丘の移動を防止するのみならず又風致林として大切な森林である。

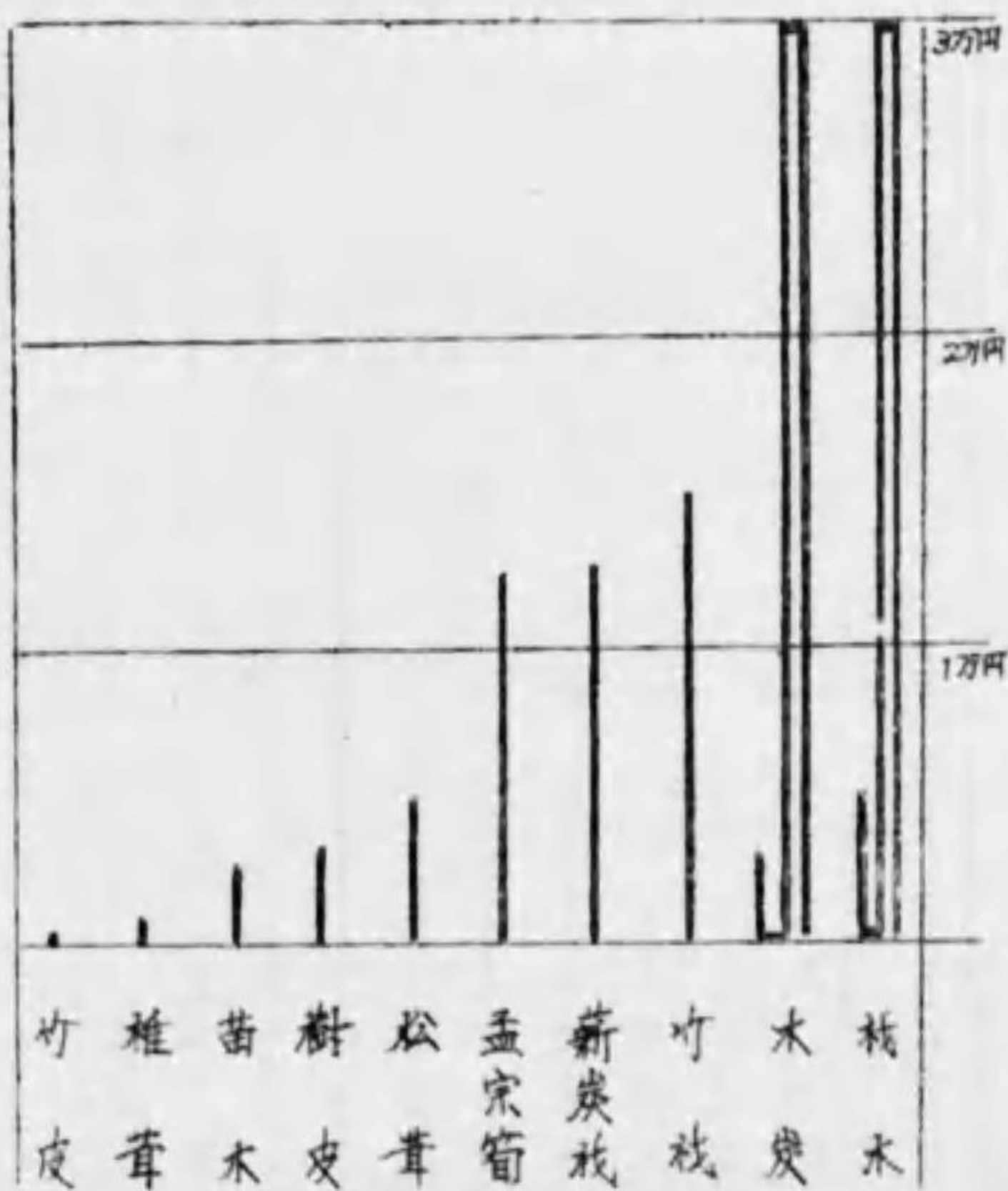
町村有林は約二割に當る。元來町村の基本財産造成は町村自治振興事業の根元である。而して林業経営は最も基本財産造成に適せり、本郡に町村有林多きは、町村自治振興喜ぶべきことである。

主要林産物の総価格は三十八万円、材木及木炭薪炭の類が其の主なるものである。

材木は若杉材が最も名高い。若杉山の中腹以上鬱蒼として晝なほ暗き森林中にて樵夫の振る斧の響、丸太を馬籠や牛に搬出せる有様は福岡市の郊外としては珍しい風景である。篠栗川溪谷及若杉山麓には、猛吹竹林廣く分布し奇の供給地として將來有望である。

香椎丘陵一帯の松葉は、大量を市場に出荷する程に産額多くはないが、福岡地方の慰安

主要林産物





的資料地として名高い。

鑛業

糟屋郡は柏屋炭田を控へ石炭産額約一千万円郡總生産額の五割を占めてゐる。町村別に其の産出状態を見るに海軍炭坑を有する志免須恵町村最も多く、宇美、勢門之に次ぐ、かくマ南部柏屋は石炭の爲一段の活況を呈してゐる。各炭坑別の出炭高を見るに海軍炭坑が五十万噸、高田大谷の炭坑之に次ぎ二十万噸を越えてゐる。鑛業繁榮の半面には鉱業被害が之に伴つて宅地は陥没して家屋傾斜し、井戸は涸竭する等直接日常生活を脅かし、又農耕地の陥没に至つては重大な問題となり、其の解決が頗る困難である。

近時排水の設備を整へ、ホタム、陥没地の利用等考究されて、被害の軽減に努力してゐる。

水産業

本郡の海岸は海の中道を境として南北二區に分たれ、南の若海線は博多灣の内海を包む。北の若海線は玄海の外洋に面せり。其の延長合せて五十兩料、其の間に箱崎、志賀島、弘、奈多、新宮、及相島の六浦を有し、こゝに漁村並連せり。之れ等の漁村は各漁業組合を組織し其の發展を期せり。昭和十一年度の水産總額は約五十四万円に達し畜産林産をはるかに凌ぎ養蚕額の六千万円に次げり。漁業戸数は七八三戸、中志賀島の弘、新宮村の相島の如きは純漁村なり。

水産製造業は

和自村、奈多の味醂干が最も名高く産額六万円に達し、漢村更生の為注目すべきことである。

組合名	組合員数	産額高
箱崎浦漢業組合	一四五	一三二・〇〇〇円
志賀島浦漢業組合	一三〇	一三三・二〇〇
弘浦漢業組合	五六	四九・九六〇
奈多浦漢業組合	一九二	八四・九七〇
新宮浦漢業組合	一五〇	二七・六八〇
相島浦漢業組合	一〇六	九七・二〇〇

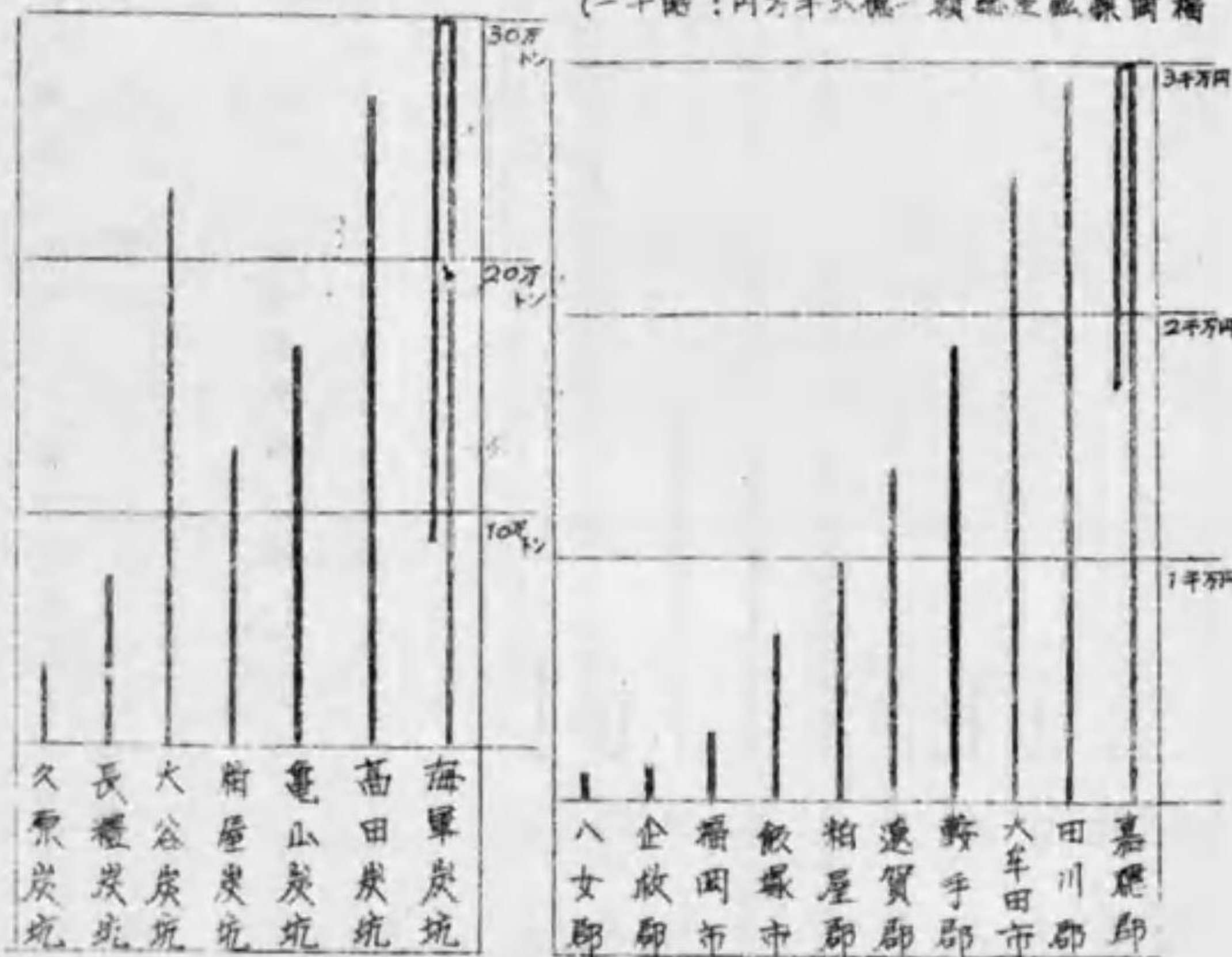
漁業戸数	志賀島村	新宮村	和自村	箱崎町	計
	二八〇	二四二	一三五	一三四	七八三

工業

郡の工業産額約三百八十万円、鐵産農産に次ぎ主要な地位を占めてゐる。従来本郡に於て工業品と称すべきものは、清酒、瓦、箱崎綿等なりしが、近時他の物品にして多

鑛産多き郡市

(一十圖：四万六千圓一額總産額限兩欄)





量に産出せらるゝもの少なからず、醬油、清涼飲料、菓子類、油、燧瓦、瓦、目薬等之なり。内村古賀、箱崎等は主な工業聚落なり。前者は醬油の産地として関西に名高く、又農具類、車脚、附島の機具類も知られ、後者は織物、硝子瓶類、清涼飲料、油燧の産地として知らる。又南里の瓦、大川多々良林原の燧瓦類も産額大なり。

酒、本郡に於ける清酒醸造の起原は頗る古きものあり。宇美の小林醸造場の如きは寛政十年の創業なりといふ。

郡内の酒造家数は二十戸にして造高二万石に達す。

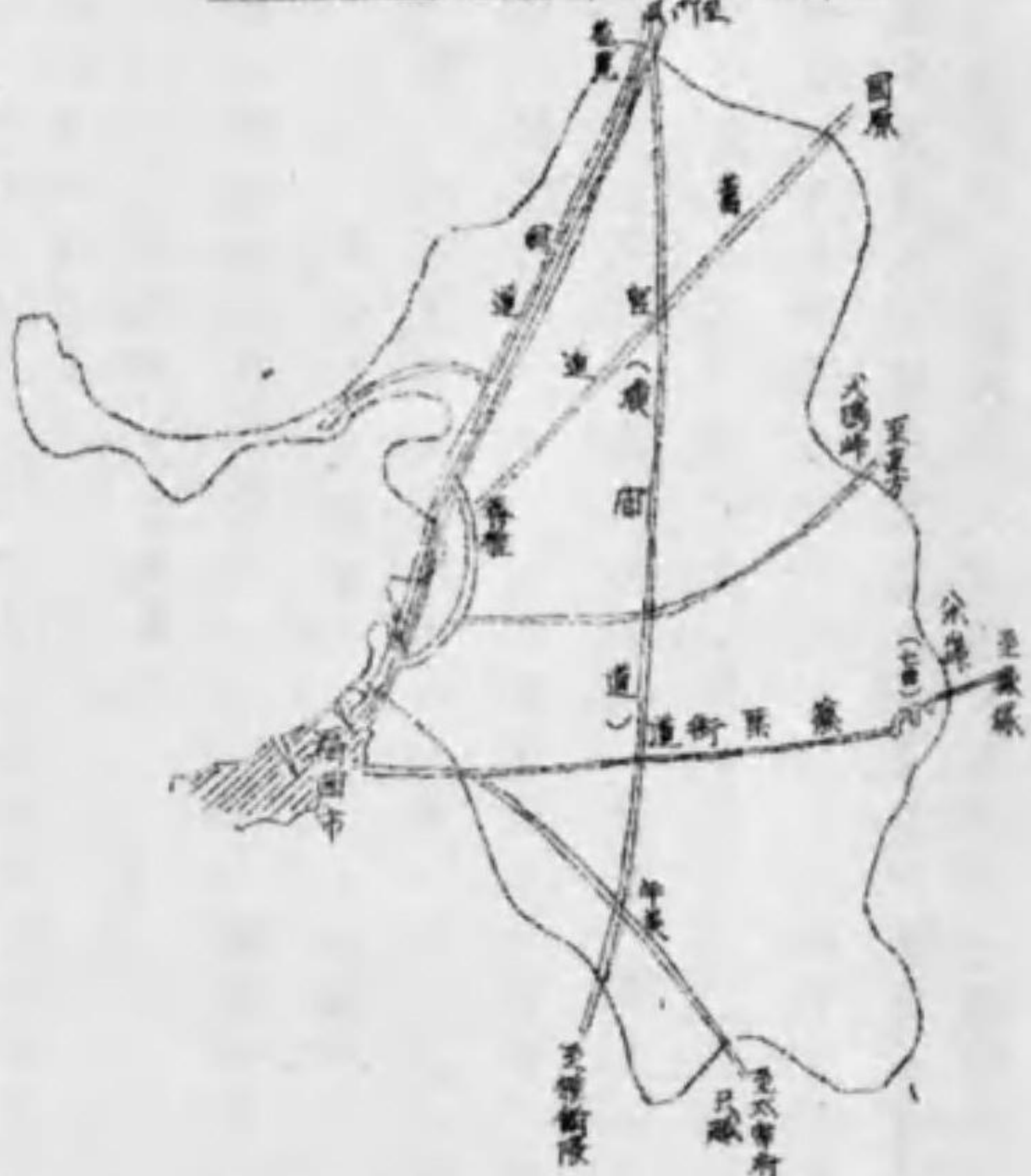
醬油、明治初年に於ては醬油醸造戸数は宇美上須藤藤原内新宮等に於て六戸其の産額百余石に過ぎざりしが大正十年頃には三十戸造高五千七百石を算し其の増加し今日にいたる。

## 六 交通

九州を南北に貫く主要鉄道、國道は本郡を南北に貫く。又福岡市と北九州工業都市及筑豊炭田を連絡する自動車も悉く郡内を通過せり。かくて箱屋等は位置の關係上、九州或は北九州交通上の下付の要衝たるを得。他地方との交通便利を志悉く縣下第一であらう。

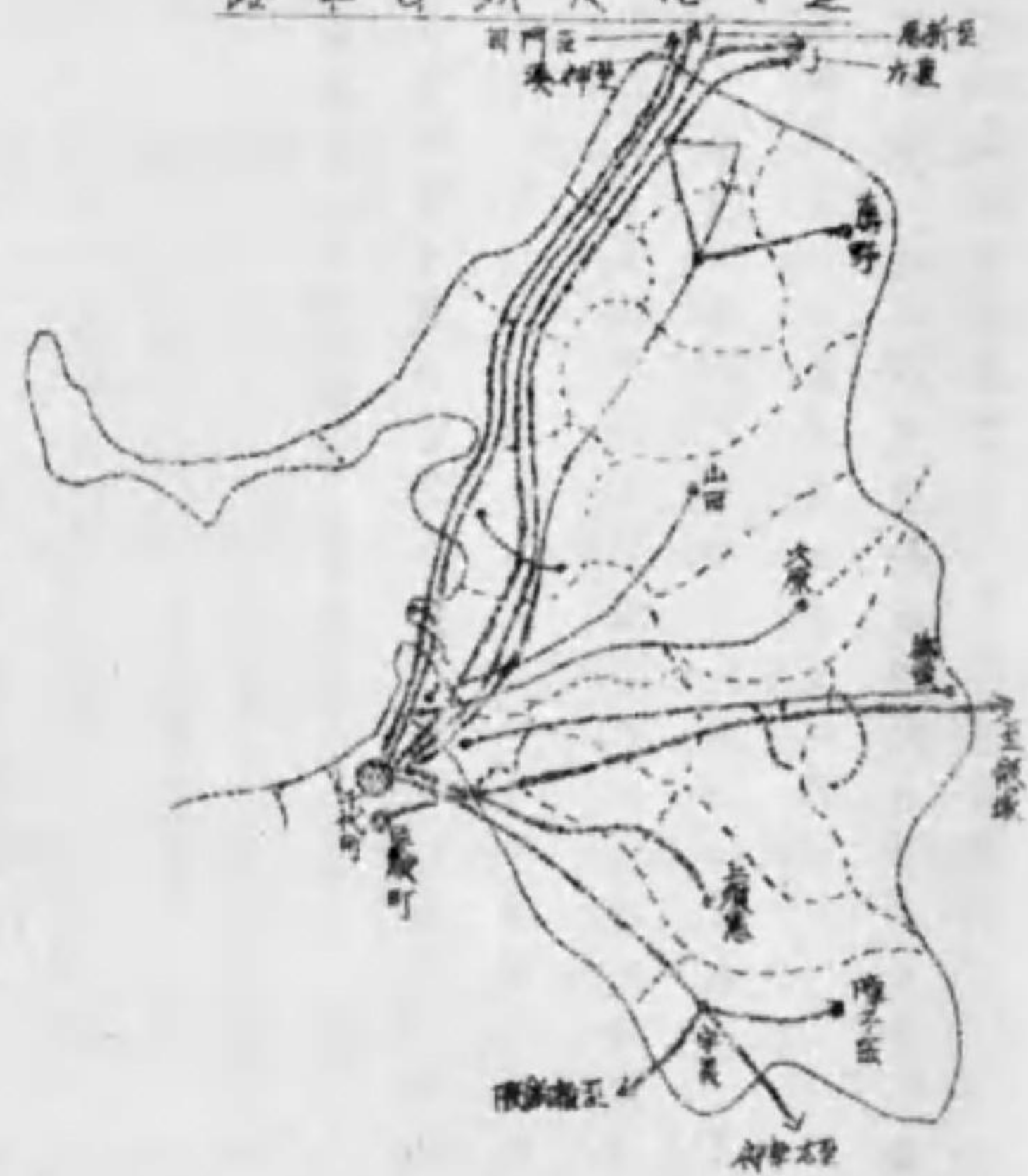
地方的交通路を見るに位置地形の關係上箱崎及福岡市が本郡交通の中心をなす。こゝより放射的に道路、鉄道、自動車が見るに位置地形の關係上箱崎及福岡市が本郡交通の中心をなす。こゝより放射的に道路、鉄道、自動車が見るに位置地形の關係上箱崎及福岡市が本郡交通の中心をなす。

郡内の主要道路



福岡市千代町附近の起點として

道路、自動車、定期、たし、道



の外博多西鉄道筑前線終極線横に走り、自動車は千代町を起點として四方に穿達する等地方交通の榮着しく郡内交通の便利なこと他に比類なし。更に歴來より飛行機を利用すれば、東京へ五時間大連台湾へは各々六時間余に達することが出来ぬ。

郡内を通過する自動車会社



1. 筑前参宮鉄道自動車会社

2. 篠栗バス商会

3. 鞍手軌道株式会社自動車部

(・千代町) (本宰府)  
(・千代町) (藤子岳)  
(新原)

(・吉塚駅前) (二瀬川)

(・千代町) (直方)

4. 蕨野行自動車

5. 福岡運輸商會

6. マイヅル自動車  
(・千代町) (直方)  
神楽

(・千代町) (上須恵)

(・千代町) (福岡) (門司)

7. ハ千代タクシー

8. 九州自動車株式会社

9. 箱崎タクシー

(・吳取町) (飯塚)

(箱崎) (久原) (箱崎) (山田) (箱崎) (名島)

道路

国道は筑紫郡界の花見より、序内新宮和自香椎多々良の各村を経て箱崎に通じ、本郡交通の幹線となせり。古の官道は今の国道と殆んど並行せるもの如く、然るに黒田長政入國の幾官道を立花山の麓に寄せて、香椎下原を経て香椎町に出で延命を通じ筑紫郡に入り味町を経て赤間へ達せしむ。是れ即ち舊官道なり。然るに明治十二年頃再び変更し今日の線路に在れり。最近箱崎及び香椎町の埋立完成により福岡千代町より香椎唐原間に豪華な新官道開通せり。篠栗縣道は、福岡市より篠栗炭田地方を貫き行橋に至る。福岡縣東西幹線道路の西半をなし、政治上重要な道路にして、又福岡市と飯塚直方方面との最短連絡線路として交通頻繁なり。

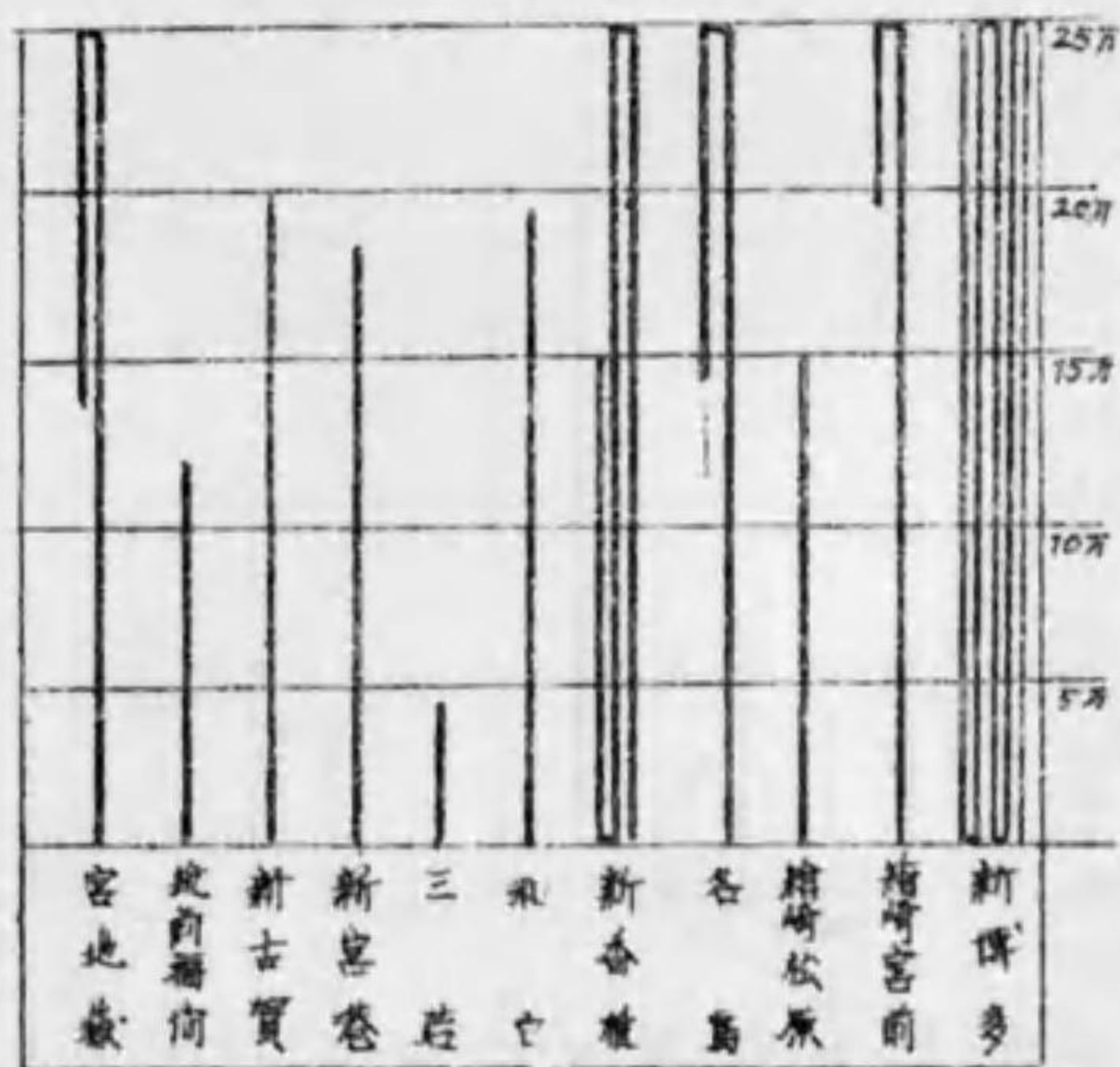
久原村より大鳴峠を越えて、箱崎宮田直方へ通ずる道路も重要道路の一つにして近時改修されつゝあり。

横間道は序内村花見より久保庄を経て香椎、山田、須恵、宇美を貫きて筑紫郡藤崎へ達する道路にして、昔時鉄道の全く敷設せられざりし以前は宮地嶽太宰府の兩神社を聯絡する要路をなし、交通最も頻繁に當時柏屋邸の表通りとなつてゐた。然るに今日は單に地方的道路となり沿線の聚落は著しく淋れてゐる。

鐵道 九州に初めて鐵道の敷設されしは博多筑後川間にして、明治二十二年のことなり。次で翌年博多赤間間開通し、本郡は始めて箱崎香椎古賀の三駅を有することになつた。篠栗線は明治三十七年の中旬より野野瀬を河越せり。筑前新宮駅は大正九年十月の開取なり。

筑前参宮鐵道は大正八年より運輸を開始す。該鐵道敷設の目的は宇美志免方面の石炭運送と、縣社宇美八幡宮へ参拜者の便利とにあり。博多海鐵道は一概旅客の輸送に貨物(石炭)運搬に本

各別乗降客数合計 (昭和十四年)





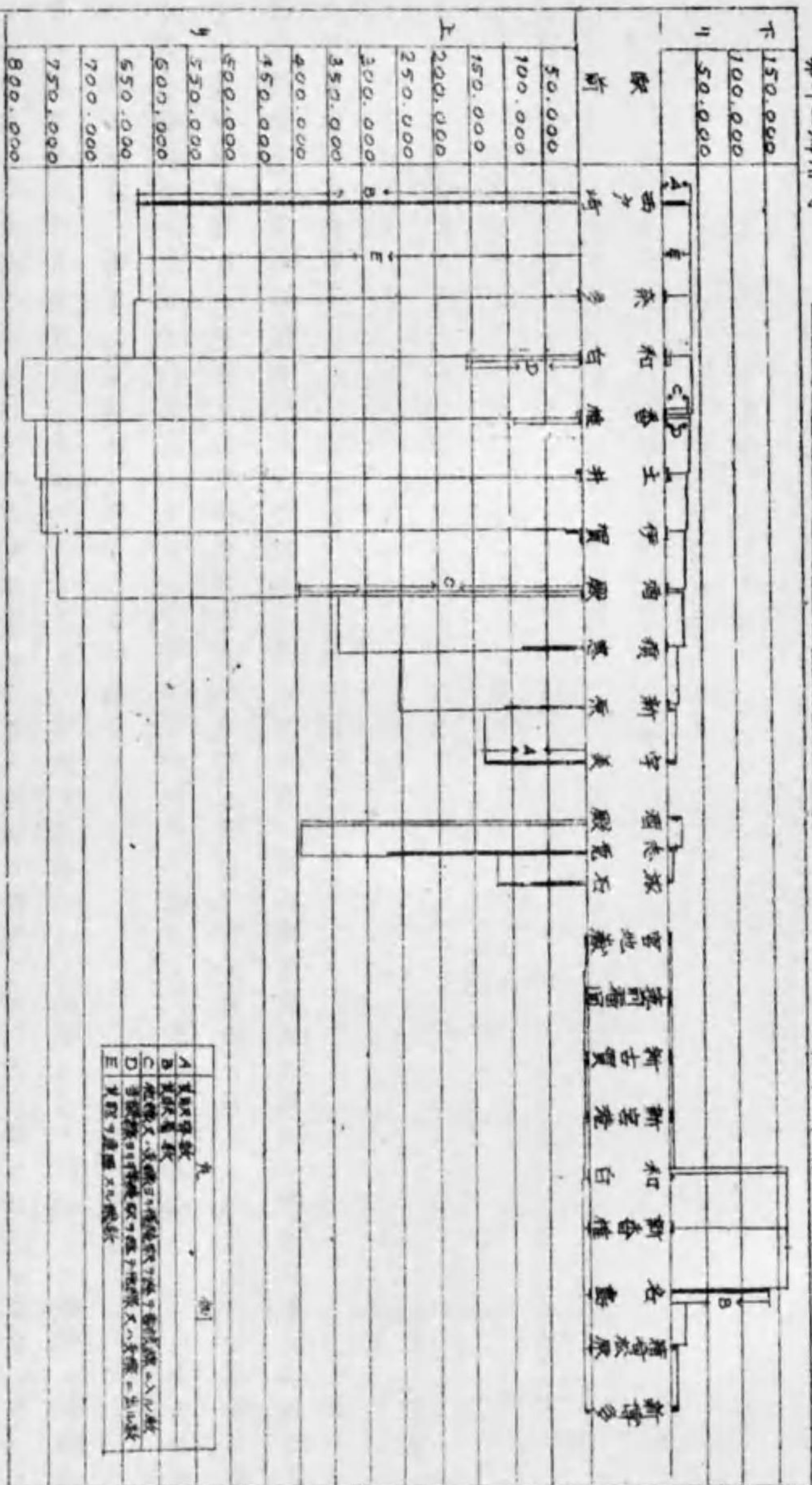




第十二聯用式

各取貨物發着及運送數量因表

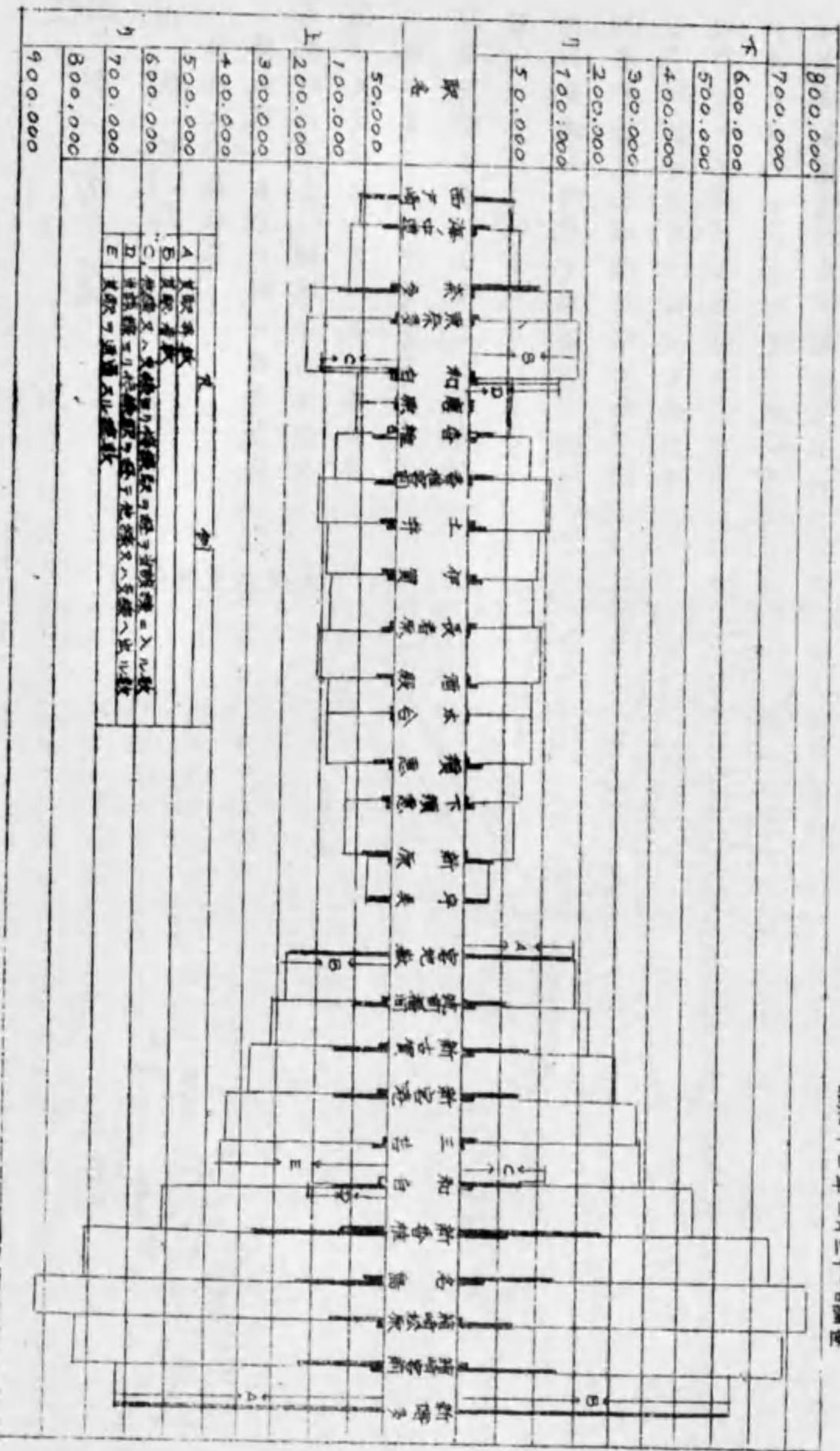
(博多海峽汽船株式會社)  
昭和十二年三月三十一日調査



第十二聯用式

各取貨物發着及運送數量因表

(博多海峽汽船株式會社)  
昭和十二年三月三十一日調査





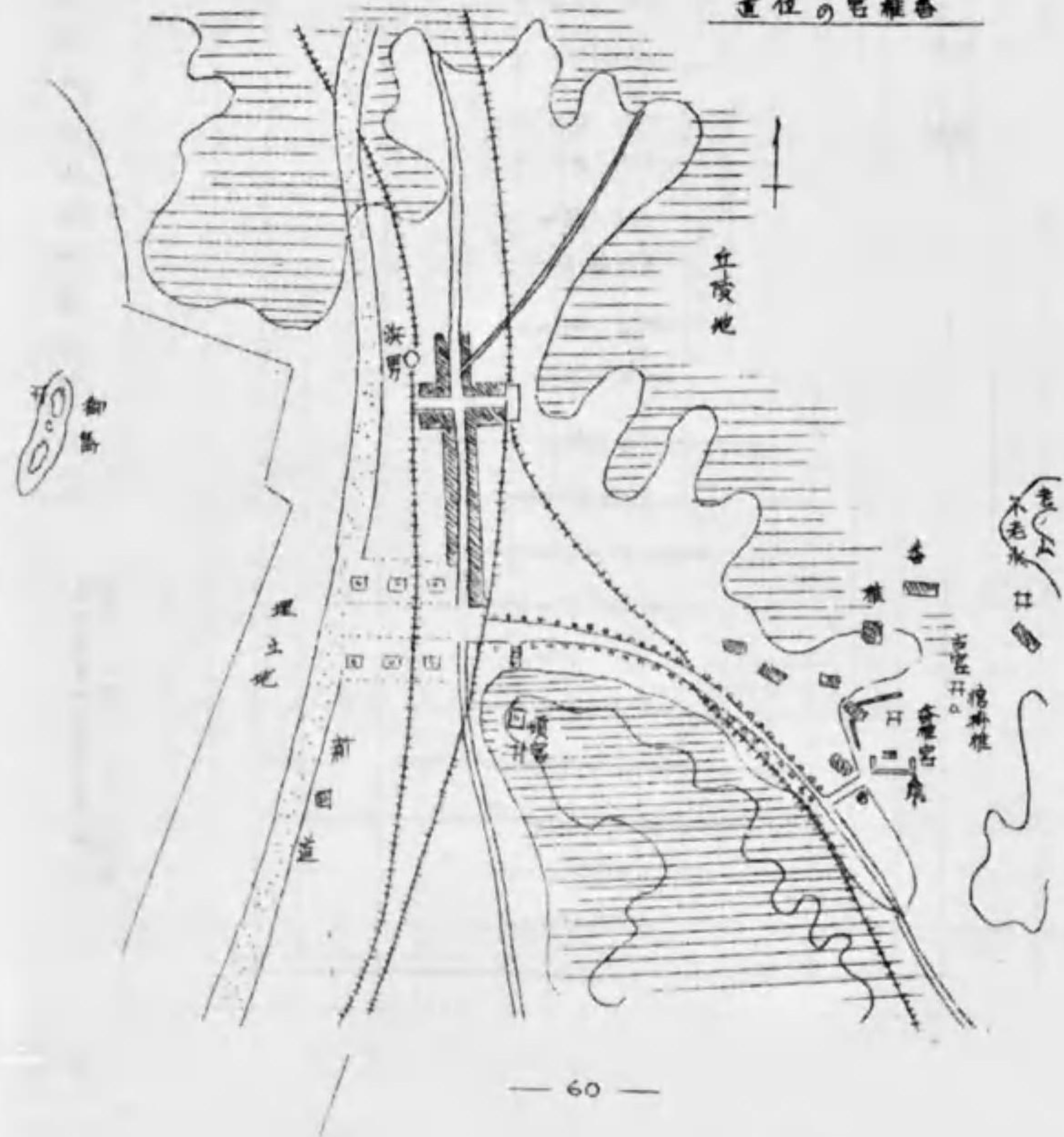
後編 地方誌

香椎地方

官幣大社香椎宮

鎮座地 本宮は福岡縣糟屋郡香椎村に在り、福岡市の元祿を距る事東北約二里、前に香椎島の海上遠く海中道志賀他古の諸島を望み、後に立花山の翠巒を控へたる最も勝景の地にして、九州本線香椎駅を距ること約十町博多灣鉄電車線新香椎駅を距ること約十一町、何れも自動車に便乗すれば、五分時を要せずして参拜することを得、社殿は老杉古松鬱蒼として繁する立上

香椎宮の位置



に建設せられ、愚選所雅養者をして自ら祿を正さしむ。

祭神 仲哀天皇 神功皇后 二柱 配祀 應仁天皇 住吉大神

創立並由未 仲哀天皇即位八年九月天皇神功皇后と共に權日宮に御駐輦、熊養及び三韓御討征の御軍議中、翌九年二月天皇俄に崩御あらせられしにより、皇后躬ら其の地に祠を建て天皇の神靈を齋き祀り給ふ。其れ香椎宮の懸懸なり。神功皇后御歸幽の歳約四百五十年、元正天皇の養老七年神功皇后の神託によりて、朝廷特に九州に詔して課役を起し仲哀天皇神祠の側に新に社殿を建造し、工成りて皇后の神靈を鎮祭し給ふ。時に聖武天皇の神龜元年なり。爾來兩宮を合せて之を香椎廟と稱し、祭祀に整重の差は無かりしも、時世の夷遷により何時か神功皇后の神祠のみを香椎宮と稱し、仲哀天皇の神祠は古宮の名称の下に攝社の姿となりしが、大正四年十一月十日勅旨により古宮より御遷座仰せ出され、皇后と御同座に奉齋せしめ給ひしより、現今天皇皇后相ひせし御神威愈々赫々たるに至り。

社格 本宮は古来香椎廟と稱し國家の大事に際しては必ず奉幣の御儀あり、又御炎上ありは必ず五日間の麻朝あらせらるる等、朝廷の御尊崇は極めて尊かりしも延喜の制未だ神社の列にあらず、随つて社格の御定めも無かりしが円融天皇の頃より漸次其の趣神社に近づき、明治四年六月始めて國幣中社に列せられ、更に明治十八年四月官幣大社に列せられ今日に至り。

境内 創立當時の境内は随分廣大なりしものならんも、其詳細を知るによしなし。明治維



新儀に於ける境内は一時非常に縮小せられたり、其の後進進會、神苑會、行慈紀念會等の努力により漸次復舊するを得、現今の境内及び境外地の總坪数は次の如し。

一、境内地 一、一七五坪 一、飛地境内地 三、四一七坪 一、境外地 六、七九一坪 計 二、二、三八三坪

奉幣勅使及び御使 本宮には古來絶清(波の邊に寄す)に勅使を下し給ひ、即位、大嘗、遷都、災災、外寇等苟も國家の大事には必ず奉幣の御儀ありしが、天和天皇の三耳に一度を遣して神服を加へ

天祚を祈り給ふ事となり、敏達天皇の儀に至り戦亂の爲めに奉幣の儀は中絶するに至りしが、

聖明天皇の延喜元年甲子に之を再興せられ、六十二年甲子に必ず奉幣あらせらるゝ事となり、文化

元年甲子元治元年甲子にも前例により勅使御下向天祚久國安全の御祈願あり、更に大正十四年勅使御

下向あり、以後十年毎に勅使御差遣の御沙汰あり、新嘗儀に獲するに至り、尚大正十年二月二

十七日皇右陛下特に御使として三條公輝男を御差遣の上皇太子殿下御外遊海陸安全の御祈願あり

御歸朝後同年九月十四日更に同男爵を御差遣奉養あらせられたり。

神木(鏡杉)と御手植 本宮中門前に鬱蒼として繁茂し朱塗の玉垣を廻らしたる老杉あり、其

此即ち本宮唯一の神木にして鏡杉と稱す、神功皇后三韓より御凱旋の際御劍御神杖の三種を此

の地に埋め、其の標にとり御繼の袖なる杉枝を挿させ給へるが即ち此の木なり、後御神託あり吾れ

神靈を此の杉に留めて本朝を鎮護し敵國を降伏せしむべし殊に世人杉の木の如く直さ心を以て世

に務めなば、吾必ず其の入を守らんと海へ給ひま神木となれりと云ふ。社傳に天皇四十八代孫徳

天皇天平神護元年始め此の杉葉に守札と不老水とを添へて、朝廷に奉りしより恒例となりて明

治維新に及べり、又太宰の帥に新任の人少平先づ本宮に参り、其の際神主此の杉葉を帥の冠に挿

すこと故実となれりと、この木普通の杉と異なり其の葉恰も海松房の如く交葉級の紋の模様を

此鏡杉の称あり、此杉は根より芽を生じ根木枯るれば直ちに後継となる、正和天皇等屢々兵燹に

罹りしも焦土の中より萌芽を發して生育繁茂し、古より一度も植替きたることなく眞に此類な

き聖樹なり、明治十一年陸軍大將有栖川宮熾仁親王殿下御東幸を仰ぎ樹下に遊ばる石碇に

千早振杏林の宮の鏡杉は神のみそきに文まるなりけり」とあるは新古今集に見えたる歌なり、尚

大正天皇東宮に坐して明治三十三年十月二十八日御参拜あらせられたる時本殿東北隅に杉一株及

び大本堂の舊臥に松一株を御手植あらせられ、今上天皇東宮に坐して大正九年四月七日御参拜あ

らせられし時、御殿前に松一株を御手植あらせられたるが何れも亭々として成育し居たり。

古宮の古蹟 仲哀天皇の神廟のありし舊蹟にして天皇崩御、皇后躬ら天皇の神靈を奉斎し給

ひし所なり、是れ最初の香椎宮にして神功皇后の社殿御造営の後と雖も、兩宮とも同様祭祀を

行はれ軽重の差はなかりしが、中世以降兵革の爲め天皇の神廟は漸次衰頹し、大正四年は攝社

の格に下せしが同十一月十日勅旨により、前述の如く本宮に御同座あらせられ現今に於ては愈々

其の趾を存するのみとなり、因みに仲哀天皇崩御の時御棺を奉安し給ひしと云ひ傳ふ白檜掛柱の古木現存せり。



大木營の意跡 本宮東南の立上に仲哀天皇行宮の趾あり、天皇皇后と共に熊襲征伐並に三韓御進軍の御軍議をなし給ひし、所謂大木營地にして天等賦役を討ち鎮め國威を萬國に懸し、長く海外より貢を吾が朝に献らしめ給ひし偉勳大業の成就せし舊蹟なり。大正十一年三月皇后陛下親しく御歩を駐めて古を思ひ給ひ、御恩石により多額の御下賜金ありて碑石を建立するに至り、御 御 御島は本宮の龜地境内にして西方の海上八町の沖合にあり總て岩石にして其の高所に石祠あり御島神社と稱し綿津見神を奉斎す。往古神功皇后三韓征伐の御進軍の際自ら海水に髪を洗ひ神祇に誓盟して其の吉凶を卜ひ給ひしといふ靈地なり。大正十一年三月二十一日長くも皇陛下本宮行宮の御遺跡の蹟宮より親しく御進軍ありせらる。

不老水と武内宿禰の御趾 不老水は本宮の東方約五町を隔つる不老山の麓に湧き出づる神泉にして、武内大臣が天皇並に皇后に隨ひて此の地に在りし時、朝夕汲み取りて奉獻の酒飯を調へ、又自らも用ひて他く三百餘歳の長壽を保たれしよし此の名ありと云ふ。此の水古來疾病を除き壽命を延ぶと云ひ、往昔より明治維新に至るまで被褥及び御神札と此の水とは共に、毎年朝廷に奉獻したりしか、曩きに大正天皇東宮に坐して御参拜の節並に皇太后陛下の皇后陛下として御参拜の節、今上陛下東宮に坐して御参拜の節等古例により献じたり。古蹟に「老の山麓の水を汲む人は幾千代かけて命のふらん」とある如く今尚不老長壽を願ふ人の奉獻を乞ふ者多し、此の不老水の側に武内宿禰當時居住の御趾あり、朝日直射夕日伊照りて頗る好適の地なり。

須 宮

本宮勅使道の終端一の鳥居の左側立上に額石あり、春季御神幸の時駐蹕の處にして香椎駕に臨み、遙かに海の中道志賀島能古島等を眺めて風景絶佳なり。

萬葉集

いさ鬼とも香椎の駕に有妙の袖さへぬ水で朝来つみまむ。

同

時津風ふくべくなりぬ香椎駕朝日の浦に土藻刈りてな。

同

往きかへり幣にわが見え香椎駕明日の後にほ見るよしもなれ。

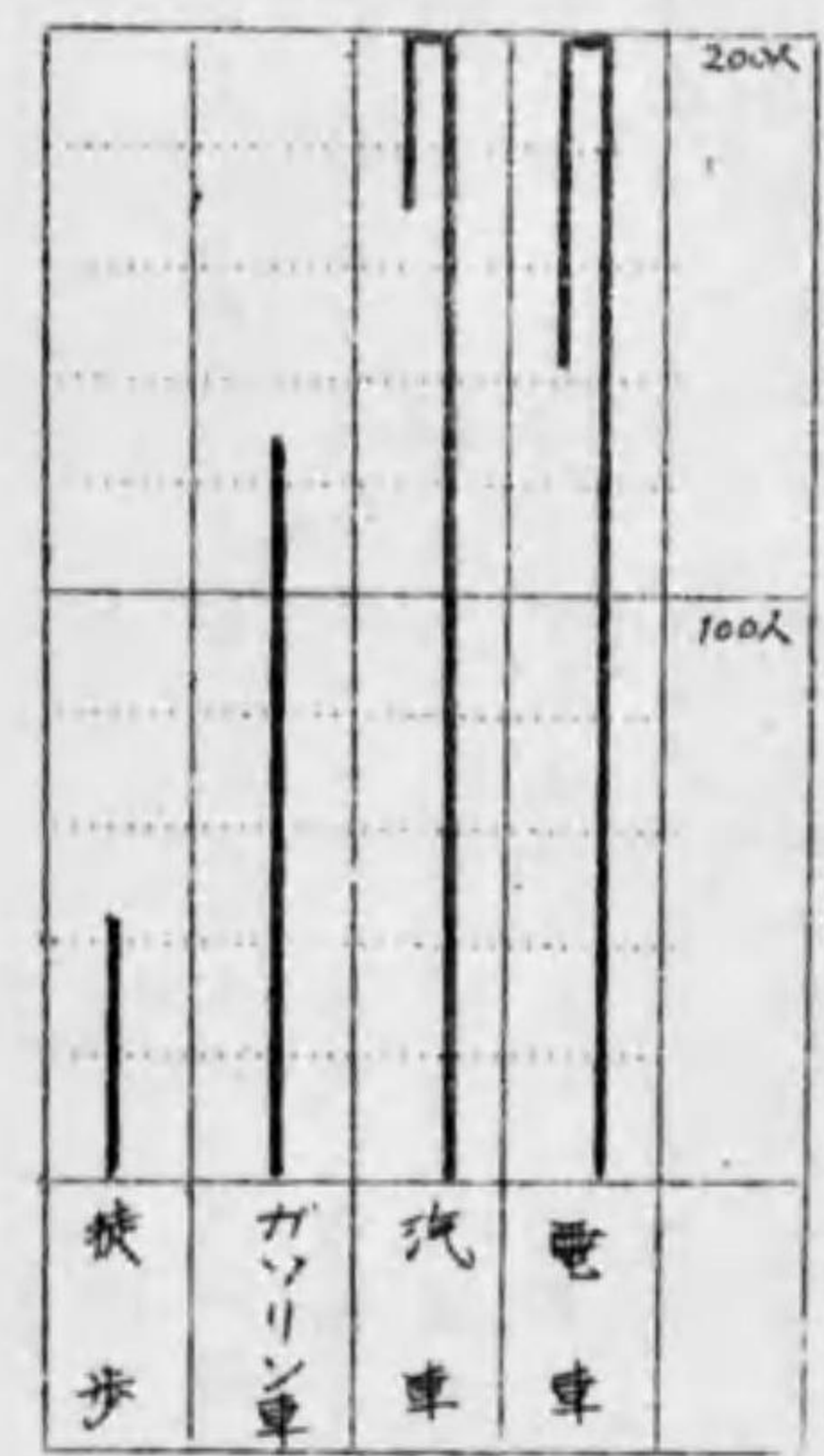
などあるは皆此の附近の風光を詠みたるものなり。

恵まれた香椎高女

官幣大社香椎宮の宮居を朝に夕に拜することが出来、又遙か都会の雑踏地から遠きかる明朗な環境は、香椎高女の誇りである。次に本校の特異性二三を地理的に考察して見よう。

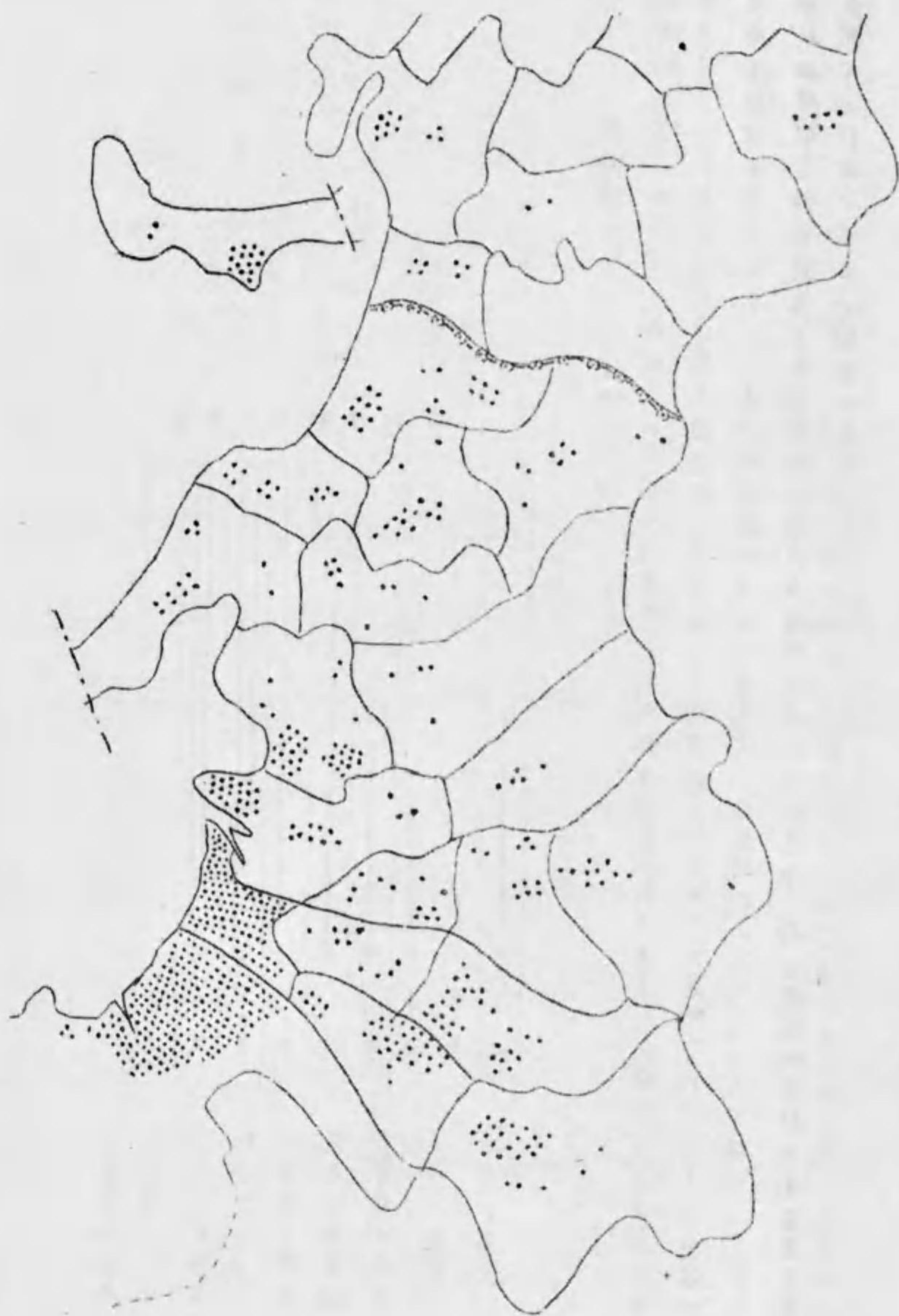
毎朝香椎、新香椎、香椎宮前の三駅より續く女学生の行列は誠に壯觀である。更に全校生徒の九割三分、即ち六百十八名が汽車、電車、ガソリン車を利用して通學し、徒歩による通學生徒は僅に四十三名に過ぎない。故に本校の始業及び下校の時刻總てが汽車、電車の発着時刻に依りて決定されてゐる。この点珍ら

汽電車電車通學の生徒数





(八五-) 市外別村町の学生校木



しい学校であると思ふ。

香椎村赤男附近は、位置から云つても、交通系統から見ても郡の中央的位置に位してゐる。故  
最初の子女教育の機關として、女学校がこの土地に設立されたのも當然である。當時は遠隔な  
地方よりの通學上の不便を考慮し寄宿舎の計画もあつた。然るに位置と交通に其の計画も立派な  
大御所の生徒が今日の如く自宅より通學する様になつた。次に生徒の通學距離を見るに、学校よ  
り四軒以内に分布してゐる生徒は僅かに六十一名、徒歩通學四十三名はこの地域内にある香椎村、  
多々良村の一部の生徒である。四軒乃至八軒の域内に二百八十二名、八軒乃至十二軒以内百六十  
二名、十二軒乃至十六軒以内百六名、十六軒以上(宗像郡が主)五十名である。以上学校を中心とし  
た生徒の分布状態は汽車、電車通學生を全校の生徒の九割以上に達せしめた。

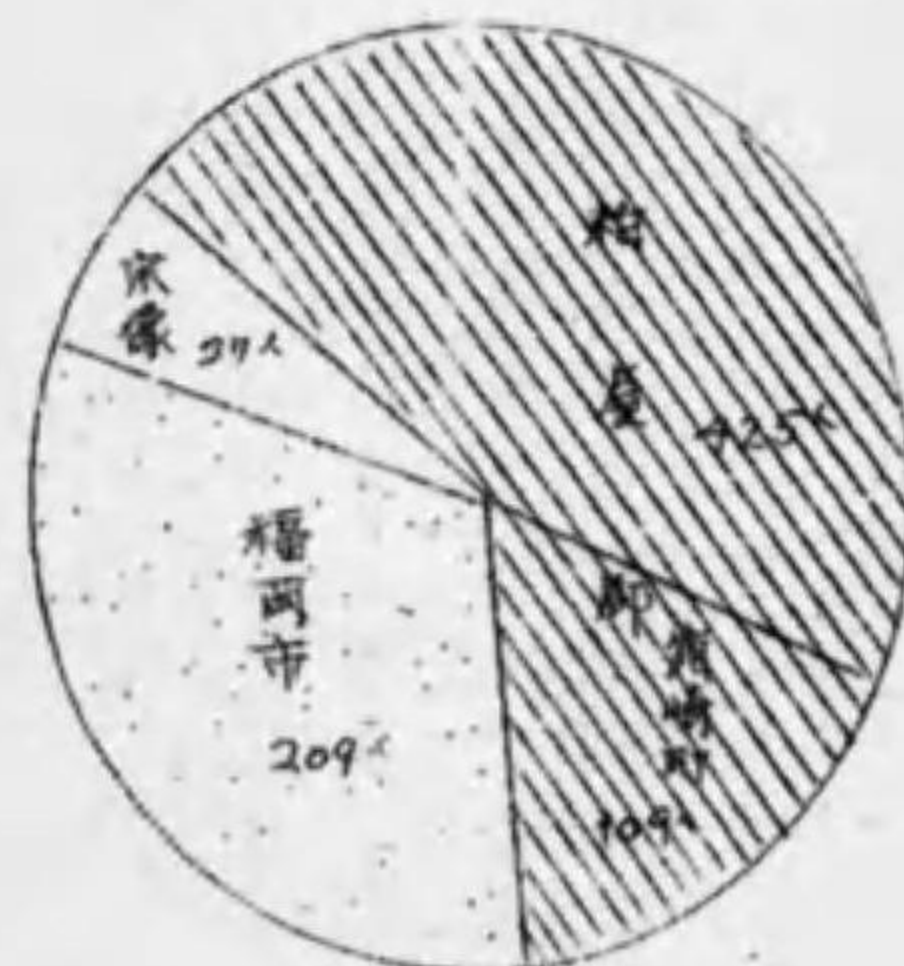
生徒の町村別分布に一つの特色が見られる。それは福岡市及び粕崎町出身の生徒が、全校生徒  
の四割八分即ち三百十八名を占めて居ることである。之れ本校が大都市に隣接した地の利と女子  
教育の場所として精神的又保健上理想的な位置にある結果である。粕崎町を除いた郡部の生徒は  
三百<sup>十六</sup>十五名にして、生徒の多い町村は志免村の四十一名、多々良村の三十三名、香椎村の三十  
七名、須恵村の三十名、宇美町の二十六名、席田村の二十二名等で、立花、久原、山田の各村が各  
四名で最も疎なる地方になつてゐる。

生徒父兄職業別調

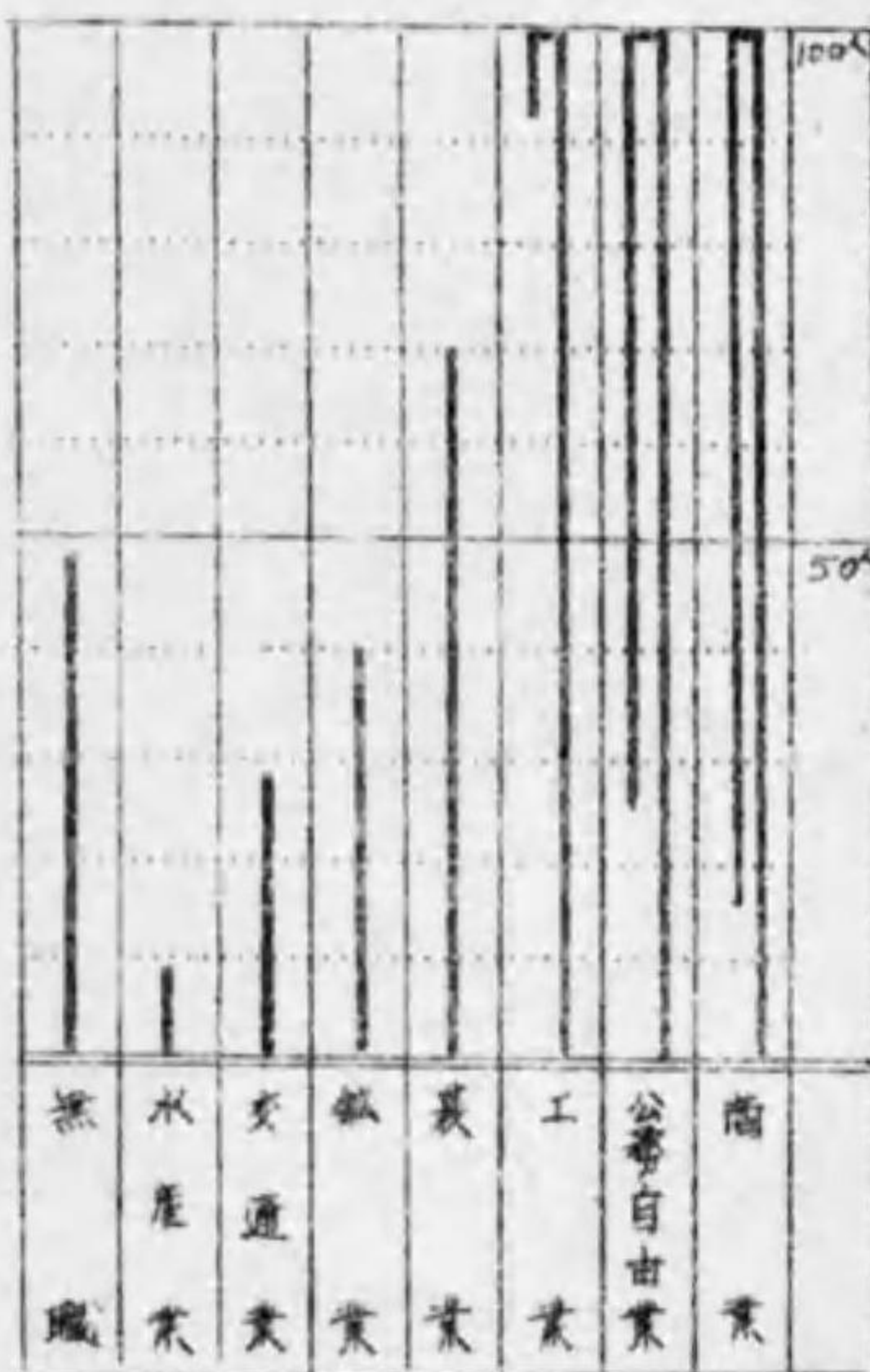
生徒父兄の職業別は商業の百八十七名が最も多く、公務自由業百七十四名



桐戸住現状



桐戸職業別父兄



工業の百六名  
之に次ぐ。以  
上で七割を占  
めてゐる。こ  
れ本校生徒の  
出身者である  
一つの現れで  
あると思ふ。

柏屋町の会合地香椎(茨男)

地理的位置 茨男は地勢位置の關係上柏屋町の道路鉄道の会合点であり、同時に又分岐点になつてゐる。故に單なる交通路の通過型を中心にして所謂廊下的な場所に過ぎない。こゝには聚落茨男の發生理由が求められ、一方又發展遅々として進まず、自然増加により人口を増加してゐるが現状維持的な靜的聚落として存在してゐる理由も亦こゝにある。之を積極的な新工業聚落古賀と比較すれば實に面白い對照である。

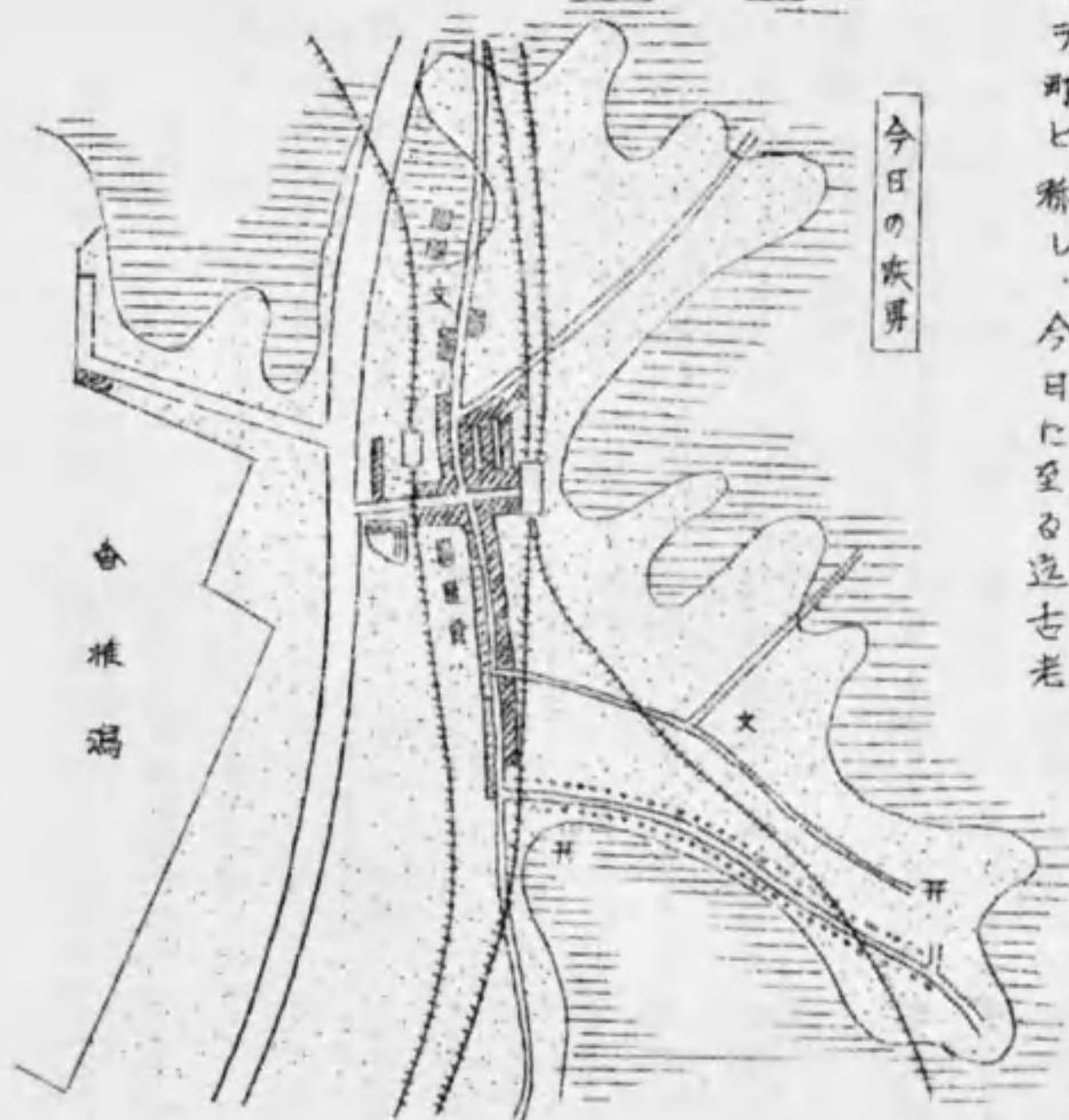
宿駅的な茨男

明治初年茨男は戸数四十三戸人口二百六十八人の寒村であつた。其の後の地利を占めた茨男は、宿駅的な聚落として旅人行商人の足を留むる者次第に多くなり、海岸に面した側には中洲町が發達した。之を俗に茨男の中へラ町と稱し、今日に至る迄古老の語り草となつてゐる。

明治初年の茨男



今日の茨男





明治三十七八年頃まで香椎沼の被打ち際に立ち並んでいた片へら町も、香椎駅へ開通(明治二十三年)の発展、香多勢鉄道本線の開通(明治三十七年)次いで大正十三年博多宮地敷間の湾銀支線の開通等、峡谷的な地形をなす赤男一帯は和原郡の会合地点と化し、貨物の往來増加、今日の如き街村式の聚落にまで発達した。古老の語によれば、この地はもと、甘木方面より来る行商人多く、其の泊り場として當時荷車等を引き入水得る様な間口の廣い宿屋が繁昌した。行商人は此處を根據地として雷分四方に出荷ひをしたさうである。又有名な田原眼科病院があつて(今日も存在)遠隔の地より出生に來る者頗る多く、其の爲患者専用の宿屋まで出來て赤男一帯は今日より遙か、活氣を呈してゐた相である。然るに其後行商人は絶へ、患者も減少し大正の始めまで十軒あつた宿屋は次第に去り職を敷じて今日では僅かに五軒を数へるのみ、此の外赤男の近郊にある香椎花壇、山麓の大増旅館、香椎の草場、水飲各飯屋の料理屋兼業の旅館、温泉宿は相當に繁昌し、將來赤男の進むべき道を暗示してゐる様に思はれる。

**赤男の現況** 人口約二百六十、入口千四百、明治初年に比し人口約五倍の増加である。職業別を見ると農業四十三戸、商業五千六戸、交通業四十八戸、理立工事関係四十戸、公務自由業三十戸、其の他約五千戸、大体半農半商の聚落である。それに鐵道(省線鐵道)関係の人が相々多く住つてゐることになる。商業の種類、公布は、期間の通り飲食店は駅附近に分布し、其の他主要な商店は四辻を中心とした地域に集つてゐる。商業で八百屋、食料品店、日用雜貨店が最も多い。

其れ等の商店は概ね小規模で赤男、香椎西聚落を相手とし地方経済の中心として活動してゐる。種な店は殆ど見當らない。全く靜かな街村である。

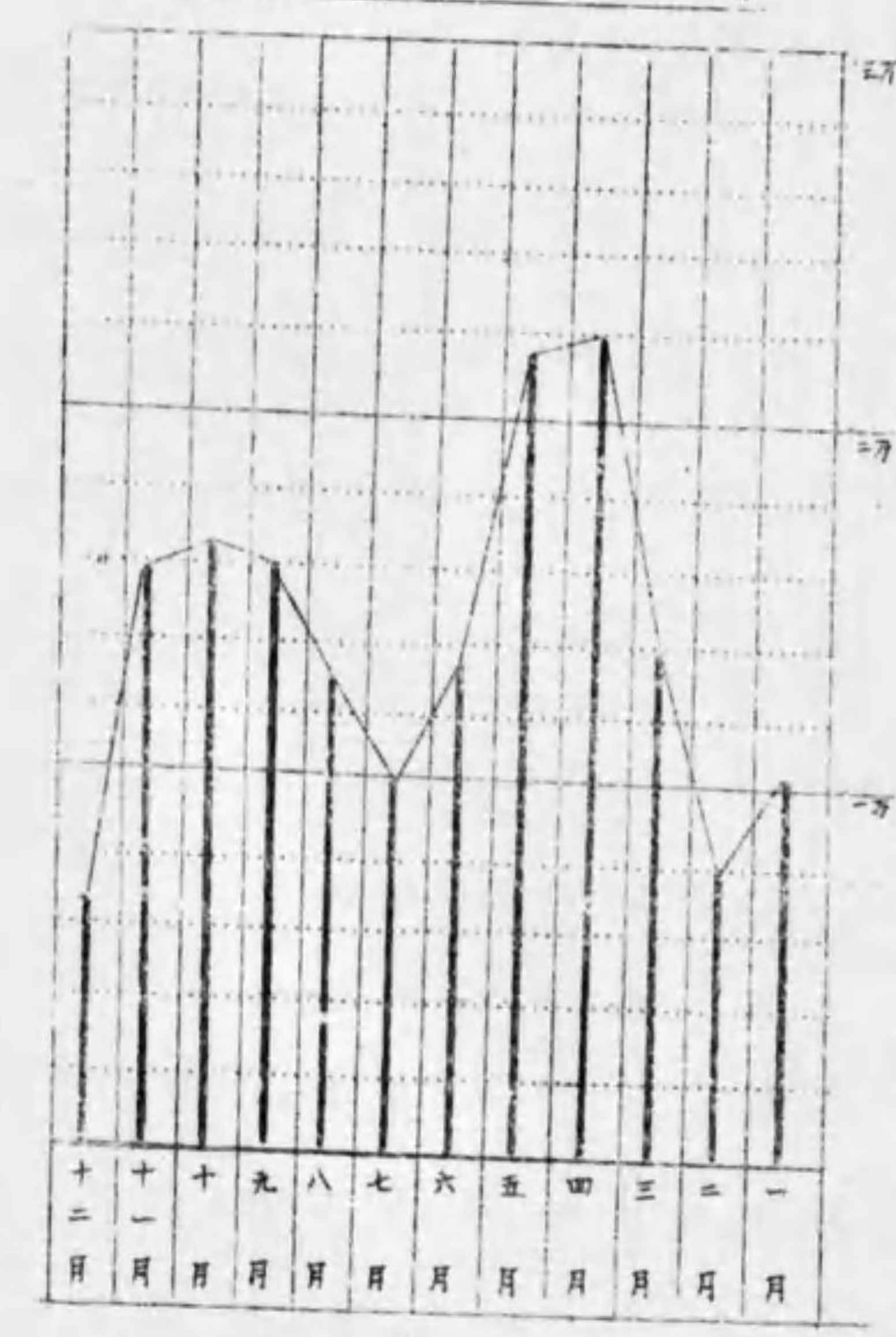
物資は殆ど全部福岡、箱崎より仕入水られる。従つて市價を知つてゐる者は買物と云へば福岡に出るのが普通になつて、そこに何の不思議もない。

香椎名の門前町としての色彩は殆どなく、参拜者の土産物としては女学校前の不老オコシが唯一のものになつてゐる。

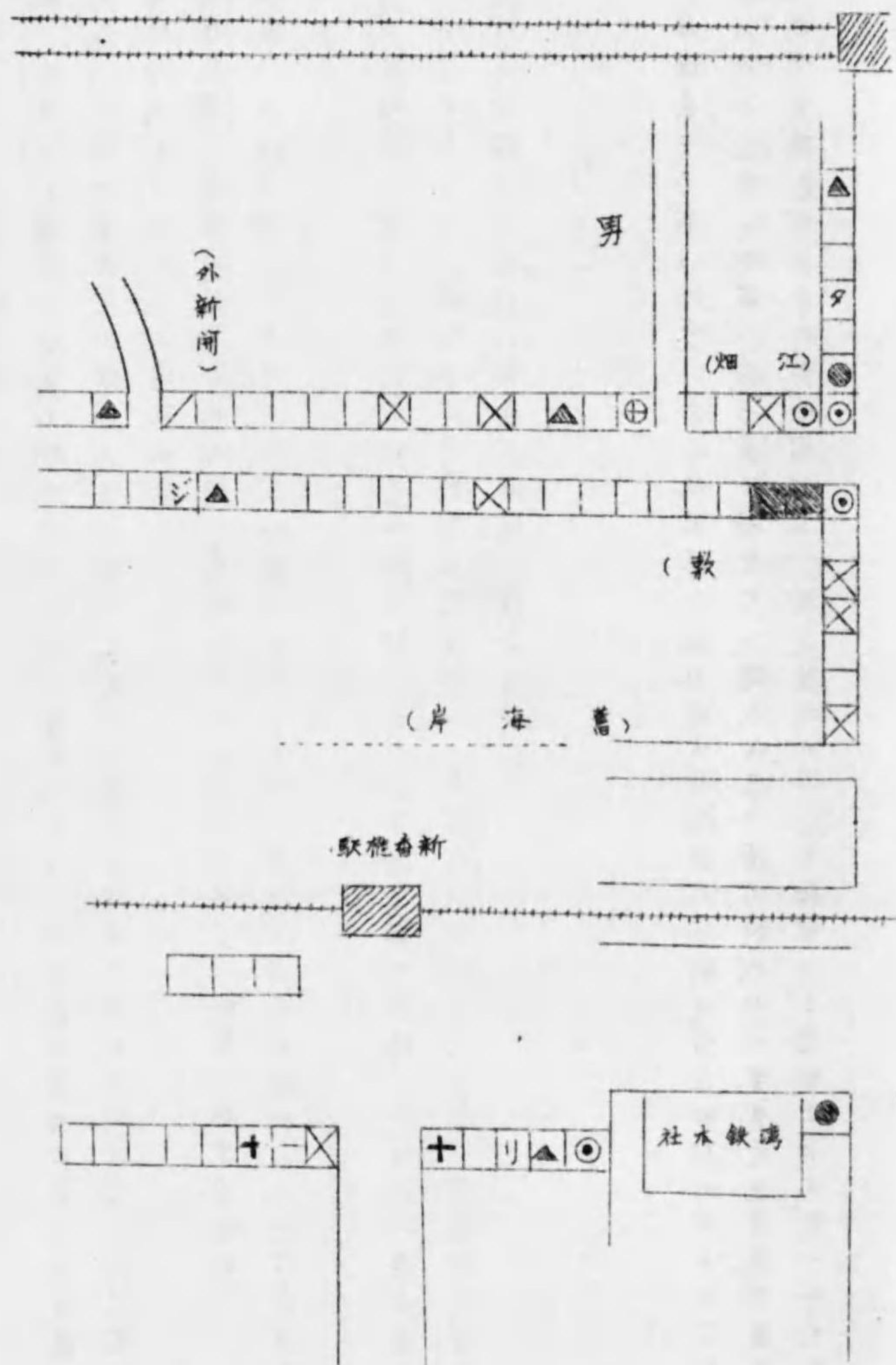
香椎名物

新香椎球場 ラヂオの放送により新香椎球場の名は既に全国的なものとなつてゐる。何と云つても夏のシーメンは赤男第一の書き入水時である。球場附近の飲食店は俄に天幕張りをし、客を呼び、野球選手の喜ぶ砲彈制しの聲が出来る。宿屋の門口には秋

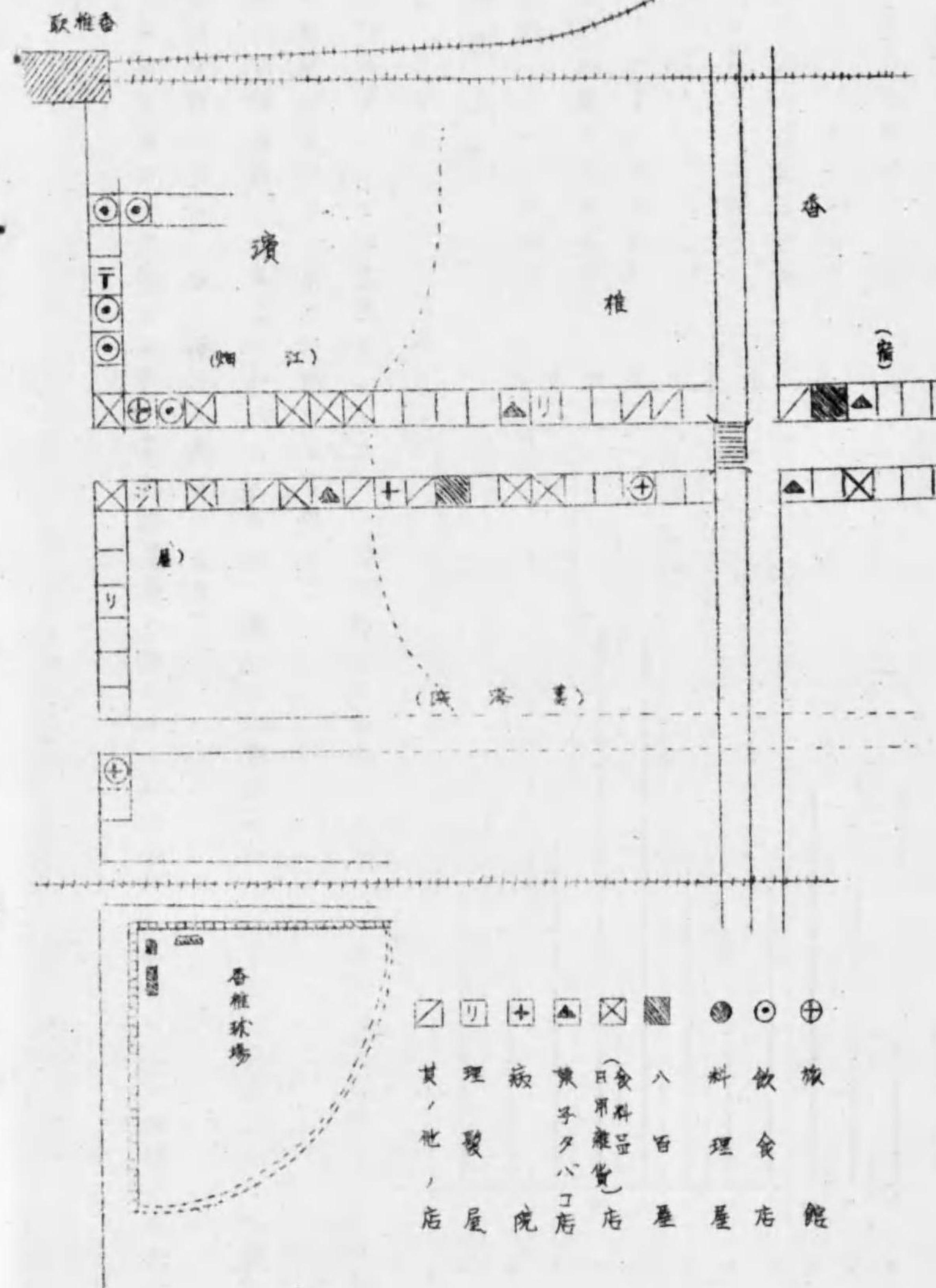
新香椎駅の乗降人員(概略)







調業職の男環



- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⊗ | ⊙ | ⊕ | ⊗ | ⊙ | ⊕ | ⊗ | ⊙ | ⊕ |
| 旅 | 飲 | 料 | 八 | 日 | 食 | 東 | 病 | 理 |
| 館 | 食 | 理 | 百 | 界 | 界 | 子 | 院 | 製 |
|   | 店 | 屋 | 屋 | 店 | 店 | 店 | 店 | 店 |



名記入の大旗が靡く、パン屋、アイスクリーキ屋は大量収穫を期して走り廻り、全く茨男一帯は日頃に見られぬ活氣ある人文景觀を呈する。

**草場** 水飲、香椎の三鐵泉 何れも閑雅な地にある鐵泉である。殊に前二者は立花山の中腹に在り、香椎潟海の中道の風光が一瞬に入る。むしろ其の方面での効果の方が大ではないかと思はれる。夏季福岡方面より日送りの客客が多い。

**香椎農園香椎花壇** 福岡に對する地の利に着眼したものだと思はれる。將來の發展を望む。  
**香椎瀉埋立地** 大住宅街、大グラウンドと種々に取り沙汰はあつてゐる。香椎村としては創目すべき大問題である。

**博多海鐵道汽船会社** 堂々たる近代的な本社は何と云つても茨男第一の誇りで附近一帯は近代的な空氣がたゞよつてゐる。誠に本社の建築は陸々たる、会社のシンボルである。柏屋郡の貨客を一手に引受けて活躍せる会社の發展は創目に價する。

和 白 地 方

昔は塩。今は蔬菜で名高い和自、古の桂郷は、和自村大字塩浜の全部及び上和自の北より下和自の西の山麓に沿ひ三苦の附近に據る遠千郷なりと傳へらる。徳川時代の中葉寛文元年黒田家の権臣大野忠右衛門貞勝塩田三十町歩を開拓し、機元禄十六年之を新田とし塩浜と稱する一村を立

たり。

嘉永、安政の頃、塩浜を中心とした茶多下和自の海岸に亘り、博多の商人松本平之丞發起にマ汐除石垣築防を築造し、數十町歩の塩田を設けたり、塩田は其後漸次畑に變じたりしも、明治四

和 白 村 の 地 種 別 圖





十二年臨時專賣制度の布かゝる、頃迄塩田の焼りしは此の内なり、かくの如き歴史を終て、和自の妙菜は今日見る様な見事な畑地と化し先輩の箱崎蔬菜を凌ぎ、福岡市に對する蔬菜の一大供給地となつた。

和自村舊塩田跡を中心とした地域は蔬菜園藝の發達した理由は、第一村當局の熱心な指導奨励にある、即ち耕地狭く、天産量ならざる河村に於ては、蔬菜園藝を以て農村更生の中心と爲し、民権曲の移入、在來種の改良、栽培地面積及び生産の統制による市價の維持、品種の統一、共同出荷、耕耨施肥の合理化等、熱心な人的要素が今日の大をなした主な理由である。

次に有利な自然的要素としては、大市場を近く控へた地理的位置である、即ち福岡市とは僅に二十余軒の近距離である、又地質が鬆軟で蔬菜の成育に適し耕稼にも便利な点、畑の西側に小瀬と稱する入江ありて常に海水を湛へ、其の關係で地温が他地方より平均一度半乃至三度高し、故に霜害少なく各種蔬菜の早熟栽培に好都合である等、裁多の自然的好條件を備へ、之が人的要素と緊密に結合され今日の盛況を見るに至れり、栽培反別は百二十町余、塩漬の沿岸石垣堤内を中心として、西方に延び奈多駅附近に達し、更に砂立谷側の緩斜面奈多西五丁の聚落附近一帯の高燥地に廣がり、尚、海馬鈴薯、大根種子、玉葱は水田の裏作として栽培されるものも相當ありて栽培面積はものと廣い理である。

主要蔬菜の栽培反別收穫高は別表の如し。

蔬菜作付反別及價格 (總價格三万八千四百円余) 昭和十一年

種類	作付反別	價 格	種類	作付反別	價 格
甘 藷	三五・五〇	一一・〇七六四	トマト	一・三〇	九七五円
馬鈴薯	二一・二〇	九・三二八	葱	五・八〇	七二五
玉葱	四・八〇	三・六〇〇	里 芋	二・五〇	六〇〇
白ウリ	八・〇〇	四・四八〇	漬 菜	三・〇〇	五四〇
西 瓜	三・〇〇	二・〇二五	無	一・五〇	四五〇
大 根	五・三〇	二・〇四〇	其 他		一・三七〇
茄子	三・〇〇	一・二六〇			

にして、一般作物の成育に適せず、唯甘藷及草蓍に適し昔より主として之を栽培せしむ、外國特の輸入以來大いに其の影響を受け、棉作が漸次衰退するに依り、甘藷作之れに代り以て今日の盛況を呈するに至れり、其の明証は十年より二十年頃の事なり。

然るに、近時関東地方より品質優良な甘藷が福岡地方の市場に現れるに至り、漸次高級品としての販路を失ひつゝあり、且又南九州地方より、早期の入荷により一層價格下落の突進にあり、故に品種の改善統一は目下の急務にして、村當局は右の事項により鋭意改善に努力しつゝあり、(イ) 栽培品種は在來種の改良の外、過去三ヶ年同本村農会の実地指導地の試験成績により、紅

奈多芋、奈多の芋掘りは

都市生活者の年中行事の一つに数へられ、其の聲價は古くから福岡地方に喧傳されたる。今日奈多蔬菜の水産を占め、栽培反別三十五町、價格一萬一千四、蔬菜全産額の約三割を占めてゐる。同地は極端な砂主に



図 所 倉 場 行 飛

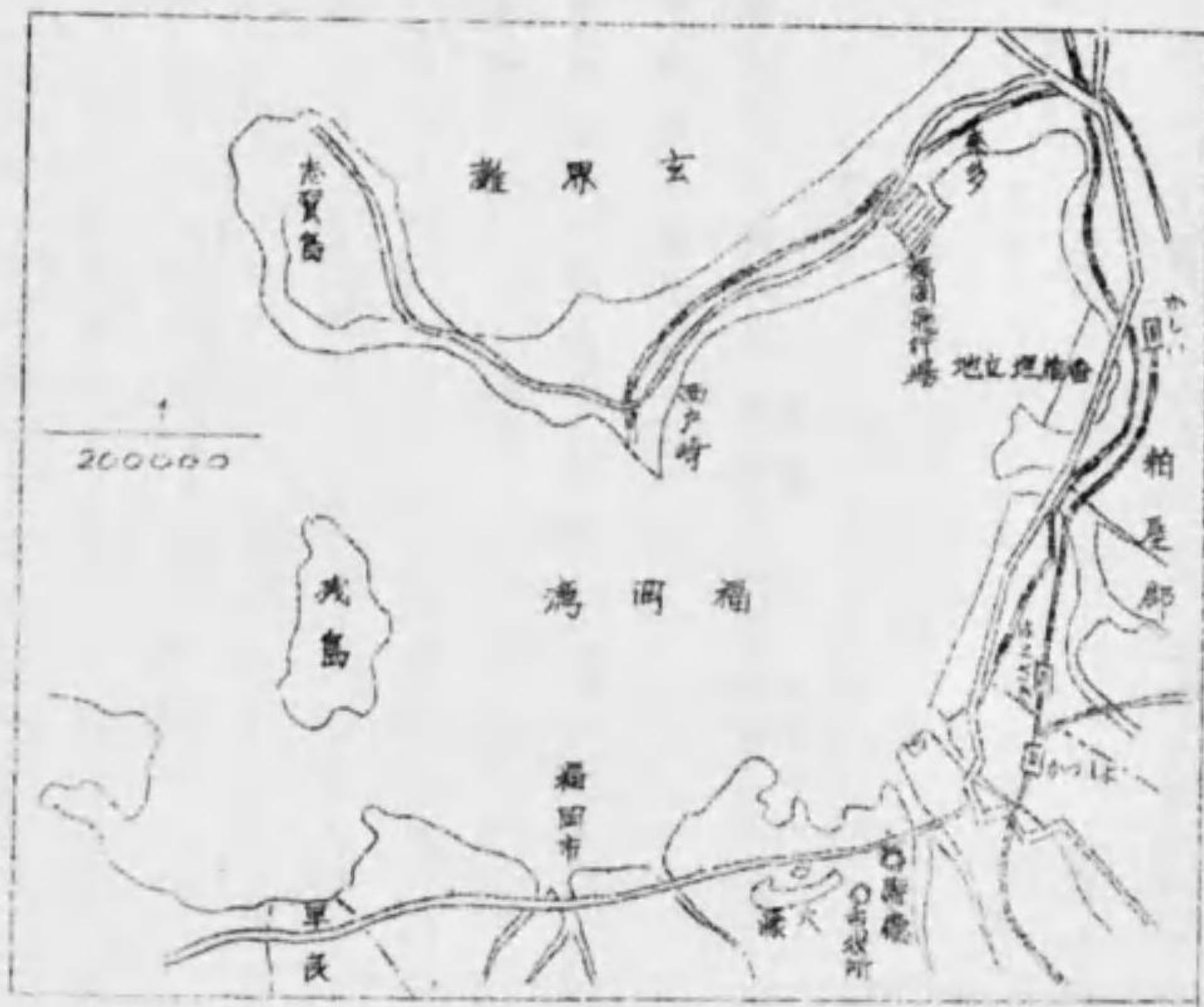


図 路 空 航



従来設備で済ん出来ず、こゝに於て昭和十一年水陸兼用の福岡第一飛行場の竣工を見る事となつた。この地は日本列島より大陸、南洋に對し、實に中絶的地位を占め、航空術の方面から眺めると何等の障りもなく、風向も申分ない、且つ又福岡市との連絡も坦々たる大道で僅か二十分しか要しない。是等幾多の好條件が雁巢の三角洲をして國際的飛行場になした理由である。

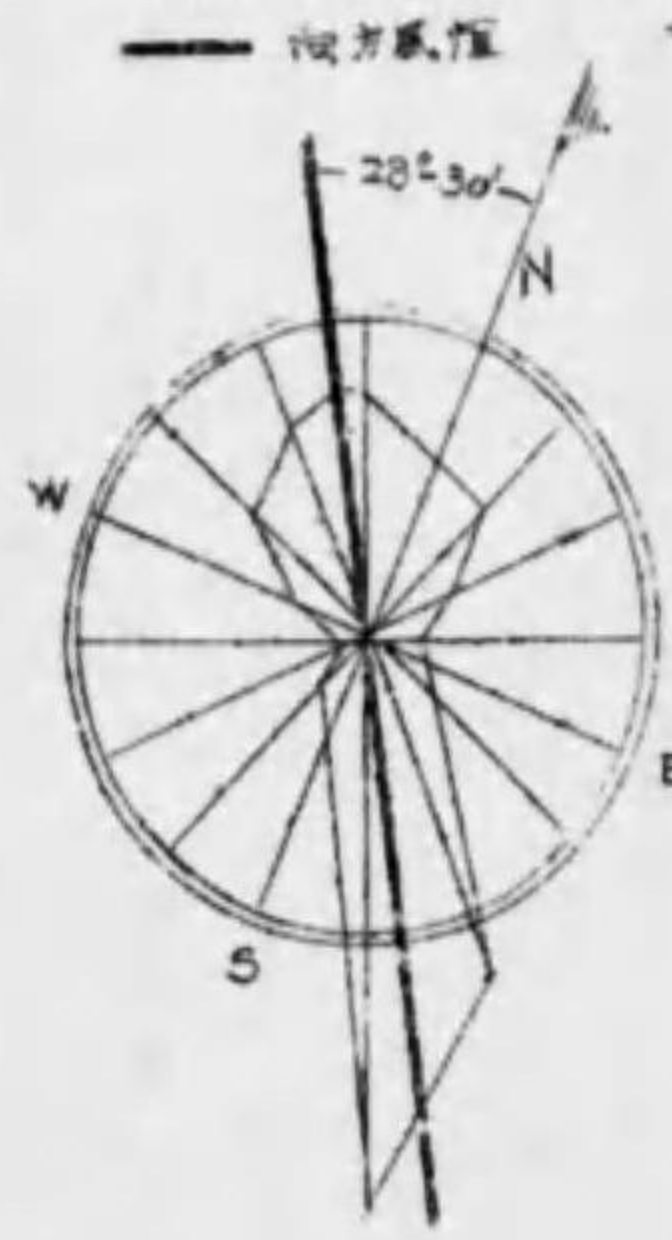
航空路の中心雁巢

日本航空輸送株式会社、昭和四年名島に水上飛行場を設置し、大分迄飛行場と共に東京、大連間の旅客郵便物の長期航空輸送を開始せり。然るに航空事業の飛躍的發展と、其の重要性とは、到

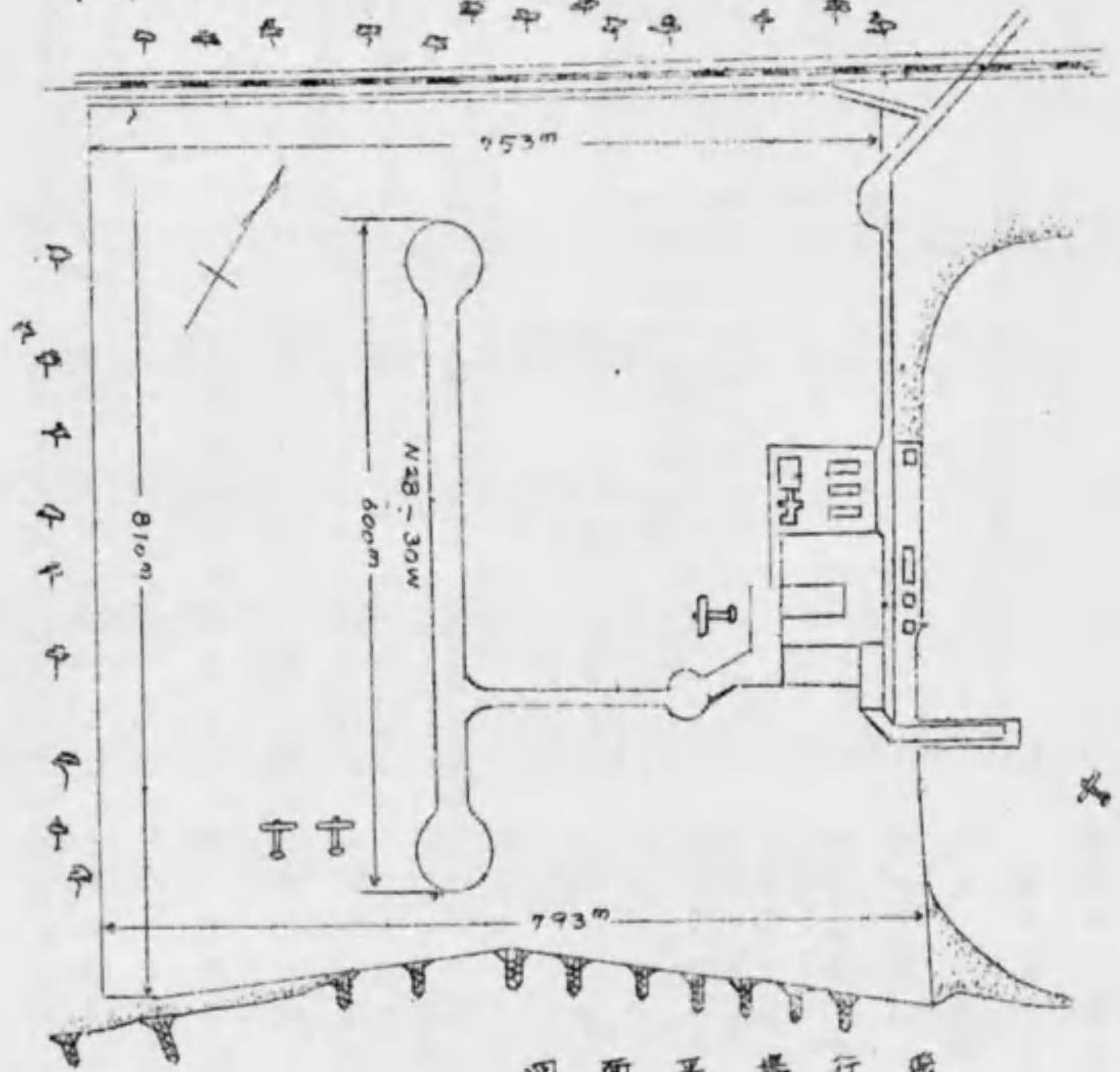
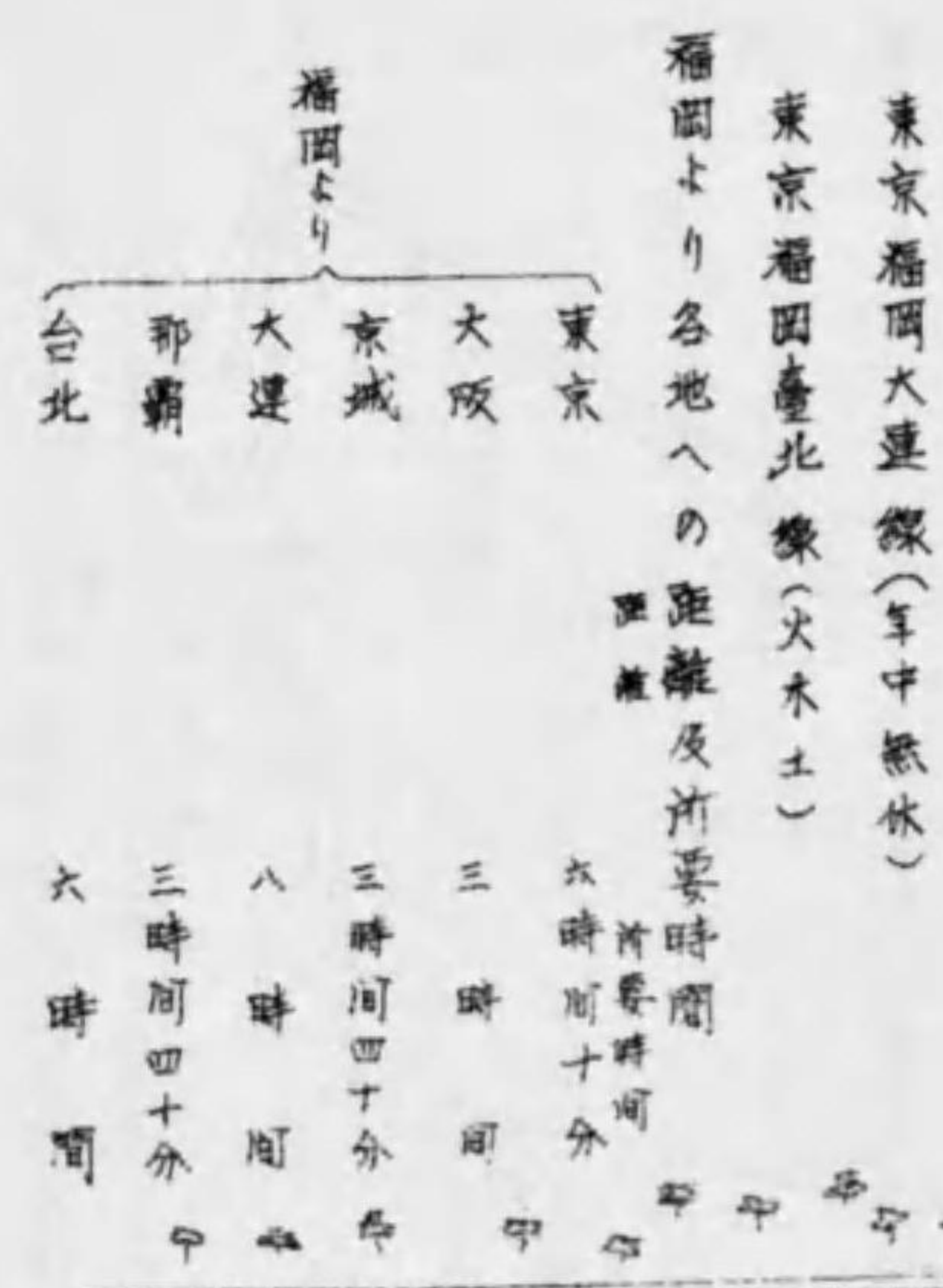
赤崎玉一号、尾ヶ崎種、鈴鹿紅赤種の三種を奨励する事。  
 四 岳質を向上し風味を佳化する事。赤草を使用せざる田圃に於ては、長かり二貫目以上の加里肥料を施肥する事。  
 五 早熟栽培を一層徹底させ、特に甘藷苗床の改良上、晩生種の増收を図る為、地味に惹いて長蔓式栽培を奨励すること等之なり。  
 和自の越瓜 福博地方に於ける新奈良農用越瓜として出荷の早きこと、形状太さの適当なことを以て知られた和自瓜は、價格四千五百円、甘藷、馬鈴薯に次ぐ主要蔬菜である。近時不統制の結果、稍廉價落ちたり、故に農会では栽培面積の統制により、過剰生産を防止し、共同採種の勵行により品種の統一を図つてゐる。  
 馬鈴薯 馬鈴薯の栽培は昭和七年頃より頗る盛んとなり昭和十一年度作付額別二十一町、價格九千三百円に達し、販賣蔬菜中重要な地位を占むるに至れり。之れが栽培については早熟栽培の普及、水田の裏作栽培の勵行、秋馬鈴薯の栽培勵行に努力せり。



風向風速図



航空路



昭和十二年前半期福岡飛行場の乗客数

一月	五三五人 (内女二九)
二月	五二〇人 (内女二六)
三月	五五〇人 (内女三二)
四月	五八五人 (内女三四)
五月	五四〇人 (内女四二)
六月	五八〇人 (内女四〇)
七月	六四〇人 (内女二五)

半農半漁の奈多

海岸砂丘の緩斜面に地した奈多は卓越風を巧みに逃れ、波濤を博多灣に面し、見るからに平和な聚落である。戸数は三百四十六戸人口二千余人、職業別を見るに農業百十五戸、漁業百十九戸、商業五十戸が主なるもので所謂半農半漁の聚落である。

奈多の漁業 奈多漁業組合は明治三十五年の創立である。大正八、九年の好況時代には生魚の産獲高年間十万円に達し、漁村経済は頗る好調であった。然るに其後戦界の不振と、漁獲物の減少により産額半減し漁業家の経済急迫せり。故に漁村更生の方法として、雑穀を遠隔の地より買ひ集めて之れを加工する味醂干製造が始まり今や産額二万六千円(昭和十一年)の水準加工品を出し産獲高の減少を補ひつゝあり。

昭和十一年度産獲高四万四千円、味醂干二万六千円、計七万円に達せり。

漁具漁船 駆動機を有せざる漁船八十一隻、駆動機を有する漁船十一隻、合計九十二隻。



漁獲物價額(遠洋漁業を含まず)総四万六千円(昭十一)

種類	價額	種類	價額
鰯	一、九七〇円	鰯	一、八〇〇円
鰹	七、九五〇	鰹	一、七〇八
鰯	四、五〇〇	鰯	一、〇五〇
鰯	三、三〇〇	鰯	一、〇〇〇
鰯	三、四五〇	鰯	一、八一〇
鰯	二、五三〇	鰯	四、五〇〇

主なる漁具の種類数量次の如し。

種類	数量	種類	数量	種類	数量
鰯	一〇〇	鰯	五	鰯	二
鰯	一五	鰯	一五	鰯	二
鰯	八	鰯	五〇	鰯	四
鰯	五	鰯	八〇	鰯	五〇
鰯	二	鰯	五	鰯	四〇
鰯	二	鰯	五	鰯	四〇
鰯	二	鰯	五	鰯	四〇
鰯	二	鰯	五	鰯	四〇

以上が奈多に於ける漁業の一般である。漁業組合では今後には於ける漁業更生策として、築碇事業、沖漁業の奨励、小型乗動機船の増加、浅海利用の合理化として、蛤、牡蠣の養殖奨励、漁業組合の金融、石油、網、カーバイト、炭、釣針等の共同購入、水産教育の普及徹底等各方面に亘つて更生策を講じてゐる。

和自のむころどころ

砂丘を背にした三岳、奈多と共に砂丘地に於ける墾殖立地の代表的なものである。奈多の半農半漁に對し、こゝは古の杜若の水田に依存した純農村である。戸口六十五戸内五十六戸が農業をや

つてゐる。

溜池の多い和自 溜池の多いのは瀬戸内一帯であるが、和自村にも、それに劣らず大小三十余の池があり、本村耕地の大部分はこの溜池によつて灌漑されてゐる。大きな川のない、又雨の累のない地方の一景観である。

塩産地の生産物(葉) 塩産区、奈多区の舊塩田畝の一部には盛に葉が繁殖してゐる。従来厄介視されてゐた。この葉は、近頃縮輪産の海苔干用簾の原料として重宝なものとなつて来た故に養蚕の支障とならざる範囲に於て之が繁殖を計つてゐる。

喜はせる奈多の江切り

宇美志免方面の入を喜はせる奈多の江切り 八月頃宇美志免方面を歩くと、到る處の電柱に奈多の江切りの廣告が配布してある。奈多塩浜の石垣内にある小瀬は、鰯(ホラの時期)の養魚場として利用されてゐる。八、九月頃この池を一般に開放し、使用する網の大小によつて、代金を徴収する。これが有名な奈多の江切りである。江切りの収入は總て、奈多区青年の基金になつてゐる。この際女子青年團も辨當菓子を賣り相當の収益を上げるやうである。

奈多の七不思議 一、火事がない。二、盗難がない。三、砂が物言ひ。四、歩が歩む。五、波の音が聞へぬ。六、難産がない。七、穴蜂がゐない。以上。大正二年の大旱により其の一つ失格せりと、良く考



へて見ると砂丘地であることが、其等と関係がある様である。

近頃奈多の名物となつた味醂干 原料は、小鯛、キス、サヨリ、真鯛、河豚等で、朝鮮近海で獲れたものが樽多に集まり、それが奈多に送られ、製豆となつて再び樽多方面に出る。この土地に味醂干製造の起つたのは今から十数年前で其の動機は、奥村更生の方法として獲獲物以外に收入を求めることにあつた様である。それに原料供給、販賣市場、消費で乾きの良い砂丘地等、幾多の自然人文上の有利な点が結合したからである。製造所は四ヶ所製豆価格二万六千に達してゐる。近頃は原料不足で下関や宇組、長崎、佐世保等の遠方からトラックや汽車で仕入れるに至つた。従来製品は主として樽多に送つてゐたが、此の頃は門司、久留米を始め九州一帯の外販神方面に出出す。

行樂地として賑ふ奈多 春は茶、貝掘り、夏は海水浴、秋は芋掘り、國際飛行場等、近頃福岡市の行樂地として鶴崎沿線中最も人出の多い處となつた。

白砂青松の海岸は、関東の湘南地方に對し福岡及び炭田地方の大休養地と云つてよい。近頃志免方面より奈多赤と称する、割引券による家族連の遊覽者が特に目立つて来た。

新宮地方

新宮地方の地形 葵川(新入川)の川口より、北方花鶴川に至る三軒半の間に播一軒の砂丘が横

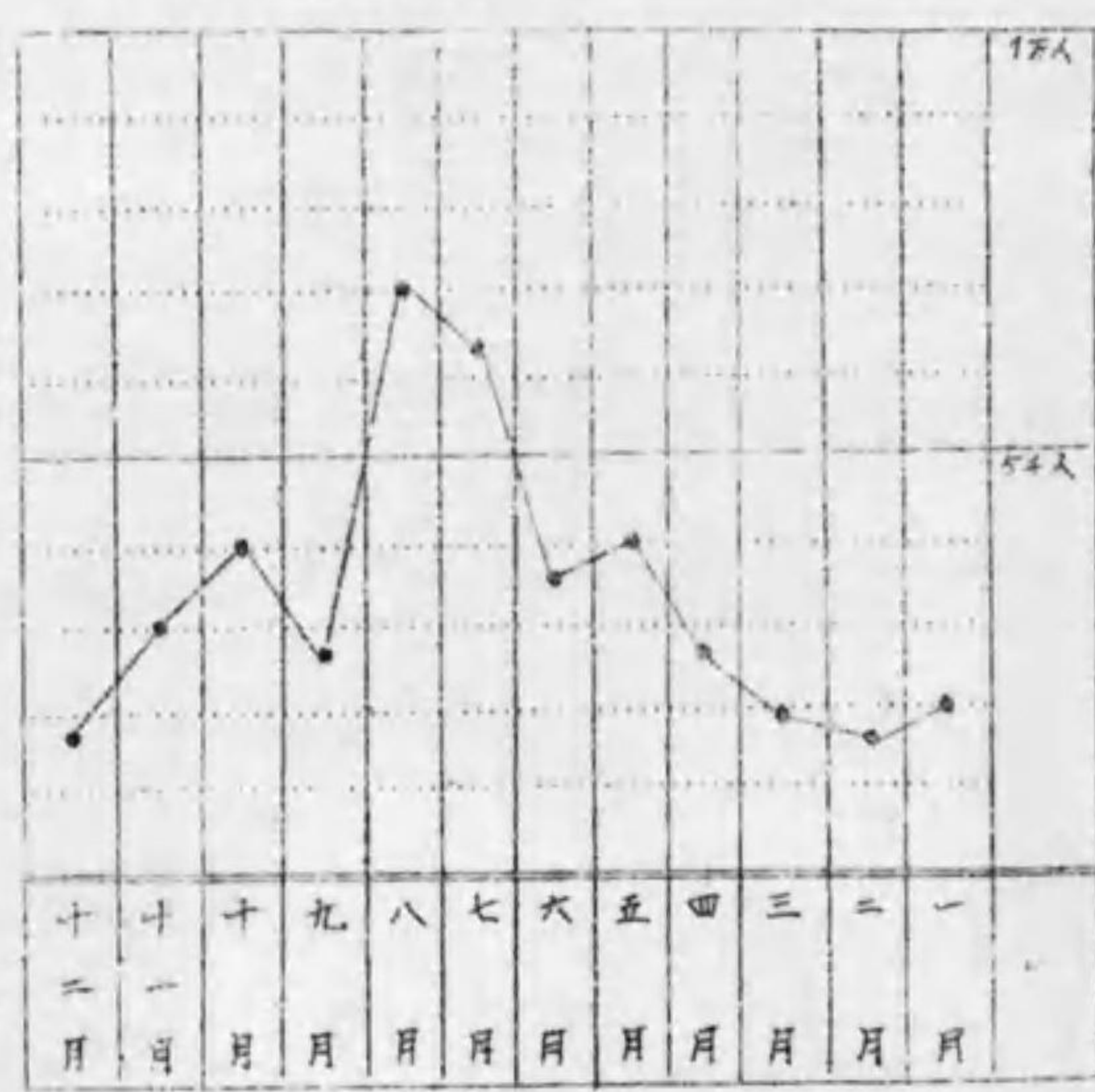
たはへてゐる。砂丘の内側には、新宮平野が掌狀に丘陵間に延びてゐる。元の海は現在の千疊牟田の潟湖(今は埋地)深田郡落附近の丘陵末端を流つてゐたものと思はれる。然るに沿岸流によつて運搬された砂は、北西岸颯風の急め次第に湾頭に堆積し、終に現在の如き幅一軒もある大きな砂丘を造つた。舊海岸に沿つてゐた低地は其の爲余り口を塞がれた平野となり葵川の如き大迂回を餘儀なくされてゐる。

砂丘地は今殆んど松林となり死砂丘になつてゐる。而し新宮郡落の北方にある砂丘は最近まで活砂丘であつて、磯崎神社の鳥居を半ば以上も埋めてゐる。塞がれた舊海岸平野は夜田川の新宮第一の農業地になつてゐる。上の海の名残である千疊牟田も遠からず姿を消すことであらう。

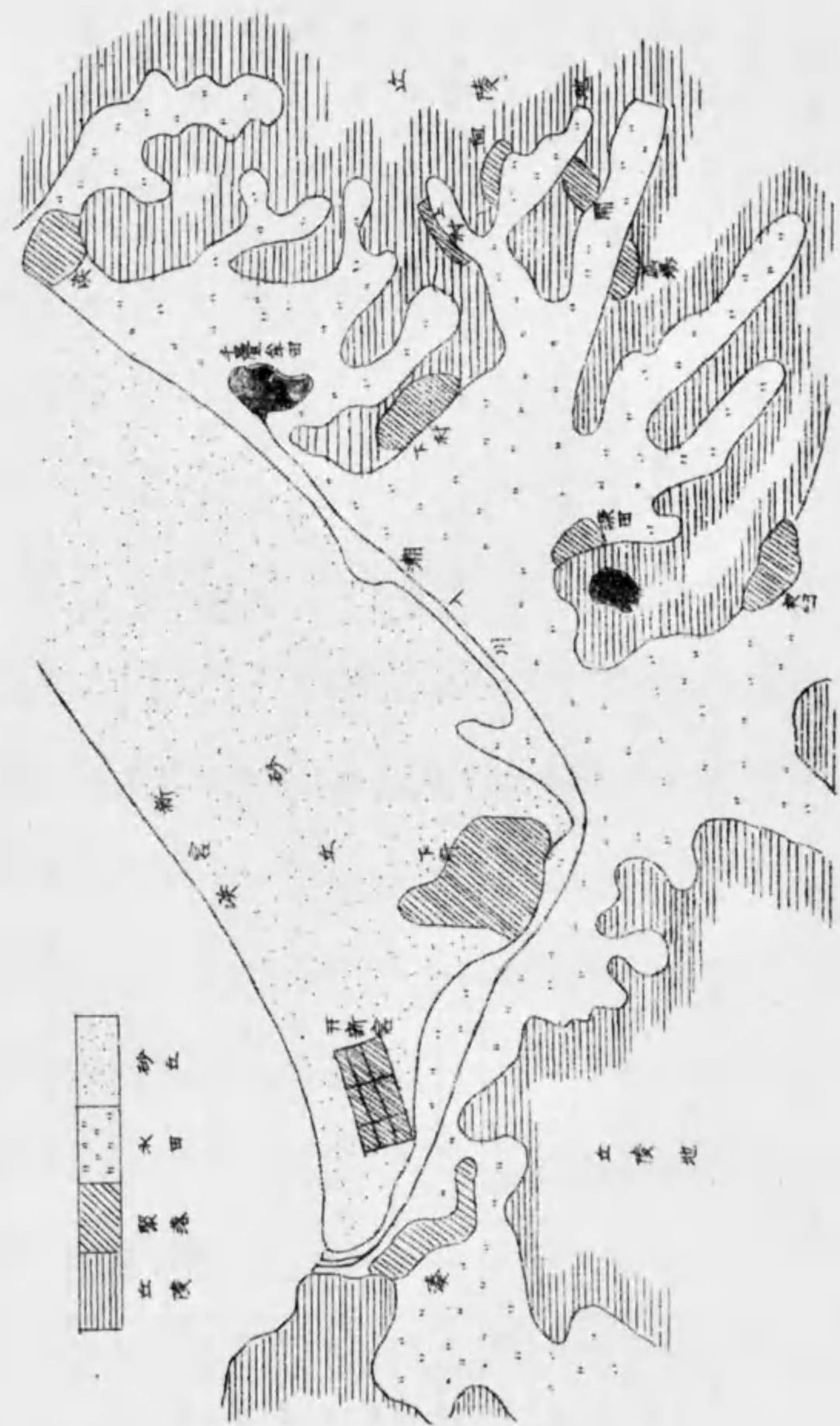
新宮茶

砂丘地利用の一方法として、新宮茶一軒の懸崖を砂地に茶が盛に栽培され新宮茶

(地質行型夏) 夏人量降取







の名は福岡地方は勿論、遠く北九州筑豊炭田地方にまで知られる様になつて来た。この新宮茶の起源は、余程古い本格的に栽培される様になつたのは、大正六年頃からである。即ち茶の栽培が古氏が博多興の堂加野熊次郎氏より苗を貰ひ受け、専心之が栽培を研究し、又一方販賣方法等に就いても研究した結果可成りの成績を上げ、大正十三年頃より福岡の市場にて取引せらるゝに至り、然し未だ風味、容器出荷の方法等に就きては改善の余地尚存したり、其の栽培一般も從來殆ど荒地同様に見られ居た、砂地利用として十分其の價値を認め次第に栽培者を増すに至り、こゝに於て村委員会昭和三年新宮茶組合を組織し、極力栽培の指導奨励に乗り出した。故に生産に品質に一般の向上進歩を見、新宮茶の聲價を挙げたり。

出荷方法は極めて簡單な木製折箱へ巾三寸長サ六寸深サ一寸のものに茶の葉を敷き、其下に二十個内外を詰め上に丸形のレッテルを添へ、箱には新宮茶と捺印し、其の箱を更に横に二箇、縦五箇並びに大箱に詰め、凡そ五枚重ねて荷造りをなす。

下府支那に於ては、昭和七年より共同出荷をなし、検査員三名を以て午後六時より午後九時迄に出荷品を受付け、品質の良否により之を等級に分け、販賣價を以て自動車汽車便により、門司小倉八幡戸畑重方飯塚伊田福岡と各市場へ、出荷してゐる。

茶摘みは毎の最盛期市場出荷調節の方法として開園し、一籠二十五鉢内外で自由に摘み取らせ、之れが即ち新宮茶で、福岡地方より子供連れの客が多く初夏の新宮は賑やかである。



この季節には博多湾鉄道も連絡切符を発売する等便宜を計つてゐる。  
 砂立地には、葦の外従来より桑が盛んに栽植され養蚕も中々盛である。砂立地利用として桑を栽培することは最も確実な行き方ではないかと思ふ。近時石の化熱と陽光を利用する石垣栽培をやつてゐるところもある。

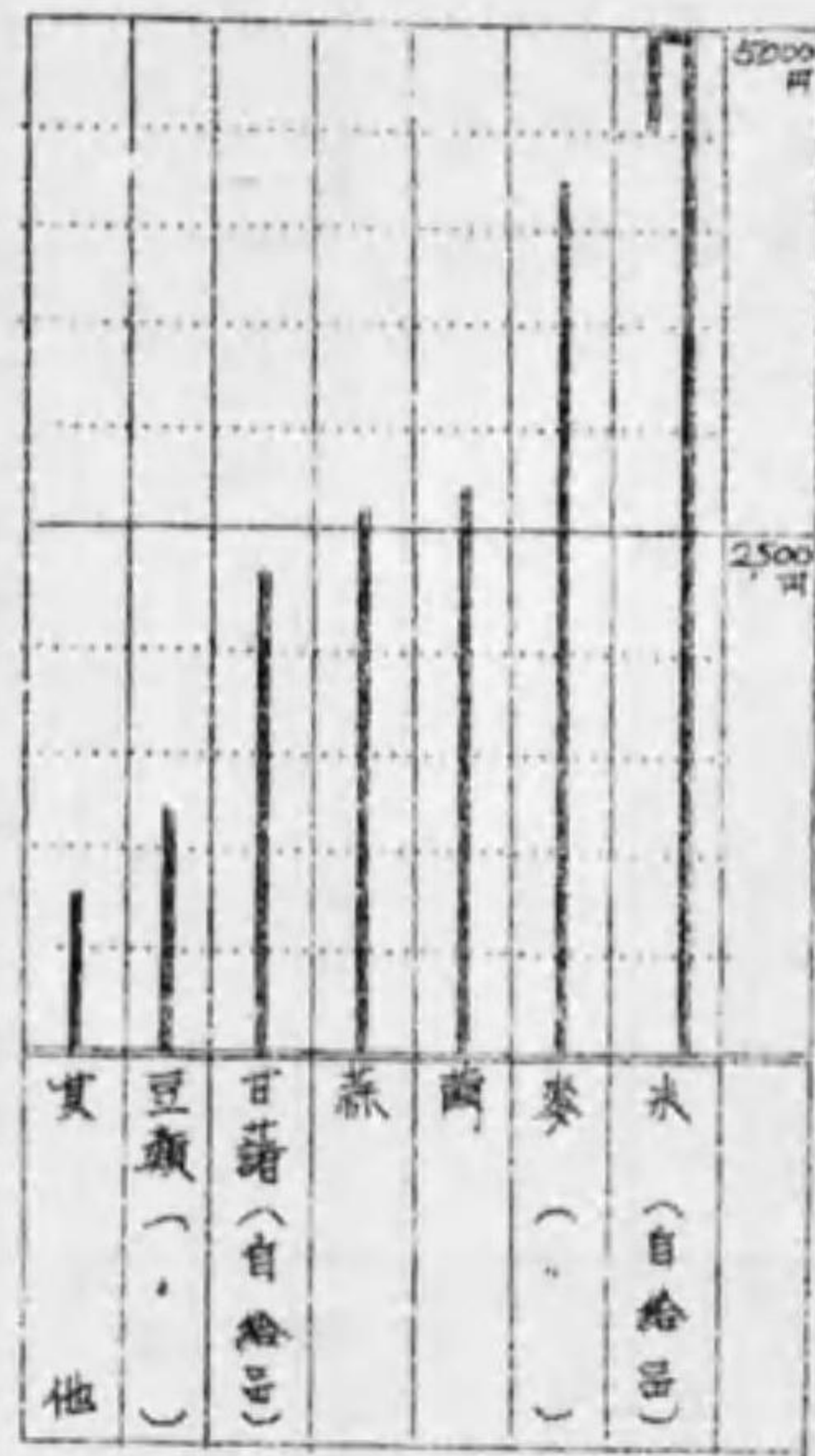
水産中心の相島

砂立に埋没された島后で知られた新宮坂の北面八軒の村合にある島が相島である。東西二軒、南北一軒、周囲六軒略々三ヶ月形をなす其の入江に相島浦の聚落が存続してゐる。相島浦は玄海中に於ける舟遊難港であり、三疊、朝鮮兩征伐の時にも多数の軍船が立ち寄つたとの事である。又朝鮮からの使者も度々立寄つたと傳へられ此である。相島の戸口は、二百三十三戸、人口千三百人余、人口の自然増加は頗る少ない。昭和七年以降昭和十一年迄の五ヶ年間に、僅に七十二人の増加である。こゝに相島の自然人文の著しき制約的關係が見られる。

相の島の職業別戸数は全戸数の六割が漁業で之に農業と農業商業の兼業を加へると實に八割三分に達し、殆ど全島民が漁業によつて生活してゐることになる。(農業一三八、漁業農業五五、漁業商業三、農業商業三、商業三、工業六、小學校教員八、僧侶一、雑業一五、以上二百三十三戸。)

相島の耕地面積水田八町、畑五十町歩、水田少ないは地形・灌漑水の缺乏からである。一方台地及び緩傾斜な山腹は到る處開墾され畑の面積は相當に廣いが、其れにしても食料の自給自足は困難で、毎年五百石内外の米を他方から買ひ入れなくてはならぬ。この支出を如何にして補ふか之れが此の島の経済活動の中心となつてゐる。

農産総額は  
 一万九千五百  
 円にして、全  
 島総生産價格  
 の二割にも滿



たぬ。主なるものは、米、麥、甘藷、豆類、ニンニク、蕎麥等畑作物が虫になつてゐる。内米、麥、甘藷、豆類は自給品としてこの島から持出すことが出来ない。只蕎麥が移出される唯一の産物である。森は風の強い台地上の作物としては最も適したもので年産額二千七百円に達してゐる。



る。

水産業が此の島の経済の基礎をなしてゐることは、今更云ふまでもない事である。獲獲高八万八千円（内一千四百円が加工品）に達し、本島総生産額の八割を占めてゐる。相島獲獲物の販路、種類、販賣高を示せば次の如し（昭和十年度）

販賣地	販賣高	歩合	時期
博多	四七、三〇五	七〇・二%	周年
姫浜	三七五〇	五・二%	至乃八月
新宮	二、〇〇〇	三・〇%	至乃八月
津屋崎	一、一〇〇	一・六%	至乃九月
稲間	五、〇〇〇	七・四%	至乃十二月
若松	一、八〇〇	二・七%	至乃四月
戸畑	二、四〇〇	三・六%	至乃四月
下関	〇、八五〇	一・二%	至乃四月
本島内	三、八〇〇	五・四%	周年

相島渡航

船名 相島丸（四噸六馬力、速力七・五哩、従業員四人）

回数 四月より十二月 二往復 十一月より三月 一往復

渡航人員 新宮着 一ヶ月平均百二十人 新宮着 一ヶ月平均百二十人

貨物

相島へ 米五〇〇俵（年間）酒、醬油、味噌、木炭、藁、野菜

相島より 炭をバナナ籠に 千個余り

旅客貨物運送収入 一年間約千二百円

市内地方

砂丘上の工業町古賀 花鶴川の下流の屈曲部より、省線古賀駅博多湾鉄道新古賀駅の間、副道に於いて設置してゐる古賀は、工業町として粕屋郡の代表的聚落である。明治十七年頃の古賀は花鶴川の辺、林善寺、大石神社の附近を中心として、戸口百五十戸、人口四百八十人を算する純農村であつた。然るに明治二十三年、今日の鹿児島本線が開通し北方の松原に古賀駅が開設された。之れが古賀発展の第一期である。爾來古賀の中心は漸次古賀駅附近へ移動し、汽車の乗降客を相手として飲食店、宿屋が出来始めた。又市内小野青柳方面を後背地とした商業も盛まられる様になり、従來の松原は更に商業街となつて来た。元國道筋大

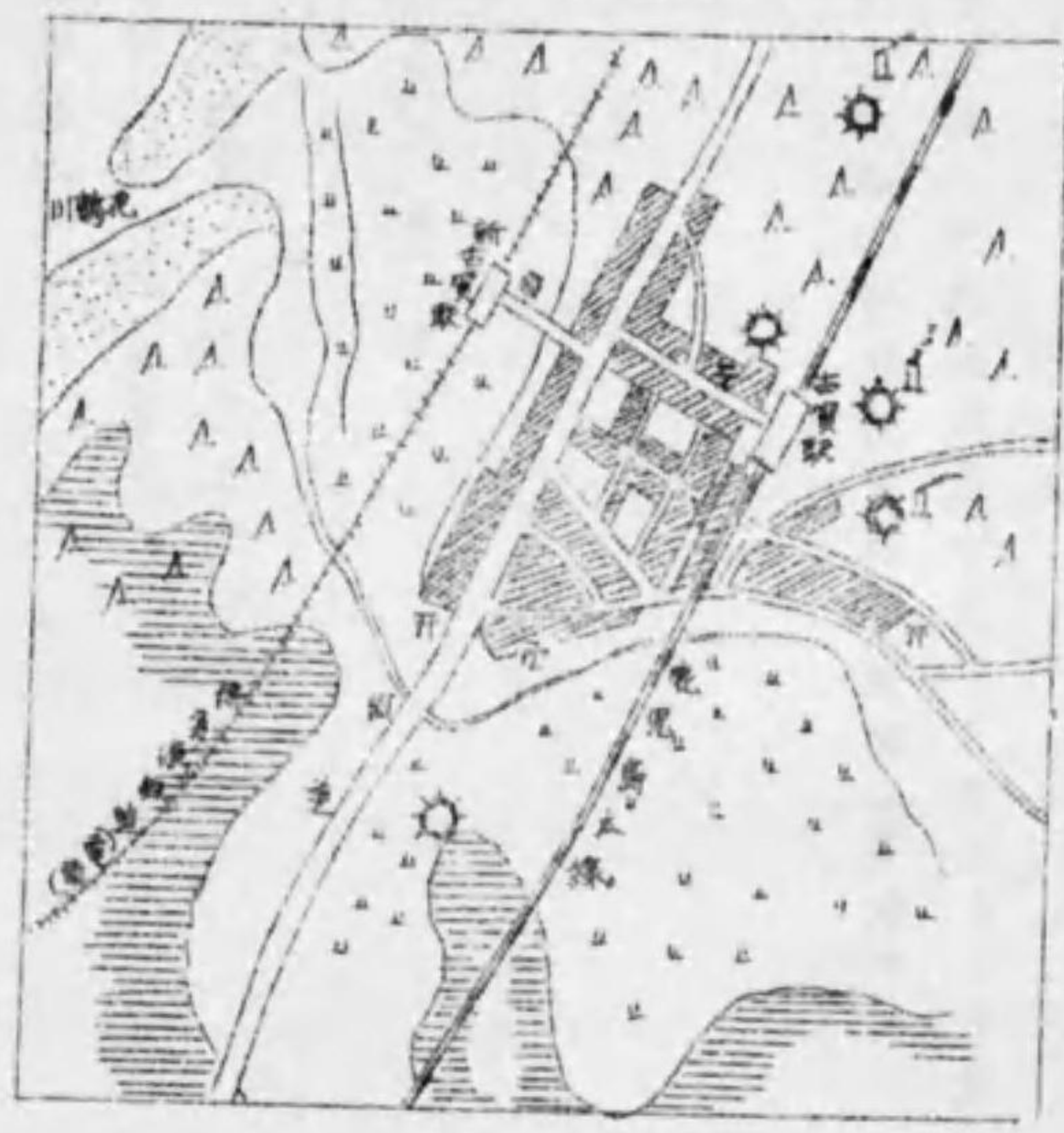


石神社附近にあつた郵便局も、大正九年現在の地に移転せり。  
 古賀祭辰の第二期日明治の末期より、現在に至る間の各種工場が設立移転、及び大正十四  
 年博多湾鉄道支線の開通による新古賀の開成にある。  
 此の地に各種工業の設立された理由は、先づ交通の便利なること、水を得易いこと、此の砂

明治三十三年頃の古賀



今日の古賀



立地一帯は古の沼澤地に入江で、水質は余り良好ではないが水量は豊富である。第三砂立地  
 の地價が安いこと等である。今や古賀は田舎としては稀に見る工業聚落と化し、戸口三百三  
 十四、人口一千四百、近、町制を實施すべく申請中である由。  
 工場の概略を示せば次の如し。

創立明治四十二年従業員六十四名

製品 農具機械(脱穀機各種、捲取型製糶機各種、巻取型製糶機各種、無音脱仕上機、  
 各種、最新除草機各種、無音運搬機各種等。

販路 日内地各府縣及び朝鮮

日本調味料株式会社

創立 大正八年(最初資本金為韓鎔限の豫定たりしが後地買収の關係でこの地に決定)工  
 場敷地一万二千坪、従業員百〇八名

主たる製品

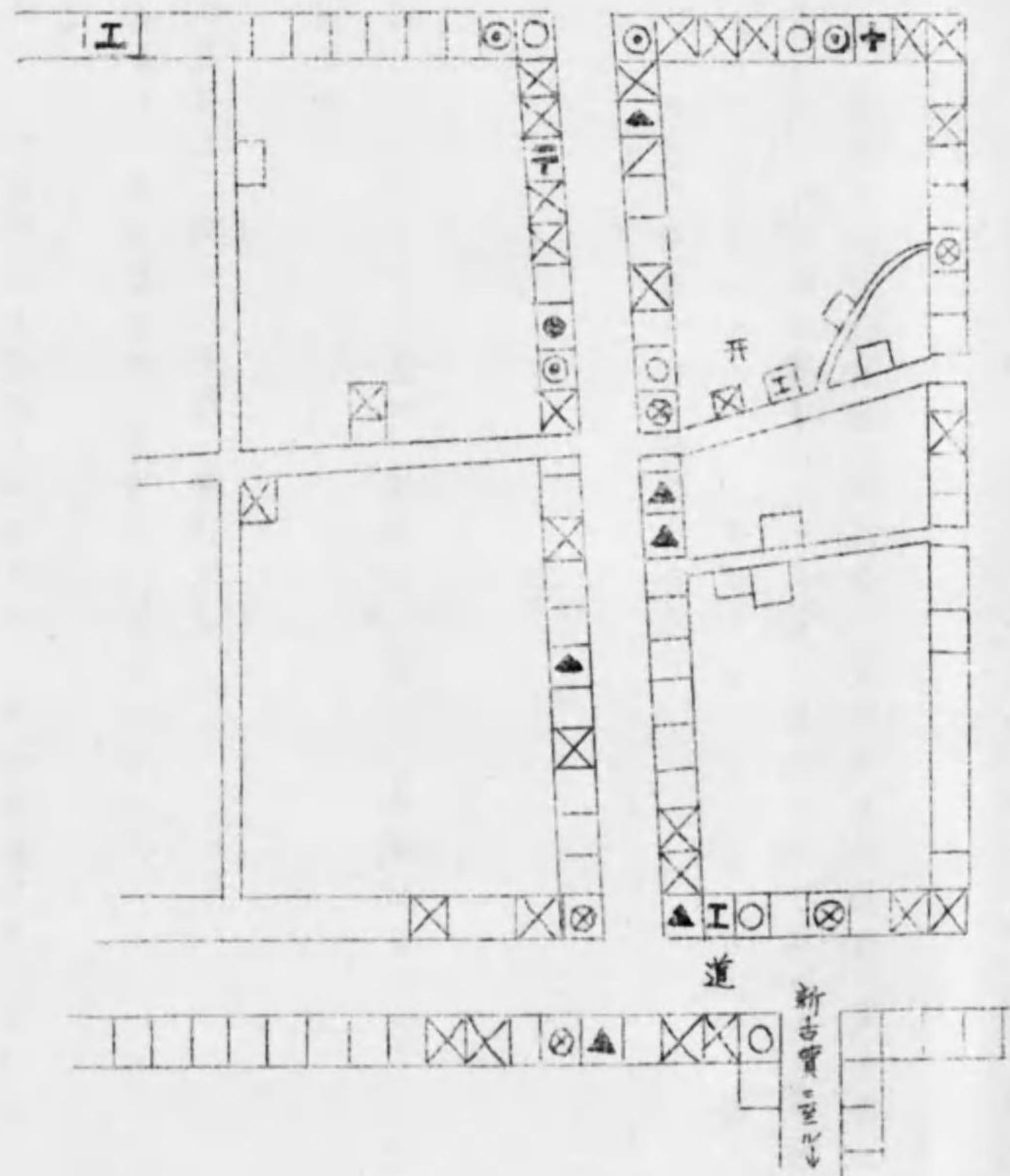
- |    |       |       |     |       |         |
|----|-------|-------|-----|-------|---------|
| 醬油 | 二万八千石 | 六十万円  | 味噌  | 八十五万貫 | 二十九万七千円 |
| 酢  | 三千石   | 三万五千円 | ソース | 二千石   | 九万五千円   |
- 販路 九州一帯、本州は廣島以西朝鮮滿洲台灣南洋  
 原料品の仕入先 大豆(朝鮮、満洲)、小麦(熊本、佐賀、兩縣及福岡縣筑後地方)



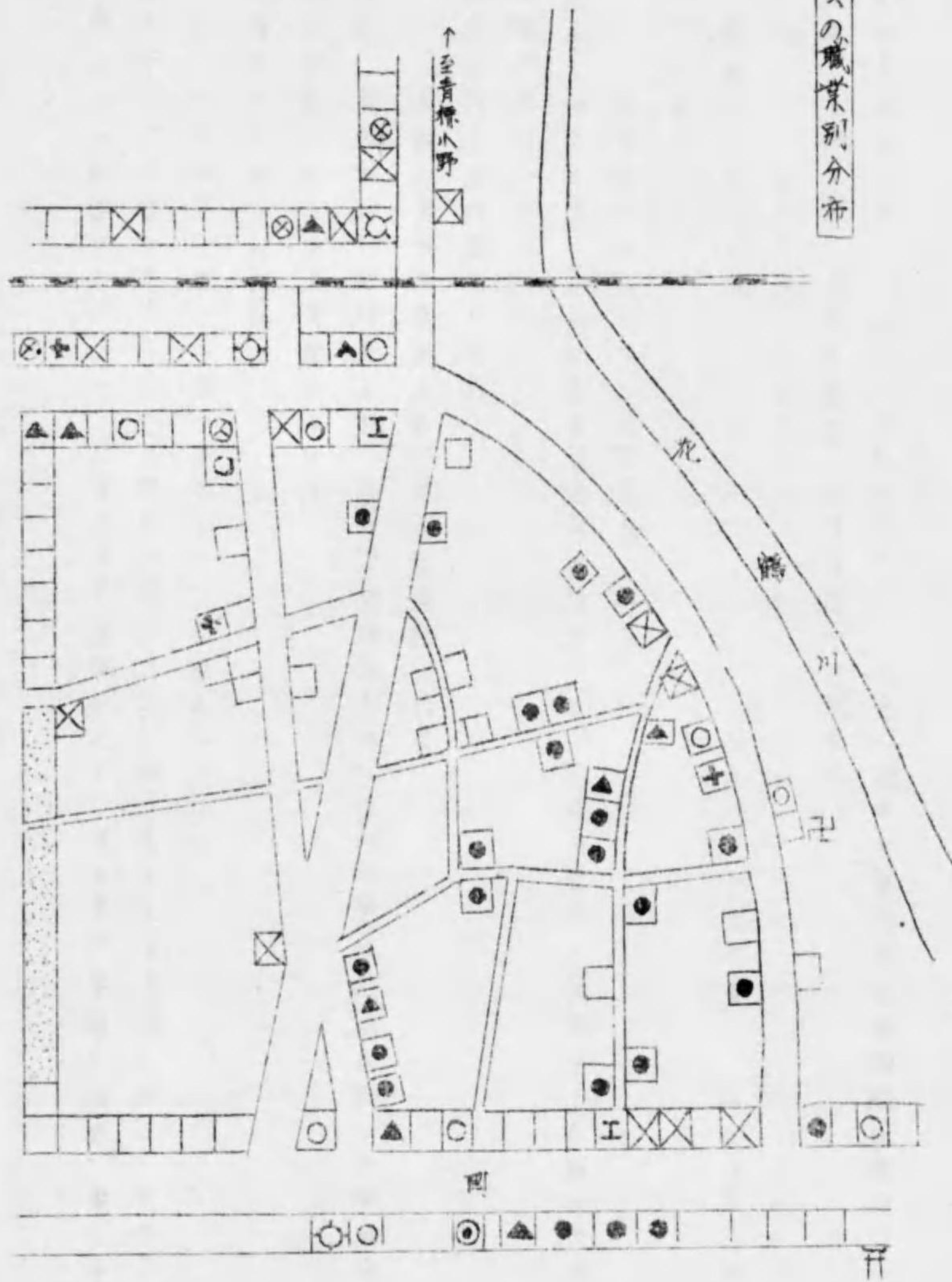
- ⊗ 飲食店料理屋
- 菓子煙草店
- ◇ 自産草屋
- ⊙ 農
- ⊖ 宿
- ▲ 食料品日用雜貨店
- △ 其他の商家
- 工 製成物木前
- + 街
- 〒 郵便局

線水高尾鹿

駅貨古



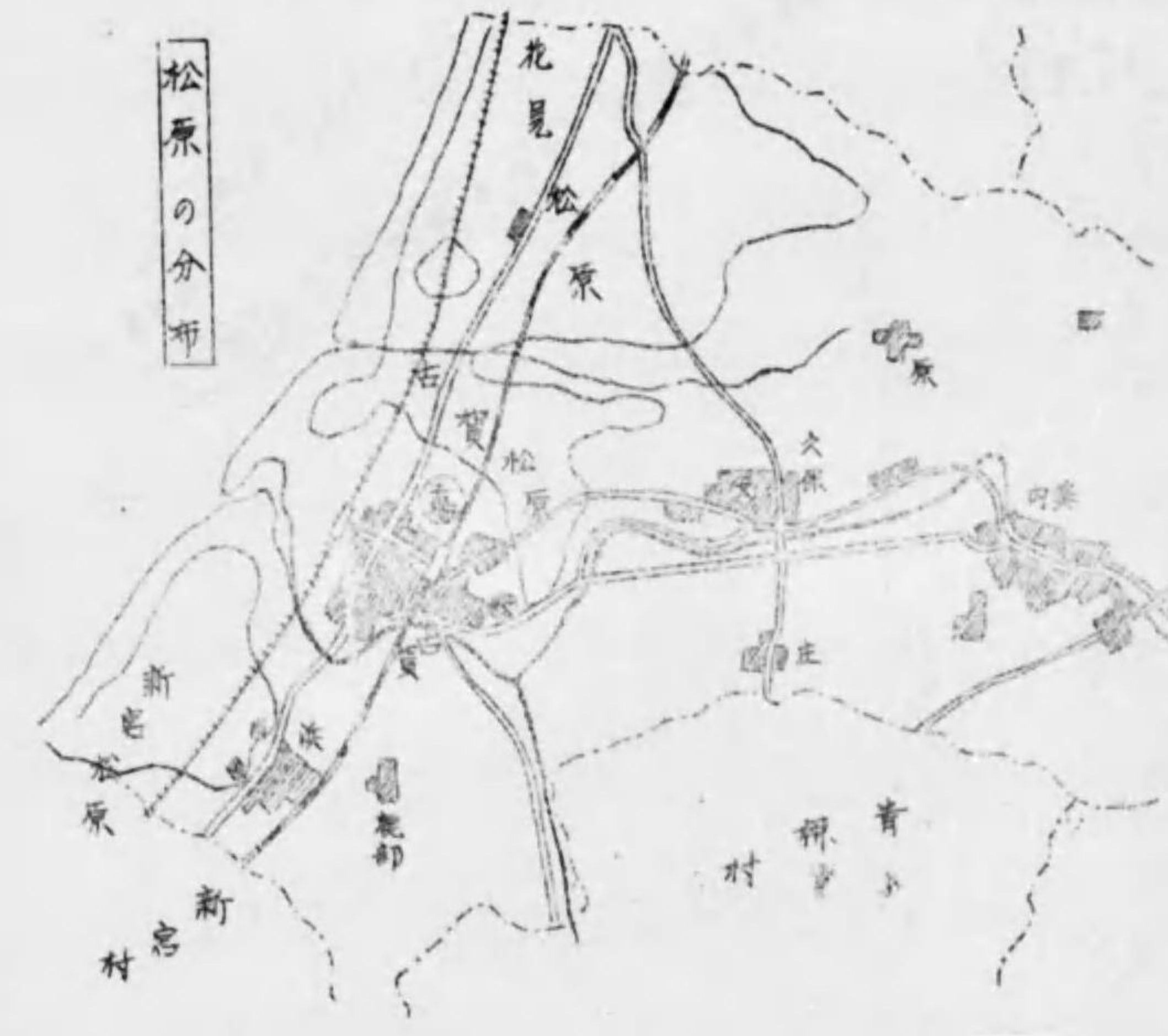
古賀の職業別分布







最も多い。



米 (熊本佐賀兩縣 産 (専賣局))

阿部鉄工所

創立 大正三年 (吉塚にありしを昭和九年現地に移転せり) 従業員三百名、敷地二万二千年。

製品 (阿部式車轂付運搬具並に傳道装置機、軍需品、製産高百万円)

取立 陸海軍軍需部、各炭坑鉱山、満洲、朝鮮、鉄道河原

西工場

創立 昭和十一年従業員四十名。

製品 軍需隊へ軍機の手入布として送る。只満洲、満洲北支等に工場機械手入布としてマ

輸出。

原料 ポロ布、古着。

高千穂製紙工場

資本金三百万円マオラン会社の機を利用目下建設中なり。

古賀區の職業別を見るに商業七〇戸、農業四十八戸、工業四十三戸が主なるもので、商工業町と云へる。其れ等の分布は舊古賀の部は殆ど農業にして古賀の発展により開けた古賀駅一帯は全部商工業家になつてゐる。商業の内は飲食店、料理屋、食料品日用雜貨、菓子店が







青柳地方

宿場町として昔栄へた青柳町

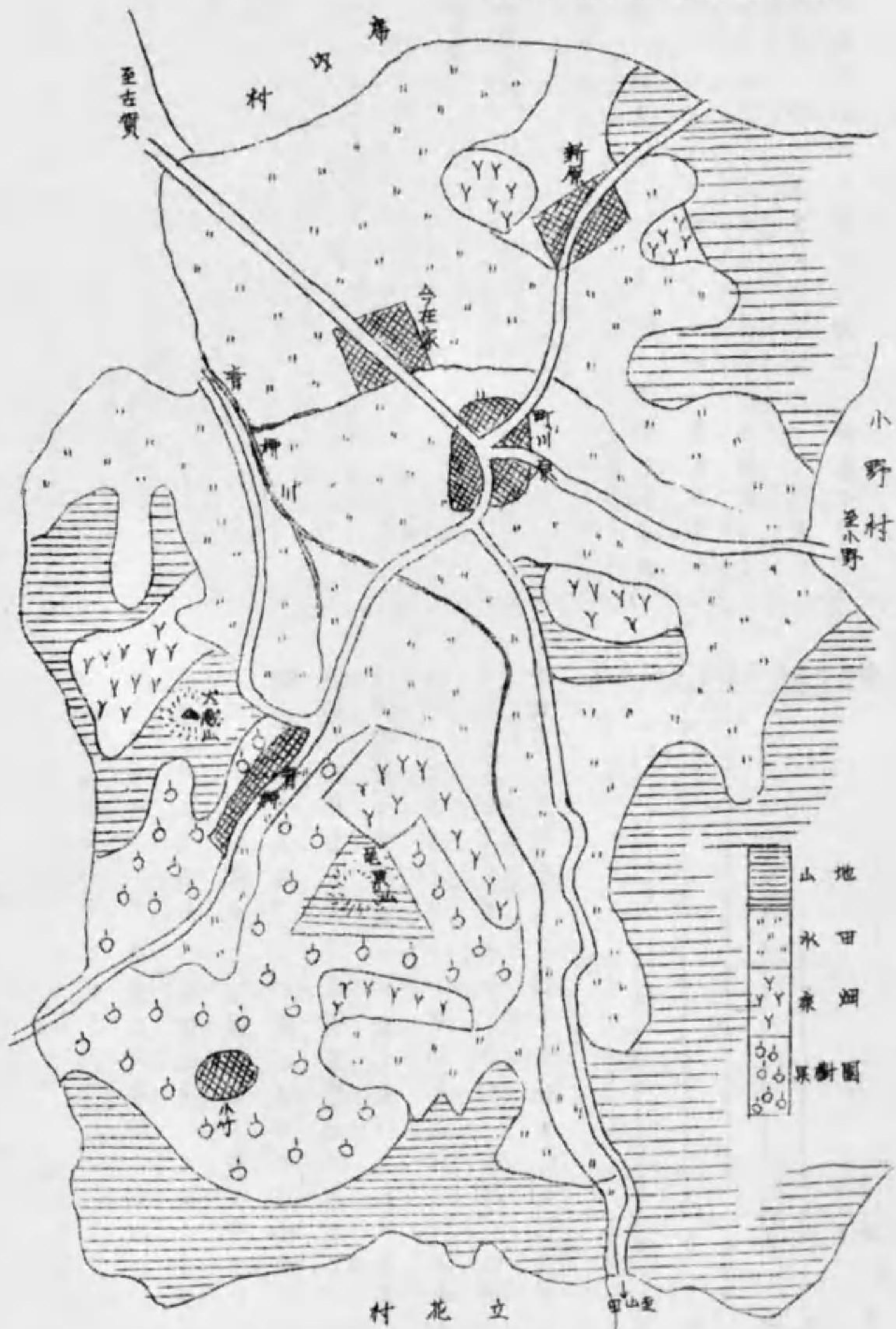
青柳村大字青柳町及び川原は舊幕時代、筑前二十一宿の一つで當時は旅客の往來頻繁にして旅館商家軒を並べ、假殿を極めたる所なりしも幕末運搬及び國道の変更の爲め次第に荒れ、今日は全く昔日の面影を存せざるに至り。

本宿場は、藩主及び肥前肥後薩摩筑後の諸大名並に幕吏往還の林宿の爲設けられしものにして、宿の中央には藩主の別館あり附屬舎もありて、之れを茶屋又は本陣と称せり、宿の出入口には馬を繋ぎて馬口を設け宿内には上下の町茶屋、御屋、問屋等あり、町茶屋は又冊本陣とも称し士族の宿するをも許されたり、御屋は御内庄屋の集會する所にして馬屋舟を運り、問屋は常に役人入足等詰切り、藩主諸侯其他旅客上下の用を辨せり、尚此の外に牢屋茶屋、奉行宅等の建物もありしと云ふ。

青柳町川原の戸数は百三十六戸、人口六百九十三人職業別は農業五十八戸、商業十八戸、雑業十五戸、其他四十四戸なり。昔の宿址附近の職業別の分布前図(元八九頁)の如し。

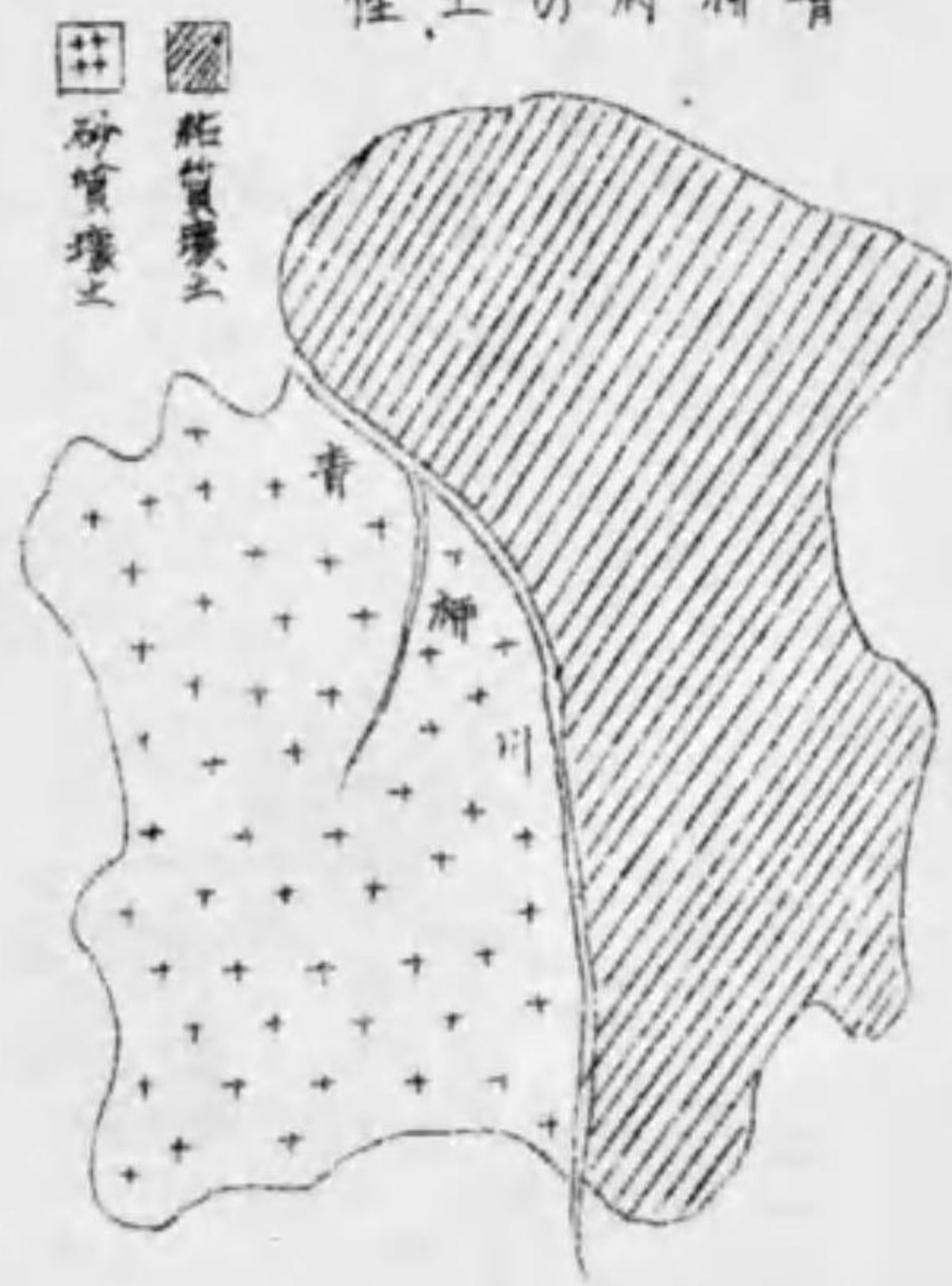
此は農業南は國道の青柳村 青柳川を境とし北半は地勢平坦にして粘土質の土壤より成る。青柳川、谷山川により深く灌漑され水田連り米、菜種、桑、麥等の農産頗る豊富にして北

青柳村土地別



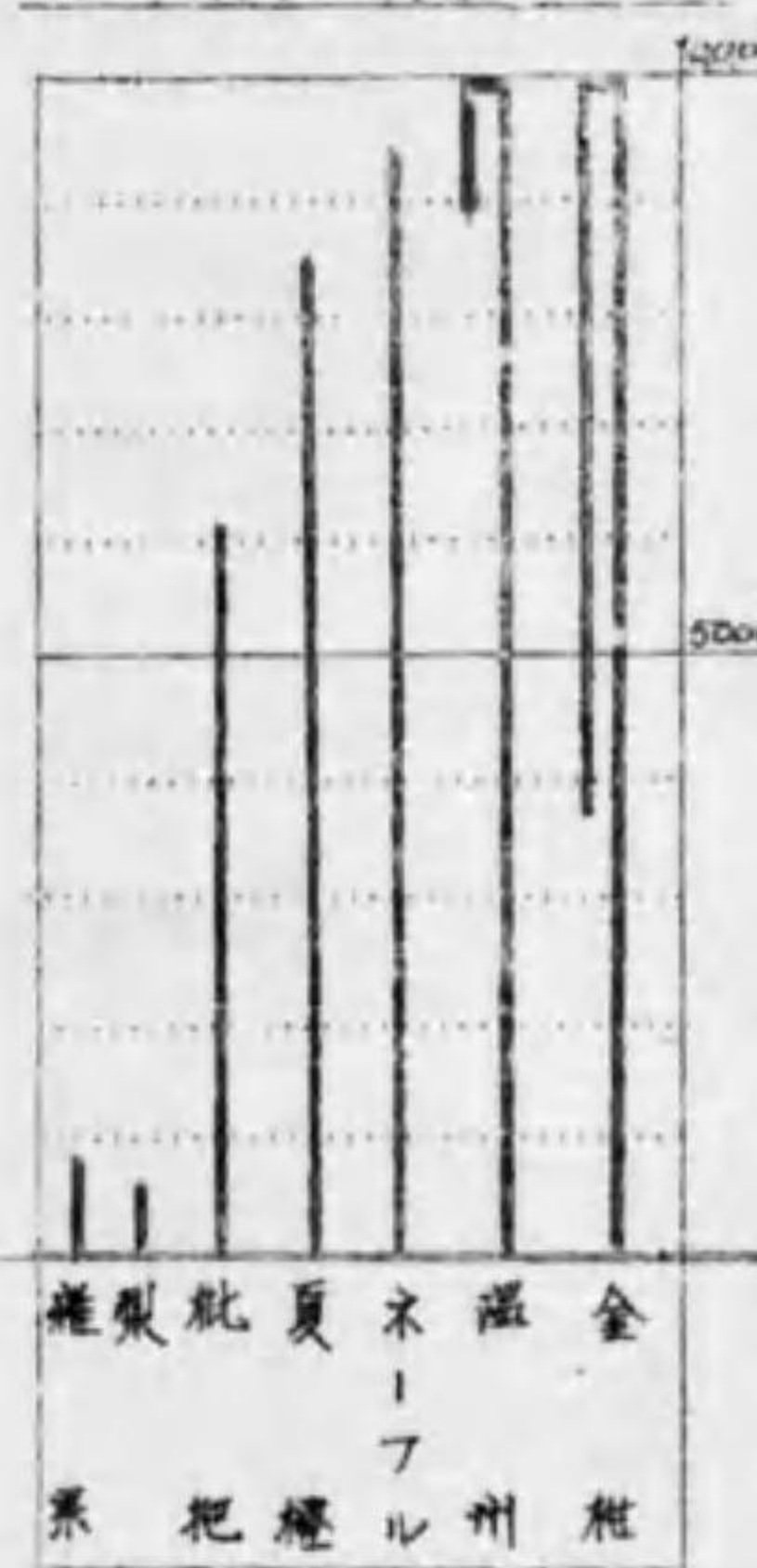


性土の村柑青



秦は水である。  
 秦香の飼養盛にして、鶏、鵜飼、豚の産額、  
 三万河に達せり、斯くて本村の農業が頗る  
 多量的に經營されてゐる点他社の模範とす  
 るに足る。即ち農業家は副業として天樹を  
 栽培し、蔬菜を作り、腐物で鵜飼を飼養するな

青柑村柑類産額表



部柏屋の主要部をなせり。  
 南半は空として花崗岩の毒燭の地域にして  
 前岳尾東山嶽越山の丘陵起伏し平地少なきも  
 土地の利用が徹底し山腹に至る處開墾されて  
 畑となつてゐる。この排水良好の傾斜地は立  
 花地方の延長として果樹園藝頗る盛なり。殊  
 に柑類類は氣候風土に適し本村に於ける米に  
 次ぐ主要産物である。其の産額は三万五千円  
 金柑が最も多く温州ネーブル、夏橙之に次ぐ  
 青柑梨は近時著しく減少し枇杷に其の位置を

と之れなり。

明治以前此の村は江戸参勤交代の要路に當り、青柑町の宿駅に般賑を極め住民の多くは雜  
 業に従事し、放棄な生活をなして来りしが麻懸置縣交通路の突遷等にて此の村は全く一寒村と  
 なつてしまつた。

然るに其後村民の自覺と努力は各種の方面に目覺しき發展をなせ、平和、富有な農村とし  
 て重きをなすに至り。

青柑金柑(明和金柑)の由来

船屋即青柑村地方は畑が多く以前は古藤や栗等を作つて非常  
 に生活程度が低かつたが、氣候風土が最も柑類方面に適してゐる關係上、柑類類の栽培が行  
 はれる様になり、金柑の名産地となつた。現下の栽培反別は二十町歩に達す。

之が沿革を尋ねるに同村には古來一二木の栽培あり中には頗る大木とされるものあり。同  
 村宇石瓦青柳栄次郎氏の邸内にあるものは樹令七拾五年にして高さ二丈に及び一樹能く二石  
 の生産ありき。然し其れも数年前枯死せり。

斯くの如く毎戸一二木の栽培を見、極めて金柑の成育佳良なるを知り同村清水喜一即氏は  
 明治二十六年の頃、中國近畿地方紀州方面の園藝實視察の際寧波金柑の優良なるを見、之れ  
 を栽培せしむる利益あるべしと信じて同村の尾清水市郎右衛門に之れを栽培を對談せり。同氏  
 其の言を容れ二反歩の畑地に栽培したるを起原とす。時に明治二十八年なり、兩村附近に之

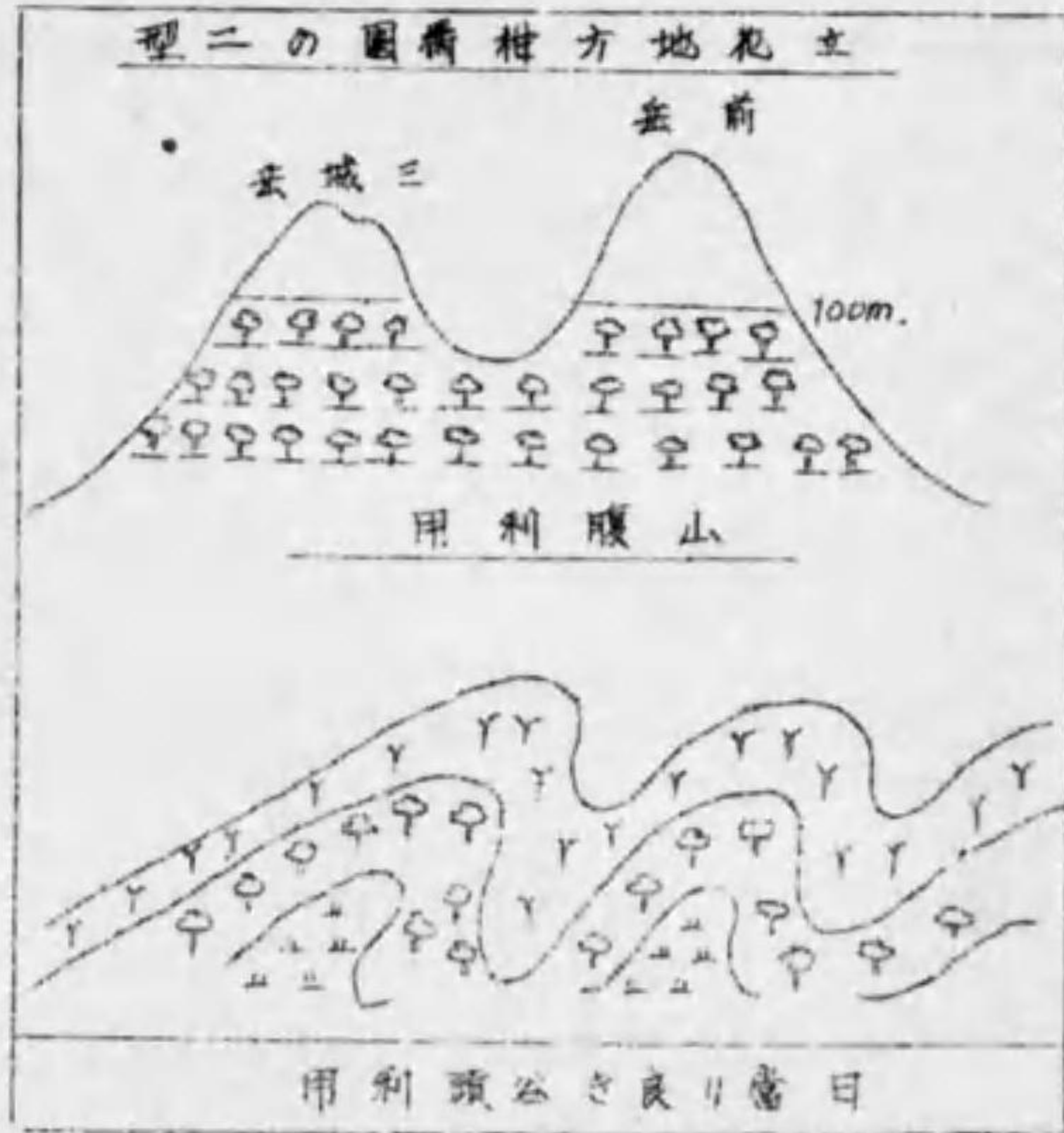
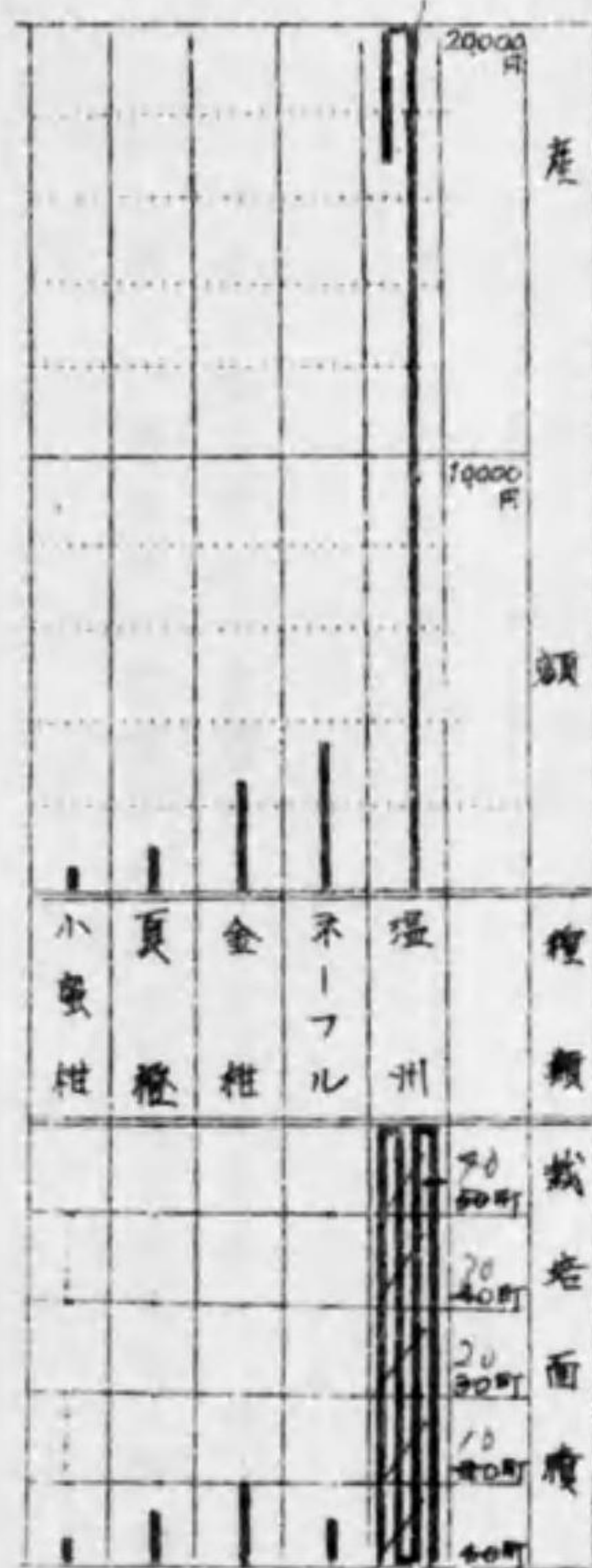


に倣ふもの續出し栽培反別頗る増加せり。

立花地方

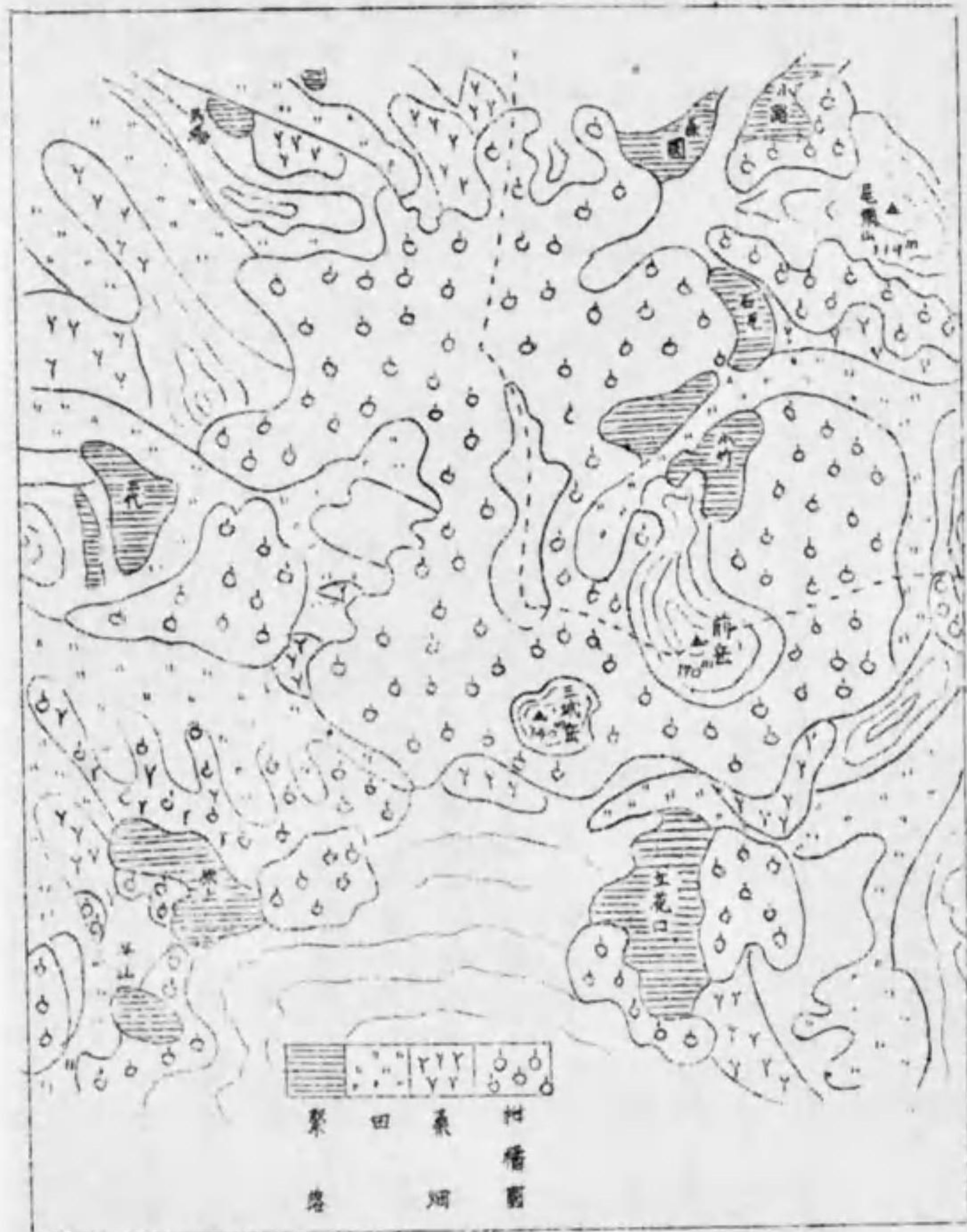
畑の多い立花村 立花村は立花丘陵地帯の北半を占め、全村至る所丘陵起伏し麓地に便利な平野は割つて狭い。然し土地の利用が非常に徹底し台地、丘陵の斜面は悉く開墾されて見事な山畑になつてゐる。水田の面積は百七十八町にして、稲作の各町村中志賀島村を除き最下位にある。然るに畑は二百五十町で郡内第一位を占めてゐる。要するに如何に地形に左右されて水田が狭きか、丘陵地を如何に巧みに利用してゐるか云ふ自然と人文との關係を見る事か出来る。郡内で水田と畑の關係がこの村と同一なのは志賀島である。現在畑は大部分柑橘園で、三万円余の収入がある。明治三十年の地図によれば、畑の全部は桑であつた柑橘園となつたのは比較的近頃の事である。

柑橘の栽培及種類



十一月、一月十三米、二月北八米、三月南又は東南十四米なり。凡て蜜柑には風の弱い事、日密りの良い事が絶対的な條件となつてゐる。土質は二種に分る。一つは花崗岩の崩壊より成れる土質にして一つは水成岩の崩壊より成れる土質なり。前者は本村大部分の土質にして主として砂質壤土にして同々礫質壤土の箇所





立花柑園の圖

あり柑も石灰分を含有し礫を混入するを以て深奥の風味宜しく且つ地温を保つるの結果樹の生育良好なり。栽培者は第三紀第四紀堆土なるを以て一般に重肥に偏し肥料分の保蓄力に密むも空気の透達悪しく排水不良なるを以て果実の風味稍劣ると雖も樹命長きは其の概とする所なり。

然りと雖も高燥なる傾斜地に栽植せしむる柑樹は夏期土地堅実となり易きの結果自然的に直根の伸長を妨ぐるの理由にて花芽の着宜しく排水亦佳良なるを以て品質宜しき立派なる果實を産す。

**栽植法** 豫め栽植し置きたる三年生苗を撰び肥沃の畑地に中三尺余の畦を作り、中央一列二尺余の距離に假植しニヶ間充分に肥培育成したるものを三年目の三月下旬より四月上旬に定植す。木畑は豫め心土を一尺以上掘り起しへ上層は持立犁を利用し下層は鍬にて打つ。一ヶ年午券を栽植したる後十二尺より十五尺距離に正方形又は三角形に目標を建て堆肥を施し置き苗圃の苗木を深く掘り廻はし株土を大きくし持立を敷き込み二人にて之を擔ぎ植込むなり。其後三ヶ年は間作を行ふ。

**立花蜜柑の沿革** 立花蜜柑の名聲今日に至れる迄の沿革概要を述べると、今を去る二百有余年即ち元禄八年豊洞宗の高僧玉山道白和尚同村梅岳寺を再興し、布教傳導の務ら柑樹苗を取り寄せ境内に栽植し利氏齊世の爲是れが栽植を勧誘せりと云々。是れを本村蜜柑栽培の起原なり。

然るに當時栽植せる種類は永蜜柑にして各農家の宅地内に数本宛栽植するに過ぎざりしが今より七十有餘年前大字立花口上野村大氏立花官林の山番を勤め純州の山林を視察せる際同地の蜜柑栽培の状況を見たり自ら果樹苗木を仕立又栽培地方より是れを輸入して同村境



田惣次郎氏と共に畑地一反歩余に温州蜜柑を栽植したり。其れが當村柑橘園の始めなり。其の後明治二十年より卅三年頃迄塩重依氏並井與八郎氏等宛後の立花家農事試験場より此の苗木を移入し規りに奨励せしめたため村民漸く之れに應ずるの氣運に向ひたり。爾來明治四十年頃より村内生産蜜柑を博覽會、共進會、呂軒會等に出品し審査を受けたる結果は毎時優秀の地位を占め今や全國柑橘主産地中指を屈する優良果生産地となつたり。概つて當村生産の蜜柑は多量甜味なるを以て顧客を惹きしむること限りなく好評を以て迎へられしに由り茲に栽培の有利なるを知りたる村民俄かに栽植者を増し今日の狀態となりしなり。

斯くの如く本村の柑橘は近年好評を博し順境に進み來りしが大正三年頃より最も恐るべき矢の根小蠹虫ルビノ蠅虫等の襲來する所となり被害甚大にして其の生産額減少し或は之が爲めに樹の枯死するものある等其の慘害實に言に盡し難く本村蜜柑發展上大に憂慮せらるゝに至れり。此處に於て大正五年村農會は各部慈に害虫駆除実行組合を組織せしめ補助金を交付して共同駆除の励行を勧めた結果漸く其れが實現を認め其の目的を達することを得たり。大正十二年三月立花村園藝組合を設立し指導園、母樹園の設置、柑橘立毛呂軒會、園藝講習講習會の開催、先進地の視察、病害虫の共同駆除、病害虫駆除豫防用薬品及び器具機械の共同購入等を行ひ、生産物の増加品質の向上に専ら意を注けり。昭和二年度には出荷組合を設立し授果の励行容器荷造法の改善、販路拡張、果實販賣宣傳等に意を注ぎ幾々手として進歩しつ

川野地方

つあると雖も是れ事實の徹底を期するは前途尚遠なるものにして各自の自覺と奮勵とにより目的を達し得らるゝものなり。

純農村小野村

全戸数の九割が農業。小野村は戸数三百六十五戸。人口は二千二百八人。其の内九割が農業を経営してゐる。志免村の如き炭坑地では全戸数の僅か一割足らずが農業を営んでゐるに過ぎない。

一戸平均人員が六名

一戸平均人員の多いのは農村の一特色である。比較的生産的な者は其の多いのである。工業、鉱業地では、一戸平均の人数がどうしても少くなり跡である。本郡に於ても志免村の如きは一戸平均四人七、須藤村が四人九で即ち一番少い。

離村者が多い

小野村の本籍人口は三千二百八人。然るに志免村に在るは、即ち現住人口は二千二百八人にして千人の者が他地方に出でゐる。並時商工業發達の爲、農村人口の都市集中が一般の傾向となつて來た。志免村の如きは他地方からの出稼人が頗る多く現住人口は本籍人口の三倍半に達してゐる。

自作農が大部分である。本村は農家三百三十戸中純自作は十戸余り、他は自作及び自作兼小作である。概つて大地主無く地主として十町歩の田畑を耕つてゐる者が僅かに一人と云



ふことである。自來水の多いことは農村が早稲に健全に栽培する重要な条件で、この点小野村は誠に幸福な村であると言はるべきであらう。純農村としての小野は福岡県の農産村として、席内青藤立花名村と共に農村経営の最も合理的に行はれ、村民は平和の内に家業に耽溺してゐる。

龍王のラジウム温泉 一 名産主寺湯とも云ふ。龍王寺より約一軒半龍王寺川の谷にある一軒家の鉱泉である。発見されたのは今から二十年前であるが、バラツク式の浴場が建てられたのは大正十一年のことである。其の後、昭和五年立派な旅館が出来上つた。従つて浴場も増加したといふ事である。分析の結果多量にラジウムを含有してゐることを知り、龍王、宗徳、青多、采島、後紫の各地方より四隣へに聞かされて来る者多く、又近頃北九州の八幡、小倉地方よりの浴客もある由、珍らしい鉱泉で龍王寺湯ではわさ／＼この鉱泉を選び、湯の飲料水としてゐる家もある。

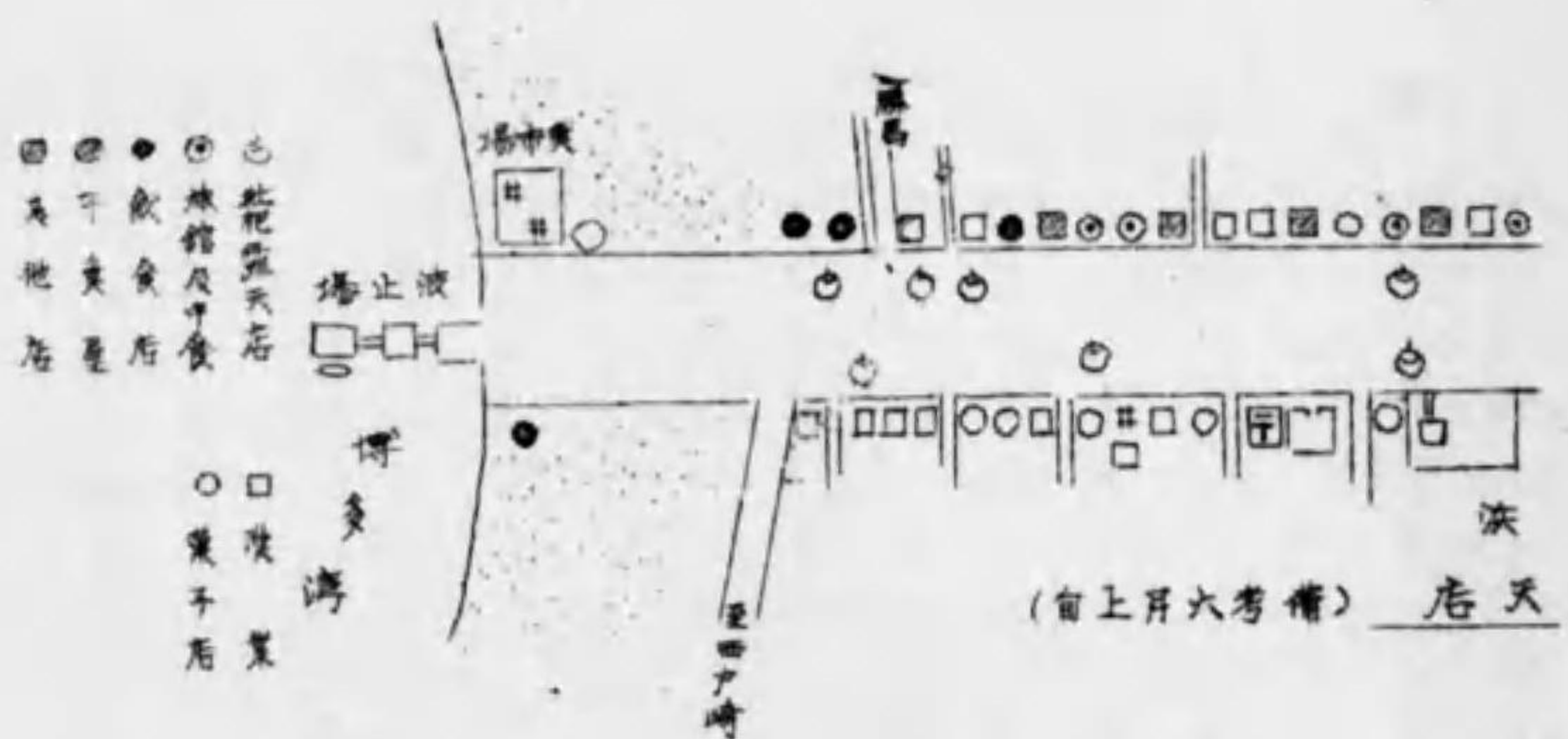
志賀島村地方

石炭の積出と石油の集積地で深へた西戸崎 海岸に積まれた石炭の山、三十有箇の、石油タンク之が港西戸崎の姿であり生命である。西戸崎の産生に就いては遠く徳川時代には知らなくはなれぬが、本格的に産出を始めたのは、明治三十七年博多湾鐵道が開通して以来のことである。當時戸敷港には二十三、四軒が松林中に散在してゐた一寒村にして住民の多くは松葉其の他の薪を取り集めて博多に賣り、傍ら少しばかりの耕地で百姓をして居たものである。然るに、一度此地が柏屋炭田の門戸となり、又明治四十二年石油の加工地配給地となるや、遂に産出の一路を辿り今日見る如く戸敷約七百戸、人口三千五百余の町となつた。

かつて殆んど無人の砂丘松原が今では我が國有数の燃料積出港となつてゐる。其の理由は西戸崎が地理的位置に於て優越であること、其の上に海が相當に深いと云ふ点もある。水深は最大千潮時でも六米あつて二十噸級のものが容易に棧橋に横着り、此で自由に荷役が出来る。以上の大體は已むなく沖荷役となつてゐる。

新合世帯の西戸崎 西戸崎の人口は約三千人、内原籍人口は百五十、全く各地方人の雜居地である。之によつて西戸崎の特異性を充分知る事が出来る。西戸崎小学校の調査に據ると、児童數四百七十の中原籍に就いて見るに、自村の者





志賀島の博多湾沿岸一帯は弘安の昔元軍十萬覆滅の地として國史に忘るべからざる地なり。

西戸崎ライジングサン石油油槽所

英國の Ангロサクソン会社(本社ロンドン)に屬し、日本に於ての「ライジングサン」と稱せられざる。此会社は日本のみで資本金一千万円を投じたる(日本石油会社……五千万円)株主中只一人日本人があり、他は全部外人である。現社長は外人であるが支配人は日本人なり。社員一五五人、職工一七四人。

油槽所設立は明治四十二年、最初愛知縣武豊に設立せんとしたが、海海の急四日市、清水と求め、結局西戸崎に決定したものである。

油槽所の内容は以前は製油も行はれたが都合悪く、現在では製品の配給(必要に應じて配給船来る)を受け、之を一應タンクに貯蔵し更に運送にして九州一円に送付してゐる。其の取引事務は一切福岡の事務所で行はれてゐる。

④、石油はスマトラ、ジャバより、⑤、重油は米國(製油用)帶來より



は度かに百四人余にして其の他船屋郡町村内の者が七十六人、福岡縣他郡市の者が九十七人、他府縣の者が百八十五人(内九州百五人)である。保護者の職業別を見るに石炭仲仕百六十人、職工が五十人、会社員三十五人、農業が三十人、大工三十一人、雜貨商三十一人、海買十八人、機回手十五人、料理屋飯食店十四人、人夫十三人、官吏七人、日産業七人、八百屋五人、船長五人、仲仕小頭五人、斯ふ云ふ譯で大体西戸崎の機能の一般が窺はれる。

官幣小社志賀島神社 志賀島大字志賀、勝山の麓にありて祭神は表津少童命、神津少童命、表津少童命の三座にして、相殿應仁天皇、神功皇后、玉依姫なり。神功皇后新羅を征伐し給ふ時、此三神御船の舵を掌り海上の風難をからしめ給ふ。皇后御凱旋の後、阿雲連をして鎮め奉らしめ給ふと云ひ傳へらる。かゝる由緒深き神社であるから最近村社より直に官幣小社に列せらる。参拜者は四季絶えざるも特に春夏の候に多く、六月上旬神社通りの批把露天店は他に見られぬ路上景観である。神社は又船人の信仰處からず。



来てゐる。輸送船は和蘭、英國、諸國、瑞西等の汽船である。

油槽所取扱高は石油取扱高は明治四十年代か全盛で其の後は下り坂になり目下は揮  
発油が過半を占めてゐる。揮発油は大正二、三年頃より其の動向著しくなり當時、愛知  
縣或量に於てバラとして揮発油の消費年額

名古屋地方は二〇〇箱(四〇〇〇噸) 大阪地方は六〇〇箱(二二〇〇噸)に過ぎなかつた。

現在西戸崎に於ての取扱高は(月高平均)

石油は五〇〇噸 重油は二〇〇噸 揮発油は二二〇〇噸 機械油は七〇噸

重油は彦島に専門的油槽所が存在してゐる。勿論當会社に属す。

保油状況は一万噸級の貨物船で運ばれて来たものは百米沖にてパイプ輸送装置を  
以つて一時間一五〇噸陸上のタンクに送る。四タンクは大小合して三〇余個。

大タンクは直径七七尺で四〇〇噸を収量可能。中タンクは直径五八尺で一五〇噸を収  
量可能。小タンクは直径三三尺で五〇噸を収量可能である。其の他に小さいものもあ  
つて、三〇〇噸位を収量するものもある。

タンクの保全は白色に塗り、揮発性を出るを避け少くし、防火施設としては自家用  
電動力で塩水を撒布する方法を採つてゐる。タンクは地下には埋れてゐないで各タン

クは鉄管を以て相通じてゐる。

製罐工場は石油は汽船のタンクより陸上のタンクへ一度移さず、次に逐次小罐に  
詰められるのであるから、其の罐を製造してゐる工場がある。四枚料の鉄力は本國産  
材まで少し英本國産も使用してゐる。此従業員一(多くは在住者に求めてゐる)

全工場は一七四名(男五四名)製罐部に四三名が従事してゐる。

製法は全部機械力により、最後のハンダ付けも機械的に打は水一罐の製産費僅々

八厘

製箱工場は松板を使用して二種入の箱を製作して居るが釘打まで機械力を使用して  
ゐる。金釘も一寸特殊のものを使用してゐる。

貿易法は保税法で出港の際に徴収してゐる。

志賀島枇杷 志賀島渡船中より目につくのは山の中腹にある枇杷畑である。従来余

り利用されたなかつた山腹の傾斜地より僅々一ヶ月の間に三万円の収穫をあげる。此  
枇杷は志賀島農産物中第一位を占めてゐる。志賀島枇杷の起原は今から三十年前、時  
の郡農会技手清水喜一即氏が此の島を尋ねし折りに在来の小枇杷を食べて其の味の優れ  
たる点に氣付き、有志に之が栽培の有利な点を力説した事に端を発してゐる。

其の産果種に優良種を採り、漸次好成绩をあげるに到り一般村民は従来の大豆畑







て、林産物は頗る豊富であるが、食料品の夫、雑穀の移入が少なく無い。商業は地方経済の中心地として、又新四國の置場を控へて及び為り盛であつたが、最近列車の増に自動車網の発達、縣道の改修等に依り旅客の足を脅むる者次第に減少しつつあり、故に藤原町附近の巡拜者を相手とした商店の外は概ね活氣を失ひ、特に太連りの中町上町に此傾向が著しい。こゝに於て附近專門村にある高田炭坑と、新四國とが、現在の藤原町研究に見逃し難いものとなつて来た。

要するに藤原町は、最初宿取町として発達し、其水が新四國八十八ヶ所の一門前町として、又地方経済の中心となつて、町勢を維持し今日に至り、然るに交通機関の発達により、顧客は次第に大都市に流出し今日の如き靜止的な町となれり、故に今後藤原としては巡拜者の便宜を図ることは勿論、幽邃な溪谷美、秀麗なる山容と林相、加ふるに夏期冷涼な高原山地を福岡市民の清遊地、郊外住宅地、別荘地となし保養の途を講ずることが目下の急務である。一方産業方面に於ては林産加工業に力を注ぎ町を潤はすことも大切な仕事である。

**藤原新四國** 新四國の本歴は極めて古く、今より約一千百年前即ち大同の昔、僧空海唐土より歸朝の際當地を下して長初（長初）の置場と定め、山頂に於て西乞の祈禱修法を行ひしに、靈驗者しく地方民其の功德に深く仰慕心を懐くに至り、降つて平井

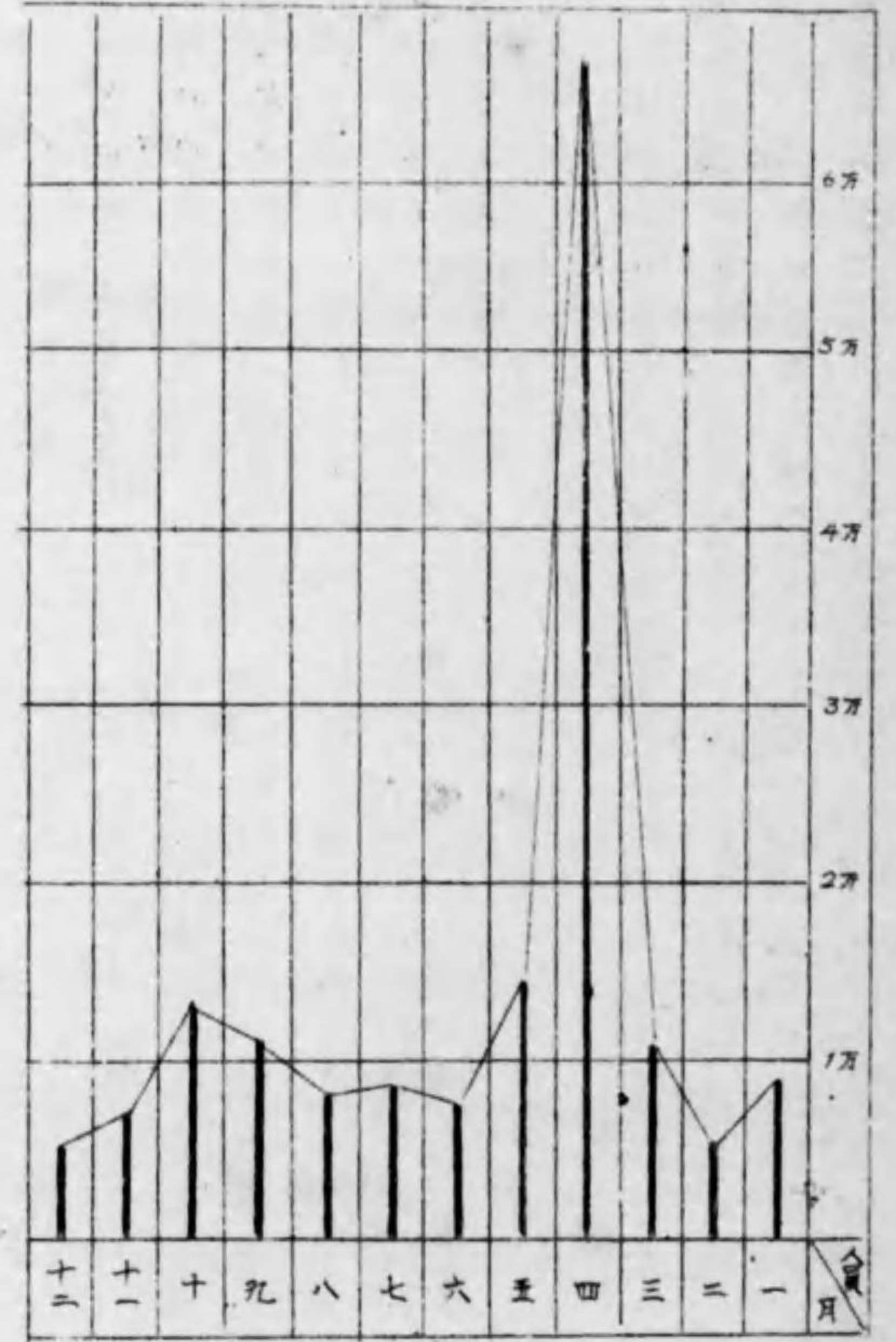
勝幸なるもの、田浦に仁王經一宇、一石の供養塔を營み此觀音を安置したるに参拜者續出するに至り、天保五年早夜即建法（建法）の僧尼慈恩は太四國巡拜の歸途奉願し、城戸平象岩の洞窟にて頻りに大師の教法を傳導し、傍ら四國八十八ヶ所の置場を藤原の地に規模せんことを図り、十八体の佛像を安置せり、當時田の浦の藤本藤助氏は大師の靈夢に感じて、慈恩の志を結ぶ嘉永五年より安政五年に亘る五ヶ年の星霜艱苦を嘗め、漸く八十八体の佛像彫刻の願望を遂ぐるに至り、尚村有志と共に清淨無垢の山川幽邃の間に悉く之を安置して、開眼の法要を營めり、氏は當時不治の疾を抱くも屢に干信者五人を伴ひて四國に到り順次巡拜を遂げ、同時に其の靈土を請ひ、之を八十八個の袋に納めて歸國し、さきに安置せし藤原地内の新置場に配祀し以て今日の基礎を完成せり、後文久元年八月新岡藩廳の許可を得て藤原新四國と公称するに至り、爾來各地より参拜者の増加に依り有志等高野山南藏院を移転建立し、其の筋に請ふて明治三十二年五月八十八ヶ所を尾地境内佛堂として許可せられ、愈々基礎を鞏固にして以て今日の盛大を見るに至り。

最近巡拜者千數万を算し世道人心の感化は勿論藤原町の発展に影響するどころ敷く大なり、礼所は最高四百五十米から最低三十米の大抵眺望よき小高い岡や又靈氣溢るる幽谷瀑布の辺に分布し勢門村の一ヶ所を除いては悉く此町内にある、遠路の延長は

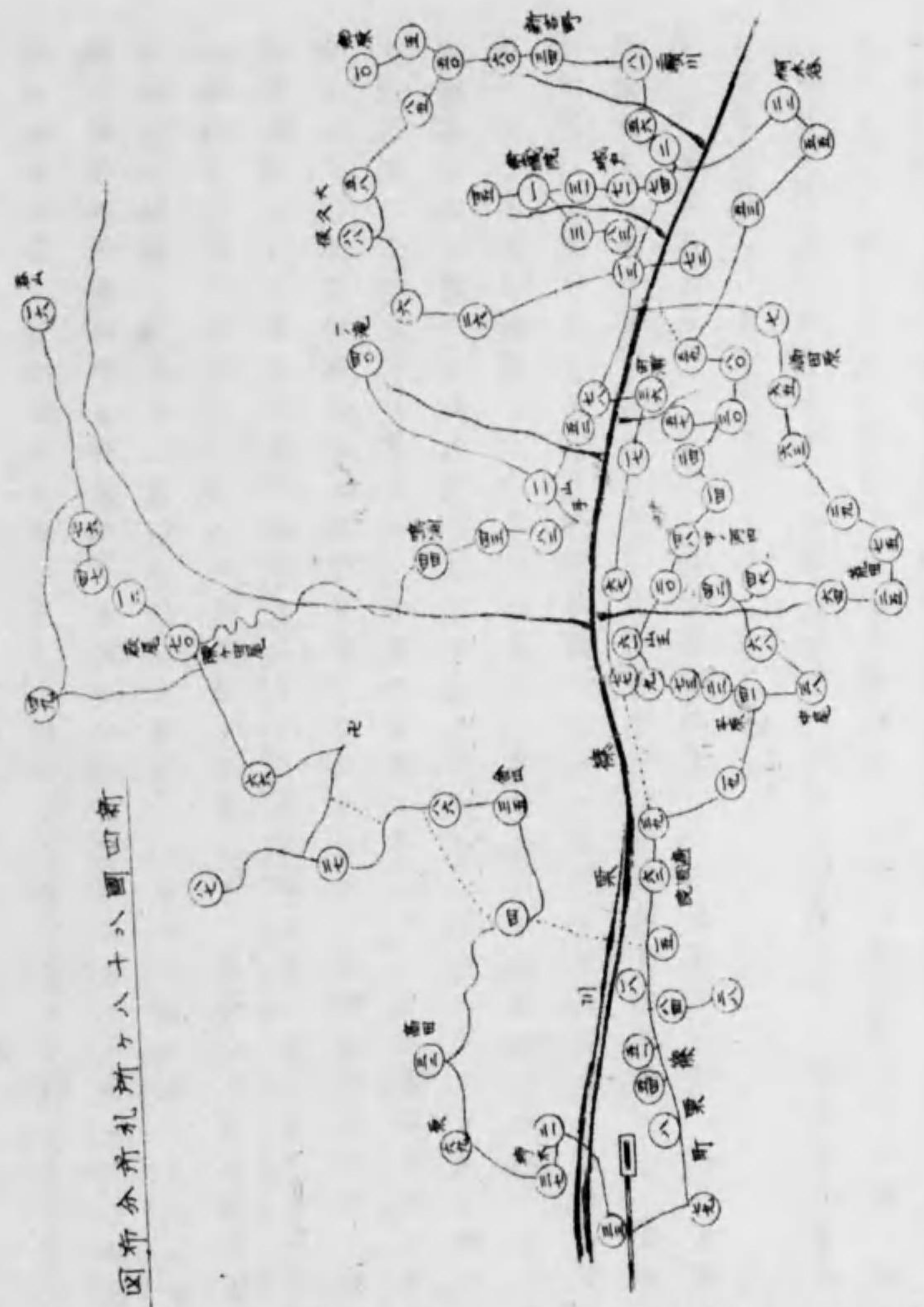


期は養圃期であり、又兼候も長く新吉野の櫻にも勝はれて、かく一時的になつたのである。篠栗町としては周年ある程度の巡拜者がある様施設なり宣傳をなす必要あると思ふ。参拜者の多数は縣内であるが遠く壱岐村島より宮崎、大分、山口方面からも相當多数あると言ふ事である。

篠栗取附近の月別降車旅客数



巡拜者に依つて繁昌する篠栗取附近 篠栗取附近は、新田園霊場の一門前町としての特色が見られる。駅から出ると金剛杖、笠、草鞋、草履、雨具の類を賣つてゐる支度所及び駅前より新藤道を横ざり旧道を少し東に曲つた所に至る間に、宿屋、飲食店、



新田園の十八ヶ所新札本舎新田園

四十一軒、  
 社者でも一  
 日半かゝり、  
 女、子供つ  
 れば二日以  
 上を要する。  
 巡拜の季  
 節は殆んど  
 春に限られ  
 篠栗取月別  
 降車人員表  
 の示す如く  
 四月が新然  
 多く六万人  
 に達する  
 る。此の時



店、土産物店が多く、篠栗町第一の盛り場となつてゐる。巡拜者の多くは支度所に於て輕装し、三十三番の藥師如来を打始めとして齋路を辿る。鬱蒼たる森林に夏を忘れ、溪谷の鹽水に湯を返し、羊腸たる小径に善男善女の振鈴の妙へなる音は、此の土地にのみ見る特種の風景である。

篠栗名所新吉野 篠栗駅より

大料縣道八木山越附近は、即ち山伏谷の坂路にして一名七曲りと云ふ。明治二十三年傾伏來の險峻な坂路を改修し、當時道路改修記念とし且の羊腸たる坂路に日蔭を造る爲め、数千本の櫻樹を植込み保護を加へしものゝ、新吉野の櫻で福岡近郊第一の

の名所として春の雑踏は又格別である。

荒田篠栗栗園の高原避暑地

西地共海拔約四百米の高所に位す。近時避暑地として來遊者多く、又福岡市榮堂の夏期聚落、林間學校として其の名を知られて來た。篠栗駅より自動車の便もあり旅館の設備も整つて万事好都合な避暑地清遊地となつてゐる。

山田村久原村地方

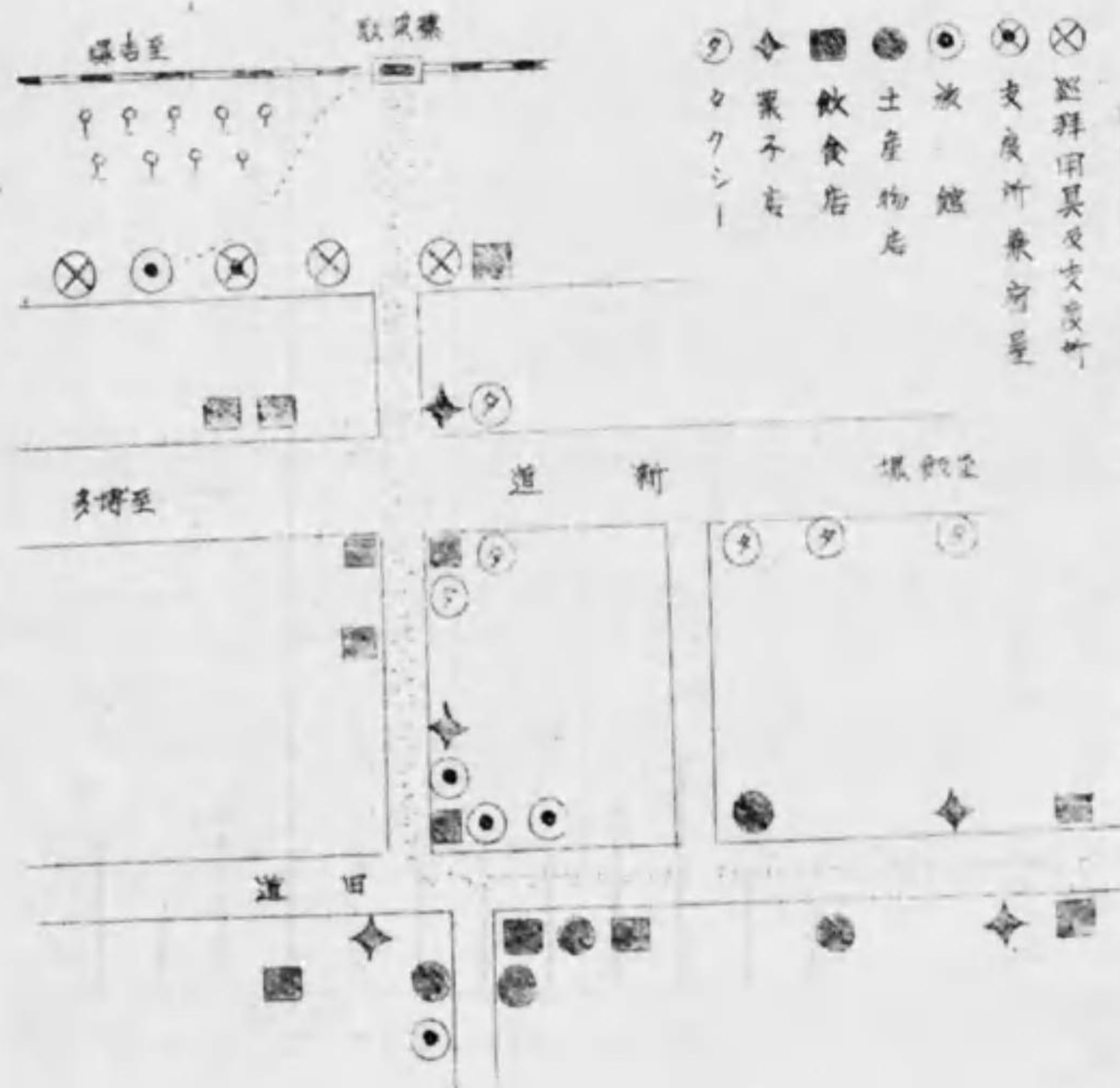
山田久原兩村は地勢上姉妹地域と見まよい、兩村の略々中安を南北に貫く、篠栗青柳斷層線は地形上の著しき境界となつてゐる。以東は犬鳴山塊の主要部にして、本郡第一の山岳地帯をなせり。その線以西は急に高度を減じて丘陵地と化し、其の間に山田久原の西盆地横たはる。此の西盆地は地味肥沃にして兩村唯一の農耕地をなし、聚落は全部此處に分布し誠に兩村の中核なり。

山田村久原村の對比

此の兩村は、地勢上に於ては、姉妹地域をなしてゐるが、其の他の点に於ては可成り著しき相異点を見出すことが出来る。

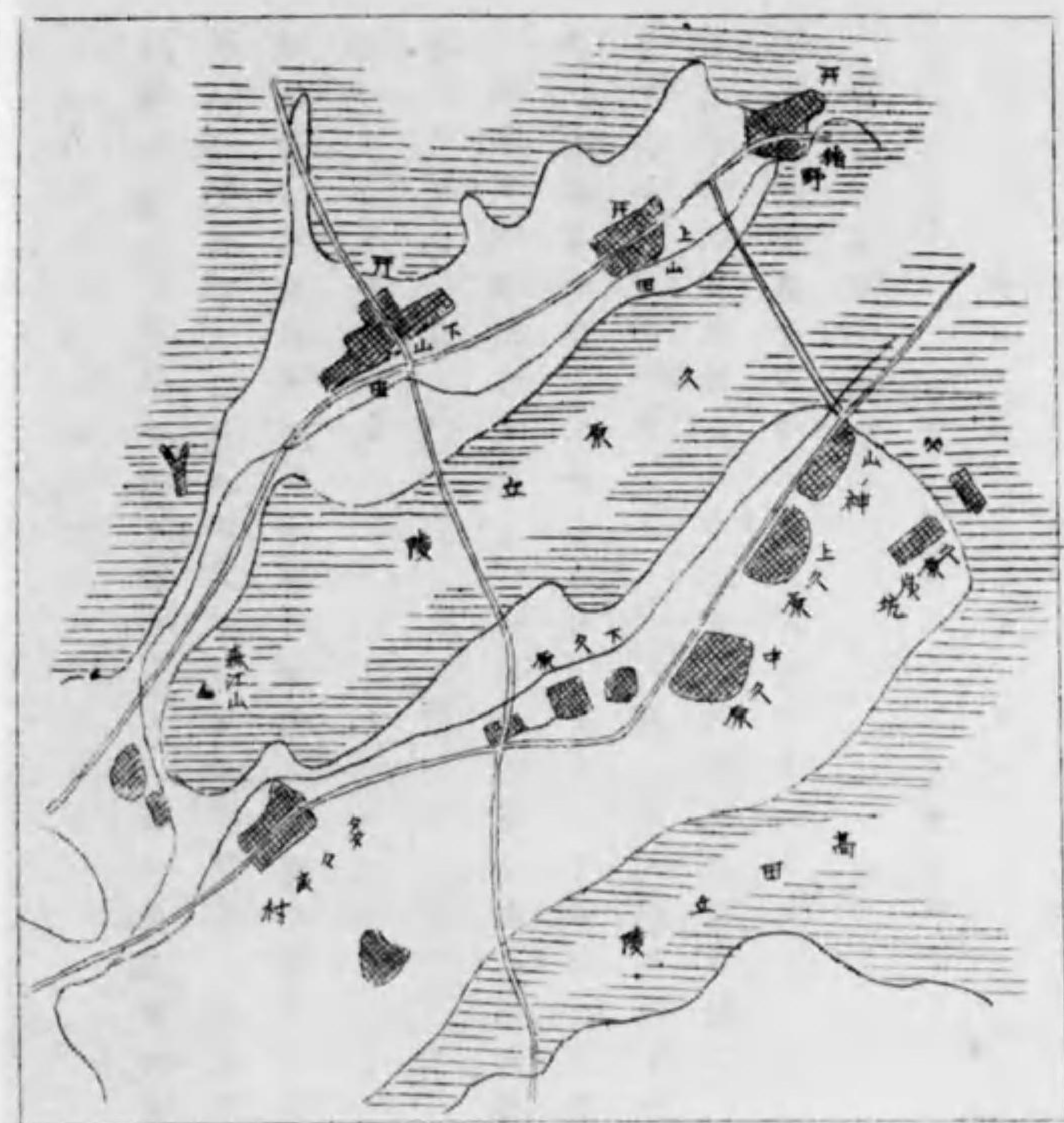
山田村は純農村で、全戸数三百九戸中二百六十三戸迄が農家で其の割合は八十五%になつてゐる。然るに久原村は四百八十戸中二百三十三戸が農家で其の割合は四十八

新田國巡拜寺により築造して居る篠栗駅附近





名。即ち一方は純農村であり、一方は炭坑的色彩の濃厚な村であると云へる。此の職



業別相異が、人口の移動密度に或は風俗に大なる影響を興へてゐる。西村共本籍人口は二千七百八人、久原村が二千五百人、即ち山田村では四割以上他地方に出でゐる。此の事實は農村に於ける一般的傾向である。久原村が離村率の低いのは炭坑の影響によるものと考へられる。密度に於て山田村は本郡中最下位にあり、一方村に僅か八十人、久原村は其の二倍で百六十人である。

産業方面に於て、一方は第三

紀層中から石炭が採掘されてゐるのに、山田村では古生層花崗岩の接触部に銅鉱が存在してゐるなど一つの相異点である。

交通上に於て久原村は福岡直方地方を連絡する大鳴峠越の主要線道が通過の運びとなつて久原盆地の交通に一大光明を見えて来た。山田村は以前郡を縦断してゐる横幹道唯一の要路に當り、南は天守府、北は宮地嶽に参詣する旅客の交通動をからざりしもの、鉄道開設以来旅客の影全く絶え、今や交通最も不便な山村となれり、而して山田村猪野の山紫水明な地に伊野大神宮の鎮座ましますことは特筆すべき誇りである。

神社伊野大神宮

博多湾鉄道の土井取より東五軒山田村大字猪野にあり、祭神は

中座天照大神、左座手力雄神、右座萬幡千々姫命なり、社格は村社なりしが、明治四十年神饗幣帛料供進社の指尺をうけ、大正十二年五月三日縣社に列せらる。

此地は世俗の穢なく、山高く水清き類ひなき聖地にして遠近より参詣の人多し、以前此の環流一帯は螢の名所として遊覽の客多かりしも、明治二十五年、六年の頃、宮より為二軒許り奥の谷に銅山開け、其の鉱毒の爲河水全く混濁して遂に螢も死し爰も棲息せざる有様となつたのは遺憾である。

神社の由来は遠く天利の末世、豊丹生佐渡守と云ふ太神宮の神官が同席の入と公許で争つたので豊前の彦山の麓に流された。其の時前非を悔ひたので、豊夢があつて神



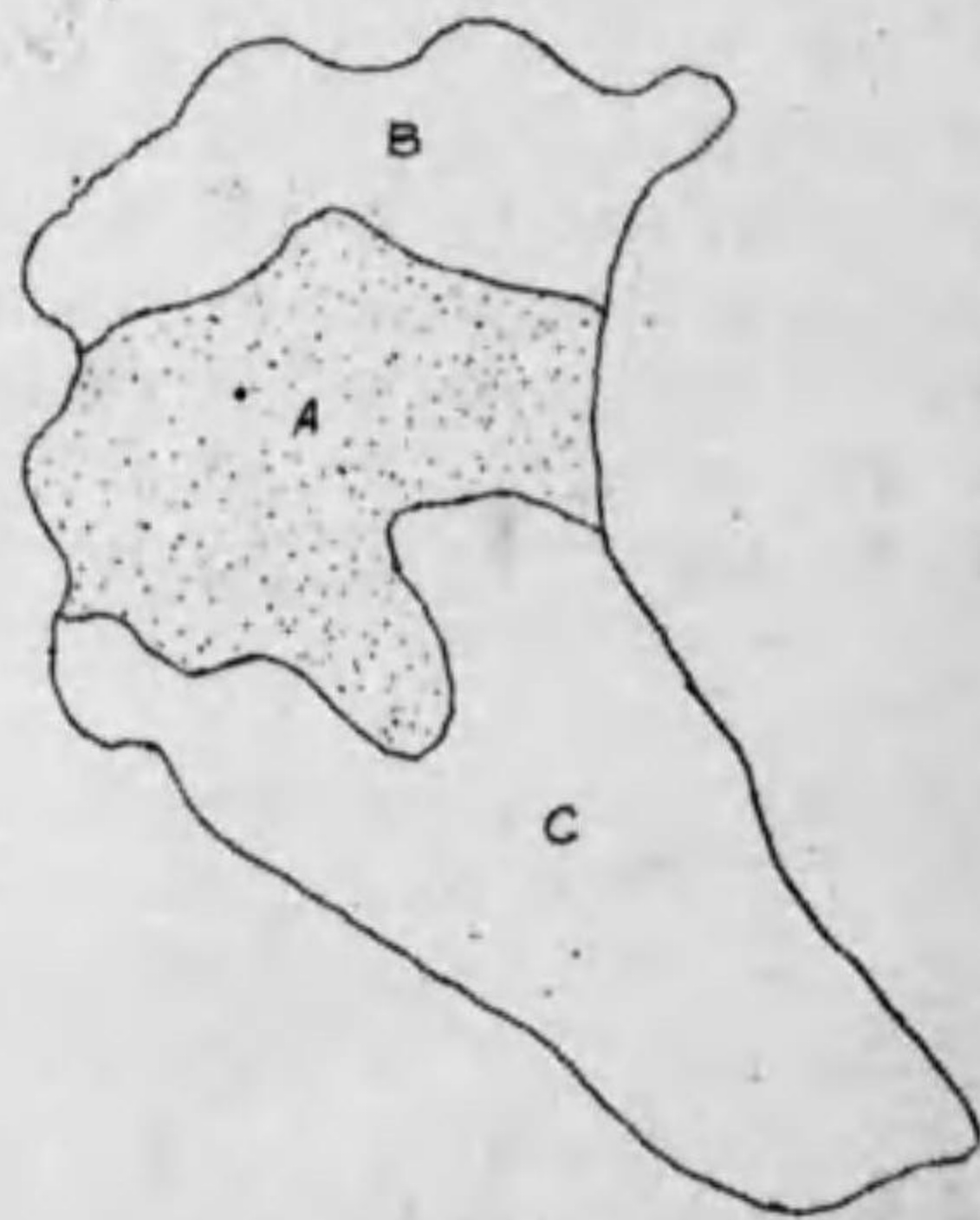
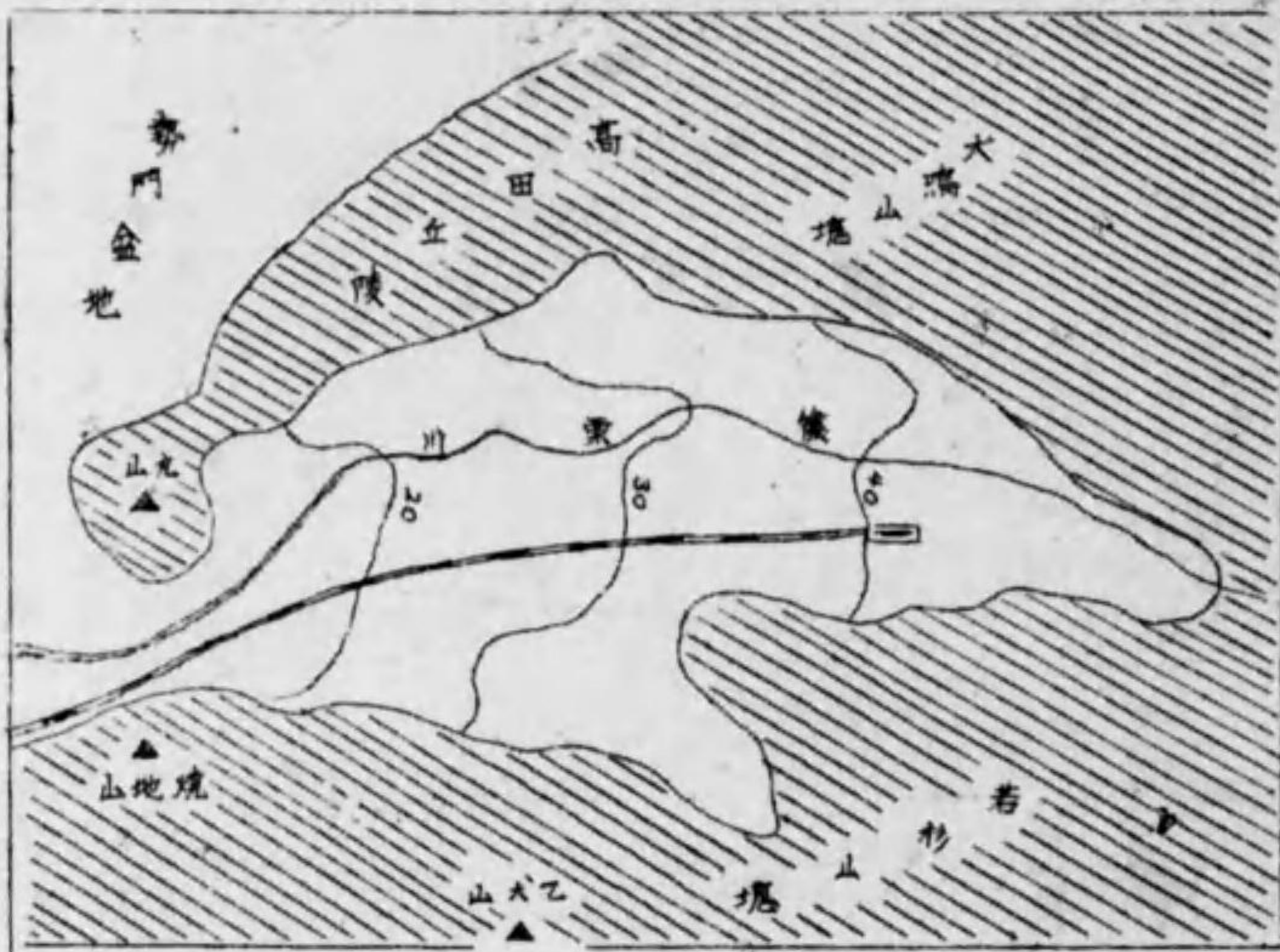
体を換かつたので配所に於て大神に仕へてゐた。その子兵庫大夫の時、猪野の里に行  
 かうと夢告げがあつたので、此處に祀つたが天正の頃薩摩の島津軍が立花城を攻め  
 た時、この里にも兵難があつたので竈門山の麓に隠してゐたのを、薩軍に見えられ  
 持つて行かれやうとしたが、途中で大神の祟りがあつて豊前の袖原八幡に納められた。  
 而し尚ほ祟りが止まぬので又現在の處に奉遷したと傳へらる。

勢門村地方

勢門村は、古の勢門(迫門)河内の地域にして、明治初年頃迄は和田津波黒乙大尾仲  
 若杉の六ヶ村に分れしが、明治二十二年町村制実施に依り之等は合同して今日の勢門  
 村となり。

勢門盆地 中央に平野開け、周囲に山地丘陵を繞らす盆地状の地形は本村の特  
 色にして、之を勢門盆地と称す。四方は九山焼地山の峡谷一村名の由来をなす(迫門)  
 により多々良川下流平野と僅かに連り、南と北には若杉山塊、高田丘陵略々東西に大  
 り、盆地の周囲をなせり。盆地を地形上高田丘陵、勢門盆地、若杉山塊の三區に分  
 つことが出来る。

高田丘陵は百米以下にして第三紀の夾炭層より成り精炭田の一部をなせり。中央



A 勢門盆地  
 B 高田丘陵  
 C 若杉山塊

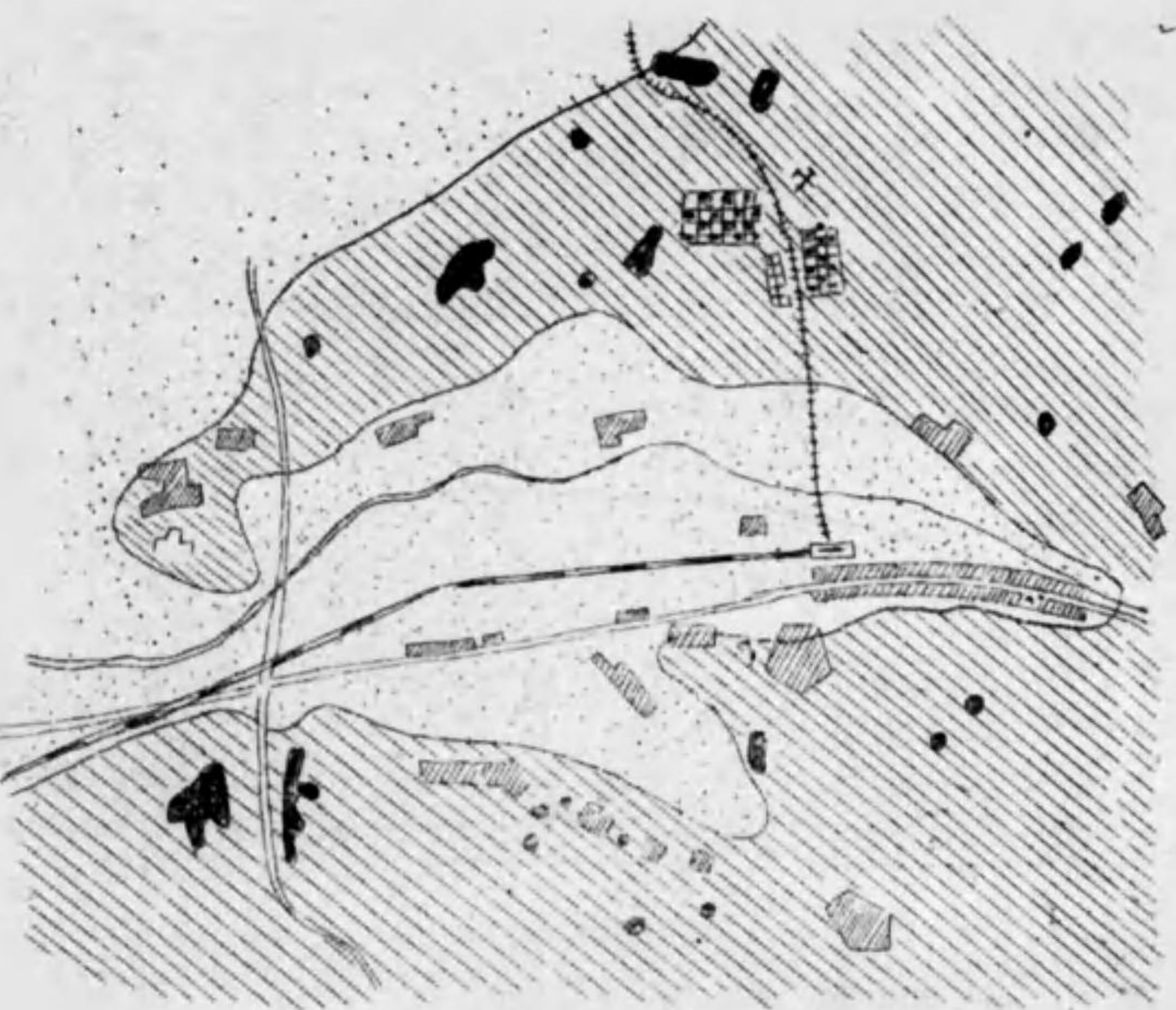
の低地即ち勢門盆地は、藤原川の堆積に依る  
 氾濫を平野にして、本村の主要生産地である。  
 南部の若杉山塊一帯は古生層蛇紋岩が多く森  
 林鬱蒼と茂り村の一大水源となつてゐる。

勢門盆地の聚落 多くの聚落が盆地の中央  
 から遠ざかり、周囲の山麓一帯に分散的に分  
 布してゐるのは面白い、村として中心聚落が



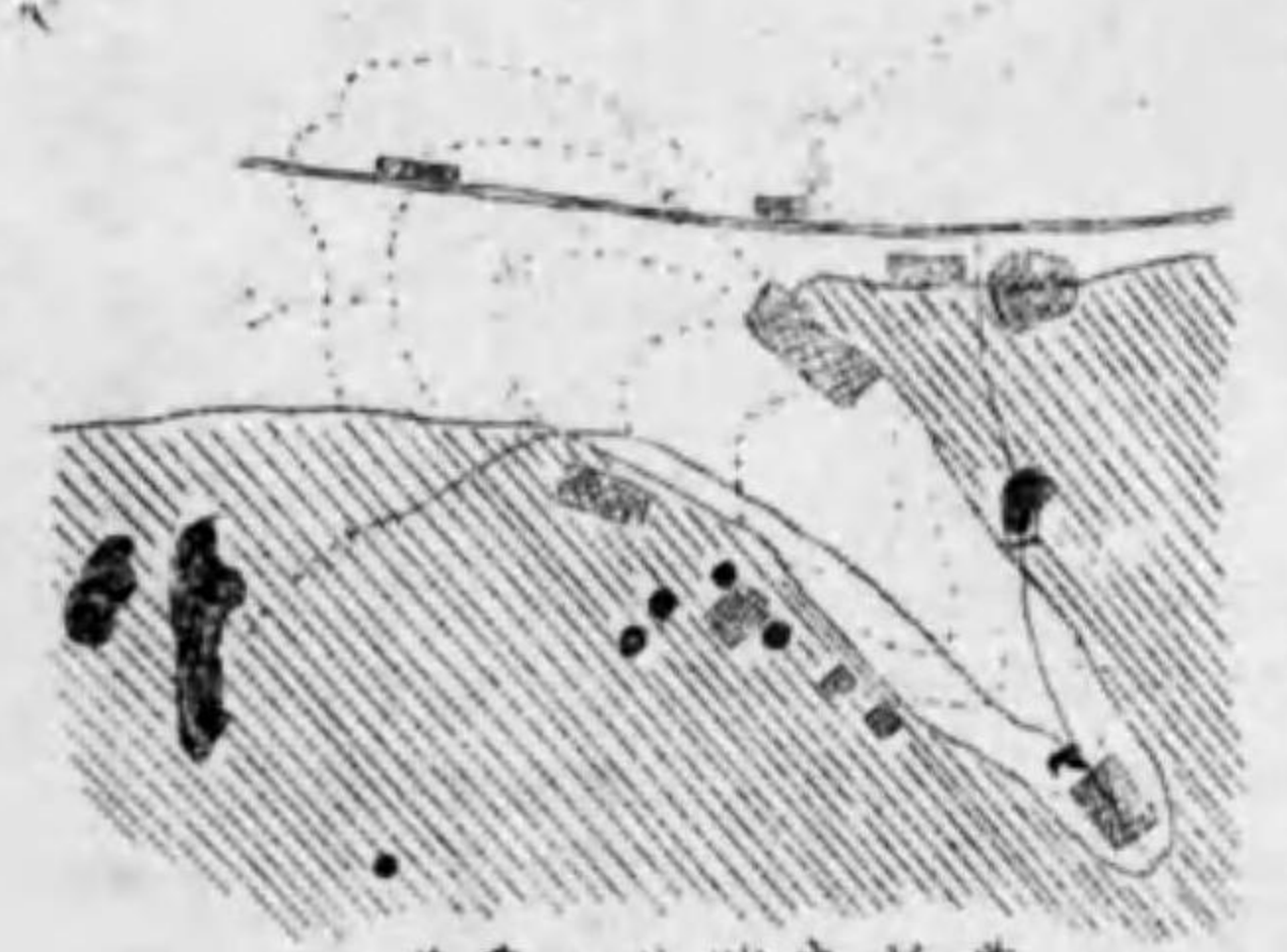
此の事は、この地域が藤町の商圏内にあると云ふ事になる。

藤道に沿つて乙大作出、尾仲作出は、乙大尾仲兩聚落と親子村の關係がある。高田の炭坑聚落は戸数五百に余り、本村の約四分を占め藤原町聚落の一原因となつてゐる。



藤原町の商圏内の地域

馬渡陶器全集 創業 四年 株主 買は男十五



若杉扇地と炭坑

人女十八人計三十三人である。製品は主として茶瓶にして(鉄道用)生産高一ヶ年四万個。販路は主に門鉄管内及全国鉄道管内台湾鉄道局である。

馬渡武雄氏は折箱の汽車辨當に代るべき陶器の辨當を製造せんとして、木村粘土を工業試験場に送り試験を依頼せしむ。其の結果良好なりしにより現在の地に工場を設け、製造に着手したり。陶器辨當は従来の習慣上から又取扱上の不便もあつて思はしからず、専ら茶瓶の製造に移り今日に至り。

瓦製造業 乙大作出は瓦製造聚落と云つてよい。工場五つ、製造能力は一ヶ年十万余に達す。この地は石炭粘土が得易く馬車自動車に依る交通も便利である。

筒煙詰工場 昭和三年より若杉部落に始まる。毎年四月中旬より五月中旬迄作業をなす。農家の副業として最も適切なるものである。生産高は一四〇〇樽、價格五百六十円に達し將來有望なる副業として注目すべきものなり。

仲原村地方

若杉山塊は、西方に延びて岳城山(城山)乙大山となり、次第に丘陵台地と低くなつて平野に終る。仲原台地は其の西端部にして篠栗川須惠川間に突出せる二十米内外の台地である。地質は篤興丁池附近を境として、東方の丘陵は第三地層より成り、西方一帯の台地は洪積層にして、地味は餘り肥沃でない。仲原台地は位置地形の關係上、





仲原台地

用水池が頗る多く、台地の灌漑は勿論、大川、多々良、箱崎各町村の平野を潤してゐる。之等の用水池は、第三紀層丘陵地帯の侵蝕谷を巧みに利用して設けられ、駕輿丁池を始め大小十五箇の池が散在してゐる。

駕輿丁池は、本郡第一の池にして、養蚕も行はれホトや釣場等の遊覽的施設まである程の大池である。其の設けられし時代は不詳なるも、周囲四料に及ぶ柏屋邸第一の灌漑用水池にして、其の灌漑區域は、仲原村大川村の一部を灌漑するも大部分は原田箱崎附近一町の灌漑に利用されゐる。池の

水は先づ川（須恵川）に流下され、川床の處々に設けられた井堰により、所謂河川分流式の方法に依つて田圃に注がれてゐる。其他若杉の淺流を引き貯水してゐる。有名な新大岡古大岡等の池がある。

仲原台地は、南部柏屋に中央的位置を占めてゐる關係上、本郡に於ける南北兩交通路の十字路になつてゐる觀がある。而し位置の關係から來た、單なる通過地点に當つてゐるのみで、地方交通経済の中心となつてゐる様を聚落は現在のところ見當りない。原町長者原の如きは、福岡藤原河の中間的宿駅の色彩を帯びた街村に過ぎぬ。

聚落の分布を見るに大体台地の周辺によく聚達し台地上には比較的少ない。これは台地の自然が余り悪ま水々でない事と、聚落發生の原則から來た結果である。原町長者原（大川村）の如きは街路に沿つて聚達した比較的新しい聚落である。

仲原村九大農場

仲原村原町及び阿蘇の兩字に跨る二十七町歩の農地、農場を有す。福岡市を距たる東方四料の地にして原町原より約一料の北面に位す。大正十三年頃より昭和二年頃迄に農場の設備完成し、農牧の科學的經營に力を注ぎ西日本に於て稀に見る大農場となれり。地質は概ね沖積層なるも畑地の多くは洪積層に屬す。農場一帯の土壤は強粘土質にして耕種上の不便少なからず。





九大大學部附屬農場

本農場は専ら學生の  
 実習並に各般の實驗研  
 究を行ふ處にしま、管  
 理上之を次の四部に分  
 たり。

1. 中央部（一般事務  
 に從事す）
2. 作物部（普通及び  
 特用作物の  
 栽培並に之  
 に関する実  
 験実習を存  
 す）
3. 園藝部（園藝作物  
 の栽培並に

之に關する實驗及び庭園の管理）  
 4. 畜産部（家畜飼育の飼育管理、畜産製造及び之に關する實驗実習並に飼料作物  
 の栽培）

最近に於ける各部の事業を要ぐれば次の如し。

一、経営反別

田	三六
畑	一〇反
計	四六反

二、主ナル實驗

- (A) 水 稻
- a. 品種繼續並に特性調査 六〇〇系
  - b. 遺傳及育種實驗 八八九系
  - c. 純系分離 二五〇系
  - d. 新品種比較試驗 一七系
  - e. 直播試驗 一一〇

(B) 陸 稻

- f. 肥料三要素試驗 一二五
- g. 選裁試驗 一〇系
- h. 實驗供試材料栽培 三系
- i. 土壤對陸稻生育調査 一八五

(C) 麥

- a. 大麥品種繼續及特性調査 一七六系
- b. 小麥品種繼續及特性調査 九系
- c. ライ麥品種繼續及特性調査 九系
- d. 燕麥品種繼續及特性調査 一〇系
- e. 肥料三要素試驗 一〇五







雜	合計	五六羽
鷓鴣	エムデン種	二羽
	支那種	二羽
雜種	合計	五羽
f. 食用鳩	水ワイトキング種	
	カイールノー種	
合計	合計	六番
珠鷄	四季鳥	一羽
四季鳥	和牛	五羽
8. 牧畜		一項

C. 生草刈取

畦畔道路等の野草

第三、園藝部に属するもの

終管反別	三〇一〇三
果樹園	一五、四二二
蔬菜園	一二、七〇九
花壇	一、九〇二
主なる実験	
其の一、果樹	
梨	
a. 品種試験及特性調査 (日本梨四二、西洋梨六)	四八種
b. 各種整枝見本栽培 (三八〇本)	八型
(B) 無花果品種試験及特性調査	八種
(C) 栗	九種
(D) 梅	四種
(E) 苹果	四種

馬 一項

(B) 乳肉加工実験

o. バター及チーズ製造実験

豚肉加工実験

(C) 仔豚の育成

鶏卵の孵化並育成

(D) 飼料の生産

(F) a. 飼料作物栽培 反別 四三、反八二七五

主なる飼料作物

五番黍(採種十一月刈用) 大豆(採種秋草用)

甘藷(採種川着) サトウイケン(青刈用)

紫米(採種、青刈用) クロハ

木本科牧草

b. 不草生産

野干草、牧草、大豆、クロハ

(F) 葡萄

a. 品種試験及特性調査 (本園系六、改組系四)

b. 硝子室葡萄栽培 (三〇坪三二本) 七種

(G) 李品種試験及特性調査 (東洋系一〇、西洋系二)

(H) 桃 全 (東洋系一〇、西洋系二) 一二種

(I) 柿 全

(J) 其の他

a. 葡萄免疫性砒木養成 七種

b. 各種果樹砒木用植物栽培 一八種

c. 草苺品種試験及特性調査 七種

d. 花栽培及採種

其の二、蔬菜

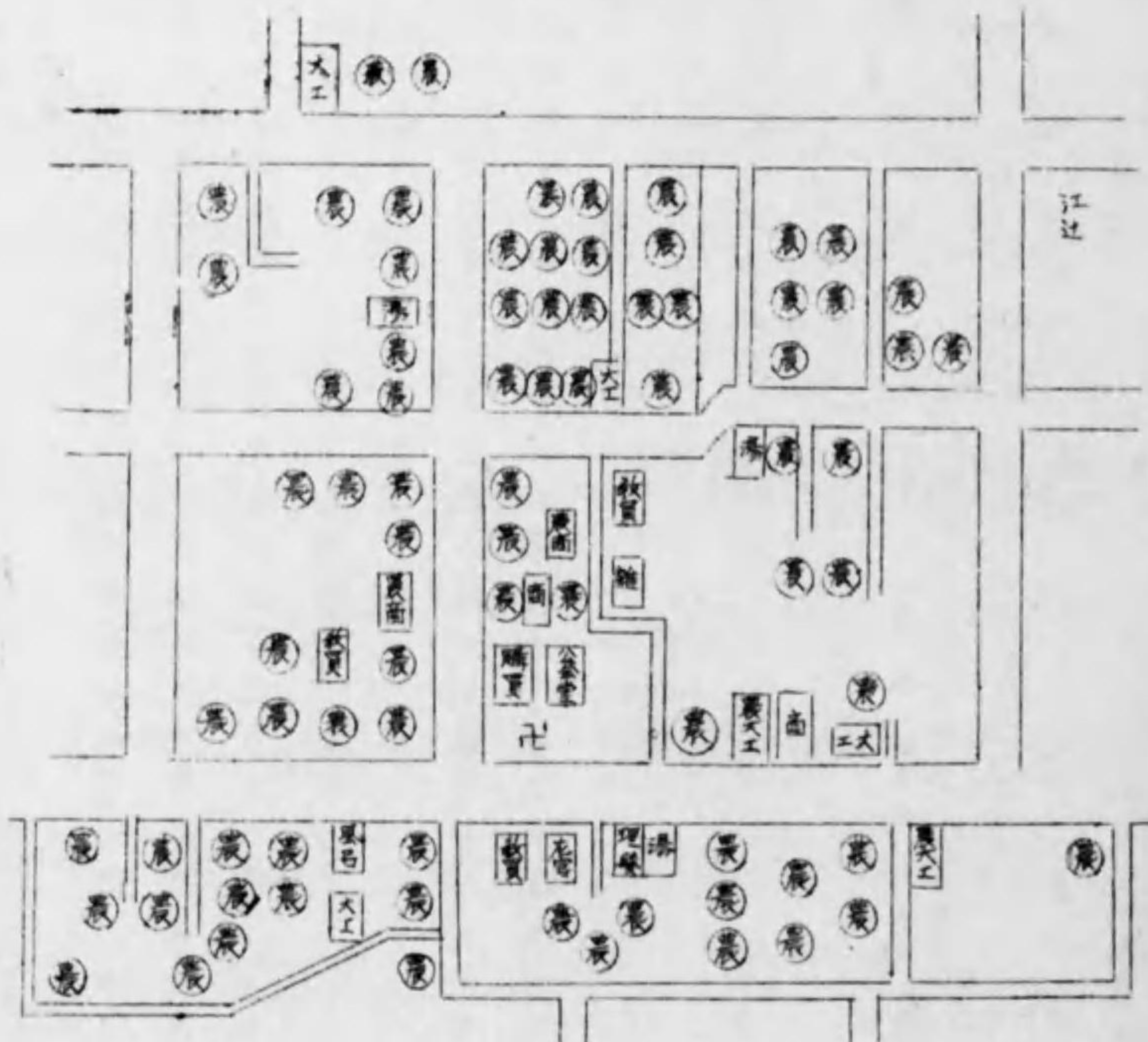
(A) 蔬菜類品種試験

胡瓜、茄子、番茄、南瓜、西瓜

(B) 根菜類品種試験

人参、蕪菁、人参、里芋、臥哇薯、





大川村地方

大川村は、立花丘陵と仲原台地の間に位し、勢門久原山田の諸谷地は此の地に相会してなる。地勢は周辺に台地丘陵の末端を見るのみで、全村殆んど平坦にして田圃多く田畑の面積は全面積の六割四分を占め其の割合は本郡中第一位である。人口は四千三百余人一方軒の密度五百八十人にして農村としては本郡中最も大なり。地勢の關係上農業が主で、全戸数七百七十戸の中四百戸即ち五割二分が農業に於て南部柏屋では山田村に次ぎ農業戸数の割合が多い。農産物の中心なるものは木菜類である。

此の村には信用組合、販賣組合、利用組合、農村に於ける福利増進の諸機関が早く

- (C) 莢実類品種試験
  - (D) 葉菜類品種試験
  - 結球白菜、茂蔭草、柳菜
  - (E) 鮮莖類品種試験
  - 根菜類、葱頭
- 第四、中央部に属するもの

- 一、貸地の管理
  - 二、農産物の管理
  - 三、其の他各都に属せざる此の地産物の管理
  - 四、土産物の処分
  - 五、農産物の販売
- 以上



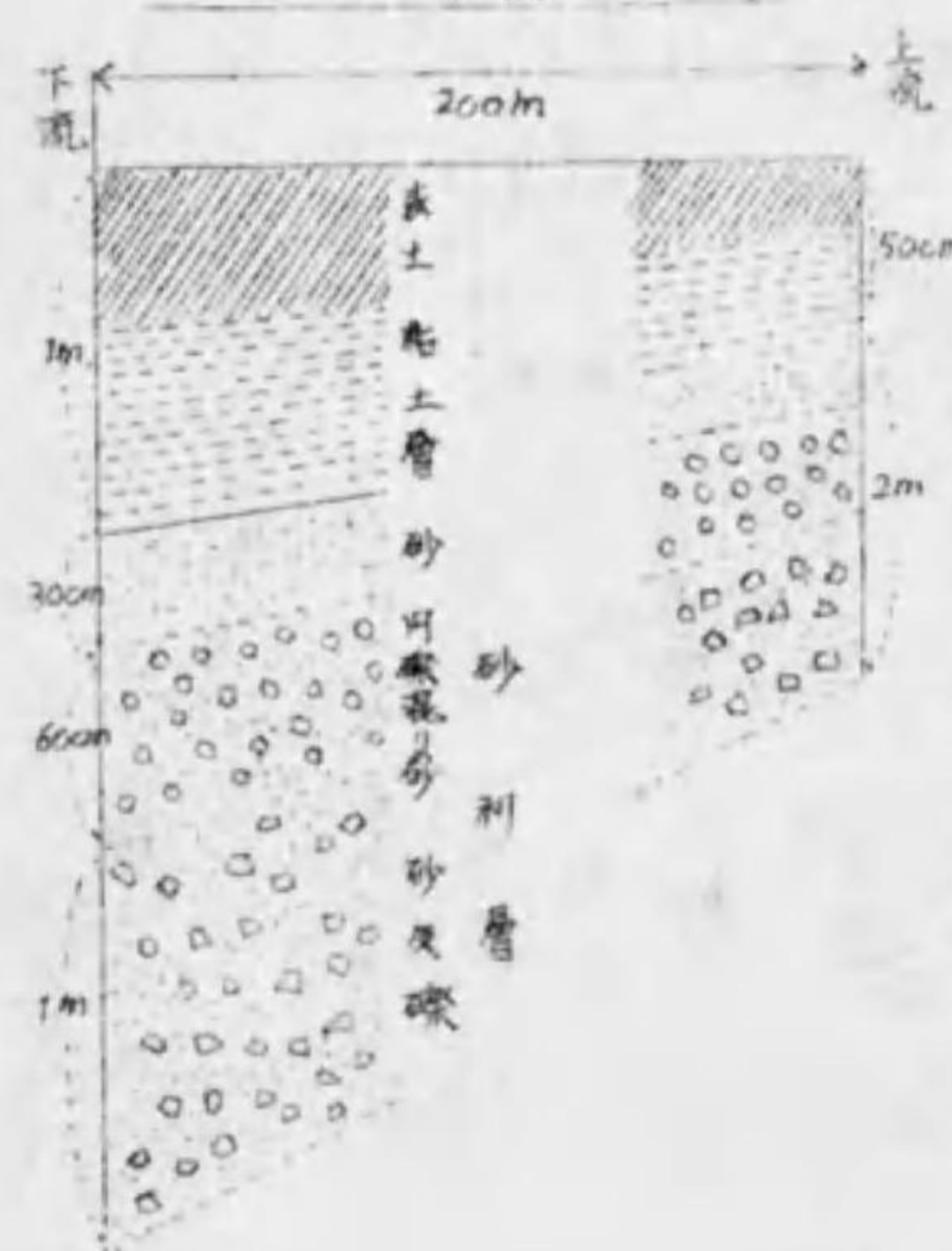
から設けられて、一時縣下でも有名な模範村であった。

聚落の形態と職業別に特色ある江邊。江邊は田舎としては珍らしい程、道路も整った井然とした聚落である。古誌によれば、元此の聚落は北西約半村の川岸古屋敷と云ふ所にあつた。然るに此の地は篠栗川久原川猪野川の合流する辺りにして、暴々水害を蒙りたるにより度々七年現在の地に移れり。思ふに既に道路割りに出来たる所に移転された結果、井然たる聚落として奔達したのであらう。

珍らしき砂利採集場。土井駅から伊賀に行く途中、溝鉄線を踏切り篠栗川に架せられたる橋を渡るとすぐ、其の附近の田地を掘り返して墓んに砂利を採集してゐる。元此の辺一帯は篠栗川久原川猪野川の氾濫原で昔盛んに土砂の堆積が行はれたものと思はれる。を此水永年の間に種々な変化を経て今日見るが如き良田と化したのである。

砂利採集場は約三米迄掘り下げられ、其の間には於ける地層の変化は見取図の如く地表より約一米下迄は表土粘土層で、以下砂河礫層となつてゐる。河礫以下を採集してゐる。其の附近

砂利採集場の見取図



は透水が湧出してゐるので砂利を其の場で綺麗に洗つてゐる。其水等の層は上流に行くに従つて厚さを減じてゐる。岸内地方では扇形の礫から、此の地方では田地の下の方への氾濫原から砂利を取るなど面白き對照であると思ふ。

多々良村地方

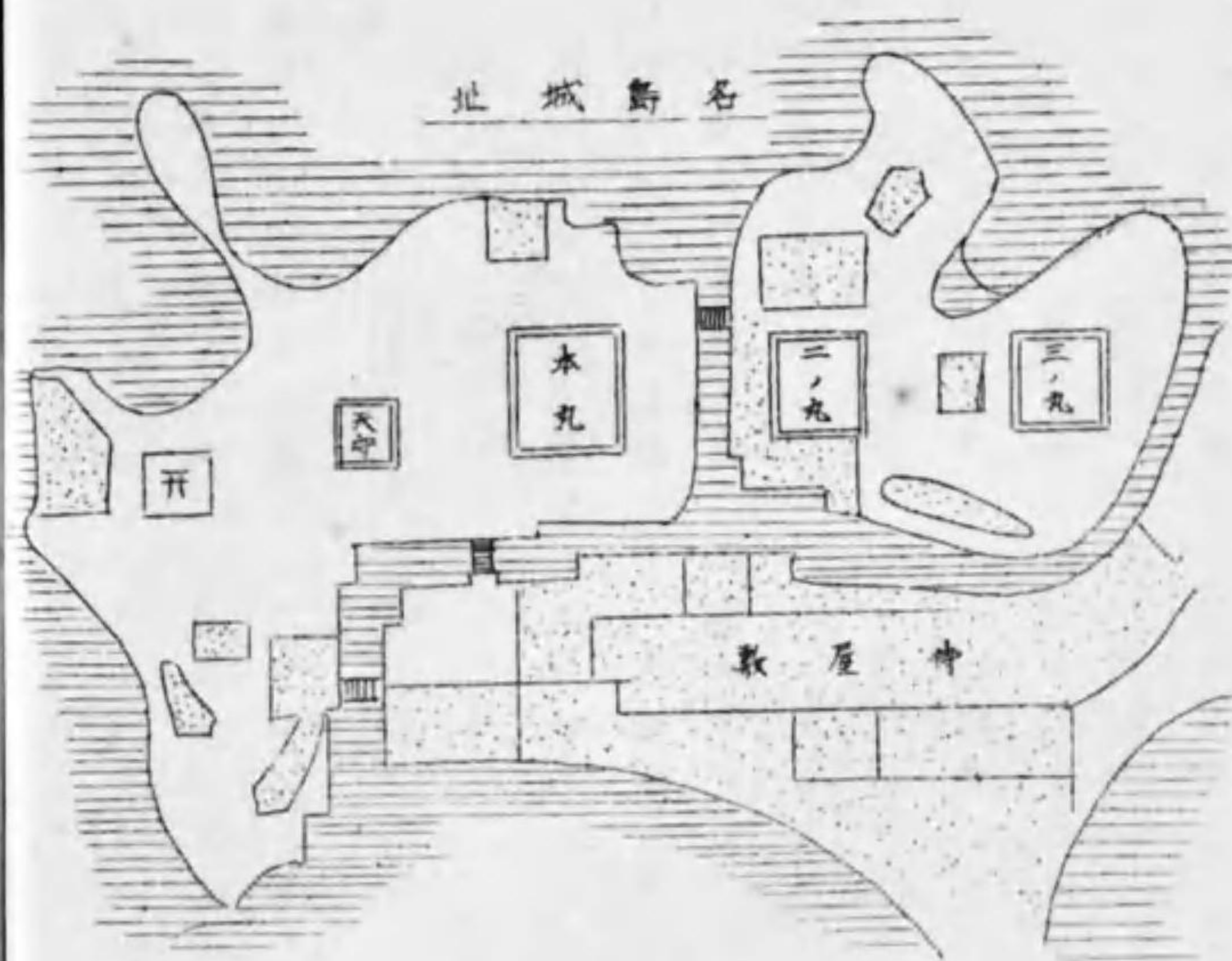
名島の風物

名島帆柱石。名島宇城山の固有地域にあり、神功皇后が三韓征伐の時に用ひられた帆柱が化して石となつたとの傳説あるを以て有名なり。

名島及び其の附近の丘陵は、頁岩、砂岩、礫岩の三種の岩石よりなる第三紀層に属す。頁岩は風化し易いか、砂岩礫岩共に礫岩は一層硬く、風化水蝕を受けること少なし。帆柱石附近は多くこの礫岩よりなり波浪に對し抵抗し岬の如き状態をなして海中に突出せり。帆柱石が波の作用によりて地表に現はれたりとはいへ、海中に流氷出でざりしは硬い礫岩中に存在してゐるからである。帆柱石は傳説の如く千六七百年前の如き新らしき樹木の變化して生ぜしものにあらず、第三紀時代、人類の未だ發生せざらざる昔の樹木が砂礫の中に埋没し木質部が溶け去り、後に硅酸質が浸潤して樹木の形を其の儘保持せるものなり。即ち動物學上の硅化石なり。香椎宮の境内に見る硅

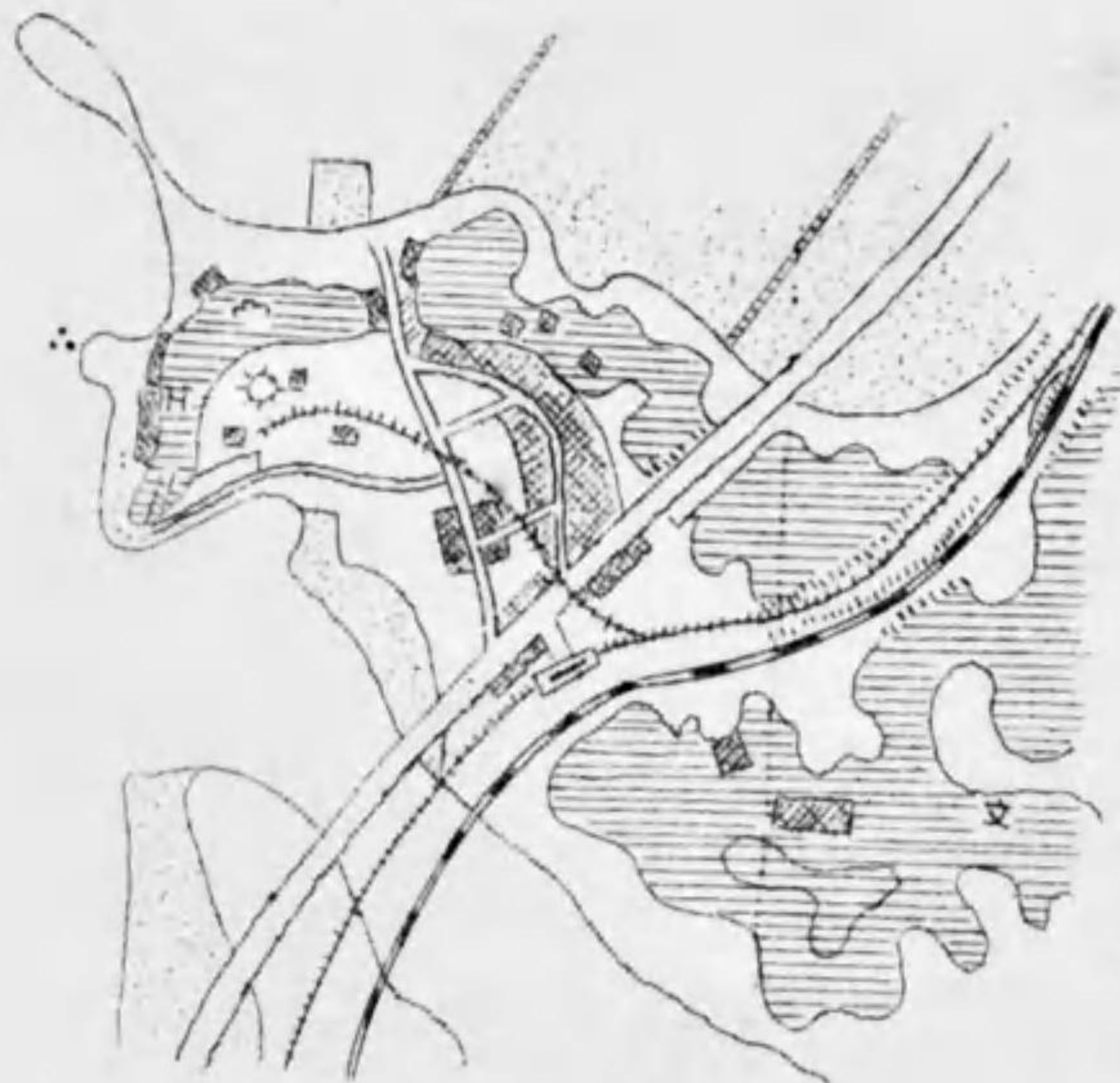


北本、柏屋炭田地方の松岩等は帆柱石と同一のものなり。



名島城址 名島半島は、番稚瀨と多々長川口との間に突出せる岬角的な小半島に過ぎざれども三面海を廻らし頗る景勝の地なり。初め名島は立花但馬守鑑載が築きし立花山端城ありしが、天正十五年小早川隆景豊臣秀吉の命により此の地に城を築く。其の後隆景は養子秀秋に國を譲り備後國三原の城に隠居せり。秀秋相繼ぐ國を領し、慶長五年迄十四年間父子相續いて當城の主たり。徳川家康は此の國を黒田長政に與へ、秀秋は備前美作に封ぜらる。長政は此の地域地域狭小にして、大國を守るの地に非ざるとなし、福岡に城を築き、名島の城を悉く削して福岡に運漕せり。城既に廢せられし彼は、草樹狭らに茂り閑寂

な一農村と化したり。



受生した名島 一時城下町として般販を極めた名島も、福岡城築かれし後は、人里淋しく水草茂る古濠に鳴く水鳥の聲も懐水なりき、然るに時代は変り、其の悪水を地理的位置と、自然美は先づ大正八年東邦電力会社（當時九州電燈）の発電所が設けられ、彼の偉大なる煙突は三百年間、冬眠を

續けてゐたる名島には余りにも急激な変化であつた。續いて大正十三年博多湾鉄道の開通、更に近代的大國道二号線の貫通となり、遊覽地として郊外住宅地として、大福岡市と繁栄を共にし、將來の發展を固く約束されるに至れり。明治初年頃ノ教壇に四十二戸の閑静な農村が一躍ノ教三百八十戸、人口千八百余人の大聚落となり、更に將來に幾多の希望を持つてゐる。名島取の月別降車人員を見ると各月が割

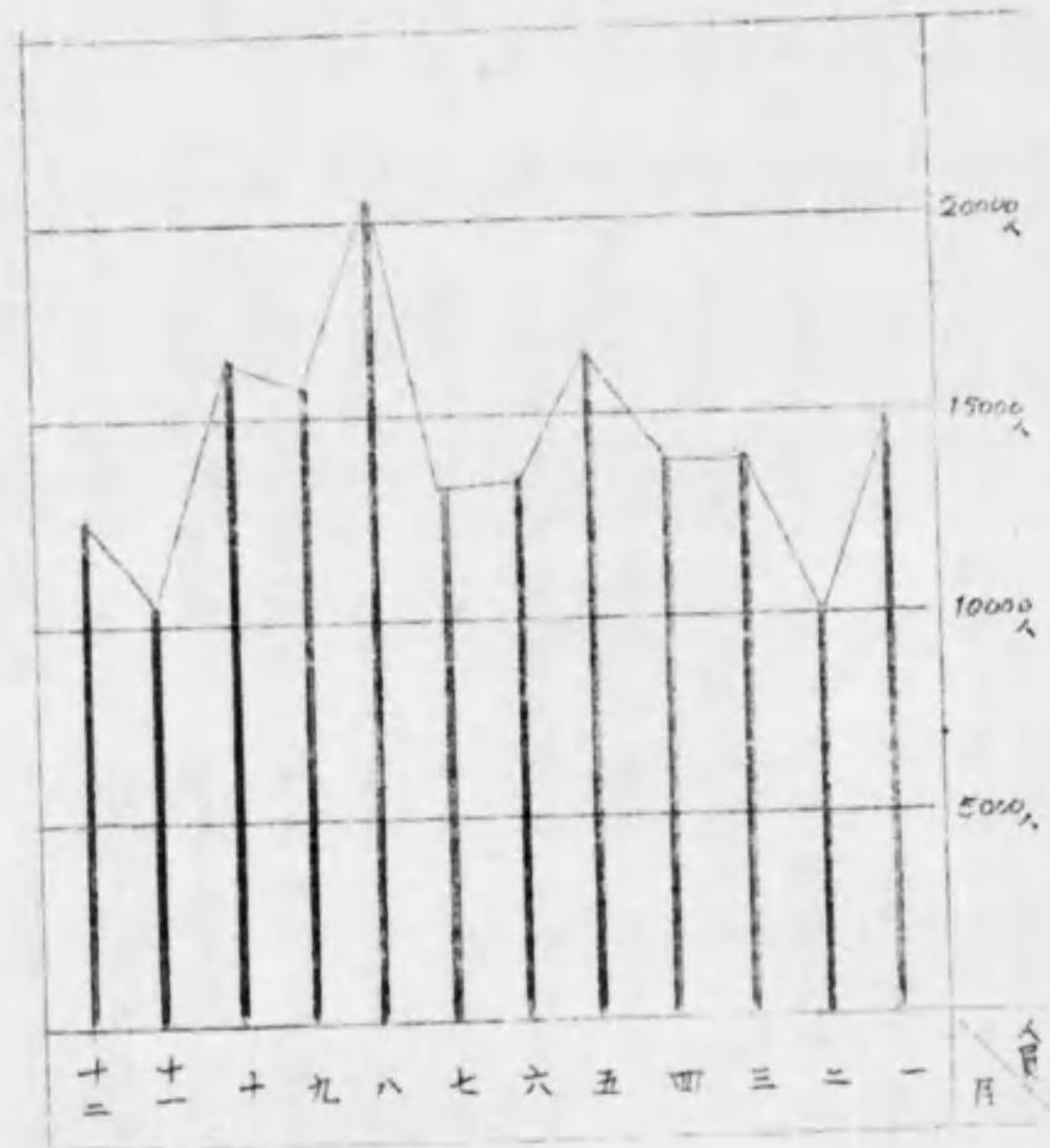


合に平均し同じ遊覽地の香椎、茶  
 多の型と違つてゐる。その水は福岡  
 市と交通便を為し、住民の大部分が  
 福岡市に依存した生活をせしめる  
 結果であると思はれる。即ち日用  
 雜貨の買入此界めく下宿人種々福  
 岡と往來してゐるからである。次  
 に名島海水浴場があるから遊覽地  
 としては夏型である。

**妙見島** 此の島は香椎島の御島、  
 西公園下の鶴來島と同じく離れ小  
 島である。周囲百二十間、干潮の  
 際は歩渡が出来附近にはアサリ貝

が多い。神功皇后三韓より御歸陣の折兵船を納め給ひし處と傳へらる。  
**名島神社** 名島の先端辨天山にあり祭神は宗像三神なり、神功皇后三韓より御凱陣  
 の時初めて宗像神を此處に祭り給ひしと傳ふ。

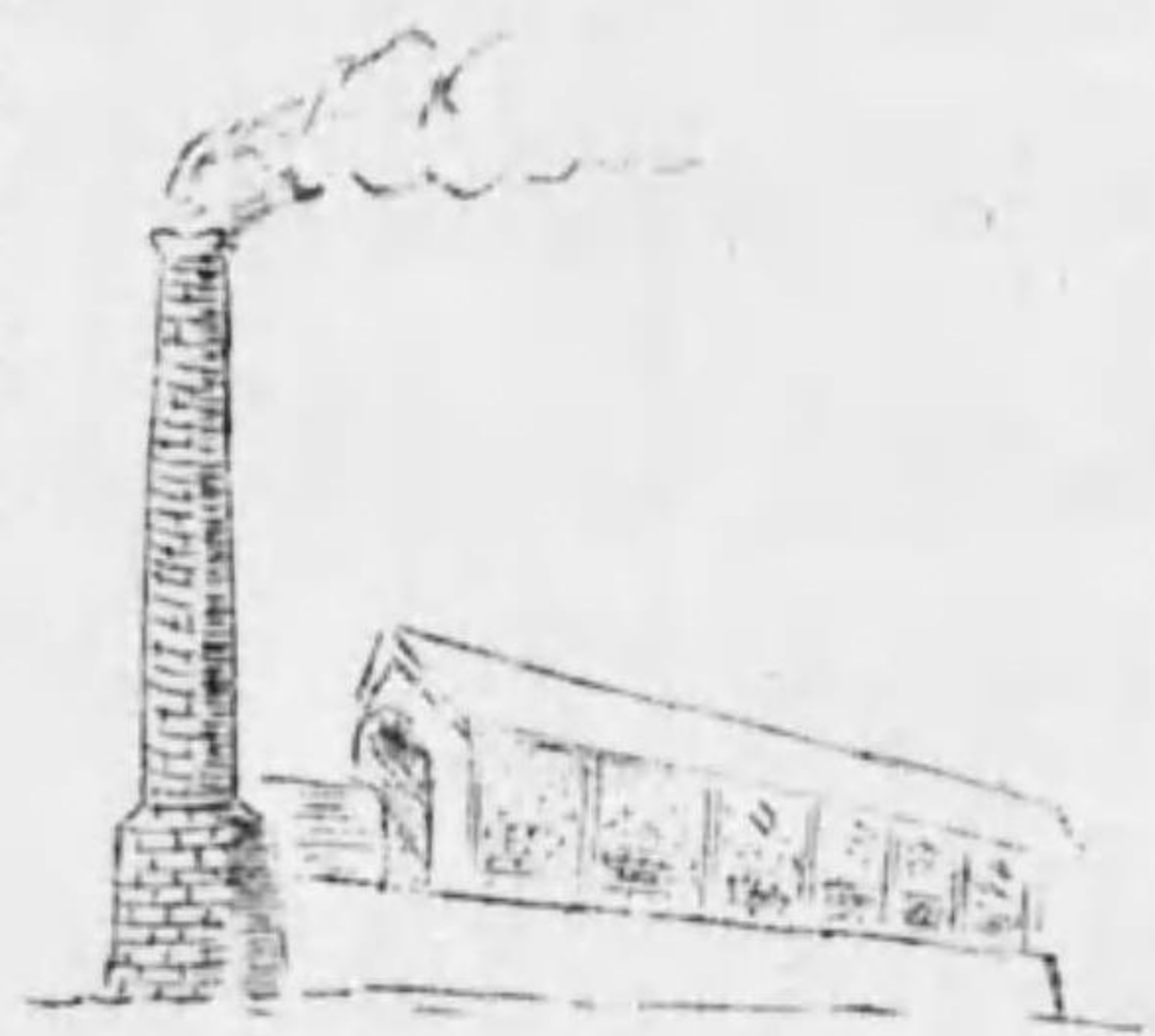
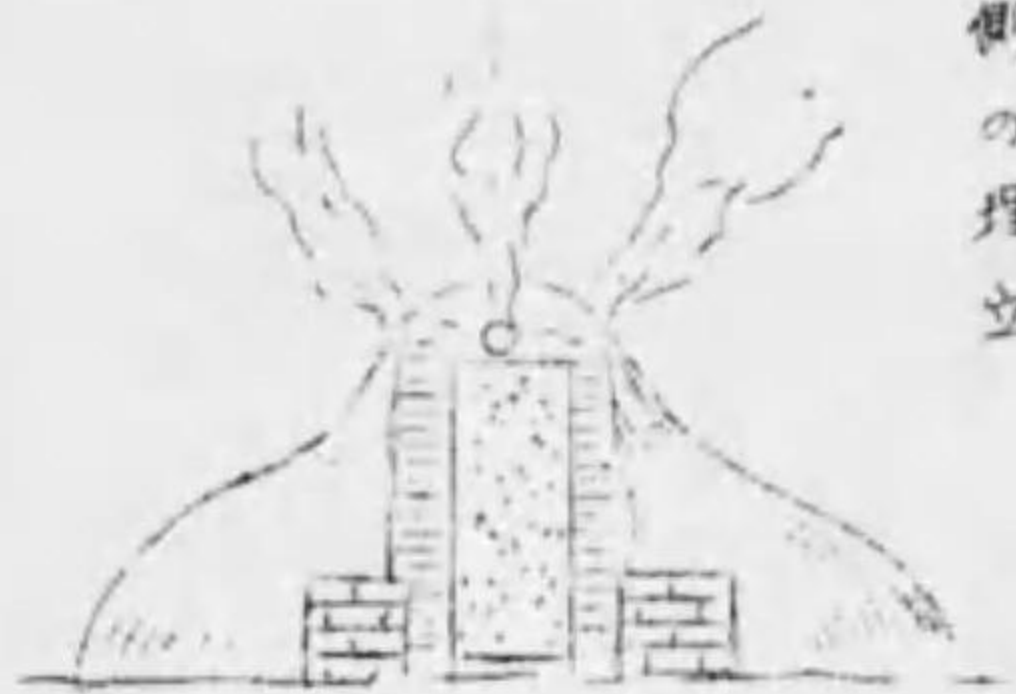
名島駅降車人員表



**辨財天祠** 名島神社より南一丁同じ山續きなり、祠は南に向つて立てらる。己巳の  
 日参詣するもの多し。

**東邦名島発電所** 大正七年十二月工事に着手し大正九年四月竣工一部送電開始、其  
 後設備一切を完成し、発電能力最大四万五千キロワット、普通は二万キロを発電せり。  
 送電区域は福岡市及糸島早良筑紫粕屋宗像の各郡市、遠距離送電により更に、大牟田  
 市佐賀長崎大分の各縣にも及んでゐる。石炭の消費は一日約五百トン、年十六万噸内外  
 主として粕屋の各炭坑から供給をうけてゐるが多少は姪炭炭、筑豊炭も使用されてゐ  
 る。石炭の灰は灰捨電車で運搬されて北側の埋立

用とつてゐる。又一部は黒焼瓦の原  
 料とし利用されてゐる。用水は名島城  
 址の濠から仰いでゐる。従業員百四十  
 五名、扶養家族を合して見れば名島全  
 人口の三分の一に達し、名島発展の基  
 礎をなしてゐると云つても過言ではない。



土井附近の地と第三紀層の赤石を原料とした瓦及煉瓦工場のスケッチ。



水郷多々良 背嶺に翠巒の丘陵を貫ひ、前に多々良の清流を控へた松崎多々良の  
屋の一帯は、大福園を控る高級文化住宅地として其の精華を豫想されたる。既に名  
島に續く一帯は福岡市の風致地として指定されたる。多々良川下流の白良寺等は  
地方的名産として知られてゐる。

### 宇美町地方

宇美八幡で名高い宇美町は門前町と云ふより炭坑町と云つた方が適當である。明治  
二十年頃は戸数僅かに五百四十戸人口二千八百人に過ぎざる一農村なりしが大谷、昭  
和、早見等各炭坑の開坑を見るや、人口俄に激増し今日一万六千人を算するに至り、  
内炭坑関係者は七千七百人以上この四割八分に當る。又町の商賣から見ても現在最も  
活況を呈してゐる所は、八幡宮附近でなく各炭坑の会合点に當る高鉄線の宇美駅、参  
宮線の上宇美駅附近になつてゐる。炭坑の存在は宇美町として見逃し難い事實である。  
宇美八幡宮 安産祈願で有名な宇美八幡宮は、八幡天神を奉祭し香椎大神、竈門  
天神、太祖大神、住吉大神を配祀せり。古記に神功皇后新羅より御凱旋後山水麗はし  
は此の地を、御産所と定め給ひしと傳へらる。境内に衣掛の森、湯釜の森など言へる  
巨樟あり共に周囲六丈に余り今は天然記念物に指定されたる。

### 四王寺山古趾

大野城址 今を去ること千二百七十有余年、當時日本、唐、新羅、

百濟、四國戦役の記念物として遺存せるものにして、天智天皇の四年、百濟の遺族連  
年、饒禮福留、同四比福夫をして築かしめられ、肥前の基(礎)城と共に我が國に於け  
る最初の朝鮮式築城なり。其の城址は大野山(四王寺山)の頂近き所を一圍し、周囲約  
一里半、石垣築にして其の石築の遺存せるもの、大石垣(又百間石垣)、小石垣、坂  
本口の石垣等あり、皆城門の所在なり。其の北大部分は、土築にして、場所に依りて  
は其の形克く認めらるる所あり。城内にありし主城司、又は兵庫、燈倉等の址と認め  
らるる所には、其れ、礫石、非常用木の址など存し、又永年土中に埋没して黒く変  
色したる穀米(普通「焼ケ米」と稱す)の出土せるものあり。

四天王寺址 當時此の築城ありし爲、山の名も大城山又は大野山と稱へしが徳光仁  
天皇空襲五年、大野築城より約百十年後、四天王寺を此の山頂に建立して四天王の像  
を奉造し、海ら佛力に頼りて外寇を攘ふこととなりし爲、後には山の名を四王寺山と  
稱へて今に及べり。此の四王寺址及び寺門の礎等も遺存す。近年山頂より石佛、経筒等  
出土し、又朝鮮製の石鐺等も發掘したり。此の石鐺は當時築城に關係深かりし百濟の  
人の使用せしものなる事を推知すべし。

岩屋城址 四王寺山上に在り。大野築城より八百九十五年後、天和十二年を距る事  
三百七十九年前、天保二年、豊後大友の一族高橋鑑種が築く處にして、後ち同じく大



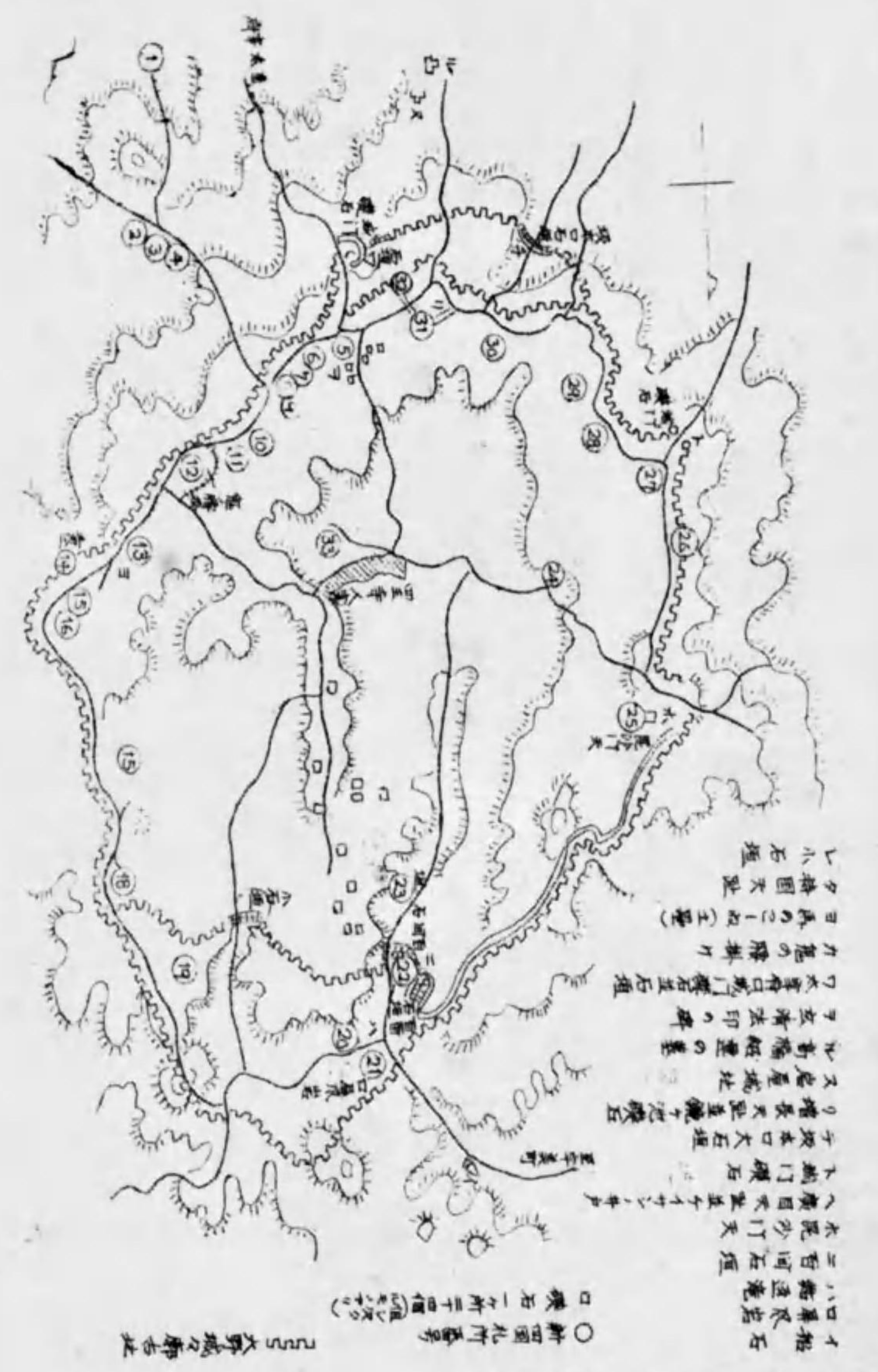
天の族高橋紹運、空齋、岩屋の西城代となり、敵に居城せり。享和七年、天正十四年島津義久の爲めに攻められ、五十倍に余る敵を受け、城内七百六十余人の將卒、二百の守敵に一卒遁れ去る者無く、悉く城頭の盡く消えたり。紹運の墓は四王寺山の南面にあり。先年、大正天皇特別大演習御統監、福岡御駐蹕の節、紹運の義烈、聖聽に達し、特に侍従武官を此の墓に差遣あらせられたり。

觀世音靈場、昭和十二年より百三十八年前、寛政十二年、大野城址の主要地及び夏景絶佳の地三十三ヶ所に、西國三十三ヶ所の靈土を移し、觀世音菩薩を奉祀せり。靈徳を仰慕して参拜する者年々夥し。

玄清法印碑、法印は天台佛説法の開祖にして、天平神護二年、筑前太宰府に生れ、七歳にして受戒し、後眼疾に罹り、失明して盲僧となる。常に琵琶を弾じて地神陀羅尼経を讀誦し、深く佛火に祈り、昭和十二年を距る千四百十四年前、弘仁十四年十月十七日遷化せり。碑は四王寺山上、焼米ヶ原にあり。

古蹟年表	(年 代)	(紀元)	(大野築城より)	(昭和十二年迄)
大野築城	天智天皇四年	一三二五	(一)	一一七三
四王寺創設	光仁天皇空龜五年	一四三四	一一〇	一一六四
玄清法印遷化	嵯峨天皇弘仁十四年	一四八三	一五九	一一一五

相屋郡守美町四王寺山古蹟図









三郡山麓の高地聚落分布



どの一箇標であると思ふ。

障子岳部遠は本村(三〇戸)今屋敷(四〇戸)極楽寺(四〇戸)及上原より成る聚落にして、山高く水清き仙境ではあるが花崗岩地域の明るさを持ち至るところ原始的な水車が廻つてゐる平和な村である。

今屋敷本村に七つの水車があり其の中二つは大水車で精米機械を運転し、小水車は皆村の共有で輪番に米一俵づゝ搗くと云ふ事である。水の利用に及び、花崗岩は屋敷の石垣として又石炭灰石として一つの賦原になつてゐる。香椎宮の行塔記念碑及び玉垣の花崗岩もこの地から搬出されたもので其の他福澤地方にも運ばれてゐる。

神武原高原は極楽寺より一帯に五十米花崗岩雲母爛地帯に多く見られる薄の小路を登ると高原に達する。扇状一帯に美田開け十四戸の部落在る。高原の周囲は雑木林河地になつてゐる。此の高原は古き崖錐式扇状形地の破片である。

中原(此の地方では蘇辺と称する)宇敷七戸砥石山の中腹二百五十米の高地にある。崖錐上の開墾地には杉松の苗木多し。

宇美の舊代日本の舊代 清酒舊代は小林作五郎の研鑽に依り今日の釀價を見るに至つたものである。八幡宮とこの銘酒とにより宇美町は全国に知られた。





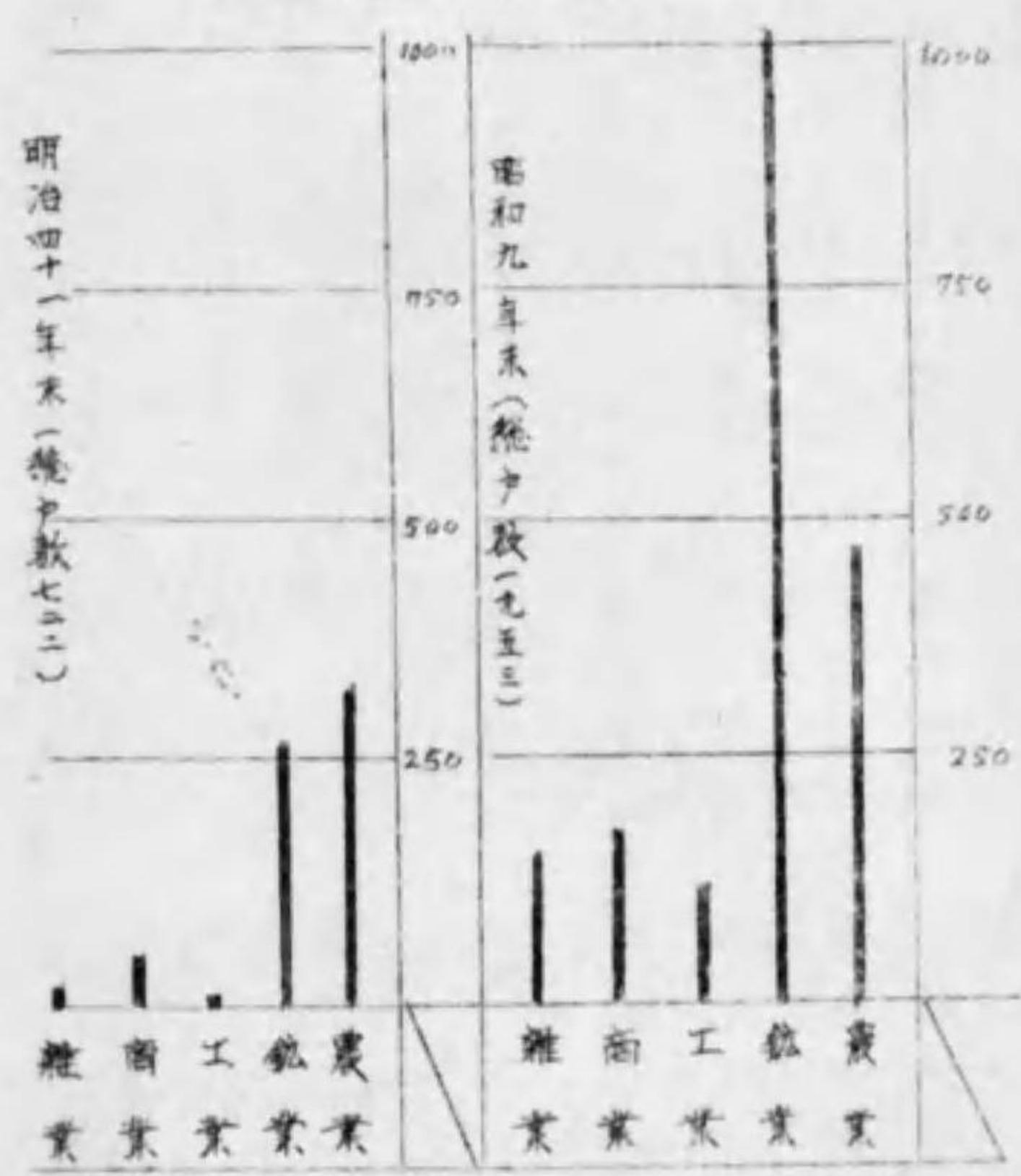
須惠村地方

新原炭田の中心として志免村と共に世に知られた須惠村は、舌の須惠河川の地にて、北に若杉城山の鹽峯壁へ南は新原台地により志免村宇美町と境す。東端シヨウケ越の妻谷より清水奔流して須惠川となり村の中央を貫流す。

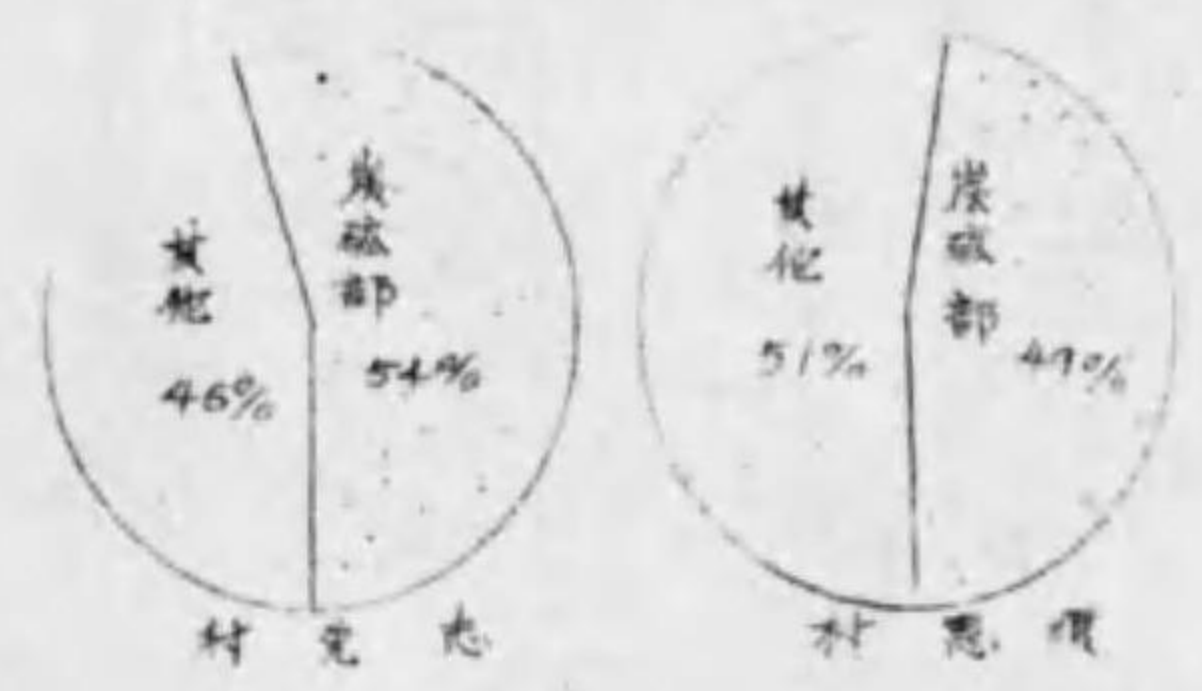
海軍炭坑で知られた須惠村 明治二十二年七月新原の北西に第一二坑の開坑となり、

續いて東方台地に第三坑開坑されるや、地味に活氣を呈し、純農村は變じて炭坑村として、第一二坑は廢坑となりしも明治三十四年第四坑開坑さ水更に旅石に六坑も出來、今日では炭坑関係の人口は約

須惠村職別別調



炭坑部人口割合



新原台地の地形



五千に達し、全村人口の半分以上を炭坑村としての特色を發揮してゐる。近時海軍五坑の発展により採炭部の中心が西部志免村に移動しつつあるも、鉱區の分布から見れば将来の希望は未だ十分にある。

石炭の宝庫新原台地

須惠川、宇美川の間を北西に延び、新原台地は四十米乃至二十米の第三紀







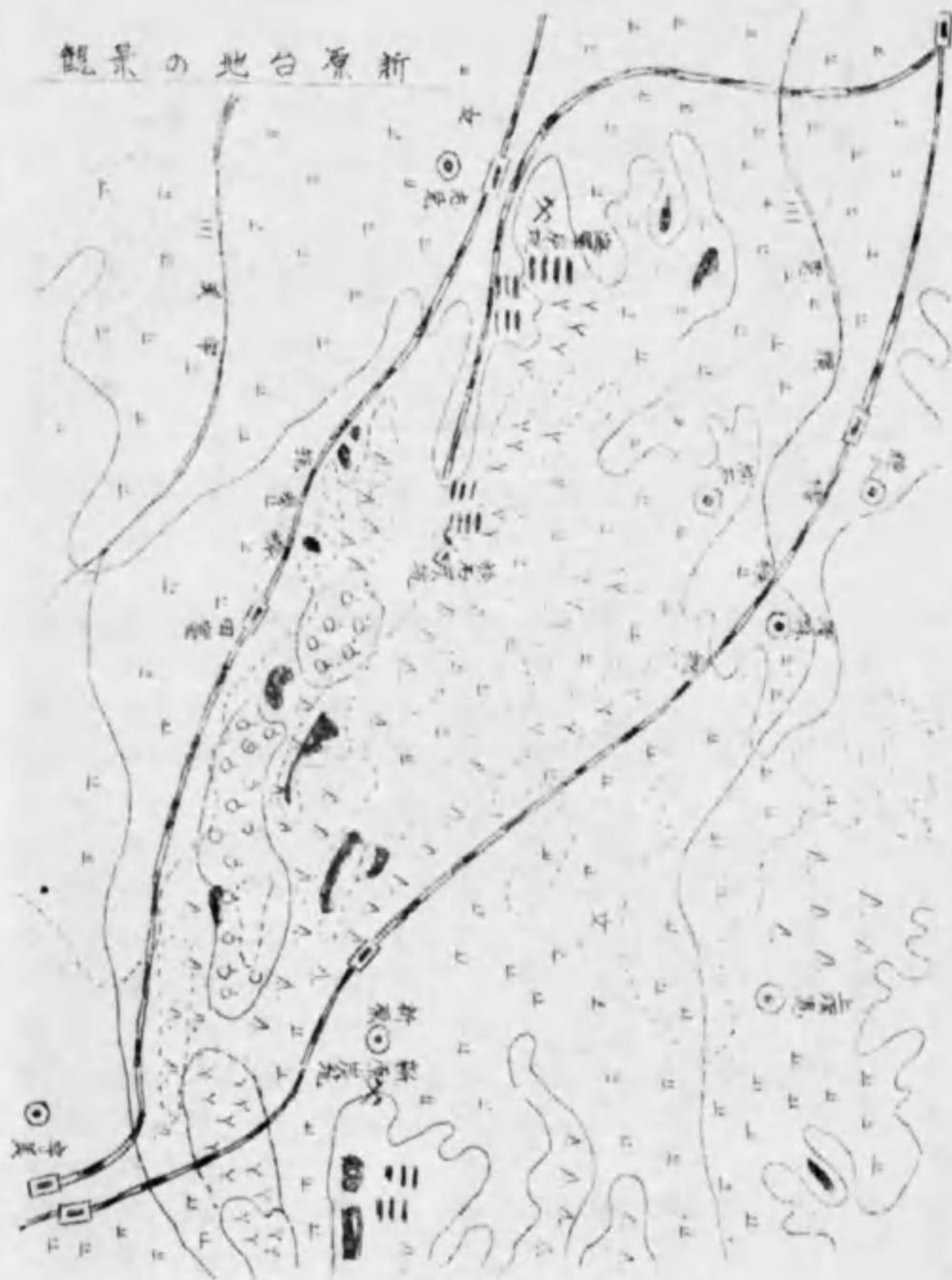
た美田である。ホタ山と炭坑聚落は此の台地特有の風景で約一万人が此處で生活して  
 依存して生活して  
 なる。旅石は純農村  
 をなしてあるが新原  
 は炭坑に依つた聚落  
 である。

佐谷観音、須恵焼

田原眼科医院

佐谷建正寺の古來  
 は遠く奈良朝に奉し  
 聖武天皇は深く佛法  
 に歸依し給ひ全國に  
 多くの寺を建て給ひ  
 し時若杉山に延年寺  
 大祖山三藏院を建て  
 られ、此の地大いに

新原台地の風景



繁栄したり。左谷、右谷の二ヶ所に分れ、左谷(今の佐谷観音谷)の寺を建正寺西南  
 院と稱し、右谷(今の若杉)の寺を石泉寺東北院と稱せり。昔時兩谷に於て三百区あ  
 りしと云ひ、又左谷山(観音谷)の道筋左右には末社百堂を建立しありしと傳へらる。  
 降つて天正頃廢、兵火に罹り、古の佛を全く止めざるに至つたことは遺憾である。今  
 猶觀音谷に保存しある焼残りの佛体は戦國當時の遺物なりと謂ふ。

須恵焼(四山焼)は今より約百五十年前安永年間、時の藩主黒治之公は製陶を計畫し  
 上須恵宇山に原料豊富なりしを以て此處に敷地を選定し、肥前の職工と高取焼の  
 職工とを招き製作に従事された。是れが須恵焼の起原をなせり。其の後一時衰微せし  
 む嘉永安政の頃、藩主黒田長博侯の殖産興業に意を注ぎし結果復興し、特

に万延元年京都より有名な陶工沢田舜山を迎へ、其の他画工、職工等多数の老練者を集  
 めし急め、産額巨著せし向上し、従前名産須恵焼の名聲は殆んど全国的なものとなる  
 に到りし。然るに明治維新の變革の際、藩主長博侯が東京に移住せられしにより惜い  
 かに再興後十年未滿即ち明治三年に廢滅するに至り、明治二十年頃地方有志により  
 復興せしむ。数年ならずして止めり。

田原眼科医院の古い歴史と傳統を持つ田原眼科医院の存在は、須恵村の大きな誇り  
 である。昔正徳年間大友氏の家臣田原氏(眼科医)が此處に落ちのびで開業した事から



始つた。當時上願恩は遠近から集る療養者の為に療養の傍ら宿屋を開く者が多く、頗る繁昌してゐたと云ふ事である。今日では交通機関の発達により宿屋業は衰へし一方疎業の産で知られて来た。病院は其の増々栄文香椎村に立派な分院がある。

志免村地方

相屋炭田の中心地として幾多の特異性を持つた村である。明治二十二年町村制施行當時は本村の戸口は僅か三百九十戸人口一千九百五十人を有する一農村であつた。住民は皆農業に従事してゐる。然るに明治三十六年博多湾鐵道の開通。全三十九年海軍練炭部第五坑の開坑。大正五年筑前参宮鐵道の開通あり、其の他現在の龜山炭業所並に相屋炭坑等採炭業の振興に伴ひ村勢愈々盛んとなり。大正九年人口一万千余りであつたのが大正十四年には一万四千八百人更に昭和十年の國勢調査によれば戸数三千九百六十九、人口一万九千五百人を数へ縣下有数の町村となつた。此の驚くべき膨張率は全く炭坑地なるが故にして、他の町舎に類例のない現象である。斯くして僻村存昔の味は次第に影を没し、全国的に有名な寄合世帯の村となれり。

炭坑村志免

昭和十年末志免村の人口は 一万九千五百八十四本籍人口は四千六百七十七人にして残り一万四千八百十九人が外来者にして、本籍人口の約三倍に相當してゐる。此の關係は炭坑地、新興の商工業都市に見る一般的傾斜である。志免村に於

ける炭坑關係の人口を見るに、相

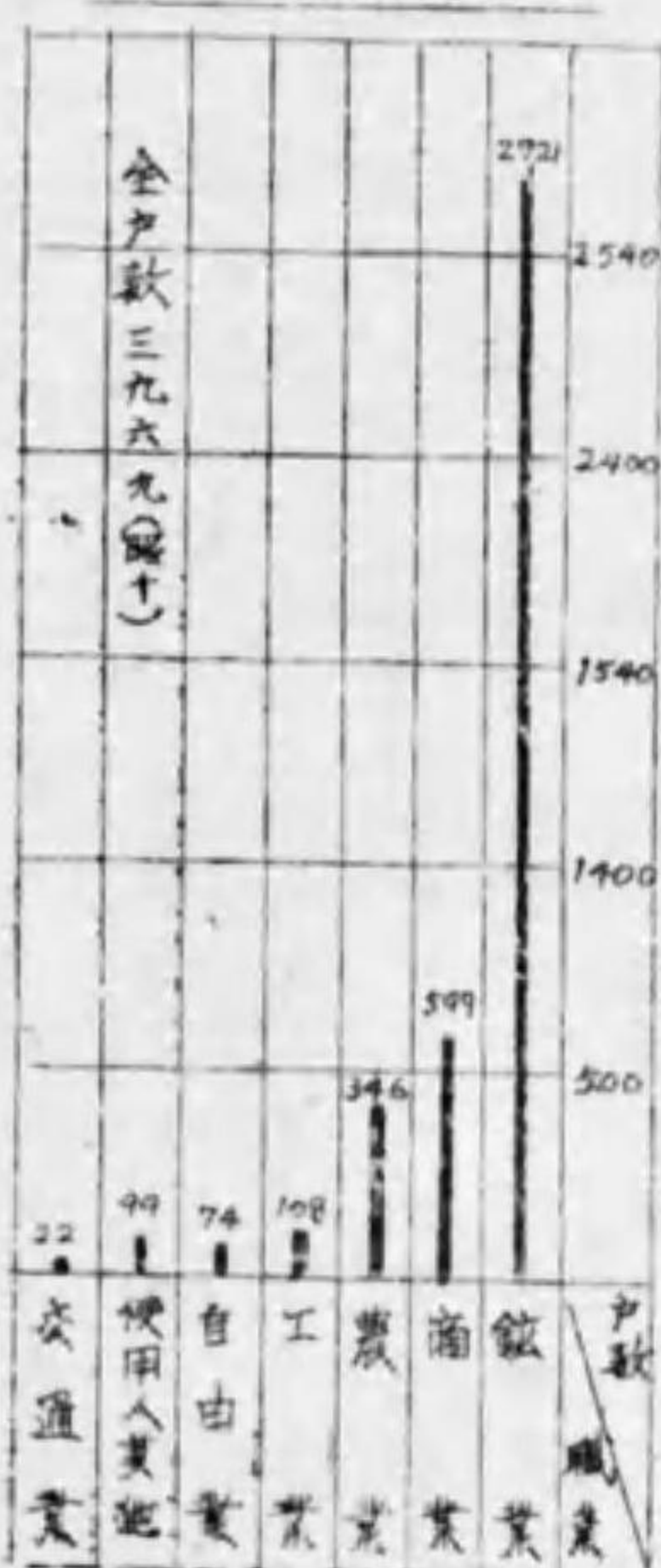
屋炭坑三千二十一、海軍五坑四千二百三十八、龜山炭坑三千五百八十八、合計一万八千四百七十七人に達し、更に之に附隨した商工業者を加へた場合志免村が全く炭坑に依つて人口が膨張した事實が明白となる。次に職業別戸数を見るに、全戸数の六割八分が鉱業、一割五分が商業、農業は僅か八分に通さず、戸数にして三百四十六戸。

之れを小野村、文花村の如く農家が全戸数の九割五分に達する純農村と比較すれば、表裏相屋の人文上の相異点を知る事ハ出来る。

炭坑聚落

選炭場の噴音、市場の雜

志免村職業別戸数





炭坑聚落の中心五坑



踏・谷底に台地に行  
 儀よく立ち並ぶ幾百  
 の鉱夫舎宅、幼年期  
 の火山を思はせる三  
 角錐の木々山等炭坑  
 風景には幾多の特異  
 性が窺はれる。海軍  
 五坑に属する五坑本  
 通を中心として発達  
 した聚落は他の炭坑  
 聚落に比し最も整頓  
 されたものである。  
 五坑本通りの広場を  
 中心に市場を始め其  
 の他の商店が集り一  
 つの商店街をなし其

四〇、外

の周囲に官舎、役員舎宅、鉱夫舎宅が分布してゐる。朝夕の買物時の市場廣場の混雑は一通りでは無い。(官舎及び役員舎宅二百九十戸、鉱夫舎宅一千四百二十戸計一千七百十戸)

海軍炭坑(海軍燃料廠採炭部)

一、一般來歴

明治二十一年一月海軍豫備炭山に指定さる。  
 明治二十二年十一月新原採炭所創設海軍繼  
 政本部に属す。  
 明治三十八年四月海軍採炭所と改称し佐世  
 佐鎮守府の所轄となる。  
 大正十年四月一日海軍燃料廠採炭部と称し  
 吳鎮守府の所轄となり今日に至る。  
 二、作業上の沿革  
 明治二十二年一月當時の海軍大臣西郷從道  
 閣下新原採炭所開坑委員に任命せらる  
 明治二十二年七月新原第一坑全十月に第二

坑開坑さる、共に堅坑。

明治二十五年標原に第三坑(斜坑)開坑。  
 明治三十二年新原第一、二坑廢坑。  
 明治三十四年新原第四坑(斜坑)開坑。  
 明治三十九年九月志免に第五坑(斜坑)開  
 坑。  
 明治四十三年志免に二重坑(斜坑)開坑。  
 明治四十四年志免第六坑(斜坑)開坑。  
 大正七年志免第七坑(斜坑)開坑。  
 目下第三坑は第四坑に属し二重坑第七  
 坑は第五坑に属す。



三、地層及び炭層

この地域は太古の改海にして、其の後幾多の変遷を経て今日見るが如き第三紀炭層が堆積したり。此の層は砂岩、砂質頁岩及び頁岩の炭層にして、稀に礫岩層夾在す。地層中に頁化石、木葉、羊齒類等の化石處々に發見せらる。鉱石の西部一帯は沖積層に覆はれ変動少なきも、東部東北部は花崗岩土生層に接し変動多し。

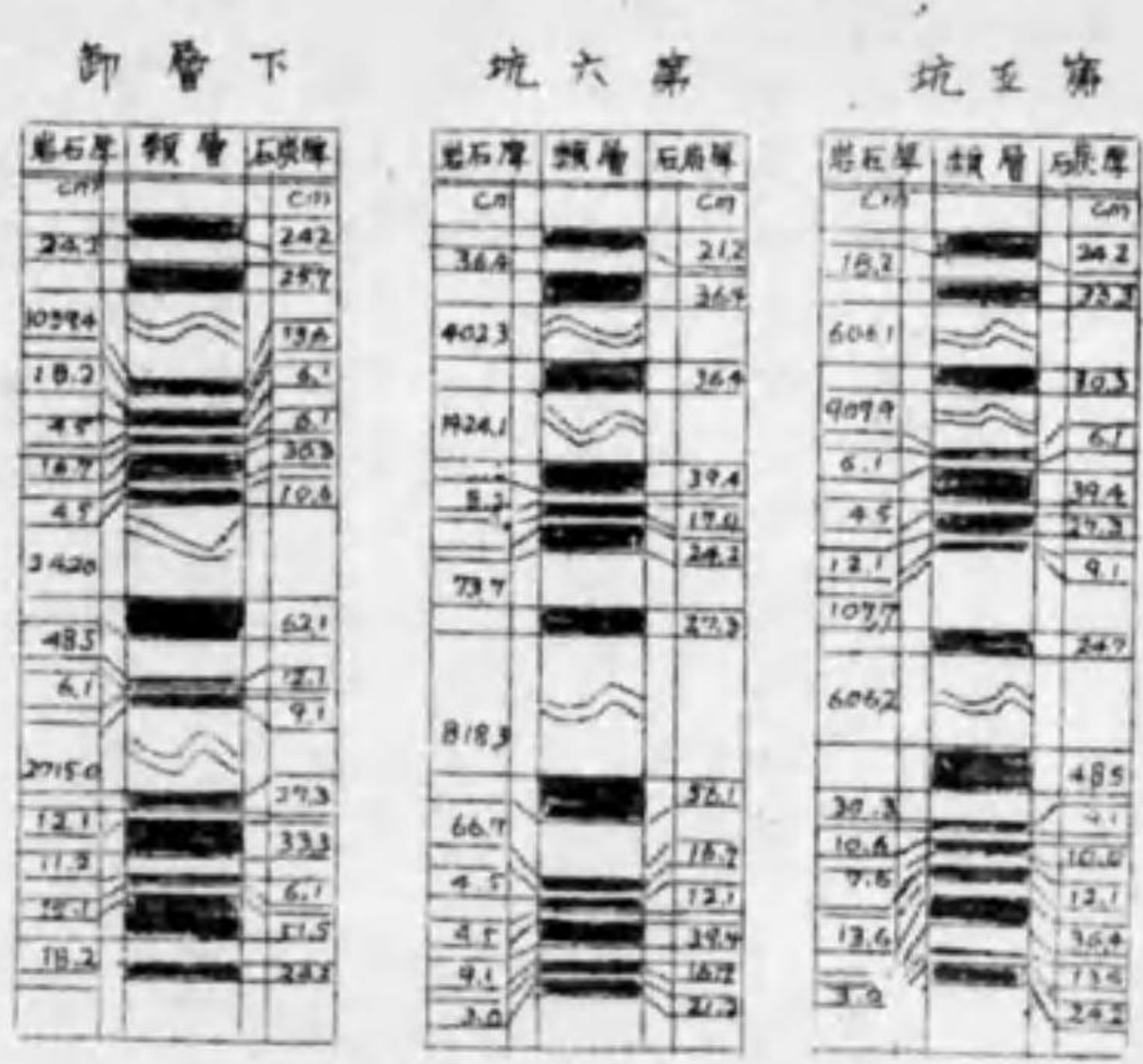
炭層は上部群と下部群とよりなり、上部群は二重一重三重炭石五重の各炭層よりなり、當初三重層を生じして採掘したるも、日露戦争後より五重層を採掘したり。其の後二重一重に反り、其の中主なるものは三重五重層なり、下層群は数多の炭層を含み目下主要目的層として試採掘中なり。石炭は炭質稍硬く塊炭多く非粘結性にして汽化用炭に適す。

四、出炭量及び出向地

開坑の當初は僅に一万三千噸に過ぎざりしが明治四十四年頃には二十万噸、大正十五年には四十万噸、昭和十年には約五十万噸と累年に増加せり。採炭技術の進歩、設備の完成、需要の増大等による結果なり。今や日本に於ける重要炭山の一つに数へらる。採掘されたものは殆んど西戸崎港に集中し海軍各鎮守府、要港及び海軍関係の官衙學校に送られる。

木夕山と陥没地

炭坑地方は景氣がよい、而し其の反面陥没による被害が実に悲惨なものである。仲原部落を中心とした須惠川流域に特に被害が甚しい。美田は沈下し、家は傾く、井戸は濁水する、道路は裂ける、実に困った事である。龜山南里地方では蓮根池に利用される所が多い、仲原小學校附近の陥没地は全く不毛の湿地と化し利用の途がない。らしい。炭坑側では全然不毛の地と認められた所には一般につき米五俵内外の金額を賠償をするが、少しも作物が出来たらそれだけ差引く、故に炭坑側では少しも作物をやらせやうとする。農家の方では余り作らず、其の辺の關係が面倒であると云ふ話である。柏屋郡の木夕山面積は三十ヶ所五十二町歩、其の中には既に住宅地畑地其の他山林



(表析分) 質 炭

種別	第一種塊炭	第三種塊炭	粉炭	細粉炭
固定炭素%	46.9	42.8	43.0	44.3
揮発分	47.0	38.6	38.6	35.8
硫黄量	0.39	0.43	0.43	0.6
灰分	9.8	16.7	16.7	16.8
水分	2.3	1.9	1.9	2.1
発熱量	6655	6215	6215	6215



等に活用されつゝ、あるが尚相當広範囲に亘り荒地が見られる。縣農会がこのホト山利用に乗り出したと云ふ事、炭坑地として幸甚である。

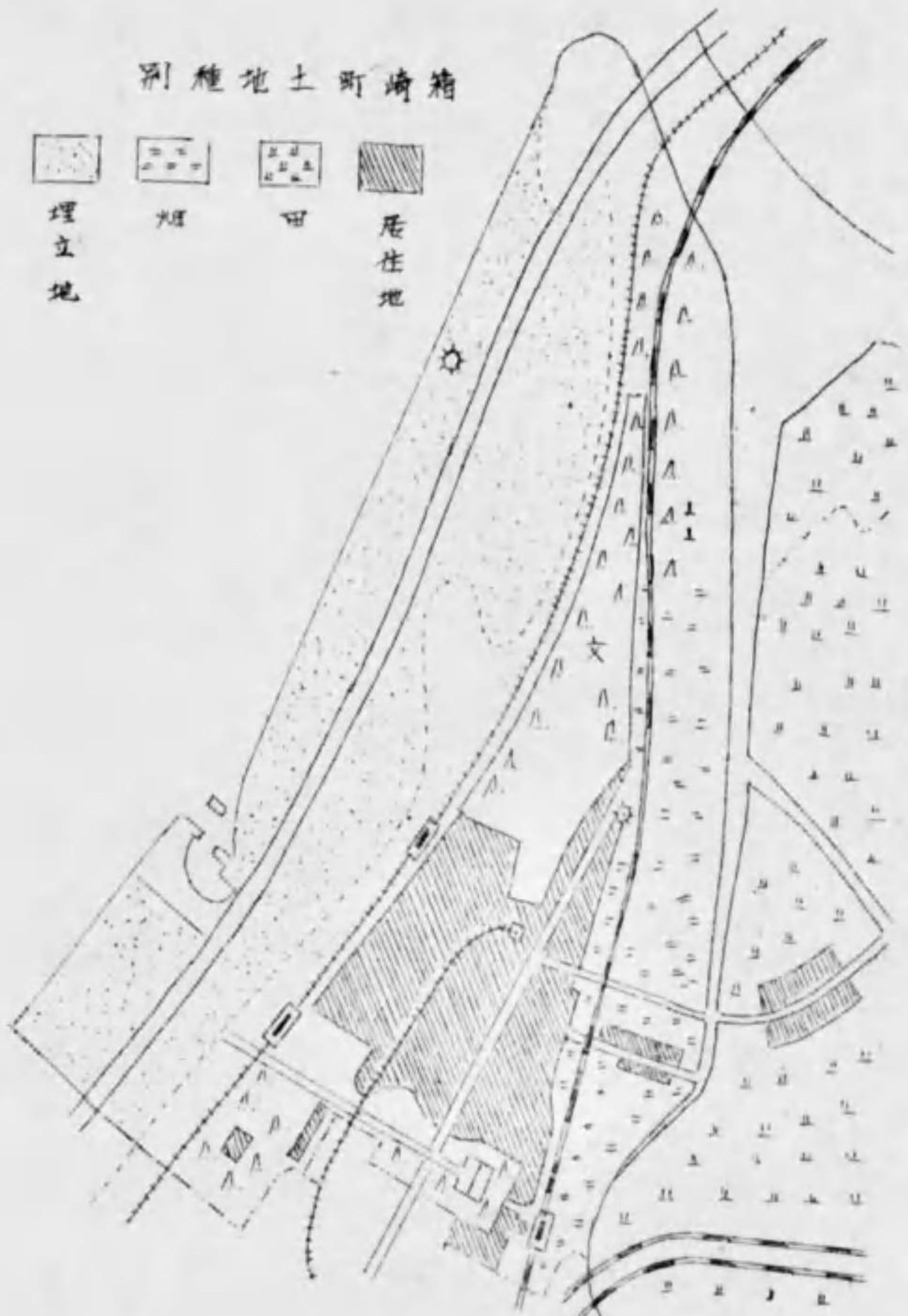
箱崎町地方

箱崎町は、師の西部に位する福岡市の接續都市である。東部の宇美川須恵川の沖積平野より古の冬々夜路を扼せし箱崎砂洲及び最近埋立によつて出来た茨の三地域に跨り面積五五方料人口一万五千。福岡市の住宅街として大塚町としま特色を帯つた町である。

箱崎町の沿革

明治初年迄は福國藩主黒田侯の所領たり、其の重祿は本村庄屋社領庄屋浦分庄屋の三区に、区分せられたりしか。明治四年麻薯置懸に依り区分庄屋は麻薯止せられ、合併して箱崎庄屋を置かる。明治六年調所制となり、第三大区第一小区として馬出金平も地勢上本村行政下に加はりしが、明治十五年郡役所設置により再び前記町村を分離し箱崎村單獨となり

昭和十年	男	女	計	
本籍人口	4,567	4,307	8,874	
入籍留者人口	4,251	3,789	8,040	
出籍留人口	在陸處留部留者	33	-	33
	海外在留	68	56	124
	其、他	1,113	959	2,072
現住人口	7,604	7,081	14,685	
昭和十年國勢調査人口	7,369	7,266	14,635	
現住戸数	2,580	現住戸数 と前年 比較	増 60 減 -	
現住人口 一戸平均	5.48	現住人口 前年下 比較	増 409 減 -	
昭和十年國勢調査世帯数	2,966			



明治二十二年町村制実施と共に箱崎町と称し、同時に藤田村下臼井の一部を編入し帶來箱崎下臼井二大字を称し今日に至る。本町は即ち首都として郡役所警察署の設備あり、其の概明治四十四年九州帝國大學工學部、大正八年農學部の所在地となるに及び大學町としての面目を一新せり。大正十五年郡役所の移転を見たるも、森の土木管区所の設置あり又博多湾染老の工事も進捗して面積は増大し、人口も著しく増加を



見るに至り。

官幣大社管崎八幡宮

祀す。現今箱崎町及び福岡市の吉塚、馬出、金平、千代、松原各町の産土神なり。箱崎町と云へば八幡宮が先づ念頭に湧く。管崎八幡宮の鎮座まじまじことは、箱崎町の地理的位置と共に町の繁栄発展上の一大要素であると思ふ。け水はなからない。

参拜者は四時絶えなからず、大都市に隣接してゐる關係上、大宰府宮地獄に見る様な門前町は深達してゐない。然し五月の日本海戦記念祭、九月の秋季社日祭は、箱崎町は勿論福岡市粕屋郡の年中行事の一つとし参拜者雲集し、種々の露店、興行物野を連れだした臨時門前町は海岸に達し其の般賑と雑踏は福岡地方随一である。一月三日の玉籠りの神事は特種なものとして勇壯活潑な祭である。

箱崎町の地域性 箱崎町を 鹿見島永線、博多湾鉄道電車線を界としマ三区に分つことが出来る。中央部は更に住宅地、大塚区、或は公園区と分れ、所謂箱崎町と称する地域にして福岡



街店商的式様の崎箱

市の延長である。此の町は古へ葦津浦又は有良浦と云ひしが、應神天皇の古事に因る箱崎と称するに至りしと云ふ。天正年間赤吉此の地に滞在せしことあり。徳川時代には筑前二十一夜宿の一つとして、旅籠の柱束があつてゐた。思ふに當時の箱崎は街道に沿つた宿取町を中央に、東方の住民は農業に、西部は漢業に從事してゐたのであらう。

近時箱崎町は福岡市の住宅区、学校区として膨張し、福岡市との合併も時期の問題となつてゐる。

居住地域の職業別分布を見るに、管崎宮より天幕に至り、国道筋が模式的な商店街をなし其の両側一帯に住宅が立ち込んでゐる。省線附近には農家点在して、浜部の方網屋町には水産業者が百六十戸余り分布し、漢村聚落の特色を窺

職業別戸数

	専業	兼業	計	百分比
農業	148	45	193	.072
商業	285	393	678	.252
工業	133	274	407	.152
水産業	107	56	163	.062
雑業	443	564	1,007	.376
無業	168	64	232	.086
計	1,284	1,396	2,680	100
	自作	小作	無作	計
農業戸数	59	54	80	193
養蚕戸数	1	1	2	166



ふことが出来る。要するに商店街が住宅区の中央を南北に貫き、東西両端に町が並ぶ要素である農家漢家が分布してゐることになる。

居住地域の南は八幡宮の境内及び御汲井道沿道の松林地にして、居住地域に對し重要な空間である。北部は閑静な大学区緑地帯をなし松林間に隠見する大慶高堂を並べ大學村は一偉觀である。

東部は宇美川須恵川の堆積に在る肥沃な平野にして、宇美川を境とし東は田圃連り西方が有名な箱崎蔬菜の栽培地である。近時大学の設置、市街地の膨張により耕地面積縮小せしむ、矢張り福岡市に對する蔬菜の供給地として主きをなしてゐる。

西部は最近博多建築港会社に依る廣大な埋立であつて現在南部が住宅地或は海苔製造場、細干場として利用されてゐるのでも大部は空地として残り、將來工場地帯住宅地として其の發展を待つてゐる。

**箱崎蔬菜** 箱崎町及び東部は福岡市近郊に於ける主な蔬菜の栽培地をなしてゐる。東部一帯は宇美川須恵川の沖積平野にして地質が花崗岩の介在した壤土質砂土又は砂質壤土からなる。但つ地下水が高いから、簡便な井戸に於て灌漑の便もあつて、胡瓜南瓜の類及び葉菜類の栽培に最もよく適してゐる。

本地方が蔬菜栽培地として發達し始めたのは明治二十三年鐵道開通以後の事である。

以北九州方面に迄も出荷されてゐた。今日に至るには福岡市を中心として消費され、其の價格は年四万円に達す。近頃大学の設置市街地の膨張に伴ひ漸次地域を冒さると共に、各工業会社も線路附近に勃興したる為煤煙塵埃が盛に飛散し産額も概じ栽培も困難となつて来た。

主なる蔬菜の種類と品種

1. 胡瓜
2. 南瓜(箱崎南瓜)
3. 茄子(博多長茄子)
4. 蕪菁(博多蕪菁、聖護院蕪菁)
5. 菜種(白京菜類結球白菜)
6. 王葱(黄王葱)
7. 甘藍(サタケシヨシ)
8. 蘿蔔(掘込大根、四十日大根)

栽培の方法

本町の蔬菜栽培の特色は著しく集約的に行はれてゐる点である。同一土地を年に七八回少なきも四五回の輪作を行ふ。普通栽培の方法を述べ左の如し。

- 第一年目 大麥、茄子、白京菜、長崎山菜、
  - 第二年目 大麥、南瓜、白京菜、掘込大根又は春若大根
  - 第三年目 四十日大根又は同引大根、掘込蕪菁、白京菜
  - 第四年目 白京菜、青芋、四十日大根、
  - 第五年目 大麥、南瓜、葱、掘込大根
  - 第六年目 第一年目に還る。
- 備考 大麥は春期胡瓜南瓜茄子等の幼苗移植の際に於ける防風防寒の用に成せらる。



るものにして尚右の外甘藷玉葱其他雜菜は適宜之を輸作す。

### 收穫及び販賣

蔬菜は種類に富んであるを以て隨時絶えず收穫す。蔬菜中胡瓜は當地に於て最も重要なものにして早きは五月十五・六日より採收中、販賣は主として其の日の早朝に千代町九州青物市場へ各自販賣す。生産者は多く青物市場の林主なるを以て販賣上の困難を感ずる事少なし。

### 箱崎編

箱崎編が商呂として世に出るに至りしは明治維新以来の事である。

由來本地の織物は堅牢を主とし常用着として世に歡迎せらる。從來専ら家内工業として町内の婦女子等織造へと称し競ふ。之に従事したり。其の後機械の改良染色の改善等に力を注ぎし為め産額増加し品質も向上して箱崎編の聲價は一層世に著はる。降つて大正三年頃より従來の貸機式及び出機式を廢して全部工場組織に改め、製品の統一と品質の向上に全力を傾注し且つ最新式動力織機に改造し一層規模を拡大するに至り、目下工場は二ヶ所にして年産額三十万円に達し箱崎町重要物産の一つである。

### 箱崎浦の漁業

箱崎浦は元葦津浦と称し古き漁村なり。網代は千代の松原より名魚を経て香椎潟一帯に亘れり。漁業を主とし、獲獲高八万円に達す。之れに養殖業の二万円、水産製造物の六万円を合すれば、實に十六万円に及び、網屋町一帯百六十戸

の漁業家の経済は頗る豊なり。

—(完)—



昭和十二年十二月十五日發行 (竹屋郡地誌)  
昭和十二年十二月二十日發行 (非賣品)

編者 香椎高等女學校地理教室

編輯所 福岡市田原町二七番地

印刷所 膳島印刷 正光社

電話(西宮)二一二八番

發行所 香椎高等女學校



終

